

き こ ない ちよう
木古内町

さつ かり
札苧 8 遺跡

— 高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

令和元年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター

き こ ない ちょう
木古内町

さつ かり
札苺 8 遺跡

— 高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

令和元年度

公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター



M-1 調査状況 (南東から)

例 言

1. 本書は、国土交通省北海道開発局函館開発建設部が行う高規格幹線道路函館江差自動車道工事に伴い、公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが、平成26（2014）年度に発掘調査を実施した木古内町札苺8遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 平成27（2015）年3月に刊行した『調査年報27』で概報した内容より、本書の内容が優先する。
3. 調査は平成26（2014）年度に第2調査部第3調査課が行い、整理は平成26（2014）年度に第2調査部第3調査課、平成30（2018）年度、平成31・令和元（2019）年度に第2調査部第1調査課が行った。
4. 整理作業は各遺構を各担当職員、土器を広田良成、愛場和人、石器を愛場、旧石器を広田が行った。
5. 現場の写真は各担当職員、遺物の撮影は第1調査部第1調査課菊池慈人、中山昭大の協力を得た。
6. 本書の執筆は愛場、広田が行い、文責は各項目の末尾に括弧で示した。
7. 放射性炭素年代測定については（株）加速器分析研究所に委託した（付篇）。
8. 報告書刊行後、遺物および台帳は木古内町教育委員会が、図面・写真フィルムは北海道立埋蔵文化財センターが保管する。
9. 調査にあたっては、下記の諸機関および諸氏のご指導、ご協力をいただいた。（順不同、敬称略）
国土交通省北海道開発局函館開発建設部
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課
木古内町教育委員会：木元 豊
北斗市教育委員会：森 靖裕

記号等の説明

1. 遺構の表記は以下に示す記号を使用し、原則として確認順に番号を付した。
H：竪穴住居跡 P：土坑 TP：Tピット F：焼土 M：盛土遺構
付属遺構は小文字で表記した。
hp：竪穴住居跡内の柱穴・杭穴 hd：竪穴住居跡内の溝 hf：竪穴住居跡内の焼土
hps：竪穴住居跡内の土器集中 hfc：竪穴住居跡内のフレイク集中
mps：盛土中の土器集中 mfc：盛土中のフレイク集中 mf：盛土中の焼土
2. 遺構図の縮尺は原則40分の1とし、盛土遺構の平面図・土層断面図は100分の1もしくは200分の1とした。いずれもスケールを付し、遺構平面図には方位記号を付した。方位は真北で、グリッドの南北ラインに対し東へ10.8度傾いている。遺構平面図の「+（十字）と記号」はグリッド名で、遺構平面図等の「・（ドット）と数字」は、その地点の標高（m）を表す。
3. 本文及び図表中での遺構の規模は次の要領で示した。また、一部破壊されているものは現存する計測値を括弧付きで示した。
掘り込みのある遺構：確認面の長径×短径/床面・坑底面の長径×短径/確認面からの最大深（m）
平面的な遺構：範囲の長径×短径/確認面からの最大深（m）
柱穴・杭穴：確認面の長径×底面の長径/確認面からの最大深（m）
4. 遺物図の縮尺は、復元土器（図上復元含む）：4分の1、拓本土器：3分の1、剥片石器・石製品：2分の1、礫石器：3分の1（大型のもの4分の1）とし、スケールを付した。復元土器、石器等の計測値は、欠損部分がある場合、現存長に括弧を付して示した。

目 次

口絵

例言

記号等の説明

目次

図目次

表目次

写真図版目次

I章 緒 言

1. 調査要項	1
2. 調査体制	1
3. 調査の経緯・経過	2
(1) 函館江差自動車道の調査の経緯	
(2) 札幌8遺跡の調査の経緯	
(3) 調査の経過	
4. 調査成果の概要	4

II章 遺跡の立地と環境

1. 立地と環境	7
(1) 立地	
(2) 札幌地区の近世からの歴史	
(3) 遺跡の現況	
2. 周辺の遺跡	11

III章 調査の概要

1. 発掘区の設定	17
2. 基本土層	17
3. 調査の方法	20
4. 整理の方法	20
(1) 一次整理の方法	
(2) 二次整理の方法	
5. 遺物の分類基準	21

IV章 遺 構

1. 概 要	23
2. 竪穴住居跡	23

H-1～5

3. 土 坑	33
P-1~9	
4. Tピット	40
TP-1	
5. 焼 土	40
F-1・2	
6. 盛土遺構	42
M-1・2	

V章 遺構・包含層の遺物

1. 概 要	71
2. 土器等	71
(1) 遺構出土の復元土器	
(2) 遺構出土の破片土器	
(3) 包含層出土の復元土器	
(4) 包含層出土の破片土器	
3. 石器等	105
(1) 遺構出土の石器等	
(2) 包含層出土の石器等	
(3) 遺構・包含層出土の旧石器	

VI章 まとめ

1. 遺構について	187
2. M-1 出土の円筒土器下層式について	187
3. 放射性炭素年代測定の結果について	192

付篇 自然科学的手法による分析

札幌8遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)	(株) 加速器分析研究所
--------------------------	--------------

写真図版

引用参考文献

報告書抄録

目 次

図Ⅰ-1	遺構位置図	5	図Ⅳ-29	M-2 m f c-1~4	63
図Ⅱ-1	遺跡の位置と木古内町の地形	8	図Ⅴ-1	盛土遺構出土土器等分布図	72
図Ⅱ-2	木古内町周辺の地質	8	図Ⅴ-2	遺構出土の土器(1)	73
図Ⅱ-3	遺跡周辺の地形	9	図Ⅴ-3	遺構出土の土器(2)	75
図Ⅱ-4	遺跡周辺の地形(明治期・大正期)	10	図Ⅴ-4	遺構出土の土器(3)	77
図Ⅱ-5	周辺の遺跡	12	図Ⅴ-5	遺構出土の土器(4)	78
図Ⅱ-6	札苜8遺跡周辺の地形	13	図Ⅴ-6	遺構出土の土器(5)	79
図Ⅱ-7	札苜5・6・8遺跡の位置	14	図Ⅴ-7	遺構出土の土器(6)	81
図Ⅲ-1	発掘区設定図	18	図Ⅴ-8	遺構出土の土器(7)	82
図Ⅲ-2	調査区土層断面図	19	図Ⅴ-9	遺構出土の土器(8)	83
図Ⅳ-1	H-1(1)	26	図Ⅴ-10	遺構出土の土器(9)	85
図Ⅳ-2	H-1(2)	27	図Ⅴ-11	遺構出土の土器(10)	86
図Ⅳ-3	H-2(1)	28	図Ⅴ-12	遺構出土の土器(11)	87
図Ⅳ-4	H-2(2)	29	図Ⅴ-13	遺構出土の土器(12)	89
図Ⅳ-5	H-3・4	31	図Ⅴ-14	遺構出土の土器(13)	91
図Ⅳ-6	H-5	32	図Ⅴ-15	遺構出土の土器(14)	92
図Ⅳ-7	P-1~3	36	図Ⅴ-16	遺構出土の土器(15)	94
図Ⅳ-8	P-4~6	37	図Ⅴ-17	遺構出土の土器(16)	95
図Ⅳ-9	P-7~9	39	図Ⅴ-18	遺構出土の土器(17)	96
図Ⅳ-10	TP-1、F-1・2	41	図Ⅴ-19	遺構出土の土器(18)	98
図Ⅳ-11	M-1(1)	43	図Ⅴ-20	包含層出土土器分布図	99
図Ⅳ-12	M-1(2)	45	図Ⅴ-21	包含層出土の土器(1)	101
図Ⅳ-13	M-1(3)	46	図Ⅴ-22	包含層出土の土器(2)	103
図Ⅳ-14	M-1(4)	47	図Ⅴ-23	包含層出土の土器(3)	104
図Ⅳ-15	M-1(5)	48	図Ⅴ-24	盛土遺構出土土器分布図(1)	106
図Ⅳ-16	M-1 m f-1~9	49	図Ⅴ-25	盛土遺構出土土器分布図(2)	107
図Ⅳ-17	M-1 m p s-1~6	50	図Ⅴ-26	盛土遺構出土土器分布図(3)	108
図Ⅳ-18	M-1 m p s-7~14	51	図Ⅴ-27	盛土遺構出土土器分布図(4)・ 石製品分布図	109
図Ⅳ-19	M-1 m p s-15~20	52	図Ⅴ-28	遺構出土の石器(1)	110
図Ⅳ-20	M-1 m p s-21・22	53	図Ⅴ-29	遺構出土の石器(2)	111
図Ⅳ-21	M-1 m p s-23~28	54	図Ⅴ-30	遺構出土の石器(3)	112
図Ⅳ-22	M-1 m p s-29~33	55	図Ⅴ-31	遺構出土の石器(4)	113
図Ⅳ-23	M-1 m p s-34~40	56	図Ⅴ-32	遺構出土の石器(5)	114
図Ⅳ-24	M-1 m f c-1~7	57	図Ⅴ-33	遺構出土の石器(6)	115
図Ⅳ-25	M-1 m f c-8~13	58	図Ⅴ-34	遺構出土の石器(7)	117
図Ⅳ-26	M-1 m f c-14~17	59	図Ⅴ-35	遺構出土の石器(8)	118
図Ⅳ-27	M-2	61	図Ⅴ-36	遺構出土の石器(9)	119
図Ⅳ-28	M-2 m f-1~3、m p s-1・2	62	図Ⅴ-37	遺構出土の石器(10)	120

図V-38	遺構出土の石器(11)……………	121	図V-53	包含層出土石器分布図(4)・ 石製品分布図……………	137
図V-39	遺構出土の石器(12)……………	122	図V-54	包含層出土の石器(1)……………	139
図V-40	遺構出土の石器(13)……………	123	図V-55	包含層出土の石器(2)……………	140
図V-41	遺構出土の石器(14)……………	124	図V-56	包含層出土の石器(3)……………	141
図V-42	遺構出土の石器(15)……………	125	図V-57	包含層出土の石器(4)……………	142
図V-43	遺構出土の石器(16)……………	126	図V-58	包含層出土の石器(5)……………	143
図V-44	遺構出土の石器(17)……………	127	図V-59	包含層出土の石器(6)・石製品……………	144
図V-45	遺構出土の石器(18)・石製品……………	128	図V-60	旧石器出土分布図(1)……………	146
図V-46	遺構出土の石器(19)……………	129	図V-61	旧石器出土分布図(2)……………	147
図V-47	遺構出土の石器(20)……………	130	図V-62	遺構・包含層出土の旧石器(1)……………	148
図V-48	遺構出土の石器(21)……………	131	図V-63	遺構・包含層出土の旧石器(2)……………	149
図V-49	遺構出土の石器(22)……………	133	図V-64	遺構・包含層出土の旧石器(3)……………	150
図V-50	包含層出土石器分布図(1)……………	134	図VI-1	M-1出土の土器集成(1)……………	188
図V-51	包含層出土石器分布図(2)……………	135	図VI-2	M-1出土の土器集成(2)……………	189
図V-52	包含層出土石器分布図(3)……………	136	図VI-3	M-1出土の土器集成(3)……………	190

表 目 次

表I-1	遺構一覽……………	6	表V-6	土坑出土石器等点数表……………	159
表I-2	遺物点数一覽……………	6	表V-7	M-1出土石器等点数表(1)~(4) ……………	160
表I-3	遺物点数一覽(水洗選別)……………	6	表V-8	M-2出土石器等点数表……………	164
表II-1	両館江差道の発掘調査一覽(1)・(2) ……………	15	表V-9	包含層出土の土器等点数表……………	165
表III-1	札苅8遺跡採用基線と測量概要……………	17	表V-10	包含層出土の石器等点数表(1)・(2) ……………	166
表III-2	基本層序観察表……………	19	表V-11	遺構出土の掲載復元土器一覽(1)~(5) ……………	168
表IV-1	竪穴住居跡一覽……………	64	表V-12	遺構出土の掲載破片土器一覽(1)~(5) ……………	173
表IV-2	竪穴住居跡付属遺構一覽……………	64	表V-13	包含層出土の掲載復元土器一覽……………	178
表IV-3	土坑一覽……………	65	表V-14	包含層出土の掲載破片土器一覽(1)・(2) ……………	179
表IV-4	Tピット一覽……………	65	表V-15	遺構出土の掲載石器等一覽(1)~(3) ……………	181
表IV-5	焼土一覽……………	65	表V-16	包含層出土の掲載石器等一覽(1)・(2) ……………	184
表IV-6	盛土遺構一覽……………	66	表V-17	遺構・包含層出土の掲載旧石器一覽 ……………	185
表IV-7	盛土遺構付属遺構一覽(1)~(3)……………	66			
表IV-8	M-1土器集中の取り上げ順序と層位 ……………	69			
表V-1	竪穴住居跡出土土器等点数表……………	152			
表V-2	土坑出土土器等点数表……………	153			
表V-3	M-1出土土器等点数表(1)・(2)……………	154			
表V-4	M-2出土土器等点数表……………	156			
表V-5	竪穴住居跡出土土器等点数表(1)・(2) ……………	157			

写真図版目次

口絵

M-1 調査状況 (南西から)

カラー図版 1

調査状況 (西から)

M-1 検出状況 (西から)

カラー図版 2

M-1 検出状況 (西から)

M-1 土層断面 (南から)

カラー図版 3

M-1 土層断面 (西から)

M-1 土層断面拡大 (北から)

M-1 土層断面拡大 (北から)

カラー図版 4

M-1 調査状況 (西から)

M-1 調査状況 (南西から)

M-1 調査状況 (南東から)

M-1 mps-29~35 検出状況 (西から)

カラー図版 5

M-1 mps-21 検出状況 (東から)

M-2 検出状況 (東から)

カラー図版 6

M-2 土層断面 (北西から)

M-2 土層断面 (北から)

M-2 土層断面拡大 (北西から)

M-2 調査状況 (南西から)

P-8・9 完掘 (南西から)

P-9 遺物出土状況 (東から)

図版 1

調査状況 (北西から)

調査状況 (南西から)

図版 2

調査状況 (南西から)

拡張範囲 (西から)

調査終了状況 (東から)

調査区東側調査状況 (南西から)

調査区西側調査状況 (北東から)

図版 3

H-1 土層断面 (北から)

H-1 hfc-1 (南西から)

H-1 hp-3 完掘 (南東から)

H-1 hp-4 土層断面 (北東から)

H-1 hp-6 完掘 (南東から)

H-1 完掘 (南西から)

図版 4

H-2 土層断面 (北から)

H-2 hp-1 土層断面 (北から)

H-2 hp-2 土層断面 (南東から)

H-2 hf-1 土層断面 (南東から)

H-2 完掘 (南東から)

図版 5

H-3 土層断面・完掘 (北から)

H-4 完掘 (東から)

H-4 hps-1 出土状況 (北東から)

H-4 土層断面 (東から)

図版 6

H-5 土層断面 (西から)

H-5 hf-1 遺物出土状況 (南から)

H-5 hd-1 土層断面 (北から)

H-5 完掘 (北東から)

図版 7

P-1 土層断面 (西から)

P-1 完掘 (北西から)

P-2 土層断面 (南東から)

P-2 赤色土壌範囲 (東から)

P-3 土層断面 (南東から)

P-3 遺物出土状況 (東から)

P-4 土層断面 (南から)

P-4 完掘 (北東から)

図版 8

P-5 土層断面 (北西から)

P-5 完掘 (北から)

P-6 土層断面 (北から)

P-7 土層断面 (西から)

P-7 遺物出土状況 (南から)

P-8 土層断面 (南西から)

P-8 遺物出土状況 (南西から)

P-8 遺物出土状況アップ (南西から)

図版 9

- P-9 土層断面 (東から)
- P-9 遺物出土状況 (北東から)
- TP-1 土層断面・完掘 (北西から)
- F-1 土層断面 (北西から)
- F-2 土層断面 (南西から)
- F-2 付近注口土器出土状況 (南東から)
- R103区IV群 a 類土器出土状況 (南東から)

図版10

- M-1 調査状況 (南西から)
- M-1 調査状況 (北から)
- M-1 遺物出土状況 (東から)

図版11

- M-1 土層断面 (西から)
- M-1 土層断面 (北から)
- M-1mf-1~5 検出状況 (南西から)
- M-1mf-6 土層断面 (北から)
- M-1mf-7 土層断面 (北西から)
- M-1mf-8 土層断面 (北西から)
- M-1mf-9 土層断面 (北西から)

図版12

- M-1mps-1 検出状況 (北から)
- M-1mps-2 検出状況 (北西から)
- M-1mps-3 検出状況 (南西から)
- M-1mps-4 検出状況 (南から)
- M-1mps-5 検出状況 (北から)
- M-1mps-6 検出状況 (西から)
- M-1mps-7 検出状況 (北東から)
- M-1mps-8 検出状況 (東から)
- M-1mps-9 検出状況 (北東から)
- M-1mps-10 検出状況 (北から)
- M-1mps-11 検出状況 (北から)
- M-1mps-12 検出状況 (北東から)

図版13

- M-1mps-13 検出状況 (南から)
- M-1mps-14 検出状況 (南西から)
- M-1mps-15 検出状況 (南東から)
- M-1mps-16 検出状況 (南から)
- M-1mps-17 検出状況 (東から)
- M-1mps-18 検出状況 (南から)
- M-1mps-19 検出状況 (南から)
- M-1mps-20 検出状況 (南西から)

- M-1mps-21 検出状況 (南東から)

図版14

- M-1mps-22 検出状況 (南西から)
- M-1mps-22 検出状況 (南から)
- M-1mps-23 検出状況 (北東から)
- M-1mps-24・mf c-4 検出状況 (北から)

図版15

- M-1mps-27 検出状況 (南東から)
- M-1mps-28 検出状況 (北から)
- M-1mps-29 検出状況 (南東から)
- M-1mps-30 検出状況 (南から)
- M-1mps-31 検出状況 (南から)
- M-1mps-32・33 検出状況 (南から)
- M-1mps-34 検出状況 (南東から)
- M-1mps-35 検出状況 (西から)
- M-1mps-36 検出状況 (北東から)

図版16

- M-1mps-37 検出状況 (南東から)
- M-1mps-38 検出状況 (北西から)
- M-1mps-39 検出状況 (北から)
- M-1mps-40 検出状況 (西から)
- M-1mf c-1 検出状況 (北から)
- M-1mf c-2 検出状況 (北から)
- M-1mf c-3 検出状況 (南東から)
- M-1mf c-4 検出状況 (北から)
- M-1mf c-5 検出状況 (北から)
- M-1mf c-6 検出状況 (北東から)
- M-1mf c-7 検出状況 (北から)
- M-1mf c-8 検出状況 (南から)

図版17

- M-1mf c-9・10 検出状況 (東から)
- M-1mf c-11 検出状況 (南から)
- M-1mf c-12 検出状況 (東から)
- M-1mf c-13 検出状況 (南から)
- M-1mf c-14 検出状況 (北東から)
- M-1mf c-15 検出状況 (南東から)
- M-1mf c-16 検出状況 (西から)
- M-1mf c-17 検出状況 (南東から)
- M-1 完掘 (西から)

図版18

- M-2 検出状況 (東から)
- M-2 調査状況 (東から)

図版19

- M-2mf-1土層断面 (南から)
M-2mf-2土層断面 (南東から)
M-2mps-1検出状況 (南から)
M-2mps-2検出状況 (北西から)
M-2mfc-1検出状況 (北西から)
M-2mfc-2検出状況 (西から)
M-2mfc-4検出状況 (東から)
M-2mfc-3検出状況 (東から)
M-2石槍・ナイフ出土状況 (東から)

図版20 遺構出土の土器(1)**図版21** 遺構出土の土器(2)**図版22** 遺構出土の土器(3)**図版23** 遺構出土の土器(4)**図版24** 遺構出土の土器(5)**図版25** 遺構出土の土器(6)**図版26** 遺構出土の土器(7)**図版27** 遺構出土の土器(8)**図版28** 遺構出土の土器(9)**図版29** 遺構出土の土器(10)**図版30** 遺構出土の土器(11)**図版31** 遺構出土の土器(12)**図版32** 遺構出土の土器(13)**図版33** 遺構出土の土器(14)**図版34** 遺構出土の土器(15)**図版35** 遺構出土の土器(16)**図版36** 遺構出土の土器(17)**図版37** 遺構出土の土器(18)**図版38** 遺構出土の土器(19)**図版39** 遺構出土の土器(20)**図版40** 遺構出土の土器(21)**図版41** 遺構出土の土器(22)**図版42** 遺構出土の土器(23)**図版43** 遺構出土の土器(24)**図版44** 包含層出土の土器(1)**図版45** 包含層出土の土器(2)**図版46** 包含層出土の土器(3)**図版47** 遺構出土の石器等(1)**図版48** 遺構出土の石器等(2)**図版49** 遺構出土の石器等(3)**図版50** 遺構出土の石器等(4)**図版51** 遺構出土の石器等(5)**図版52** 遺構出土の石器等(6)**図版53** 遺構出土の石器等(7)**図版54** 遺構出土の石器等(8)**図版55** 遺構出土の石器等(9)**図版56** 遺構出土の石器等(10)**図版57** 包含層出土の石器等(1)**図版58** 包含層出土の石器等(2)**図版59** 包含層出土の石器等(3)**図版60** 包含層出土の石器等(4)**図版61** 遺構・包含層出土の旧石器

I章 緒言

1. 調査要項

事業名：高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局函館開発建設部

遺跡名：札苺8遺跡（北海道教育委員会登録番号B-05-56）

所在地：上磯郡木古内町札苺723-6・7

調査面積：832㎡

調査期間：平成26年4月1日～平成27年3月31日（発掘期間：5月15日～8月8日）

平成30年4月2日～平成31年3月29日（整理作業）

平成31年4月1日～令和2年3月31日（整理作業）

2. 調査体制

公益財団法人北海道埋蔵文化財センター

平成26年度

理事長	坂本 均	第2調査部	部長	三浦 正人
副理事長	畑 宏明	第2調査部第3調査課	課長	村田 大(発掘担当者)
専務理事	中田 仁		主査	愛場 和人(発掘担当者)
常務理事	千葉 英一		主査	広田 良成(発掘担当者)

平成30年度（整理作業）

理事長	越田賢一郎	第2調査部	部長	鈴木 信
副理事長	中田 仁	第2調査部第1調査課	課長	鎌田 望
専務理事	山田 寿雄		主査	愛場 和人
常務理事	長沼 孝			

平成31年度・令和元年度6月まで（整理作業）

理事長	越田賢一郎	第2調査部	部長	鈴木 信
副理事長	中田 仁	第2調査部第1調査課	課長	鎌田 望
専務理事	山田 寿雄		主査	愛場 和人
常務理事	長沼 孝（第1調査部長兼務）	第2調査部第2調査課	主査	広田 良成

令和元年度6月から10月まで（整理作業）

理事長	長沼 孝	第2調査部第1調査課	課長	鎌田 望
専務理事	山田 寿雄		主査	愛場 和人
常務理事	鈴木 信（第1・第2調査部長兼務）			

令和元年度10月から（整理作業）

理事長	長沼 孝	第2調査部	部長	村田 大
専務理事	山田 寿雄	第2調査部第1課	課長	鎌田 望
常務理事	鈴木 信（第1調査部長兼務）		主査	愛場 和人

3. 調査の経緯・経過

(1) 函館江差自動車道の調査の経緯

「函館・江差自動車道」は函館新道函館インターチェンジ（IC）を起点とし、北斗市、木古内町、上ノ国町を経由し、江差町に至る延長約70kmの一般国道の自動車専用道路である。この路線の建設目的は、近隣主要都市間の交流の促進、函館港、函館空港への物流の効率化、生活の利便性の向上、また、防災時の代替路としての利用等であり、北海道縦貫自動車道、函館新道等と一体となって高速ネットワークを形成している。この内、「函館茂辺地道路」と「茂辺地木古内道路」が事業化されている。

「函館茂辺地道路」は、函館市桔梗町を起点とし北斗市茂辺地を終点とする延長18kmの道路で、平成2（1990）年に事業化され、平成15（2003）年3月には函館IC～北斗中央IC、平成21（2009）年11月には北斗中央IC～北斗富川IC、平成24（2012）年3月には北斗富川IC～北斗茂辺地IC間が供用開始となり、事業が完了した。「茂辺地木古内道路」は、北斗市茂辺地を起点とし、木古内町字大平を終点とする延長16kmの道路で、平成6（1994）年に事業化され、現在、北斗茂辺地IC～木古内IC（仮称）間の建設工事が進められている。

事業の工事計画の具体化に伴い、埋蔵文化財保護のための事前協議書が平成6（1994）年以降数回にわたり北海道開発局函館開発建設部（以下、函館開建）から北海道教育委員会（以下、道教委）に提出された。それらを受け、道教委により工用地範囲内の埋蔵文化財包蔵地の所在調査、試掘調査及び協議等が行われ、最終的に函館茂辺地道路で12か所（函館市1か所、北斗市11か所）、茂辺地木古内道路で18か所（北斗市3か所、木古内町15か所）の遺跡の発掘調査を実施することとなった（表Ⅱ-1参照）。

発掘調査は平成7（1995）年度から令和元（2019）年度にかけて、30か所の遺跡、合計約22万8千㎡の面積について行われた。最初の調査は平成7・9（1995・1997）年度の函館市西桔梗1遺跡で、その後しばらく調査はなく、5年後の平成14（2002）年度の北斗市押上1遺跡の調査以降は令和元（2019）年まで毎年行われた。調査主体は財団法人北海道埋蔵文化財センター（平成24年度から公益財団法人へ移行、以下、センター）、北斗市（旧上磯町）教育委員会（以下、北斗市教委）、特定非営利活動法人函館市埋蔵文化財事業団（平成27年度より一般財団法人道南歴史文化振興財団へ移行）があり、北斗市内の遺跡はこれらの3組織が、函館市、木古内町内の遺跡はセンターが調査を行った。遺跡ごとの面積では平成22（2010）～26（2014）年度の北斗市茂辺地4遺跡の20,281㎡が最も広く、最小の面積は平成26（2014）年度の木古内町札苅8遺跡の832㎡である。

(2) 札苅8遺跡の調査の経緯

函館開建は平成11（1999）年に、茂辺地木古内道路の木古内町大釜谷から大平までの範囲における埋蔵文化財包蔵地に関する事前協議書を道教委に提出した。それを受けて道教委は15地点の所在確認調査が必要と通知した。そして、平成25（2013）年11月26～28日にかけて、道教委は木古内町教育委員会、函館開建の立会のもと埋蔵文化財包蔵地の可能性がある3か所の試掘調査を行い、3か所全てで遺物等が確認された。試掘調査の結果を基に、道教委から函館開建あてに新規の埋蔵文化財包蔵地である3か所（札

苑8遺跡、亀川5遺跡、泉沢5遺跡)、合計約15,300㎡について発掘が必要であるとの回答がなされた。

本遺跡はこの時に発見された遺跡のひとつで段丘上に立地している。試掘調査で使用した重機(バックホー)は工事用地の都合上で、遺跡範囲内に入れなかったため、段丘裾から届く範囲で掘削した。試掘坑は5か所設定され、その内4か所から遺物が出土し、一段低い場所の1か所には包含層が残っていなかった。遺物は最も点数が多い試掘坑で土器片13点、頁岩製のフレイク3点、礫8点が出土した。道教委から要発掘の回答が出された後、関係者による協議等を経て最終的に札苑8遺跡640㎡について公益財団法人北海道埋蔵文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

(3) 調査の経過

発掘調査は平成26(2014)年5~7月の予定で、調査員3名、作業員30名の調査体制で行った。事前準備として4月下旬に現地で工事業者らと打ち合わせを行った。4月30日から5月2日にかけて、調査範囲内の表土除去作業を重機(バックホー)により行った。調査範囲の現況は植林された杉の林で、前年度に伐採し、伐根作業は表土除去と並行して行った。表土除去作業中、調査範囲平坦面の中央付近から西側において土器・石器を伴う暗褐色土の広がりを確認した。この暗褐色土が人為的な遺構である可能性を考え、以後は表土除去を慎重に行い極力下位の土層を削らないこと、暗褐色土の周辺は伐根をしないよう留意した。5月上旬の連休後、5月12日から14日に発掘機材等の搬入・整備や発掘作業に向けての環境整備を行い、5月15日から発掘作業を開始した。調査着手後すぐに、表土除去作業の際に確認された暗褐色土上面の精査を行い、北側の低位部への拡張範囲を明確にした。5月21・22日に道教委への報告資料作成のため、この範囲に3か所のテストピットを掘削し内容を把握した。暗褐色土の範囲、層厚、出土した遺物の内容を取りまとめ、5月26日に道教委へ報告した。これを受けて道教委は、6月12日に試掘調査を実施し、その結果、調査範囲は北西側へ192㎡拡張され、調査対象面積は832㎡となった。

試掘調査では平坦面の試掘坑4か所全てで遺物が出土し、全体的に遺構・遺物の密度が濃いことが予想され、表土直下の暗褐色土が遺構の可能性があることから、全体の様相を早く把握することに努めた。最初に調査区全体の清掃及び精査を行い、平坦面では表土除去作業時に確認した暗褐色土の範囲が中央付近(87~90ライン)と西側(94~99ライン)付近に広がっていることを確認した。次に暗褐色土が遺構であるかどうかを判断するために、96ライン沿いと93~99ライン間の調査区南壁に沿って1m幅のトレンチを設定し掘り下げた。その結果、縄文時代の遺物包含層であるIV層の上位に暗褐色土が堆積していること、暗褐色土の層厚は最大約50cmで、縄文時代前期後半の円筒土器下層式土器や頁岩製のフレイク等が出土し、暗褐色土の底面付近では焼土も確認された。これらの特徴から暗褐色土の広がりには円筒土器下層式の時期の盛土遺構(M-1)と判断した。西側の暗褐色土もトレンチ調査を行い、M-1より規模が小さく、遺物は少ないものの同様の盛土遺構(M-2)であることを確認した。また、全体の精査の結果、北側の崖部分は包含層が削平され遺構・遺物がみられないこと、調査区中央付近は杉の根や現代の攪乱が多くみられ、包含層の遺存状況があまり良くないことが判明した。さらに、M-1の調査区壁沿いのトレンチでT96区VI層(黒色土とロームの漸移層)から旧石器時代の頁岩製の石刃が1点出土したため、VI~VII層(黄褐色ローム)では旧石器時代の遺構・遺物の検出に留意することとした。これらの状況から調査工程は、最初にM-1を含む調査区中央付近、次にM-2を含む調査区西側、最後に盛土遺構のみられない調査区東側の順序で行う方針を立てた。また、最終面はVII層上面とし、旧石器が出土した場合は、随時VII層を掘り下げ、旧石器時代の調査を行うこととした。5月中旬から7月下旬にかけて調査区中央付近の調査を行い、M-1とその周辺の包含層の掘り下げ、確認した堅穴住居跡(H-1・2・4)やM-1の基底面等で確認した堅穴住居跡(H-3)や土坑(P-3・8・9)を調査した。6月中旬からは中央付近と並行して、西側

範囲の調査に着手した。追加範囲を含めたM-2の調査と、包含層の掘り下げを行い、確認したTピット（T P-1）やM-2の基底面等で確認した土坑（P-1・2、4~6）を調査した。西側範囲は7月中旬から8月上旬にかけて調査を行った。西側は包含層の層厚が薄く、遺構は竪穴住居跡（H-5）や土坑（P-7）、焼土（F-1・2）を調査した。旧石器に関しては出土が少量で、出土グリッドはⅥ層を掘り下げたが、遺構や遺物集中は確認できなかった。また、遺構調査と並行して、基本土層断面の写真撮影や図面作成、最終面の地形測量を行った。遺構及び包含層調査終了後、全体の写真撮影を行い、8月8日に調査を終了した。

現地での整理作業は、発掘作業と並行して行った。作業内容は主に遺物の一次整理作業で、遺物の水洗、分類、台帳登録、注記作業、土壌水洗等について調査員と作業員5名で行った。また、遺物水洗・土壌水洗は、雨天等で発掘作業が困難な日には全作業員で行った。また、調査員は作成した遺構の図面や地形図等の点検・修正や、現地で撮影したフィルムの整理等を行った。

センター本部での整理作業は平成30・(31)・令和元（2018・2019）年度に行った。遺物は現地で残した一次整理の続きを行い、終了後土器は接合・復元作業を行い、掲載する復元土器の実測図、破片土器の拓本・断面実測図作成作業を行った。石器は接合、実測図作成、計測作業等を行った。なお、石器の実測作業は一部を除き外部に委託した。掲載遺物については原則的に全て写真撮影を行っている。遺構の図面類は、担当調査員が原因を基にトレースの下図（素図）を作成し、デジタルトレースを行った。また、現地で撮影した遺構等の写真を編集し、図版を作成した。その他、報告書に掲載する遺構位置図や地形図等は必要に応じて適宜作成した。また、外部委託の分析として平成26年度に放射性炭素年代測定を行った。平成30・(31)・令和元（2018・2019）年度は遺構・遺物の整理作業と並行して、報告書原稿執筆や図版の編集作業を行い、最終的に令和元（2019）年度に本報告書を刊行した。また報告書刊行後、木古内町教育委員会に遺物の移管等を行う。（広田 良成）

4. 調査成果の概要

遺構は竪穴住居跡5軒、土坑9基、Tピット1基、焼土2か所、盛土遺構2か所である。時期はP-7が縄文時代早期、H-2・3が縄文時代後期前葉で、それ以外は概ね縄文時代前期後半期と考えられる。

盛土遺構は調査区中央部（M-1）と調査区西側（M-2）で、Ⅵ層ローム混じりの土層が広範囲にみられたもので、土器やフレイクの集中など多量の遺物が出土した。特にM-1からは遺跡の総出土数の半分以上の遺物が出土した。盛土の時期はいずれも縄文時代前期後半期だが、M-1が円筒土器下層b式期主体、M-2が円筒土器下層d1式期主体と時期差がある。（図I-1・表I-1）

遺物は土器90,904点、石器等92,337点、総計は183,241点である。出土地点の内訳は遺構出土の土器76,365点、石器等63,432点、合計139,797点、包含層出土の土器14,539点、石器等28,905点、合計43,444点で、多くは遺構出土である。先述したとおり特にM-1からの出土が多い。なお、ほかに水洗選別で回収した土器が634点、石器等が124,070点ある。これらはほとんどが土器小破片、微細なフレイクチップである。（表I-2・3）

土器は縄文時代前期後半の円筒土器下層式が97%を占め、ついで縄文時代後期、早期、中期の土器が少量みられる。円筒土器下層式は、円筒土器下層b式がM-1や包含層で主体的にみられ、円筒土器下層c式～円筒土器下層d2式がM-2などでみられる。

石器はフレイクが主体で、その他U・Rフレイクや石核が多くみられる。定型的な石器では、剥片石器がスクレイパー、石槍・ナイフ、両面調整石器、礫石器ではたたき石、扁平打製石器が多い。

旧石器は61点出土した。出土器種は細石刃、細石刃核、細石刃核削片、孫器、削器、石刃、二次加工のある石刃、剥片がある。細石刃核は3点出土し、うち2点が美利河型に相当する。（愛場 和人）

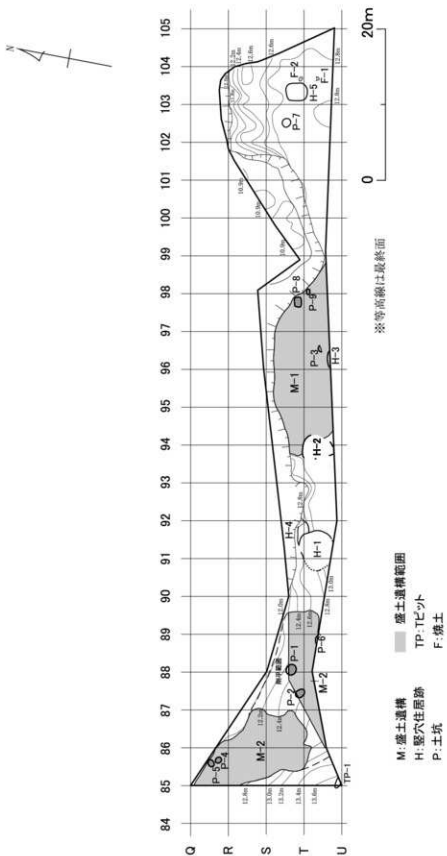


図 I-1 遺構位置図

表 I-1 遺構一覧

種別	記号	遺構数
竪穴住居跡	H	1～5
土坑	P	1～9
Tピット	TP	1
焼土	F	1～2
盛土遺構	M	1～2

表 I-2 遺物点数一覧

出土地点 /遺物種別	遺構	包含層	合計
I群土器	27	72	99
II群土器	76,099	12,757	88,856
III群土器	1	39	40
IV群土器	226	1,660	1,886
V群土器	0	1	1
土製品・焼成粘土塊	12	10	22
土器等合計	76,365	14,539	90,904
石鍬	63	45	108
石槍・ナイフ	103	52	155
石錐	10	10	20
両面調整石器	99	74	173
つまみ付きナイフ	57	41	98
スクレイパー	312	219	531
U・Rフレイク	557	440	997
石核	324	304	628
フレイク	60,002	26,653	86,655
原石	68	49	117
磨製石斧	36	31	67
たたき石	76	58	134
すり石	36	32	68
北海道式石冠	0	2	2
扁平打製石器	78	34	112
礫石	19	14	33
石錘	2	3	5
台石・石皿	3	0	3
U・Rレキ	72	48	120
レキ	1,485	759	2,244
石製品	2	4	6
旧石器	28	33	61
石器等合計	63,432	28,905	92,337
総計	137,797	43,444	183,241

表 I-3 遺物点数一覧(水洗選別)

出土地点 /遺物種別	遺構	包含層	合計
I群土器	3	0	3
II群土器	630	1	631
土器等合計	633	1	634
石槍・ナイフ	2	0	2
両面調整石器	1	0	1
スクレイパー	2	0	2
U・Rフレイク	7	0	7
石核	4	0	4
フレイク	123,387	615	124,002
磨製石斧	1	0	1
レキ	51	0	51
石器等合計	123,455	615	124,070
総計	124,088	616	124,704

II章 遺跡の位置と環境

1. 立地と環境

(1) 立地

遺跡は北海道上磯郡木古内町札苅に所在する。木古内町は渡島半島南西部の渡島総合振興局の管内にある。町の南側は津軽海峡に面し、南西側は知内町、西部は上ノ国町、北部は厚沢部町、東部は北斗市と接している。町域は221.89km²で、沿岸部を除いた9割が山岳、丘陵地帯である。山は標高200～700mで、ここから沿岸部へ向け木古内川、佐女川、大平川、蛇内川、幸連川、橋興川、亀川、無名の沢などの河川が南東もしくは東へ流れ出している。これらは木古内川を除き流路延長が10km未満の小河川で、上流部や海岸段丘では開析により比較的深い谷地形を作り出している(図Ⅱ-1・3)。

地質的には、遺跡は礫、砂及び泥から成る中位の段丘堆積物層の上であり、すぐ北側は、泥岩を主体とする新第三系の厚沢部層、幸連川上流部は硬質頁岩層と泥岩層互層で構成される木古内層がある。また遺跡の東側には小規模な断層がある(図Ⅱ-2)。

(2) 札苅地区の近世からの歴史

木古内町札苅地区の集落は、幸連川西側の小さく湾入した沿岸部に形成され、湾入部の東側には漁港が造られている。札苅の東側には泉沢、釜谷など漁港を中心とした同様の小集落が点在している。

札苅(さつかり)は「シラツ・ツカリ」(岩礁・手前)というアイヌ語が由来の地名とされ、江戸時代初期の寛文9(1669)年のシャクシャインの蜂起関連の資料の絵地図に「さすかり」に4、5軒の家があり、ニシケという長がいることが描かれている。また寛政12(1800)年に測量された伊能図には、コーレン(幸連)川の西側に複数の建物が描かれており、これは現在の札苅の集落と同位置と考えられる。

明治・大正期の地形図(図Ⅱ-4)をみると、遺跡西側を通る町道幸連1線は、大正6年測図五万分一地形図「木古内」に現在とほぼ同じ位置に町村道(2m以上)として記載され、札苅の集落から幸連川、さらにその上流へ続いている。明治29年製版の五万分一地形図「木古内」では、道は示されていないが、幸連川上流には「上檜沢」・「下檜沢」などの沢名、「五本枅(とち)」などの地名がみられ、この道は古くから林業で利用されてきたものと推測される。

幸連1号線を挟んで遺跡の南西側には、現在、地藏堂と、これにちなみ地藏杉と呼ばれる杉の大木がある。この地藏堂には、江戸時代の文政年間「幸連沢の東方ユリコ沢で大きな地鳴りがして山すそが二つに割れ、そこから沢山のお地藏様が出て」きて、村人が堂宇を建て、手厚く祀った(木古内町観光協会看板 平成15年3月)という言い伝えがあり、明治期に現在の場所に移設し、杉もその際に植えられたとされている。

(3) 遺跡の現況

札苅8遺跡は、木古内町市街地から北東約5kmの木古内町札苅723-6・7に位置する。海岸線からは約500m内陸で、遺跡から約15～30m北側には幸連川の支流が東流し、遺跡から約100m東側に幸連川が南流する。遺跡は標高11～14mの段丘上に立地し、特に標高12～13mの平坦面で遺構が多く検出された。町道幸連1線を挟んで東側には平成23・30(2011・2018)年度に発掘調査された札苅5遺跡があり、本遺跡と隣接している。札苅5遺跡の標高は15～20mである。



図 II-1 遺跡の位置と木古内町の地形

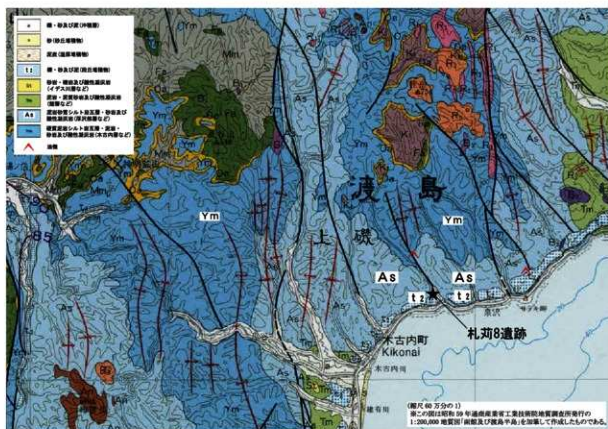
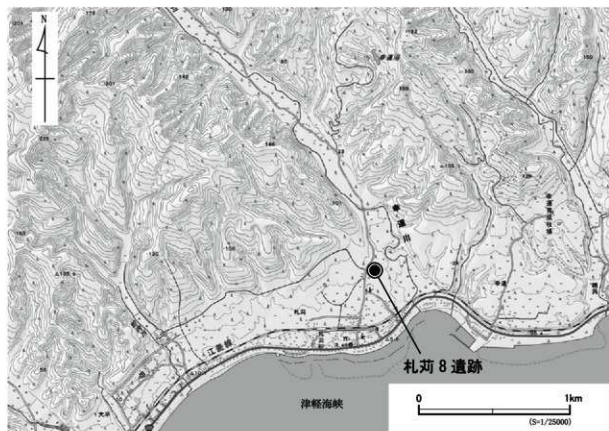


図 II-2 木古内町周辺の地質

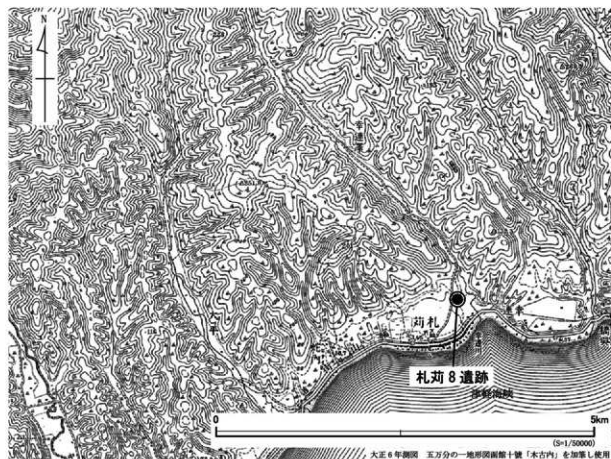


国土地理院発行の数値地図50000分の1(地図画像)『北海道-IV』「木古内」(平成21年)を使用



国土地理院発行の電子地形図25000分の1(地図画像)『渡島・桧山』「木古内」(平成27年)を使用

図II-3 遺跡周辺の地形



図Ⅱ-4 遺跡周辺の地形(明治期・大正期)

調査区北側は崖地形になっているが、土層観察などから、河川の影響によるものではなく、崖地形は近年の削平によるものと考えられる。調査前の現況は杉林で、1m未満の間隔で密に植林されていた。

2. 周辺の遺跡

木古内町で登録されている遺跡は、令和元(2019)年現在62か所、このうち36か所について発掘調査が行われている。縄文時代晩期の土壙墓群で知られる札苺遺跡が、昭和46～48(1971～1973)年に北海道開拓記念館によって学術調査された以外は、南渡島地区広域農道整備事業(平成2(1990)～平成13(2001)年度)、北海道新幹線建設事業(平成21(2009)～平成25(2013)年度)、高規格幹線道路函館江差自動車道(平成23(2011)～令和元(2019)年度)など大規模な事業に伴う緊急発掘調査である。

渡島地区広域農道整備事業では、木古内町教育委員会により、釜谷遺跡、釜谷2遺跡、釜谷5遺跡、亀川2遺跡、亀川3遺跡、泉沢2遺跡、泉沢3遺跡、大釜谷3遺跡が調査された。

北海道新幹線建設事業・函館江差自動車道に関連する調査は主に当センターが行い、新幹線関連では大平遺跡、大平4遺跡、蛇内2遺跡、木古内遺跡、木古内2遺跡、新道4遺跡、函館江差自動車道関連では釜谷8遺跡、釜谷10遺跡、札苺5遺跡、札苺6遺跡、札苺7遺跡(未報告)、札苺8遺跡(未報告)、亀川5遺跡、泉沢5遺跡、泉沢6遺跡、幸連遺跡(未報告)、幸連3遺跡、幸連4遺跡(未報告)、幸連5遺跡(未報告)の調査を行った。

木古内町内の遺跡については札苺5遺跡(2)(北狸調報353)などでまとめられている。本報告では高規格幹線道路函館江差自動車道(函館茂辺地・茂辺地木古内)で調査した30か所の遺跡について、木古内町のほか、函館市、北斗市も含め図と一覧にまとめた(図Ⅱ-5・表Ⅱ-1)。

高規格幹線道路は概ね海岸段丘の縁辺を通るルートで、遺跡の標高は、木古内町西部の大平遺跡(9m)、大平4遺跡(17～24m)、札苺5遺跡(15～20m)、札苺6遺跡(17～24m)、札苺8遺跡(11～14m)と函館市押上1遺跡(扇状地端部15～20m)などを除き、30m～80mの高位の段丘上の遺跡が多く調査された。遺跡の時期は縄文時代が主体で、特に縄文時代中期後半～後期前葉が多い。本遺跡のように縄文時代前期後半期を主体とする遺跡は、北斗市館野6遺跡、矢不來6遺跡、木古内町幸連遺跡、幸連3遺跡、幸連4遺跡、札苺5遺跡、大平遺跡などがある。縄文時代前期後半の盛土遺構が検出した遺跡は、北斗市館野6遺跡、木古内町幸連遺跡、幸連5遺跡、大平遺跡(新幹線関連部分)などがある。幸連遺跡、幸連5遺跡は札苺8遺跡から約500m東側、幸連川対岸の標高20～29mの海岸段丘上に立地し、幸連遺跡では多数のフラスコ状土坑とともに円筒土器下層d1式期の盛土遺構が4か所検出され、うち2か所は堅穴住居跡を埋めて形成される。幸連5遺跡は縄文時代前期から後期にかけての集落跡で、堅穴住居跡143軒以上、フラスコ状土坑を主体とする土坑595基以上、盛土遺構3か所など多数の遺構が確認された。盛土遺構は縄文時代中期末葉から後期前葉の土手状の盛土が2条あり、それとは別に円筒土器下層c・d式期～中期前葉の盛土遺構が斜面に形成されている。

札苺8遺跡の西側に近接する札苺5遺跡、札苺6遺跡については位置図(図Ⅱ-7)を作成した。札苺6遺跡は本遺跡より西側約300mに位置する。縄文時代中期中ばと後期前葉の堅穴住居跡が13軒、縄文時代中期を主体とする土坑71基などが検出されている。札苺5遺跡は、本遺跡の西側に町道を挟んで隣接し、一体の遺跡として捉えられる。遺構は堅穴住居跡12軒、土坑6基、Tピット2か所、小土坑127基、焼土17か所、フレイクチップ集中5か所、時期は縄文時代前期後半が主体である。堅穴住居跡は縄文時代前期後半の円筒土器下層c～d1式期が主体で、この集落と本遺跡西側のM-2は関連する同時期のものと考えられる。(愛場)

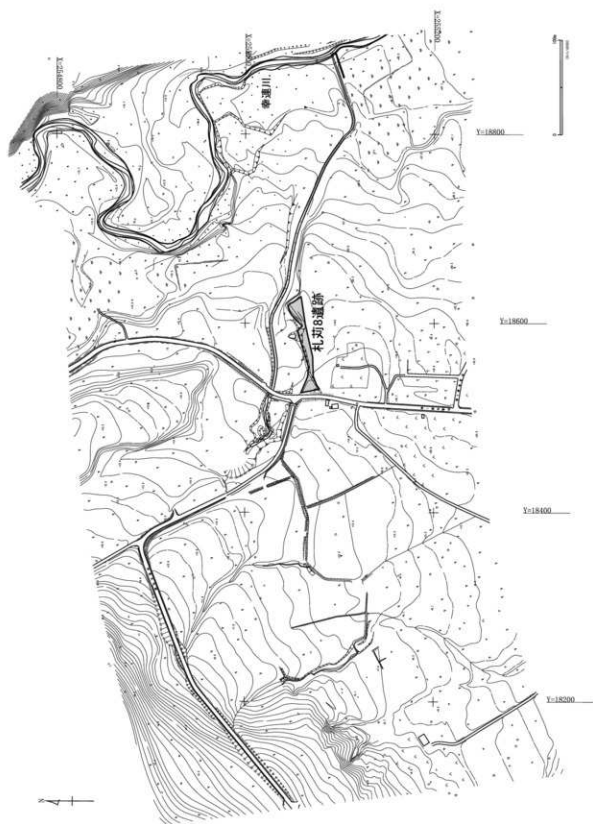
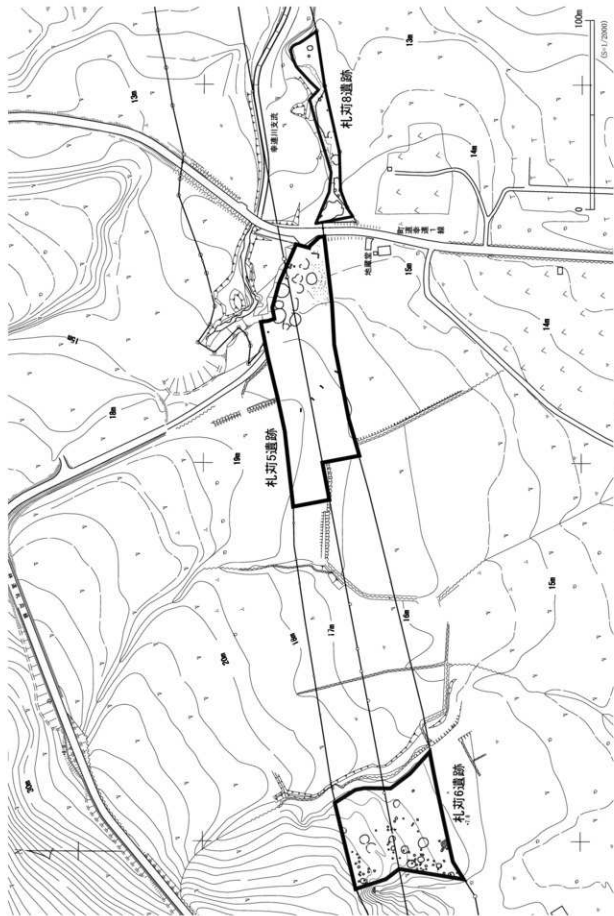


図 II-6 札幌8遺跡周辺の地形



図II-7 札河5・6・8遺跡の位置

表Ⅱ-1 函館江差道の発掘調査一覧(2)

調査名	発掘 名称	発掘名	調査主体	調査年度	発掘工 調査面積 (㎡)	発掘 調査期間 (日)	発掘 調査期間	発掘の主な内容	調査の目的	発掘調査 の概要(発掘調査の目的・調査内容)	工期等
道庁管内 調査	本市内跡	平塚遺跡	江津町平塚遺跡 縄文文化センター	平成25(2013)	2,004	3.17	5.9～6.27	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	遺跡跡地・土坑跡、土坑17基、 土器の破片、埴土遺物、 ブロンズピア製の小刀、漆土遺物など	2013 調査年04
				平成26(2014)	471		5.13～26.10	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物	2013 調査年04
	本市内跡	平塚遺跡	江津町平塚遺跡 縄文文化センター	平成27(2015)	6,709	6.70	5.13～6.15	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 ブロンズピア製の小刀、漆土遺物など	2013 発掘調査04
				平成28(2016)	1,876	16.10	5.13～11.10	縄文時代の前期から 中期まで(一部発掘)	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2013 調査年04
	本市内跡	平塚遺跡	江津町平塚遺跡 縄文文化センター	平成29(2017)	2,777		5.9～10.20	縄文時代の前期から 中期まで(一部発掘)	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2017 調査年04
				平成30(2018)	91	3.16	10.27～11.9	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2017 調査年04
	本市内跡	平塚遺跡	江津町平塚遺跡 縄文文化センター	平成31(2019)	4,425 (計7)		5.13～11.17	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2019 調査年04
				平成32(2020)	2,869 (計14)		5.9～10.20	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2019 調査年04
	本市内跡	札幌本遺跡	江津町札幌本遺跡 縄文文化センター	平成33(2021)	3,300	4.10	5.9～10.20	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2019 発掘調査04
				平成34(2022)	776		5.13～10.27	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2019 発掘調査04
	本市内跡	札幌本遺跡	江津町札幌本遺跡 縄文文化センター	平成35(2023)	3,778	3.78	5.9～10.20	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2019 発掘調査04
				平成36(2024)	10,096	10.09	4.10	5.13～11.9	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など
	本市内跡	札幌本遺跡	江津町札幌本遺跡 縄文文化センター	平成37(2025)	1,190		5.13～10.11	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2019 調査年07
				平成38(2026)	1,066		5.13～7.10	縄文時代の前期から 中期まで(一部発掘)	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2019 調査年04
				平成39(2027)	1,800		5.13～10.14	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2019 調査年04
				平成40(2028)	887		5.9～10.27	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2019 調査年04
	本市内跡	札幌本遺跡	江津町札幌本遺跡 縄文文化センター	平成41(2029)	830	8.0	5.13～10.15	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	本報告書
	本市内跡	五平遺跡	江津町五平遺跡 縄文文化センター	平成42(2030)	1766	1.76	5.13～11.9	縄文時代の前期から中期まで	発掘調査	縄文時代の前期から中期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2016 発掘調査04
				平成43(2031)	7,076	16.10	5.7～10.15	縄文時代の前期まで	発掘調査	縄文時代の前期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2017 発掘調査04
	本市内跡	五平本遺跡	江津町五平本遺跡 縄文文化センター	平成44(2032)	1,430		5.13～7.20	縄文時代の前期まで	発掘調査	縄文時代の前期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2017 発掘調査04
平成45(2033)				7,110		5.14～6.20	縄文時代の前期まで	発掘調査	縄文時代の前期まで、 土器の破片、埴土遺物、 漆土遺物など	2017 発掘調査04	
合計						106.40					

調査主体は、発掘調査実施主体(発掘調査実施主体)と調査実施主体(発掘調査実施主体)の2種類あり、

Ⅲ章 調査の概要

1. 発掘区の設定

発掘区の設定は、近接する平成23年度調査の札幌5遺跡、札幌6遺跡に合わせ、建設道路本線中央のラインを基軸として5mグリッドを設定した。設定に使用した基図は、函館開発建設部作成の「平成20年度 函館江差自動車道木古内町（茂辺地木古内道路札幌大平間）用地平面図（縮尺1：1000）」である。

札幌5遺跡、札幌6遺跡では調査区予定範囲のほぼ中央を通る本線のSP30800～SP30500を結ぶ線をMラインとしてアルファベットの基軸（南北方向 北から昇順）、SP30800からMラインに直交する線を20として数字の基軸（東西方向 東から昇順）として、5m毎に設定している。これにより札幌8遺跡でもSP30500とSP30400を結ぶ線をMライン、これに直交するSP30500の線を80、SP30400の線を100とした。当遺跡の南北方向のアルファベットはQ～T、東西方向の数字は85～104で、各グリッドはQ 85のようにアルファベットと数字の組合せで呼称した。

基準杭M80（SP30500）の世界測地系の平面直角座標（第XⅠ系）は $X = -255,044,202$ $Y = 18,498,162$ である。（表Ⅲ-1・図Ⅲ-1）

表Ⅲ-1 札幌8遺跡採用基線と測量概要

共通事項		*建設道路のセンターラインを基軸・Mラインとする5mグリッド *アルファベットは北から昇順、数字は東から昇順する。グリッドの呼称は北西側の交点								点線計算				
調査年度	遺跡名	報告書発行年 北緯経緯	基線 グリッドライン		基点		基線値				基線距離 m	方向角・座標		
			南北方向	東西方向	中心杭名	グリッド 値	平面直角座標(m) 世界測地系(第Ⅰ系)		地経緯座標 °'〃			南北方向 数字ライン	東西方向 アルファベットライン	
						X	Y	北緯	東経					
平成28 (2016)年度	札幌8遺跡	令和2(2020) 本報告書	80 または 100ライン	M ライン	SP 30400	M80								
平成23 (2011)年度	札幌8遺跡	平成14(2002)年 北緯経緯294	60 ライン	M ライン	SP 30500	M80	-255,044,202	18,498,162	41-42-04	140-28-32				
					SP 30600	M80	-255,043,696	18,309,654	41-42-03	140-28-28	105.919		79-08-09.4	228-08-09.4
					SP 30700	M80	-255,043,190	18,201,747			105.909		79-08-07.0	228-08-06.76
平成22 (2010)年度	札幌8遺跡	平成26(2014)年 北緯経緯301	20 ライン	M ライン	SP 30800	M20	-255,106,746	18,203,526			105.910		79-08-07.4	228-08-07.4

2. 基本土層

基本層序は、当センターが行った札幌5遺跡など周辺の遺跡の基本層序を基に、必要に応じて一部改変した。各層の観察は『土壌調査ハンドブック改訂版』（日本ペトロジスト学会 1997）・『新版標準土色帖』（小山・竹原 2004）を参考に必要な項目を設けた。内容は以下の表記と表にまとめた。（図Ⅲ-2・表Ⅲ-2）

【Ⅰ層：表土】

地表面の黒色土で、笹根を多く含む。調査時には重機で掘削した。

【Ⅱ層：黒色土】

調査区内では大部分削平されている。本層から駒ヶ岳d火山灰層、白頭山一苦小牧降下火山灰層が検出された。

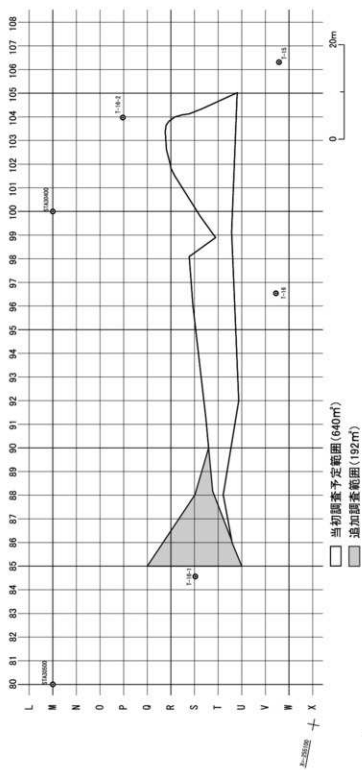


図4-1-1 発掘区設定図

表 III-2 基本層序観察表

層名	部分層		層外 工性	野外 色調	粘着性	塑性度	塊積割合 (%)	粒径 (mm)	形状	風心の 程度	備考
	上部	下部									
褐色黄土	I層	—	硬質土	黒色 10T2/1	中～強	強	無	無	—	—	調査区内では大部分層序 と異ならない。 調査区内では大部分層序 と異ならない。 主たる層序も含む
黒色土層	II層	—	硬質土	黒色 10T2/1	中	軟～硬	無	無	—	—	
緑褐色土層	III層	—	硬質土	緑褐色～褐色 10T2/3～4/6	中	軟～硬	無	無	—	—	
黒褐色土層	IV層	—	硬質土	黒褐色 10T2/2～2/5	中～強	強	無	無	—	—	
黒粘層	V層	A	硬質土	緑褐色 10T3/3～3/6	中～強	強	砂粘層	細粒土 最大径100 重積層	半風化	調査区内では大部分にみ られる。細土を主とし	
黄褐色ローム層	VI層	A	硬質土	黄褐色 10T4/6	強	強	砂粘層	粗粒土 最大径120 重積層	半風化	調査区内では大部分にみ られる。粗土を主とし	

火山噴出物層		堆積層	
層序 (m)	層序	層序	層序
厚さ 1.0～1.5	厚さ 1.0～1.5	厚さ 1.0～1.5	厚さ 1.0～1.5
構成 砂・シルト・粘土	構成 砂・シルト・粘土	構成 砂・シルト・粘土	構成 砂・シルト・粘土
備考 噴出した後、風化し、 一部は、一部は、一部は、 一部は、一部は、一部は、 一部は、一部は、一部は、 一部は、一部は、一部は、	備考 噴出した後、風化し、 一部は、一部は、一部は、 一部は、一部は、一部は、 一部は、一部は、一部は、 一部は、一部は、一部は、	備考 噴出した後、風化し、 一部は、一部は、一部は、 一部は、一部は、一部は、 一部は、一部は、一部は、 一部は、一部は、一部は、	備考 噴出した後、風化し、 一部は、一部は、一部は、 一部は、一部は、一部は、 一部は、一部は、一部は、 一部は、一部は、一部は、

※北緯調整層(5層)は、調査区(調査区)の調査結果(調査結果)を基本とし、一部改良したものである。

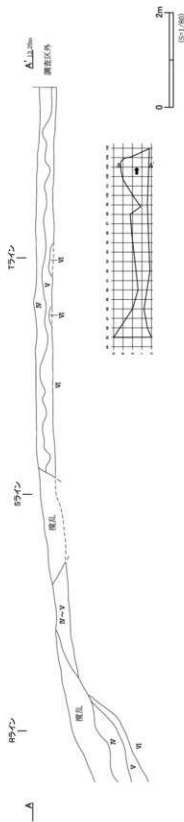


図 III-2 調査区土層断面図

〔Ⅲ層：暗赤褐色土〕

調査区内では大部分削平されている。

〔Ⅳ層：黒褐色土〕

主な遺物包含層で、上位に盛土遺構が形成される。

〔Ⅴ層：漸移層〕

調査区西側では砂岩礫が混じる。

〔Ⅵ層：黄褐色ローム〕

調査区西側では砂岩礫が混じる。

3. 調査の方法

最初に重機により伐根と表土の掘削を行い、その後方眼杭を打設した。調査開始時には、人力でスコップ・鋤などにより調査区境の整形と全体清掃を行い、地形測量を行った。

その後調査区南側境や96ラインなどに先行トレンチを入れ、土層や遺物出土の状況を確認した。盛土遺構が広い範囲に存在することがわかり、盛土遺構から調査を開始し、その後、その他の遺構、包含層の調査を行った。

盛土遺構は上面の地形測量を行い、トレンチで土層と範囲を確認した後、土層観察用ベルトを残し、グリッドごとに数cmずつ移植などで掘り下げた。焼土や遺物集中は確認した順番に番号を付け、焼土は平面図と断面図、土器やフレイクなどの遺物集中は、平面の範囲図を作成した。土器集中やフレイク集中以外の遺物はグリッド、層位ごとに取り上げた。Ⅳ層上面まで、全体を掘り下げ、調査を終了した。

その他の遺構の調査は、確認した順番で番号を付け、適宜行った。竪穴住居跡では土層観察のベルトを設定し、土坑では全体の半分を掘り下げるなどして、土層を観察し、記録した。床面や坑底の検出後は柱穴・杭穴や焼土などの付属遺構を調査、記録した。竪穴住居跡や土坑の遺物は床面・坑底面の遺物は位置を記録し、それ以外は層ごとに取り上げた。

竪穴住居跡や盛土遺構のフレイク集中では手取り後、周辺の土壌を取り上げ、水洗選別を行った。

包含層の調査は5×5mのグリッド単位で行い、移植ごと、ねじり鎌などでⅥ層上面まで掘り下げた。

旧石器は主に盛土遺構、Ⅰ層、Ⅳ層から出土した。旧石器が出土したグリッドについては、Ⅵ層を掘り下げたが、遺構や遺物集中は確認できなかった。

現地調査で使用したカメラは6×7判のフィルムカメラ（マミヤRZ67PROⅡ・フィルムはFUJICHRME PROVIA100Fを使用）・デジタル一眼レフカメラ（D5500）・コンパクトデジタルカメラである。撮影は調査区全景、調査状況、遺構等の土層・発掘状況、遺物出土状況について行った。

4. 整理の方法

（1）一次整理の方法

出土した遺物は、遺物の種類（土器・石器・礫）ごとにまとめ、「遺跡名」「遺構・発掘区」「層位」「日付」を記入したビニール袋に入れて取り上げた。これらは袋ごとに「取り上げ台帳」に記録した。遺物は水洗、乾燥後に分類し、遺物名、出土地点、出土層位、日付などの情報を「遺物カード」に記入し、ビニール袋に収納した。遺物カードの情報は、手書きで一覧表にまとめた後、EXCEL文書を作成し、これを遺物登録台帳とした。フレイク集中や焼土から採取した土壌は、篩などに入れて水洗し、遺物

や炭化物を回収した。

土器は江別のセンターで、残存状態が良好・剥離のものについて、カードの情報「サ8（遺跡名）・出土地点・出土層位」を裏面に注記した。

(2) 二次整理の方法

土器の接合は残存状態が良好・剥離のものを中心に行った。遺構出土の土器の接合は遺構内、遺構が位置する発掘区、遺構間と周囲へ広げるように進めた。復元可能な土器は復元し、実測図・トレース図を作成した。破片土器は特徴的な口縁部・底部を中心に運び出し、拓影図と断面図（実測後、デジタルトレース）を組み合わせて図示した。

石器は竪穴住居跡や盛土遺構のフレイク集中について、石核、両面調整石器とフレイクの接合作業を行った。掲載石器は完形のものを中心に、遺跡の特徴や遺物の出土数を考慮して運び出し、実測図・デジタルトレース図を作成した。

5. 遺物の分類基準

・土器等の分類

土器は（公財）北海道埋蔵文化財センターの一般的な分類に準じ、縄文時代早期から擦文文化期に至るまでⅠ～Ⅶ群に分類し、遺物の出土がみられる時期については細分類を行った。

Ⅰ群 縄文時代早期に属する土器群

- a類：貝殻・沈線文系土器および条痕文系土器群
- b類：縄文・撚糸文・絡条体圧痕文・貼付文・縄線文のあるもの
 - b-1類：東銅路Ⅱ・Ⅲ式に相当するもの
 - b-2類：コッタロ式に相当するもの
 - b-3類：中茶路式に相当するもの
 - b-4類：東銅路Ⅳ式に相当するもの

Ⅱ群 縄文時代前期に属する土器群

- a類：縄文が施された丸底・尖底の土器群
- b類：円筒土器下層式土器群

Ⅲ群 縄文時代中期に属する土器群

- a類：円筒上層式 a式・b式、サイベ沢Ⅵ式、見晴町式に相当するもの
- b類：榎林式、大安在B式、ノダツⅡ式などに相当するもの

Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器群

- a類：天祐寺式、涌元式、トリサキ式、大津式、白坂3式に相当するもの
- b類：ウサクマイC式、手稲式、ホッケマ式に相当するもの
- c類：堂林式、三ツ谷式、湯の里3式に相当するもの

Ⅴ群 縄文時代晩期に属する土器群

Ⅵ群 統縄文時代に属する土器群

Ⅶ群 擦文文化期に属する土器群

また土製品として焼成粘土塊がある。

残存状態分類基準（土器）

「良好」：破片の表裏面及び割れ口の残存状態が良いもの

「剥離」：破片の表裏面のいずれか、あるいは両面が約1/2以上剥離・剥落しているもの

「摩耗」：破片が摩耗しているもの

「小破片」：大きさが長径2cm程度以下の小さな破片

・石器等の分類

剥片石器では石鏃、石槍・ナイフ、両面調整石器、石錐、スクレイパー、二次加工・使用痕ある剥片（U・Rフレイク）、石核、剥片（フレイク）、原石がある。礫石器では磨製石斧、たたき石、すり石、扁平打製石器、北海道式石冠、砥石、台石・石皿、石錘、加工・使用痕ある礫（U・Rレキ）がある。その他として礫がある。石製品は線刻された礫、三角形状に加工されたものなどがある。

残存状態分類基準（石器等）

「完形」：ほとんど欠損がなく、ほぼ全体が残っているもの

「準完形」：全体の3/4程度が残っているもの

「半形」：全体の1/2程度が残っているもの

「片」：全体の1/2以上を欠損するもの

（愛場）

IV章 遺構

1. 概要

遺構は竪穴住居跡5軒、土坑9基、Tピット1基、焼土2か所、盛土遺構2か所である（図I-1）。

竪穴住居跡は平面形が、H-1は不整形楕円形、H-2は卵形、H-5が隅丸方形で、H-3は南側の大部分が調査区外にあり、H-4は北側3分の2程が削平されているため平面形状は不明である。H-1とH-4は重複し、H-1が新しい。H-2は住居跡南側の壁際に先端部ピットを有し、石組炉がみられ、覆土中では広い範囲で焼土が確認されたため焼失住居と考えられる。H-5は規模が 2.85×2.33 mと小型で、床面中央には溝状遺構が長軸方向に1条みられる。竪穴住居跡の時期はH-1・4・5が縄文時代前期後半、H-2・3が縄文時代後期前葉と考えられる。

土坑は平面形がP-8は隅丸長方形、それ以外は楕円形である。P-1・2・4~6がM-2（盛土遺構）と重複し、P-5・6はM-2より新しい。またP-3・8・9はM-1（盛土遺構）調査後に確認され、覆土の状況などからM-1より古い。P-7は調査区東側のH-5近くで検出し、覆土中からI群a類土器片、坑底から断面三角形のすり石2点が出土した。土坑の時期はP-7が縄文時代早期、それ以外は縄文時代前期後半と考えられる。

盛土遺構はM-1が調査区中央、M-2が調査区西側に位置する。規模はM-1が長径25.4m、M-2が長径27.6mで、M-1は調査区外南側、M-2は調査区外西側、南側へ続いている。土層は黒色土とVI層のローム層が混ざる暗褐色土層で、最厚部の層厚はM-1が50cm、M-2は32cmである。盛土中からは土器集中・フレイク集中などを伴う多量の遺物が出土し、盛土中や盛土直下では焼土も検出した。特にM-1は遺物が多く、遺跡出土遺物の63%が出土した。時期はいずれも縄文時代前期後半であるが、M-1が円筒土器下層b式主体、M-2が円筒下層d1式主体と時期差がある。

（愛場）

2. 竪穴住居跡

H-1（図IV-1・2 表IV-1・2 図版3）

位置 S-91、T-90・91区

規模 $5.30 \times (4.42) / 5.05 \times (4.22) / 0.66$ m

平面形態 不整形楕円形？

確認・調査 T-91区付近のIV層調査中に楕円形の暗褐色土のまとまりを確認した。十字にトレンチを設定し掘り下げたところ、床面と考えられる平坦面を検出したため竪穴住居跡と判断し、遺構名を付した。トレンチ沿いにベルトを設定し、覆土を掘り下げ、床面検出後に土層断面の写真撮影及び図面作成を行った。その後ベルトを掘り下げ、床面を精査し、確認した柱穴・杭穴を調査した。最後に全体の平面図や写真撮影等を行い、調査を終了した。北東側はH-4と重複し、新旧はH-1が新しい。全体的に木根や現代の攪乱等により壊され、西側の壁は検出できず、南側は一部調査区外へ広がる。遺物は、覆土出土はフレイク集中以外一括して取り上げ、床面出土は2cm以上のものについては出土地点を計測し、2cm未満のものは一括して取り上げた。

覆土 覆土は自然堆積で、5層に分けた。黒色土とVI層のロームが主体で、ローム粒と炭化物を微量含む。上位は大きく攪乱され、中位の覆土1・2層は黒色土を主体とした黒褐色土（B Y層）、

下位の覆土3～5層はロームを主体とした暗褐色土（YB層）である。

床面・壁 床面は壁側から中央付近へ緩やかに低くなる形状である。壁は確認できる場所ではやや緩く曲線的に立ち上がる。

付属遺構

土 坑	h p - 6	規 模	0.99 × 0.78 / 0.61 × 0.50 / 0.31 m	平面形態	不整形
住居跡北壁の中央付近に位置し、壁からやや突出する。床面からの深さは約30cmである。					
柱穴・杭穴	h p - 1	規 模	0.31 × 0.30 / 0.18 × 0.17 / 0.61 m	平面形態	円形
	h p - 2	規 模	0.25 × 0.25 / 0.11 × 0.10 / 0.55 m	平面形態	円形
	h p - 3	規 模	0.26 × 0.24 / 0.11 × 0.10 / 0.61 m	平面形態	円形
	h p - 4	規 模	0.30 × 0.30 / 0.15 × 0.14 / 0.56 m	平面形態	円形
	h p - 5	規 模	0.27 × 0.26 / 0.14 × 0.13 / 0.50 m	平面形態	円形

床面で5基確認した。攪乱が部分的に床面まで及ぶため、さらに存在した可能性がある。南西側の中央と壁の中間付近に位置するものが多く、h p - 4・5は隣接する。平面は長軸25～31cmの円形で、深さは50～61cmと深い。底面は平坦もしくはやや丸みがあり、壁は直線的に立ち上がる。

フレイク集中	h f c - 1	規 模	0.97 × 0.95 m	平面形態	不整形
	h f c - 2	規 模	1.25 × 0.48 m	平面形態	長楕円形

どちらも覆土上位で検出した。遺物の取り上げは手取りと、微細な石器を回収するため土壌ごと取り上げ、フルイによる水洗選別も行っている。h f c - 1は住居跡南東側に位置し、フレイク、石核等が410点出土した。h f c - 2は住居跡南西側に位置し、フレイク、石槍・ナイフ等が135点出土した。また、水洗選別で、h f c - 1からは石槍・ナイフやフレイク等が11,395点、h f c - 2からはフレイク等が154点出土した。石器の石材はほとんど頁岩で、わずかに黒曜石、チャートがみられる。

遺物出土状況 土器が249点、石器等が1,468点出土した（付属遺構出土を除く）。土器はⅡ群が247点、Ⅳ群が2点である。定形的な石器では石鏃、石槍・ナイフ、つまみ付きナイフ、スクレイパー、たたき石、扁平打製石器がある。他に石核、フレイク等が出土している。床面からはⅡ群b類土器13点、石鏃1点、スクレイパー3点、たたき石1点、U・Rフレイク1点、フレイク66点が出土している。

時 期 床面出土の遺物等から、縄文時代前期後半Ⅱ群b類土器の時期である。

(広田)

H-2 (図IV-3・4 表IV-1・2 図版4)

位 置 S-93・94、T-93・94区

規 模 (4.07) × 3.41 / (3.92) × 3.30 / 0.33 m

平面形態 不整な楕円形

確認・調査 包含層調査中、Ⅵ層面で楕円形の黒色土のまとまりがみられた。これの中央で十字に交わる土層観察用のベルトを設定し、トレンチを先行させながら周辺を掘り下げた。覆土中には焼土がみられ、平面形を記録した。床面と壁の立ち上がり、石組炉を確認したため竪穴住居跡と判断した。ベルトの土層を記録し、これを掘り下げた。床面を精査し、確認した柱穴・杭穴を調査した。最後に全体の平面図について記録し、調査を終了した。竪穴住居跡の南側の壁際は調査区外で、東側と西側の壁際は風倒木や攪乱の影響を受け、不明瞭である。遺物は、覆土出土は一括して取り上げ、床面出土は2cm以上のものについては出土地点を計測し、2cm未満のものは一括して取り上げた。

覆土 7層に分層した。覆土2・3層は焼土層で、覆土5・6層上位にみられ、断面形状がレンズ状になるものがある。覆土4・5は黒褐色土（BY層）、壁際の覆土6・7はVI層主体土（YB層）である。

床面・壁 床面は平坦で、南側へやや傾斜する。壁は曲線的に立ち上がる。

付属遺構

石組炉 hf-1 石組部分 規模 0.60×0.48m

焼土部分 規模 0.42×0.33m/0.02m **平面形態** 楕円形

住居跡の長軸中央より南側の床面で焼土と石組を検出した。石組は焼土の北側半分楕円形の扁平礫が「U」字状に配置されており、抜き取り痕もみられた。焼土の南側半分では確認できなかった。

土坑 hp-1 規模 0.37×(0.20)/0.28×(0.14)/0.07m **平面形態** 円形?

住居跡南側の壁際付近で確認し、土坑の南側半分は調査区外へ続いている。坑底面は曲線的で、掘り込みは約7cmと浅い。先端部ビットと考えられる。

柱穴・杭穴 hp-2 規模 0.15×0.12/0.06×0.06/0.10m **平面形態** 楕円形

hp-3 規模 0.14×0.14/0.08×0.09/0.09m **平面形態** 円形

住居跡の北西側の壁際で2か所確認した。いずれも直径が約15cm、深さは10cm前後である。下端部の断面形状は丸みがある。

覆土中焼土

住居跡の中央付近の覆土5・6層上面で、焼土を7か所確認した。断面形状はレンズ状になるものも多く、炭化材が混じるものがある。

遺物出土状況 遺物は土器70点、石器等202点出土した。床面の遺物はIV群a類土器1点、スクレイパー1点、U・Rフレイク1点、フレイク13点、たたき石2点、礫5点（うち礫石4点）である。

時期 出土遺物から縄文時代後期前葉で、覆土中の焼土や炭化材から焼失住居跡と考える。

H-3 (図IV-5 表IV-1・2 図版5)

位置 T-96区

規模 (2.26)×(0.31)/ (2.00)×(0.23)/0.70m

平面形態 不明

確認・調査 調査区南側境のトレンチ調査後、壁際のVI層面で黒褐色のまとまりを確認した。調査区境の土層断面を確認したところM-1を切って掘り込まれた遺構であることがわかった。VI層面にわずかに残る黒褐色土を掘り下げ、壁の立ち上がりと床面を確認した。土坑の可能性も考えたが、推定される規模から竪穴住居跡とした。土層断面と平面図を記録し、調査を終了した。住居跡北側の壁際部分のみの調査で、住居跡の大部分は調査区外南側にある。

覆土 2層に分層した。いずれも黒褐色土で、覆土1が主体的にみられ、覆土2は壁際の床面付近に薄く堆積する。

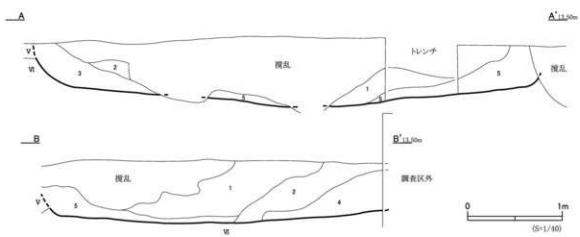
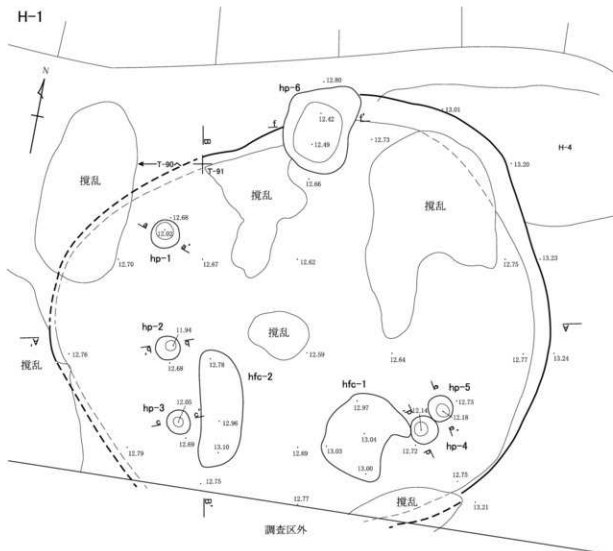
床面・壁 床面は平坦で、壁は斜めに立ち上がる。

付属遺構 なし

遺物出土状況 遺物は覆土から50点出土した。内訳は、IV群a類土器8点、フレイク42点である。

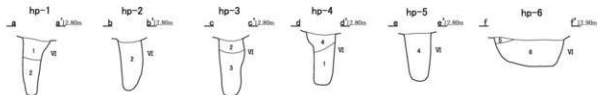
時期 遺物から縄文時代後期前葉と考えられる。

(愛場)



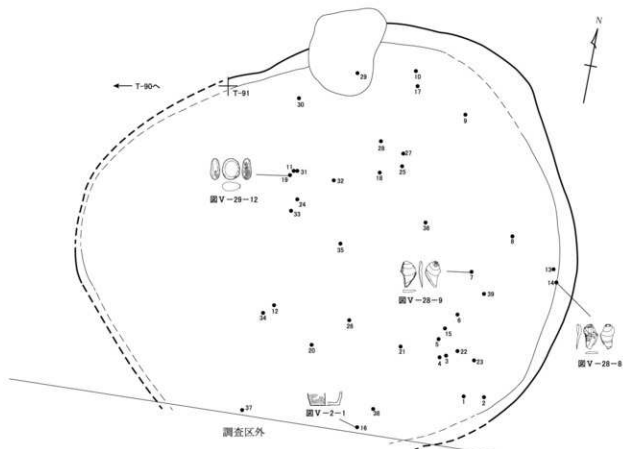
遺構名 付風量番号	断面図 番号	層位名	層厚	砂・粘土・シルト (高層200cm未満)				礫 (高層200cm以上) - ローム				備考		
				層位 番号	色名	シルト 含有率 (%)	粘着性	堅硬度	種類	層厚 割合 (%)	最大 径		形状	風化の 程度
H-1	1	砂V層	砂質 硬塊上	黄褐色	10192.7	中	弱	黄褐色ローム	1	3	3	---	黄化微風量	
	2	砂V層	砂質 硬塊	黄褐色	10192.2	中	弱	黄褐色ローム	2	3	3	---	黄化微風量	
	3	砂B1層	砂質 硬塊上	黄褐色	10193.7	中-強	弱	黄褐色ローム	10	3	3	---	黄化微風量	
	4	砂B層	砂質 硬塊上	黄褐色	10193.1	中-強	弱	黄褐色ローム	7	3	3	---	黄化微風量	
	5	砂B層	砂質 硬塊上	黄褐色	10193.7	中-強	弱	黄褐色ローム	3	1	6	---	黄化微風量	

図IV-1 H-1(1)



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	原土名	層厚	砂・粘土・シルト(直径200未満)				礫(直径20以上)・ローム				掘削 日付	掘削 平均最大 径(m)	形状	底化の 程度	掘入人物	備考
				砂の 性状	色相	含水率 %	粘着性	層厚	種類	種類	種類						
H-1 hp-1-6	1	YD層	約10	中粒	中黄	10734.1	砂→粘	中粒ローム	40	8	10	—	—	—	—	—	—
	2	砂層	約10	中粒	中黄	10733.1	砂→粘	粗	高純ローム	30	10	10	—	—	—	—	—
	3	砂層	約10	中粒	中黄	10732.1	砂→粘	粗	高純ローム	30	3	10	—	—	—	—	—
	4	YD層	約10	中粒	中黄	10734.0	砂→粘	粗	高純ローム	50	3	10	—	—	—	—	—
	5	YD層	約10	中粒	中黄	10734.0	砂→粘	中粒ローム	30	3	10	—	—	—	—	—	YD層に近い土層
6	砂層	約10	中粒	中黄	10733.1	砂→粘	粗	高純ローム	7	2	10	—	—	—	—	—	—

H-1 遺物分布

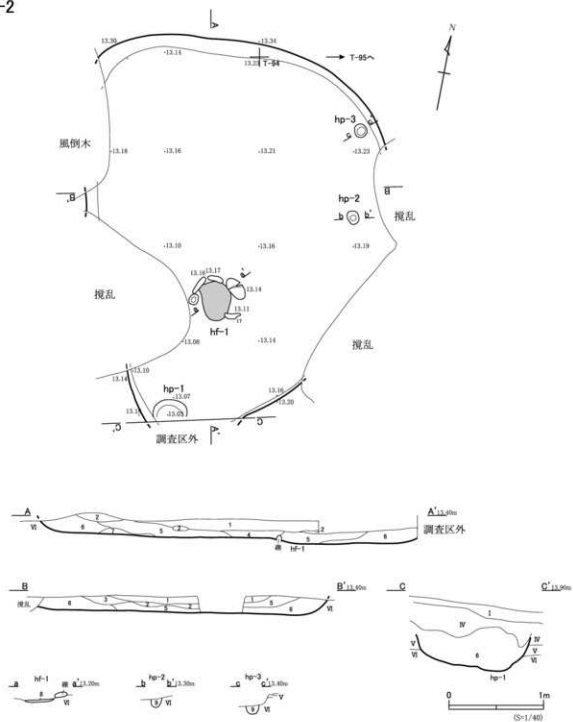


遺物 番号	土器・石器 名称(遺物)	形状	検出 時期	点検 層位	検出 層位 (m)
1	フレイタ	両面	—	1	検出 13.74
2	フレイタ	両面	—	1	検出 13.79
3	フレイタ	両面	—	1	検出 13.73
4	フレイタ	両面	—	1	検出 13.74
5	フレイタ	両面	—	1	検出 13.72
6	フレイタ	両面	—	1	検出 13.72
7	ネクロイター	両面	中世紀	1	検出 13.72
8	ネクロイター	両面	初期	1	検出 13.73
9	フレイタ	両面	—	1	検出 13.68
10	フレイタ	両面	—	1	検出 13.79
11	フレイタ	両面	—	1	検出 13.67
12	フレイタ	両面	—	1	検出 13.68
13	フレイタ	両面	—	1	検出 13.79
14	ネクロイター	両面	中世紀	1	検出 13.81
15	土器	土器	前期	4	検出 13.72
16	土器	土器	前期	4	検出 13.79
17	土器	土器	前期	1	検出 13.67
18	土器	土器	前期	1	検出 13.67
19	土器	土器	前期	1	検出 13.68
20	土器	土器	前期	1	検出 13.74

遺物 番号	土器・石器 名称(遺物)	形状	検出 時期	点検 層位	検出 層位 (m)
21	土器	土器	前期	1	検出 13.74
22	土器	土器	前期	1	検出 13.72
23	土器	土器	前期	1	検出 13.75
24	土器	土器	前期	1	検出 13.61
25	土器	土器	前期	1	検出 13.62
26	土器	土器	前期	1	検出 13.68
27	フレイタ	両面	—	1	検出 13.69
28	フレイタ	両面	—	1	検出 13.67
29	フレイタ	両面	—	1	検出 13.68
30	フレイタ	両面	—	1	検出 13.65
31	フレイタ	両面	—	1	検出 13.63
32	フレイタ	両面	—	1	検出 13.64
33	フレイタ	両面	—	1	検出 13.68
34	フレイタ	両面	—	1	検出 13.66
35	フレイタ	両面	—	1	検出 13.63
36	フレイタ	両面	—	1	検出 13.62
37	フレイタ	両面	—	1	検出 13.78
38	ネクロイター	両面	—	1	検出 13.73
39	フレイタ	両面	—	1	検出 13.71

図IV-2 H-1 (2)

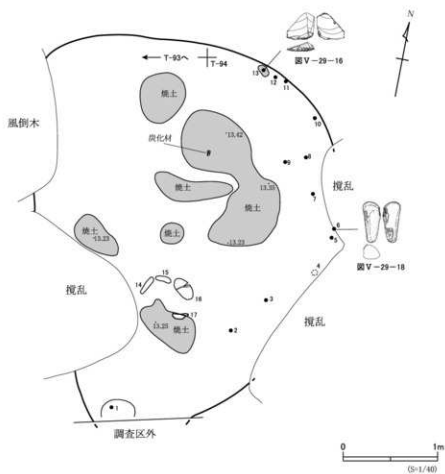
H-2



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名 層名 部分層	層厚	層①(最上2m未満)				層②(最上2m以上)・Dーム					
				色相		粘着性	堅硬度	種類	層厚 平均/最大 (m)	形状	風化の 程度	埋入物	備考
				色名	平均/最大 色名								
H-2	1	砂層	砂層上	褐色	10YR5/1	砂~粘	弱	---	---	---	---	---	---
	2	砂層 硬土	砂層上 硬土層上	緑褐色	7.5YR3/2	砂~粘	強	---	---	---	---	---	---
	3	砂層 硬土	砂層上 硬土層上	緑褐色	7.5YR3/4	砂~粘	強	---	---	---	---	---	---
	4	砂Y層	砂層上	黄褐色	10YR3/1	砂~粘	強	---	---	---	---	---	粘土質砂
	5	砂Y層	砂層上	黄褐色	10YR2/2	砂~粘	強	---	---	---	---	---	粘土質砂
	6	砂Y層	砂層上	黄褐色	10YR2/2	砂~粘	中~強	中~強	---	---	---	---	粘土質砂
H-2 Hf-1	7	砂Y層	砂層上	黄褐色	10YR3/4	中	弱	---	---	---	---	---	---
	8	砂層 硬土	砂層上 硬土層上	明少褐色	10YR2/3	中	弱粘	---	---	---	---	---	---
H-2-hp-2-3	3	砂Y層 1 Y層3層	砂層上 硬土層上	緑褐色	10YR2/2	中	中~強	---	---	---	---	---	---

図IV-3 H-2(1)

H-2 覆土中遺構と遺物分布



遺物番号	土器・土器類	種類	形状	検出	数量	層位	高さ (cm)	備考
1	土器	土器	碗状	1	1	1	13.97	
2	フレイタ	灰赤	—	1	1	1	13.20	
3	フレイタ	灰赤	—	1	1	1	13.19	
4	フレイタ	灰赤	—	1	1	1	13.19	
5	フレイタ	灰赤	—	1	1	1	13.22	
6	フレイタ	灰赤	—	1	1	1	13.22	
7	フレイタ	灰赤	—	1	1	1	13.22	
8	フレイタ	灰赤	—	1	1	1	13.21	
9	フレイタ	灰赤	—	1	1	1	13.20	
10	フレイタ	灰赤	—	1	1	1	13.20	
11	土器	灰赤	1	1	1	1	13.20	
12	灰赤土器	平口	1	1	1	1	13.20	
13	土器	灰赤	—	1	1	1	13.20	
14	土器	灰赤	—	1	1	1	13.21	
15	土器	灰赤	—	1	1	1	13.21	
16	土器	灰赤	—	1	1	1	13.21	
17	土器	灰赤	—	1	1	1	13.21	

図IV-4 H-2(2)

H-4 (図IV-5 表IV-1・2 図版5)

位置 S・T-91区

規模 (3.11)×(1.50)／(3.05)×(1.37)／0.32m

平面形態 楕円形?

確認・調査 H-1調査中、北東側でH-1に接する黒褐色土のまとまりを確認した。H-1調査終了後に南北にトレンチを設定し掘り下げた結果、床面と考えられる平坦面と南側で壁の立ち上がりを確認したため竪穴住居跡と判断した。北側は大きく削平され、南西側はH-4より新しいH-1と重複し埋されているため、調査範囲は全体の約1/3と推定される。調査は最初にトレンチに沿ってベルトを設定し、床面まで掘り下げた。土層断面の写真撮影及び図面作成を行った後ベルトを掘り下げ、床面を精査したが焼土、柱穴等は確認できなかった。その後、全体写真や平面図を作成し、調査を終了した。遺物は、覆土出土は一括で取り上げ、床面出土は2cm以上の大きさのものについて出土地点を計測し、2cm未満は一括して取り上げた。

覆土 自然堆積で4層に分けた。黒色土とVI層のロームが主体で、ローム粒を含む。覆土2・4層は黒色土主体の黒褐色土層(BY層)、覆土1・3層はローム主体の暗褐色土(YB層)で、覆土3層はロームが非常に多い。

床面・壁 床面はほぼ平坦で、北側中央付近はやや低くなる。壁はやや緩やかに湾曲しながら立ち上がる。

付属遺構

土器集中 hps-1 規模 0.52×0.41m 平面形態 不整形

住居跡南側の覆土中から、II群b類の円筒土器下層b式1個体が出土した(図V-2-4)。H-1により一部壊されている。土器点数は314点である。

遺物出土状況 土器が321点、石器等が64点出土した。土器は全てII群b類で、覆土から7点出土した(hps-1出土を除く)。石器等は床面からフレイクが22点出土し、覆土から石鏃1点、U・Rフレイク1点、フレイク34点が出土した。

時期 覆土出土の遺物等から、縄文時代前期後半II群b類土器の時期と考えられる。

H-5 (図IV-6 表IV-1・2 図版6)

位置 S・T-103区

規模 2.85×2.33／2.47×2.10／0.68m

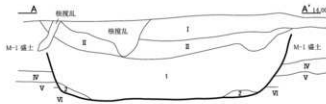
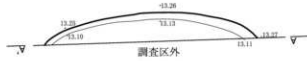
平面形態 隅丸方形

確認・調査 S-103区周辺でVI層上面検出時に、焼土と黒褐色土のまとまりを確認した。十字にトレンチを設定し掘り下げた結果、平坦面と壁の立ち上がりを確認したため、竪穴住居跡と判断した。次にトレンチ沿いにベルトを設定し、確認面の焼土を調査した。焼土調査後、覆土を床面まで掘り下げ、土層断面の写真撮影及び図面作成を行い、ベルトを掘り下げた。その後、床面を精査し、溝状遺構の調査を行った。最後に全景写真や平面図作成を行い、調査を終了した。確認面の焼土(hf-1)の周囲からはIV群土器が出土しているため、焼土の面が生活面の可能性がある。

覆土 5層に分けた。覆土1層は焼土(hf-1)である。覆土2・3層は黒色土主体の黒～暗褐色土層(BY層)、覆土4層はほぼVI層と同質の褐色土層(Y層)、覆土5層はVI層主体の暗褐色土層(YB層)である。

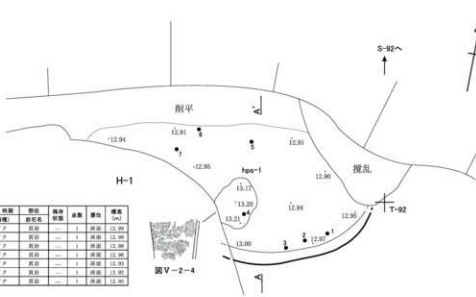
床面・壁 床面はほぼ平坦で、壁は床面から強く屈曲し、急角度に立ち上がる。

H-3

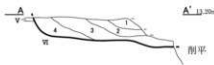


遺構名	断面図番号	層位名	層別	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)					礫(長径2mm以上)				埋入物	備考	
				野外土名	色名	ファンネル表色層	粘着性	堅硬度	種類	総量(%)	平均	最大			形状
H-3	1	砂7層	自然	原状色	10YR2/2	中	弱	—	—	—	—	—	—	—	—
	2	砂2層	自然	原状色	10YR2/2	中	弱	—	—	—	—	—	—	—	—

H-4



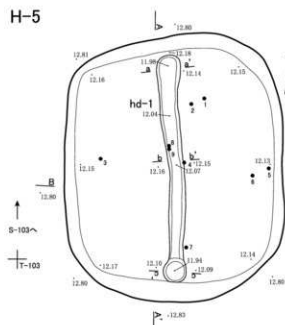
遺物	土層	西壁	東壁	形状	数量	層別	備考
1	フレイク	自然	—	1	原層	12.99	—
2	フレイク	自然	—	1	原層	12.99	—
3	フレイク	自然	—	1	原層	12.98	—
4	フレイク	自然	—	1	原層	12.98	—
5	フレイク	自然	—	1	原層	12.93	—
6	フレイク	自然	—	1	原層	12.95	—
7	フレイク	自然	—	1	原層	12.95	—



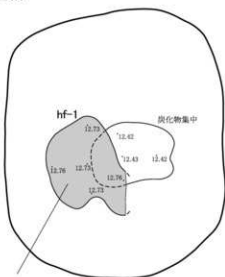
遺構名	断面図番号	層位名	層別	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)					礫(長径2mm以上)				埋入物	備考	
				野外土名	色名	ファンネル表色層	粘着性	堅硬度	種類	総量(%)	平均	最大			形状
H-4	1	砂7層	YB1層	自然	堆積土	原状色	10YR2/2	中	弱	黄褐色ローム	1	1	10	—	—
	2	砂7層	砂7層	自然	堆積土	黄褐色	10YR2/2	中	弱	黄褐色ローム	1	1	1	—	—
	3	砂7層	YB1層	自然	堆積土	原状色	10YR2/2	中	弱	黄褐色ローム	2	1	2	—	—
	4	砂7層	砂7層	自然	堆積土	原状色	10YR2/2	中	弱	黄褐色ローム	7	2	4	—	—

図IV-5 H-3・4

H-5

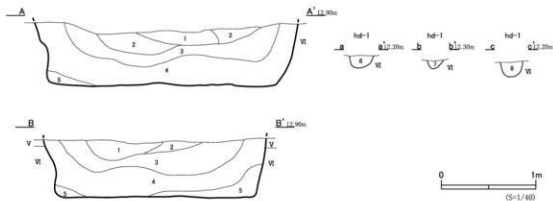


覆土中遺構



図V-2-5

遺構番号	土層	時期	方位	積層状態	積層回数	層位	高さ (cm)	備考
1	1層	前期	南向	乱積	1	深部	12.12	
2	1層	前期	南向	乱積	1	深部	12.14	
3	フレイク	前期	-	1	深部	12.18		
4	フレイク	前期	-	1	深部	12.16		
5	1層	後期	南向	乱積	1	深部	12.14	
6	1層	後期	南向	乱積	1	深部	12.12	
7	フレイク	前期	-	1	深部	12.11		
8	フレイク	前期	-	1	深部	12.09	12.11	
9	フレイク	前期	-	1	深部	12.08	12.11	



遺構名 付属遺構名	層位番号	層位名	層厚	砂・粘土・シルト (粒径2mm未満)				礫 (粒径2mm以上)・石				備考		
				砂の 割合	粘土 割合	シルト 割合	その他	最大 径 (mm)	割合 (%)	形状 平均	形状 最大			
H-5	3	砂層	0.15	95	5	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	砂層	0.15	95	5	0	0	0	0	0	0	0	0	
	3	砂層	0.15	95	5	0	0	0	0	0	0	0	0	
	4	砂層	0.15	95	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1層に於いて土層
H-5 hd-1	1	砂層	0.15	95	5	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	砂層	0.15	95	5	0	0	0	0	0	0	0	0	
H-5 hd-1	1	砂層	0.15	95	5	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2	砂層	0.15	95	5	0	0	0	0	0	0	0	0	

図IV-6 H-5

付属遺構

溝状遺構 h d-1 規模 2.41×0.25/2.36×0.18/0.17m **平面形態** 溝状

床面中央付近で南北に延びる溝状の遺構である。溝と竪穴住居跡の長軸はほぼ一致し、幅16～25cm、深さ8～17cmである。南北端は規模がやや大きくなり、南端の平面は円形状である。断面形はやや不整の半円状で、覆土はロームを主体とする暗褐色ないし褐色土層（Y B層）である。

覆土中焼土 h f-1 規模 1.14×0.85/0.21m **平面形態** 不整形

覆土最上位で検出した焼土で、長軸は1.14m、厚さは0.21mと規模は大きい。焼土上位からはIV群a類土器（図V-2-5）が出土し、土器は焼土に伴う可能性がある。

炭化物集中 規模 0.89×0.67m **平面形態** 不整形

竪穴中央付近の覆土中位で確認した炭化物集中で、細かい炭化物のまとまりである。焼土（h f-1）より低い位置で確認されている。

遺物出土状況 土器が266点、石器等が336点出土した。床面からは、II群b類土器3点、フレイク5点、礫が1点出土している。他に覆土等から土器ではI群、IV群、定形的な石器では石鏃、石槍・ナイフ、スクレイパーが出土している。

時期 床面出土の遺物等から、縄文時代前期後半II群b類土器の時期と考えられる。

(広田)

3. 土 坑

P-1（図IV-7 表IV-3 図版7）

位置 S-87・88区

規模 1.47×1.31/1.09×0.90/0.66m

平面形態 楕円形

確認・調査 M-2の調査中、S-88区付近で楕円形の黒褐色土のまとまりを確認した。南北方向にトレンチを設定し掘り下げた結果、平坦面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。まず、トレンチの西側の覆土を坑底面まで掘り下げ、土層断面の写真撮影、図面作成を行った。次に東側を掘り下げ、全体の写真撮影、平面図作成等を行った。覆土の遺物は層位一括で適宜取り上げ、坑底面の遺物は地点計測後、取り上げた。約2m西側にP-2が位置する。また、M-2と重複するが、新旧関係は不明である。

覆土 5層に分けた。黒色土を主体としVI層のロームが混ざる土層（B Y層）で、覆土1・4・5層は黒褐色、2・3層は黒色を呈する。覆土2・3層には砂岩の礫とローム粒が少量混ざり、2層には炭化物が微量みられる。

坑底面・壁 坑底面は中央付近がやや低くなる形状で、壁は急角度に立ち上がる。

遺物出土状況 土器が29点、石器等は229点出土した。土器は全てII群b類で、覆土出土である。石器等は覆土からU・Rフレイク、フレイク、礫、坑底面からは磨製石斧と扁平打製石器が出土している。

時期 覆土出土の遺物等から、縄文時代前期後半II群b類土器の時期と考えられる。

P-2（図IV-7 表IV-3 図版7）

位置 S・T-87区

規模 1.34×1.00/0.98×0.67/0.45m

平面形態 楕円形

確認・調査 M-2の調査中、S-87区付近で楕円形の黒褐色土のまとまりを確認した。楕円形の短

軸方向にトレンチを設定し掘り下げた結果、平坦面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。まず、トレンチの南東側の覆土を坑底面まで掘り下げ、土層断面の写真撮影、図面作成を行った。次に北西側を掘り下げたところ、覆土下位で赤色土壌を検出した。規模は35×18cmで、南東側はトレンチ調査時に誤って削平している。全体的に薄く不明瞭であったため土壌採取等はずせず、検出状況の写真及び図面を作成した。遺物は層位一括で適宜取り上げた。約2m東側にP-1が位置する。また、M-2と重複するが、新旧関係は不明である。

覆 土 5層に分けた。黒色土とⅥ層のロームが混ざり、覆土1・2・5層は黒色土主体の黒褐色土層（BY層）、3層はローム主体の暗褐色土層（YB層）、4層はほぼ黒色土のみの黒色土層（B層）である。土層中には全体的にローム粒がみられる。

坑底面・壁 坑底面はほぼ平坦で、壁は坑底面から屈曲しながら急角度に立ち上がる。

遺物出土状況 土器93点、石器等は99点出土した。土器は全てⅡ群b類で、覆土出土である。石器等は全て覆土出土で、スクレイパー、フレイク、礫が出土している。

時 期 覆土出土の遺物等から、縄文時代前期後半Ⅱ群b類土器の時期と考えられる。

(広田)

P-3 (図IV-7 表IV-3 図版7)

位 置 T-96区

規 模 (0.93)×(0.42)／(0.72)×(0.33)／0.16m

平面形態 不明

確認・調査 M-1の調査終了後、Ⅳ層面で黒褐色のまとまりがみられた。このまとまりの南側はトレンチ調査時にⅥ層まで掘り下げられており、北側半分が残っていた。トレンチの土層断面を改めて精査したところ掘り込みを確認し、土坑と判断した。土層を記録後、残った北側部分を掘り下げ、平面形を記録し、調査を終了した。M-1と重複するが、新旧関係は不明である。

覆 土 1層で、黒褐色土層（BY層）である。

坑底面・壁 坑底面は曲線的で壁は斜めに立ち上がる。

遺物出土状況 遺物は覆土中から扁平打製石器1点、フレイク9点が出土した。

時 期 周囲の遺構から縄文時代前期後半期で、盛土と同様の覆土であることから、M-1より古い可能性がある。

(愛場)

P-4 (図IV-8 表IV-3 図版7)

位 置 Q-85区

規 模 0.89×0.78／0.70×0.59／0.10m

平面形態 楕円形

確認・調査 M-2の調査中、Q-85区付近で楕円形の黒褐色土のまとまりを確認した。楕円形の長軸方向にトレンチを設定し掘り下げた結果、平坦面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。まず、トレンチの南西側の覆土を坑底面まで掘り下げ、土層断面の写真撮影、図面作成を行った。次に北東側を掘り下げ、全体の写真撮影及び図面作成を行った。遺物は層位一括で適宜取り上げた。M-2と重複し、北西側にP-1とM-2mf-3が近接する。M-2との新旧関係は不明である。

覆 土 1層で、Ⅵ層のロームが主体で黒色土が混ざる暗褐色土層（YB層）である。土層中には

ローム粒と炭化物が微量みられる。

坑底面・壁 坑底面は中央付近がやや低くなる形状で、壁は坑底面から緩やかに湾曲しながら立ち上がる。

遺物出土状況 土器が5点、石器等は2点で、全て覆土から出土した。土器は全てⅡ群b類で、石器等はフレイク1点、礫1点が出土している。

時期 覆土出土の遺物等から、縄文時代前期後半Ⅱ群b類土器の時期と考えられる。

P-5 (図IV-8 表IV-3 図版8)

位置 Q-85区

規模 1.00×0.77/0.78×0.59/0.38m

平面形態 楕円形

確認・調査 M-2の調査中、Q-85区付近でM-2mf-3に接する円形の暗褐色土のまとまりを確認した。楕円形の長軸方向にトレンチを設定し掘り下げた結果、平坦面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。まず、トレンチの北西側の覆土を坑底面まで掘り下げ、土層断面の写真撮影、図面作成を行った。次に南東側を掘り下げ、全体の写真撮影及び図面作成を行った。遺物は層位一括で適宜取り上げた。北西側はM-2の焼土(mf-3)を一部壊して作られている。また、南東側にP-4が近接する。

覆土 2層に分けた。上位の覆土1層はⅥ層のローム主体で黒色土が混ざる暗褐色土層(YB層)で、下位の覆土2層は黒色土主体でロームが混ざる黒褐色土層(BY層)である。土層中には全体的にローム粒と炭化物が微量みられる。

坑底面・壁 坑底面は南西側から北東側に向かってやや低くなる形状で、壁は坑底面から屈曲し急角度に立ち上がる。

遺物出土状況 土器が41点、石器等は23点で、全て覆土から出土した。土器は全てⅡ群b類で、石器等はフレイク20点、礫3点が出土している。

時期 覆土出土の遺物等から、縄文時代前期後半Ⅱ群b類土器の時期と考えられる。

P-6 (図IV-8 表IV-3 図版8)

位置 T-88区

規模 1.11×(0.24)/0.73×(0.13)/0.63m

平面形態 楕円形?

確認・調査 M-2の調査中、T-88区の調査区際で半円形の黒褐色土のまとまりを確認した。黒褐色土を掘り下げた結果、平坦面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。その後、調査区壁の土層断面や全体の写真撮影、図面作成を行った。本遺構は大部分が南側の調査区外に位置するため、調査した範囲は一部である。M-2と重複し、土層断面から本遺構が新しい。調査範囲の平面形や覆土は、P-1・2に類似する。

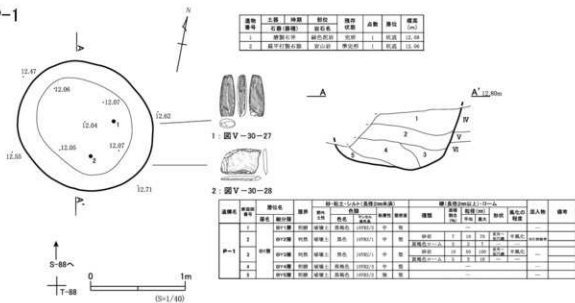
覆土 3層に分けた。黒色土とⅥ層のロームが混ざる土層で、覆土1・2層は黒色土主体の黒褐色土層(BY層)、3層はローム主体の暗褐色土層(YB層)である。土層中には全体的にローム粒がみられる。

坑底面・壁 坑底面は東側がやや高くなり、壁は坑底面から屈曲し急角度に立ち上がる。

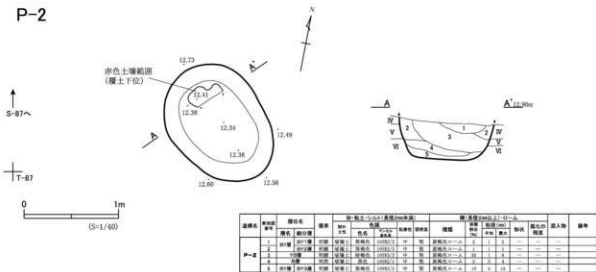
遺物出土状況 覆土からフレイクが4点出土した

時期 周辺の遺構の時期等から、縄文時代前期後半Ⅱ群b類土器の時期と考えられる。M-2より新しい。

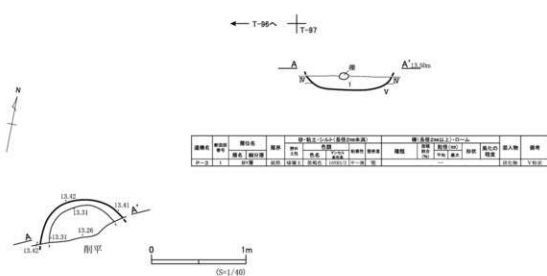
P-1



P-2



P-3



図IV-7 P-1 ~ 3

P-7 (図IV-9 表IV-3 図版8)

位 置 S-102区

規 模 1.18×1.09/0.59×0.70/0.38m

平面形態 楕円形

確認・調査 調査区西側のS-102区でVI層上面の精査時に、黒褐色土の楕円形のまとまりを確認した。南北方向にトレンチを設定し掘り下げた結果、平坦面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。トレンチより西側を坑底面まで掘り下げ、土層断面の写真撮影、図面作成を行った後、東側を掘り下げた。覆土の遺物は適宜取り上げ、坑底付近の遺物は出土地点を計測し取り上げた。約2m東側にH-5が位置する。

覆 土 5層に分けた。黒色土とVI層のロームが混ざる土層で、上位の覆土1・2・4層は黒色土主体の黒褐色土層(BY層)、下位の覆土3・5層はローム主体の暗褐色土層(YB層)である。土層中には全体的にローム粒がみられる。

坑底面・壁 坑底面は南側から北側に向かってやや低くなる形状で、壁は坑底面から屈曲しやや緩やかに立ち上がる。

遺物出土状況 土器4点、石器等は66点出土した。土器は全てI群土器で、覆土出土である。石器等は覆土から石鏃、フレイク、U・R礫、坑底面からフレイク2点、すり石2点が出土している。

時 期 覆土出土の遺物等から、縄文時代早期と考えられる。

P-8 (図IV-9 表IV-3 図版8)

位 置 S-97区

規 模 1.34×0.96/1.20×0.82/0.27m

平面形態 隅丸長方形

確認・調査 M-1の調査後、S-97区のVI層上面で、隅丸長方形の暗褐色土のまとまりを確認した。隅丸長方形の短軸方向にトレンチを設定し掘り下げた結果、平坦面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。まず、トレンチの西側の覆土を坑底面まで掘り下げ、土層断面の写真撮影、図面作成を行った。次に東側を掘り下げ、遺物出土状況や全体の写真撮影、平面図作成等を行った。覆土出土の遺物は層位一括で適宜取り上げ、坑底面の遺物は出土地点を計測して取り上げた。M-1と重複し、覆土の状況などから本遺構が古いと考えられる。また、南東側約1mにP-9が位置する。

覆 土 2層に分けた。黒色土とVI層のロームが混ざる土層で、上位の覆土1層はローム主体の暗褐色土層(YB層)、下位の覆土2層は黒色土主体の黒褐色土層(BY層)である。土層中には全体的にローム粒が混ざる。

坑底面・壁 坑底面はほぼ平坦で、壁は坑底面から屈曲し急角度に立ち上がる。

遺物出土状況 土器が2点、石器等は11点出土した。土器は全てII群で、覆土出土である。石器等は覆土からフレイク9点、坑底面からつまみ付きナイフ1点、フレイク1点が出土している。

時 期 覆土出土の遺物等から、縄文時代前期後半II群b類土器の時期で、M-1より古いと考えられる。

P-9 (図IV-9 表IV-3 図版9)

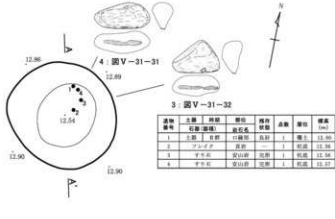
位 置 T-97・98区

規 模 0.77×0.48/0.58×0.36/0.32m

P-7



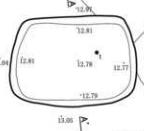
遺構名	発掘層	遺構名	層別	地盤調査(トレンチ)調査結果(地中実測)				地盤調査(トレンチ)トーン				遺構の位置	出入物	備考		
				層別	高さ	長さ	幅	形状	層別	高さ	長さ				幅	
P-7	1	土層	1	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90
	2	土層	2	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90
	3	土層	3	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90
	4	土層	4	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90	12.90



遺物	土層	時期	層別	形状	長さ	幅	厚さ	備考
1	土層	古墳	1	土層	12.90	12.90	12.90	
2	土層	古墳	2	土層	12.90	12.90	12.90	
3	土層	古墳	3	土層	12.90	12.90	12.90	
4	土層	古墳	4	土層	12.90	12.90	12.90	



P-8

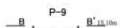
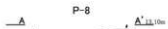


遺構名	遺物	土層	時期	層別	形状	長さ	幅	厚さ
P-8	1	土層	古墳	1	土層	13.01	13.01	13.01

遺物	土層	時期	層別	形状	長さ	幅	厚さ	備考
1	土層	古墳	1	土層	13.01	13.01	13.01	



1: 図V-31-33



P-9



1: 図V-31-34

遺構名	発掘層	遺構名	層別	地盤調査(トレンチ)調査結果(地中実測)				地盤調査(トレンチ)トーン				遺構の位置	出入物	備考	
				層別	高さ	長さ	幅	形状	層別	高さ	長さ				幅
P-8	1	土層	1	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01
	2	土層	2	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01	13.01



図IV-9 P-7~9

平面形態 楕円形

確認・調査 M-1の調査後、T-98区付近のIV層上面で楕円形の黒褐色土のまとまりを確認した。楕円形の短軸方向にトレンチを設定し掘り下げた結果、平坦面と壁の立ち上がりを確認し、遺構と判断した。まず、トレンチの東側の覆土を坑底面まで掘り下げ、土層断面の写真撮影、図面作成を行った。次に西側を坑底面まで掘り下げ、遺物出土状況や全体の写真撮影、平面図作成を行った。覆土出土の遺物は層位一括で適宜取り上げ、坑底面の遺物は出土地点を計測して取り上げた。北西側約1mにP-8が位置する。また、M-1と重複し、覆土の状況などから本遺構が古いと考えられる。

覆 土 1層で、黒色土が主体でロームが混ざる黒褐色土層（BY層）である。土層中にはローム粒が少量みられる。

坑底面・壁 坑底面はほぼ平坦で、壁は坑底面から屈曲し急角度に立ち上がる。

遺物出土状況 石器等が2点出土した。覆土からフレイク1点、坑底面から磨製石斧1点が出土している。

時 期 周辺の遺構等から、縄文時代前期後半Ⅱ群b類土器の時期と考えられる。

(広田)

4. Tピット

TP-1 (図IV-10 表IV-4 図版9)

位 置 T-84・85区

規 模 (1.52)×(0.66)／(1.28)×(0.18)／1.50m

平面形態 溝状

確認・調査 調査区南西端の調査区際のIV層上面で、長楕円形の黒色土のまとまりを確認した。壁に沿ってトレンチを設定し掘り下げた結果、非常に深い溝状の構造を確認し、Tピットと判断した。その後、覆土を掘り下げ坑底面を検出し、土層断面及び全体の写真撮影と図面作成等を行った。本遺構は半分以上が調査区外に位置すると推定され、調査範囲は全体の一部である。

覆 土 5層に分けた。覆土1層はIV層とほぼ同様の黒色土（B層）、覆土2・4層は黒色土とVI層のロームが混ざる土層（BY層、YB層）で、覆土3・5層はほぼVI層の黄褐色ロームからなる土層（Y層）である。また覆土上位には黄褐色火山灰の堆積がみられた。

坑底面・壁 坑底面はほぼ平坦で、短軸方向の長さが10～18cmと非常に細長い形状である。壁は、短軸方向は急角度に立ち上がり、長軸方向はややオーバーハングする形状である。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時 期 縄文時代と考えられる。

(広田)

5. 焼 土

F-1 (図IV-10 表IV-5 図版9)

位 置 T-103区

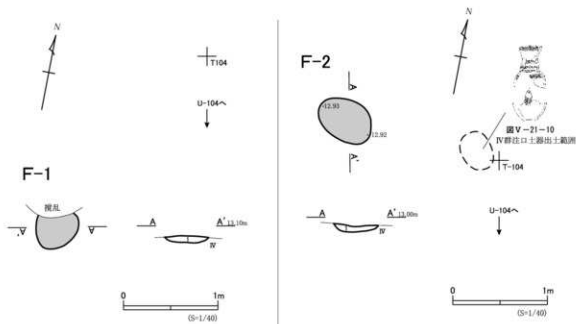
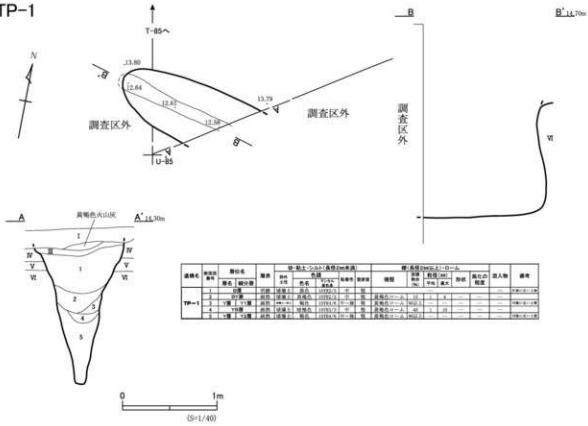
規 模 0.49×(0.42)／0.08m **平面形態** 不整の円形

確認・調査 包含層調査中、IV層で褐色土がみられ、北側を半載した。土層断面を観察し、焼土と判断した。

遺物出土状況 遺物は出土していない。

時 期 周辺の遺物から縄文時代後期の可能性がある。

TP-1



遺構名	構造番号	発見名	発見	中・掘立・コンクリート基礎(200未満)				壁・基礎(200以上)・石・土				遺人物	備考
				種類	形状	高さ	厚さ	種類	形状	高さ	厚さ		
F-1	1	穴丸	掘立	土	円形	1.10	0.1	土	円形	1.10	0.1	---	---

遺構名	構造番号	発見名	発見	中・掘立・コンクリート基礎(200未満)				壁・基礎(200以上)・石・土				遺人物	備考
				種類	形状	高さ	厚さ	種類	形状	高さ	厚さ		
F-2	1	土壁	掘立	土	円形	11.30	0.5	土	円形	11.30	0.5	---	---

図IV-10 TP-1、F-1・2

F-2 (図IV-10 表IV-5 図版9)

位置 S-103区

規模 0.61×0.44/0.09m 平面形態 楕円形

確認・調査 包含層調査中、H-5近くのIV層面で褐色土がみられ、中央付近にトレンチを設定し、掘り下げた。土層断面を観察し、焼土と判断した。

遺物出土状況 遺物は出土していないが、東側へ約1mのところまでIV群c類の注口土器(図V-21-10)が出土した。

時期 H-5の近くであるが、周辺の遺物から縄文時代後期と判断される。

(愛場)

6. 盛土遺構

M-1 (図IV-11~26 表IV-6~8 図版10~17)

位置 S-93~97、T-94~98区

規模 (25.40)×(7.55)/0.50m 平面形態 不明

確認・調査 表土除去後、S・T-94~97区の広い範囲で暗褐色土の分布を確認した。このため調査区南境と96ラインに先行トレンチを設定し、掘り下げたところ、この土層はIV層上位に堆積していることがわかった。土層中には焼土、土器とフレイク類の集中域があり、その他の多くの遺物が出土したため、盛土遺構と判断した。96ラインに土層観察用のベルトを残して、それを境に東側部分の調査を先行させながら、西側部分も順次調査していった。検出した焼土は平面形を、土器集中、フレイク集中は出土範囲を記録し、それ以外の遺物はグリッドごとに取り上げた。層序は土層観察では6層に分層したが、黄色味が強い上位層(1・2)をYB層、黒味が強い下位層(3以降)をBY層に大別して遺物を取り上げた。

土層を記録し、全面をIV層上面まで掘り下げ、調査を終了した。M-1にはH-3、P-3・8・9が重複する。H-3は土層からM-1より新しく、土坑は覆土の状況から古いと考えられる。

盛土は調査区外の南側に主体部があると考えられ、本調査では、盛土遺構の北側の一部分を調査したことになる。

覆土 6層(東西ラインは3層)に分層した。概ね上位に暗褐色土層(YB層)、下位に黒褐色土層(BY層)が堆積し、いずれも遺物が多く出土する。第3層中は焼土・炭化物が多く、北側の一部では3層下位に黄褐色土層(Y層)もみられた。

盛土の層厚は、調査区南側境では95~98ラインにかけて40~50cmで、東側は94ライン、西側は99ライン回りで薄くなり、みられなくなる。北側は94ラインと98ライン付近で薄くなっていく状況が捉えられたが、95~97ラインでは薄くならず土層が続いており、北側は削平されたものと考えられる。概ね南側が厚いため、主体部は南側の調査区外にあると考える。

付属遺構

数が多いため各付属遺構の規模は、表IV-7に示した。

焼土 mf-1~9

mf-1・2は盛土層の上層で確認した。mf-3~9は盛土直下のIV層上面で検出したが、関連するものとして盛土の付属遺構に含めた。mf-1~5は盛土西側、mf-6~9は盛土東側にまよって分布する。

土器集中 mps-1~40

土器集中は発掘区ごとに盛土全体を数センチずつ掘り下げながら、土器がまよってみられた順番に番号を付した。発掘区で進行状況が違うため、土器集中番号は新旧の昇順とならず、mps-3~

10・12・15～17は上位の盛土Y B層出土、m p s - 1・2・11・13・14・18～40が下位の盛土B Y層からの出土である。土器集中の新旧関係については表にまとめた(表IV-8)。土器はほとんどが潰れた状態で出土したが、口縁部付近などが打ち欠かれたものも多い。多くは1～2個体程度のまとまりだが、m p s - 7・21・29は5個体以上、m p s - 22は20個体以上が広範囲に切れ目なく集中したもので、別番号にせず、m p s - 21 A・21 Bのようにアルファベットを付けて細分した。土器集中は盛土の上位から下位にかけ、盛土検出範囲全体でみられた。土器の時期は円筒土器下層b 2式期が主体である。

フレイク集中 m f c - 1～17

すべて頁岩のフレイク集中である。盛土の上層からm f c - 1、それ以外は下層から出土し、土器集中に近接するものが多い。剥片は3～10cmの大型のものが多くみられ、m f c - 3・5・7・10・12～14・16・17は剥片に原礫面を有するものが多く、m f c - 2・4・6・8・15は原礫面を有するものは少ない。m f c - 1は3cm以下のフレイクチップの集中である。また伴う石器は、石槍・ナイフ(m f c - 2・6・11・15・17)、スクレイパー(m f c - 5・8・9・11・12・14)、石核(m f c - 3・5・7・10)、両面調整石器(m f c - 2・4・9・11・12・15)がある。フレイク集中はほとんどが同一母岩と考えられる剥片であったため、m f c - 1を除き接合作業を行った。m f c - 2・12では両面調整石器(掲載番号55・56)、m f c - 7では石核(掲載番号84)、m f c - 17では石槍・ナイフ(掲載番号52)と複数の剥片が接合した。

遺物出土状況 遺物は盛土範囲全体の盛土上位から下位にかけて土器等71,548点、石器等44,343点、総計115,991点出土した(土器集中、フレイク集中を含む。水洗選別を除く)。土器等の内訳はⅡ群b類土器が71,514点と主体をなし、他はⅠ群土器23点、Ⅳ群土器3点、土製品(焼成粘土塊)12点と少量である。石器等はフレイクが42,086点と最も多く、礫746点、U・Rフレイク425点、スクレイパー264点、石核245点と続き、石槍・ナイフ、両面調整石器も多い。礫石器では扁平打製石器59点やたたき石58点が多く、他に石製品(石棒?)1点がある。また旧石器も28点出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半、円筒土器下層b式の時期と考えられる。

(愛場)

M-2 (図IV-27～29 表IV-6・7 図版18・19)

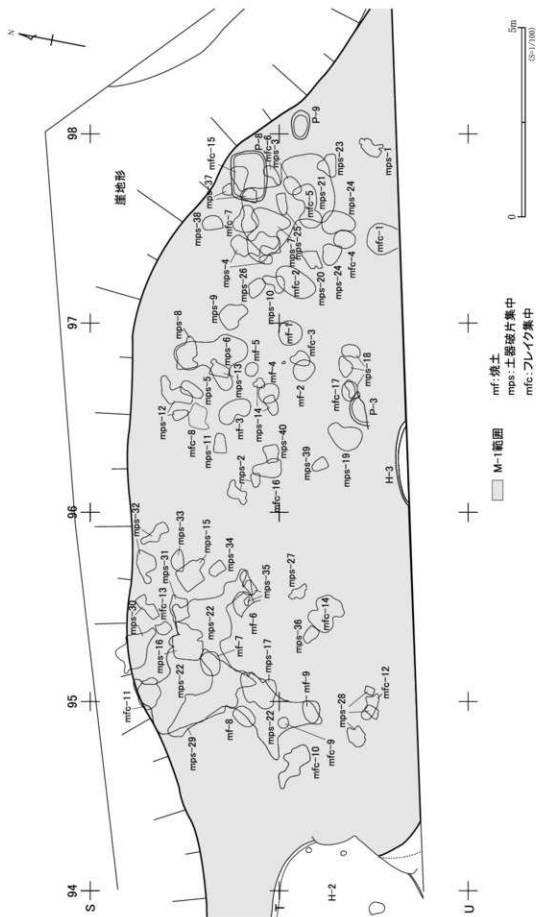
位置 Q-85・86、R-85～87、S-85～89、T-85～89区

規模 (27.60)×(11.65)／0.32m **平面形態** 不整形

確認・調査 表土除去後にS・T-86～89区にかけて暗褐色土の分布を広い範囲で確認し、南北方向にトレンチを設定し掘り下げた。その結果、遺物の出土と暗褐色土がIV層の上に堆積していることから、盛土遺構と判断した。周辺を精査したところ同様の暗褐色土が工事用地内の調査区外へ分布していたため、北海道教育委員会(以下、道教委)に報告し、指示を仰いだ。道教委は追加の試掘を行ない、盛土遺構が調査区外へ広がることが確認された。その後、道教委と函館開発建設部が協議を行い、最終的に北側192mについて調査区を拡張することとなった。拡張範囲を含めて精査しトレンチ調査を行ったところ、85～90ラインの間に分布し、規模は平面形が約28×11m、厚さが約20～30cmを測る大形の盛土遺構であることを確認した。盛土範囲は見かけ上北西側と南西側の2か所に分かれているが、これは間の部分がVI層まで削平されているため、本来は一体のものである。また、調査区外の西側と南側に延び、特に南側は大きく広がる。

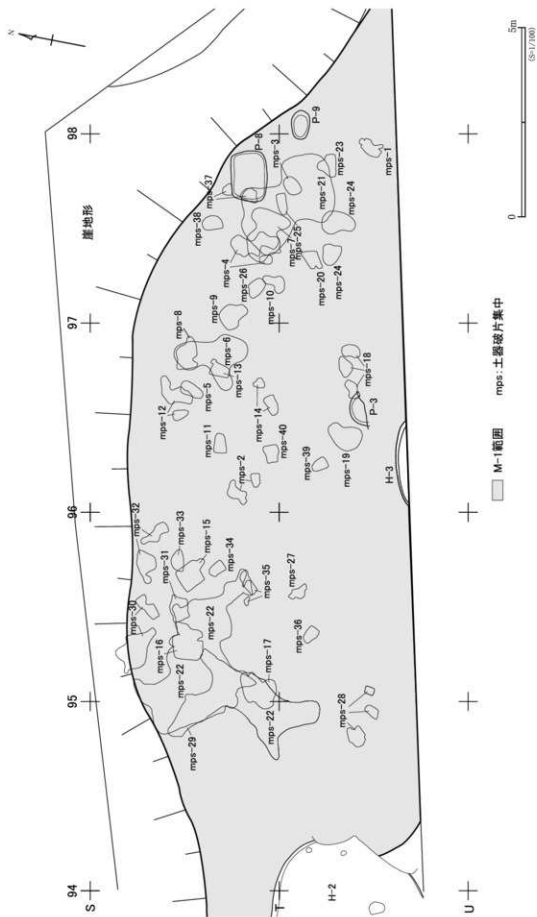
調査は最初に南側を、次に北側をグリッド単位で調査した。土層断面は南側の調査区壁と86ラインに沿いに設定し、写真撮影、図面作成を行った。さらに必要に応じてトレンチを設定し、土層を確認しながら調査した。遺物は出土状況を確認しながら、原則的にグリッド、層位ごとに一括して随時

M-1 mf・mps・mfc



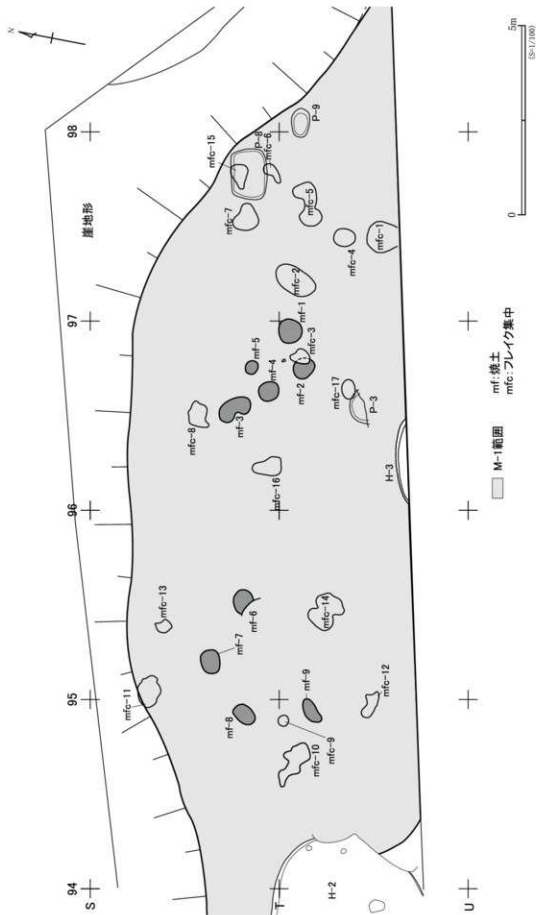
図IV-12 M-1(2)

M-1 mps



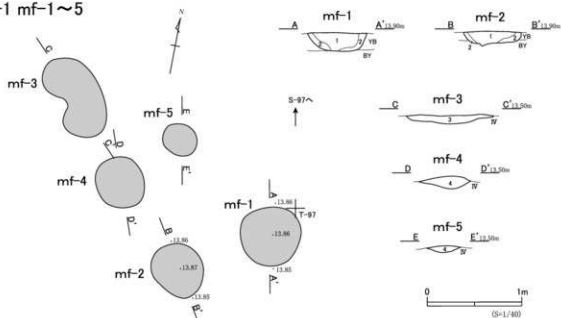
圖IV-14 M-1(4)

M-1 mf・mfc



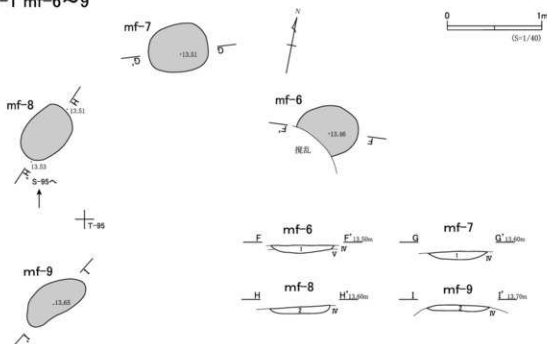
図IV-15 M-1(5)

M-1 mf-1~5



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名	層別	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)・ローム				遺入物	備考			
				砂の 含有 率	色名	V ₂₀₀ % 測定値	粘着性	堅固度	種類	含有 率 (%)	平均 径(mm)			形状 扁平度	風化の 程度	
M-1	1	向層 硬土	自然	砂質土	赤褐色	1193/9	中	堅	*	1	3	32	長角礫	高小	—	—
mf-1-2	2	V砂層	自然	砂質土	赤褐色	7,1193/7	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—	—
mf-3	3	向層 硬土	自然	砂質土	赤褐色	3795/9	中	中~強	—	—	—	—	—	—	—	—
M-1	4	向層 硬土	自然	砂質土	赤褐色	1193/9	中	堅	—	—	—	—	—	—	—	—

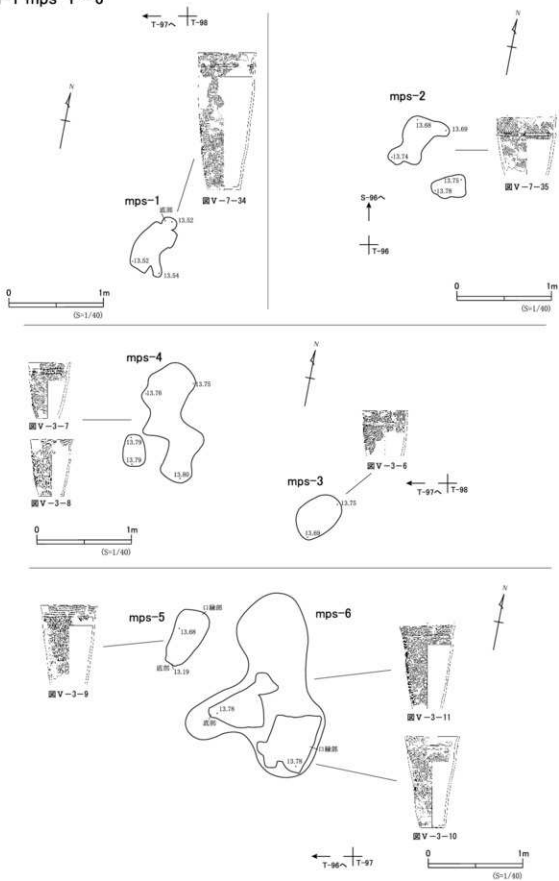
M-1 mf-6~9



遺構名 付属遺構名	断面図 番号	層位名	層別	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)				礫(長径2mm以上)・ローム				遺入物	備考			
				砂の 含有 率	色名	V ₂₀₀ % 測定値	粘着性	堅固度	種類	含有 率 (%)	平均 径(mm)			形状 扁平度	風化の 程度	
M-1	1	向層 硬土	自然	砂質土	赤褐色	3795/9	中	中~強	堅	—	—	—	—	—	—	—
mf-6-7	2	向層 硬土	自然	砂質土	赤褐色	3795/9	中	堅	—	—	—	—	—	—	—	—

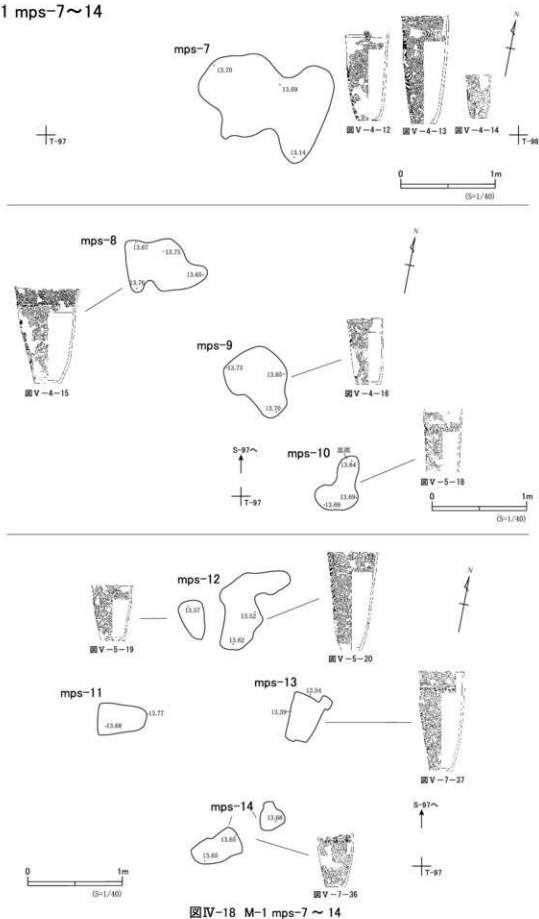
図IV-16 M-1 mf-1~9

M-1 mps-1~6



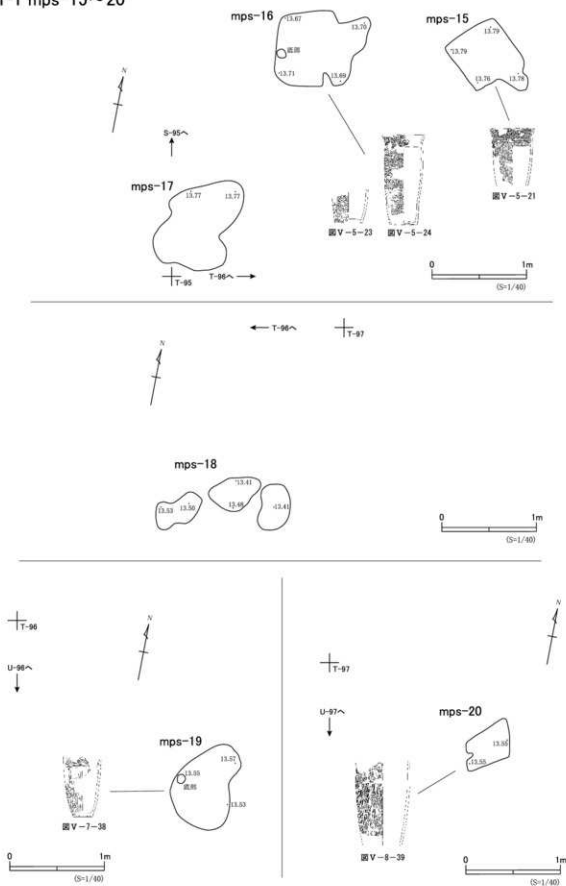
図VI-17 M-1 mps-1~6

M-1 mps-7~14



図IV-18 M-1 mps-7~14

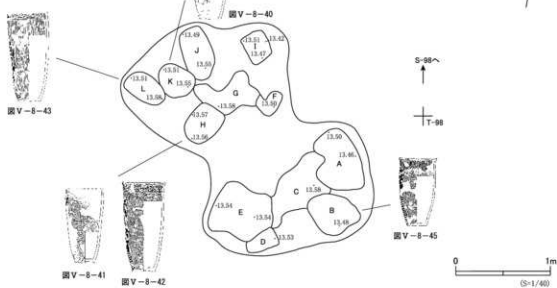
M-1 mps-15~20



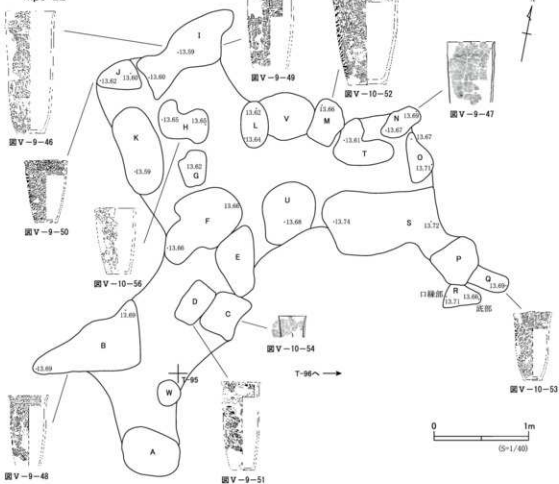
圖IV-19 M-1 mps-15 ~ 20

M-1 mps-21・22

mps-21

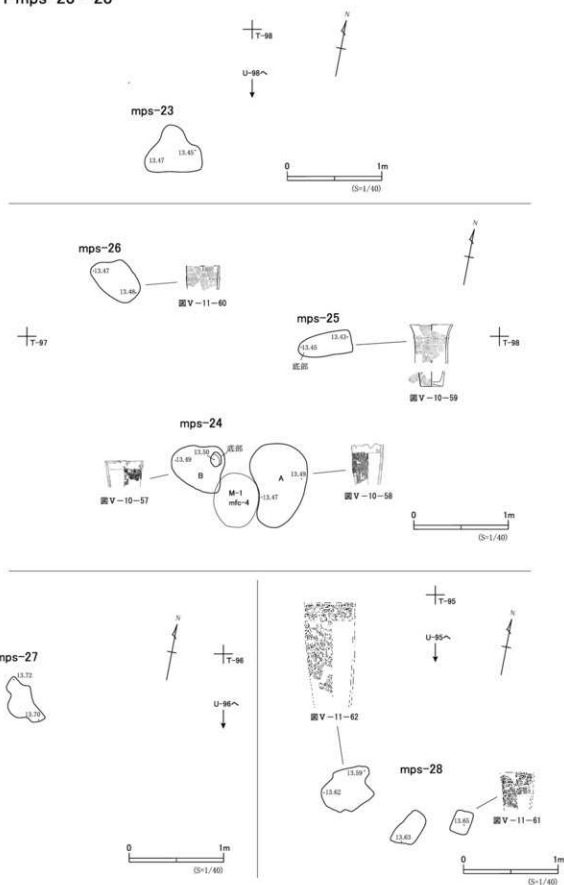


mps-22



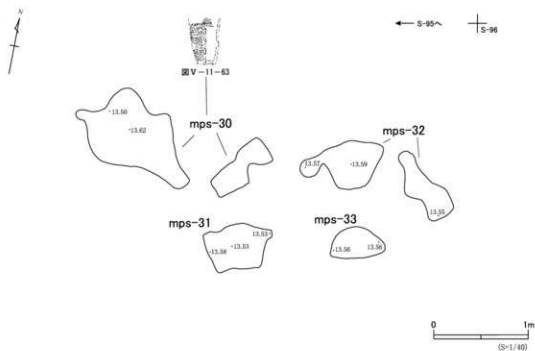
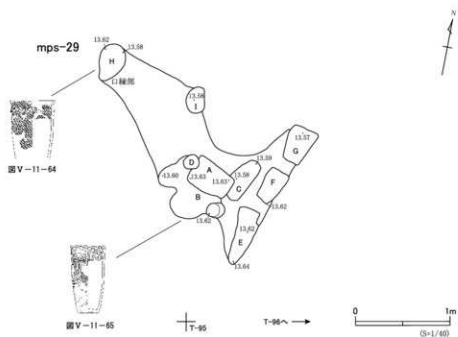
図IV-20 M-1 mps-21・22

M-1 mps-23~28



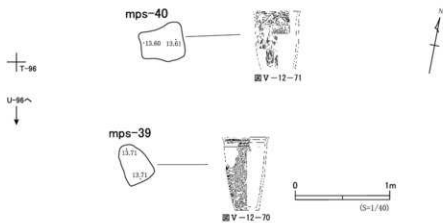
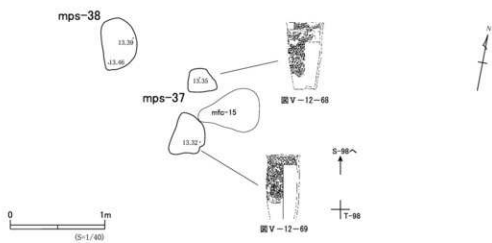
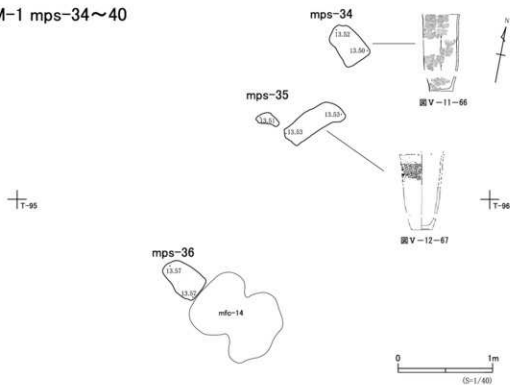
図IV-21 M-1 mps-23 ~ 28

M-1 mps-29~33



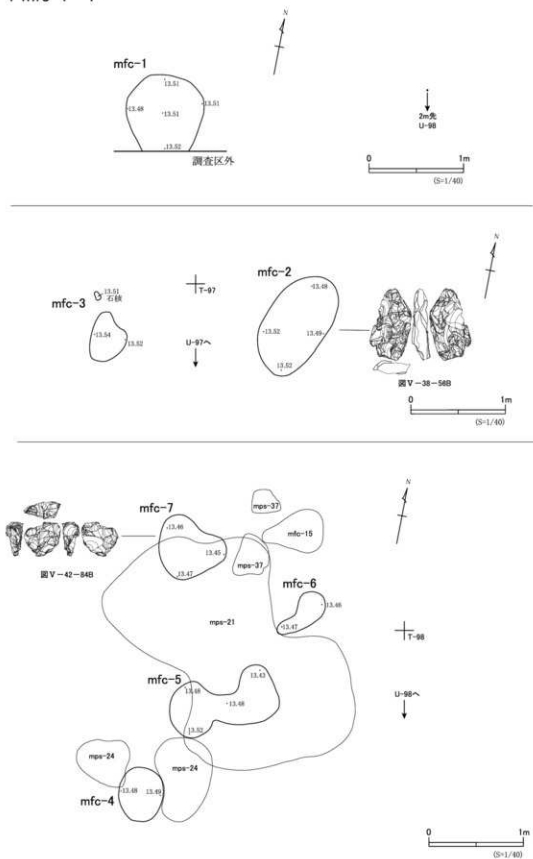
図IV-22 M-1 mps-29 ~ 33

M-1 mps-34~40



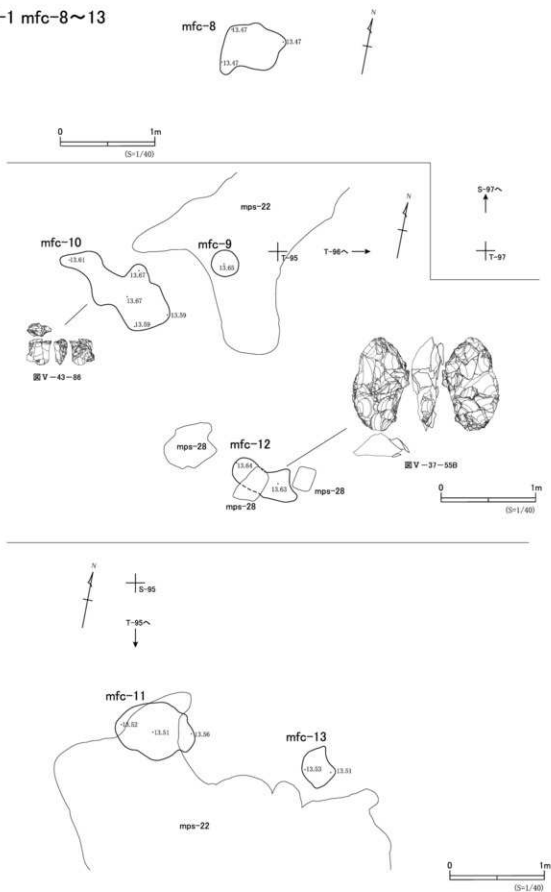
圖IV-23 M-1 mps-34 ~ 40

M-1 mfc-1~7



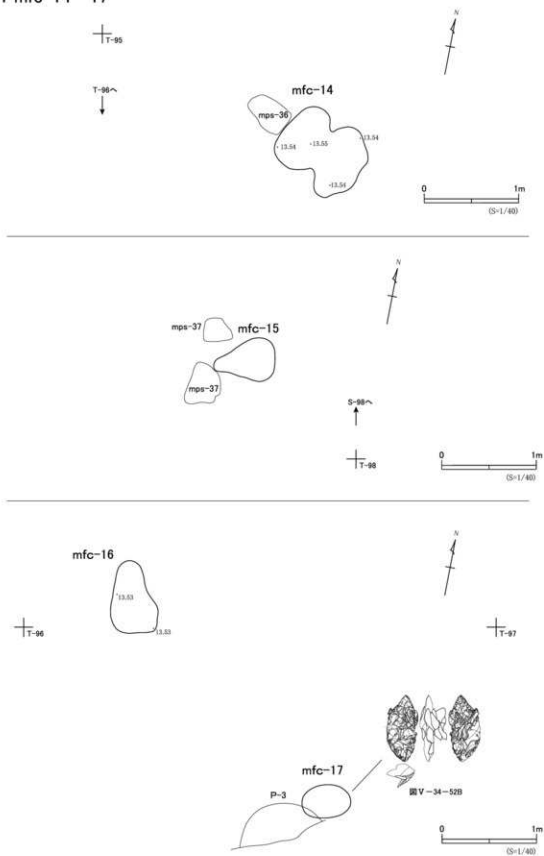
圖IV-24 M-1 mfc-1 ~ 7

M-1 mfc-8~13



図IV-25 M-1 mfc-8 ~ 13

M-1 mfc-14~17



図IV-26 M-1 mfc-14 ~ 17

取り上げ、土器集中 (mps)、フレイク集中 (mfc) は出土範囲を計測し取り上げた。最終的に盛土を全て掘り下げ、基底面であるIV層上面を確認して調査を終了した。M-1と比較すると、平面の規模は類似するが、盛土の層厚、付属遺構数、出土遺物点数はいずれもM-1より少ない。P-1・2・4~6と重複し、P-5は焼土 (mf-3) を壊し、P-6は土層断面で盛土層を切って構築されているためM-2より新しいと考えられるが、他は不明である。

盛土 層厚は最大30cm程度で、9層に分けた。黒色土とVI層のロームが混ざる土層で、黒色土主体の土層 (BY層) と黄褐色ローム主体の土層 (YB層)、ほぼロームのみの層 (Y層) に分かれる。盛土1~3層は北側、4・5層は中央付近、6~9層は南側でみられる。また、盛土中には全体的にローム粒がみられ、盛土1・2・4・6・9層は炭化物を微量含む。

付属遺構

焼土	m f - 1	規模	0.79 × 0.50 / 0.10 m	平面形態	楕円形
	m f - 2	規模	0.34 × 0.28 / 0.07 m	平面形態	楕円形
	m f - 3	規模	0.69 × (0.40) / 0.04 m	平面形態	不整形?

3か所全て基底面のIV層上面で確認した。m f - 1・2は中央より西側に位置し、約1.1mの距離で近接する。m f - 3は北西端近くに位置し、東側がP-5に壊される。規模はm f - 1・3が長径0.7~0.8m、m f - 2は0.34mと小形で、厚さは4~10cmである。焼土の色調は、m f - 1・3が暗赤褐色、m f - 2が赤褐色で、m f - 1・3は炭化物を微量含む。また、微細な遺物の回収を目的として焼土を土壌ごと取り上げ、水洗選別を行い、微細な土器片、フレイク、炭化物を回収し、m f - 3の炭化物は放射性炭素年代測定試料とした。

土器集中	m p s - 1	規模	0.44 × 0.37 m	平面形態	不整形
	m p s - 2	規模	0.73 × 0.46 m	平面形態	不整形

中央よりやや西側のS-85・86区で盛土中から2か所確認した。それぞれII群b類の円筒土器下層式1個体と考えられるまとまりである。土器点数は、m p s - 1が325点、m p s - 2が328点である。小破片が多く、復元はできなかった。

フレイク集中	m f c - 1	規模	(0.68) × 0.56 m	平面形態	楕円形?
	m f c - 2	規模	0.49 × 0.29 m	平面形態	不整形
	m f c - 3	規模	2.21 × 1.32 m	平面形態	不整形
	m f c - 4	規模	(1.84) × 1.06 m	平面形態	不整形

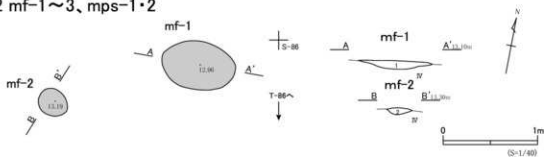
盛土中から4か所検出した。m f c - 1は東側、m f c - 2は中央付近、m f c - 3・4は北西端に近接して位置する。規模はm f c - 3・4が長径約2mと大形で、m f c - 1・2はやや小形である。また、m f c - 1は北側が削平され、m f c - 4は西側が調査区外へ広がる。m f c - 3・4は細かいフレイクが多いため、土壌ごと取り上げフルイによる水洗選別を行った。石器等はフレイクの他に石核、原石などがあり、出土点数は、m f c - 1が348点、m f c - 2が294点、m f c - 3が745点、m f c - 4が1,170点である (水洗選別を除く)。

遺物出土状況 土器が2,940点、土製品が4点、石器等が13,430点出土した (水洗選別、土器集中、石器集中出土を除く)。土器はIII群1点、IV群6点以外は全てII群b類である。定型的な石器は石鏃11点、石槍・ナイフ17点、つまみ付きナイフ4点、スクレイパー27点、磨製石斧5点、たたき石11点、すり石7点、扁平打製石器13点、砥石2点があり、他に石核51点、フレイク12,522点、原石13点等が出土した。

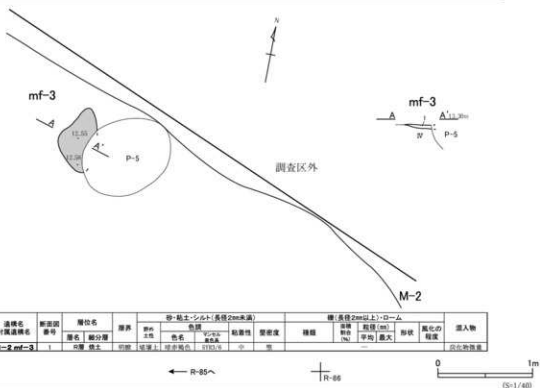
時期 盛土出土の遺物から、縄文時代前期後半の円筒土器下層d式の時期と考えられる。

(広田)

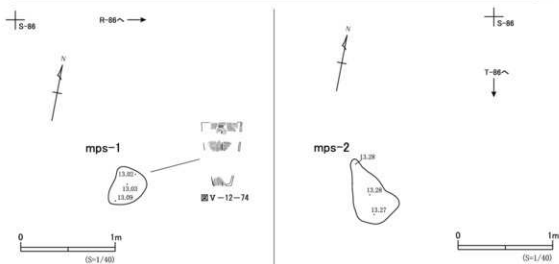
M-2 mf-1~3, mps-1・2



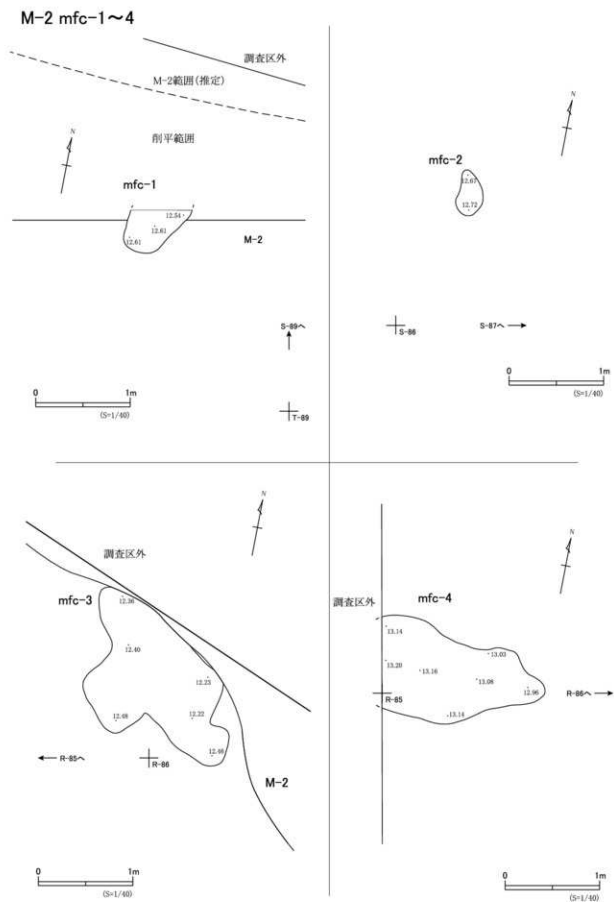
遺構名 行風遺構名	断面図 番号	層位名 層名 層分類	層厚 m	砂・粘土・シルト (高径20cm未満)				礫 (高径20cm以上)・ローム				埋人物 遺作物数量		
				砂質 土性	色名 色名	シルト 含有率 (%)	粘着性	堅密度	種類	高径 割合 (%)	平均 最大		形状	腐化の 程度
M-2 mf-1	1	砂質 黄土	0.08	硬質	黄褐色	100.0	中	堅	—	—	—	—	—	—
M-2 mf-2	2	砂質 黄土	0.08	硬質	黄褐色	100.0	中	堅	—	—	—	—	—	—



遺構名 行風遺構名	断面図 番号	層位名 層名 層分類	層厚 m	砂・粘土・シルト (高径20cm未満)				礫 (高径20cm以上)・ローム				埋人物 遺作物数量	
				砂質 土性	色名 色名	シルト 含有率 (%)	粘着性	堅密度	種類	高径 割合 (%)	平均 最大		形状
M-2 mf-3	1	砂質 黄土	0.08	硬質	黄褐色	100.0	中	堅	—	—	—	—	—



図IV-28 M-2 mf-1~3, mps-1・2



図IV-29 M-2 mfc-1 ~ 4

表IV-3 土坑一覧

遺構名	図	図版	グリッド	平面 形態	規模 (m)					付属 遺構	出土遺物			備考
					確認面		底面・坑底面		最大 深		土器	石器等	その他	
					長径	短径	長径	短径						
P-1	IV-7	7	S-87 S-88 区	楕円形	1.47	1.31	1.00	0.90	0.66	—	II群b類	U・Eフレイク フレイク 磨製石斧 扁平打製石器	—	M-2と重複
P-2	IV-7	7	S-87 T-87 区	楕円形	1.34	1.00	0.98	0.67	0.45	—	II群b類	スクレイパー フレイク、礫	赤色土塊	M-2と重複 赤色土塊範囲： 0.35×0.18m
P-3	IV-7	7	T-96 区	不明	(0.93)	(0.42)	(0.72)	(0.33)	0.16	—	—	扁平打製石器	—	M-1と重複 M-1より古い?
P-4	IV-8	7	Q-85 区	楕円形	0.89	0.78	0.70	0.59	0.10	—	II群b類	フレイク、礫	—	M-2と重複
P-5	IV-8	8	Q-85 区	楕円形	1.00	0.77	0.78	0.59	0.38	—	II群b類	フレイク、礫	—	M-2の3を 切る
P-6	IV-8	8	T-88 区	楕円形?	1.11	(0.24)	0.73	(0.13)	0.63	—	—	フレイク	—	調査区外へ 広がる M-2より新しい
P-7	IV-9	8	S-102 区	楕円形	1.18	1.09	0.59	0.70	0.38	—	I群a類	石錐、フレイク すり石 U・E礫	—	東側壁にH-5
P-8	IV-9	8	S-97 区	圓丸 長方形	1.34	0.96	1.20	0.82	0.27	—	II群b類	つまみ行きナイフ	—	M-1と重複 P-9と重複
P-9	IV-9	9	T-97 T-98 区	楕円形	0.77	0.48	0.58	0.36	0.32	—	—	磨製石斧	—	M-1と重複 P-8と重複

表IV-4 Tピット一覧

遺構名	図	図版	グリッド	平面 形態		規模 (m)					付属 遺構	出土遺物			備考
				確認面	坑底面	確認面		底面・ 坑底面		最大 深		土器	石器等	その他	
						長径	短径	長径	短径						
TP-1	IV-10	9	T-84 T-85 区	溝状	溝状	(1.52)	(0.66)	(1.28)	(0.18)	1.50	—	—	—	—	東側は 調査区外

表IV-5 焼土一覧

遺構名	図	図版	グリッド	確認層位 (被熟層)	平面 形態	焼土 色調		規模 (m)			主な 出土遺物	備考
						色名	マンセル 表色系	長径	短径	最大厚		
F-1	IV-10	9	T-103 区	IV層	不整の 円形	褐色	7.5YR4/4	0.49	(0.42)	0.08	—	
F-2	IV-10	9	S-103 区	IV層	楕円形	褐色	7.5YR3/3	0.61	0.44	0.09	—	近接して IV群 注口土器

表IV-6 盛土遺構一覧

遺構名	図	図版	グリッド	平面 形態	規模 (m)			付属遺構		主な出土遺物		備考	
					幅	縦断面		最大 深	種別	記号	盛土		付属遺構
						長さ	短径						
M-1	IV-11 ~ 26	10 ~ 17	S-93~97 T-94~98 区	—	(25.4)	(7.35)	0.30	焼土	m f-1~9	Ⅱ群土器 石鉢、石甕・ナイフ 両面調整石器 スタンプイブ、石鉢 I・Rフレイク フリント 磁器打製石器 すり石 たたき石 台石、石皿 骨製品	Ⅱ群土器 両面調整石器 石鉢 フレイク	H-2・3、 P-8・9と 重複	
								土器集中	m p s-1~40				
								フレイク集中	m f c-1~17				
M-2	IV-27 ~ 29	18 ~ 19	Q-85 R-85~87 S-85~89 T-85~89 区	不整形	(27.6)	(11.65)	0.32	焼土	m f-1~3	Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ群土器 石鉢、石甕・ナイフ 両面調整石器 つまみ付きナイフ スタンプイブ I・Rフレイク 石鉢、フレイク 磨製石器、たたき石 すり石、磁器打製石器 磁石、石鉢	Ⅱ群土器 石鉢 I・Rフレイク 石鉢 フレイク 原石 I・R磁 器	P-1・2 4~6と重複	
								土器集中	m p s-1~2				
								フレイク集中	m f c-1~4				

表IV-7 盛土遺構付属遺構一覧(1)

遺構名	付属 遺構名	種別	出土 部位	図	図版	形態 遺物番号・色調 平面 断面	規模 (m)			主な 出土遺物	備考	
							長さ	短径	最大深 度			
												幅
M-1	mf-1	焼土	Ⅱ上層	IV-15 ・ 16	11	円形	—	0.64	0.62	0.19	Ⅱ群土器 フレイク	T-96・97区 廻り込みあり
	mf-2	焼土	Ⅱ上層	IV-15 ・ 16	11	楕円形	—	0.61	0.53	0.16	Ⅱ群土器 フレイク 鏝	T-96区 廻り込みあり
	mf-3	焼土	Ⅱ上層	IV-15 ・ 16	11	不整形	曲線的	0.92	0.54	0.11	—	S-96区
	mf-4	焼土	Ⅱ上層	IV-15 ・ 16	11	楕円形	曲線的	0.57	0.52	0.13	—	S-96区
	mf-5	焼土	Ⅱ上層	IV-15 ・ 16	11	楕円形	曲線的	0.37	0.33	0.07	—	S-96区
	mf-6	焼土	Ⅱ上層	IV-15 ・ 16	11	楕円形	曲線的	0.65	0.54	0.09	—	S-95区
	mf-7	焼土	Ⅱ上層	IV-15 ・ 16	11	楕円形	曲線的	0.63	0.50	0.09	—	S-95区
	mf-8	焼土	Ⅱ上層	IV-15 ・ 16	11	楕円形	曲線的	0.63	0.44	0.08	—	S-94区
	mf-9	焼土	Ⅱ上層	IV-15 ・ 16	11	長楕円形	曲線的	0.72	0.36	0.07	—	T-94区
	mps-1	土器集中	Ⅱ土器	IV-14 ・ 17	12	不整形	—	0.67	0.44	—	Ⅱ群b類土器	T-97区 BY下層
	mps-2	土器集中	Ⅱ土器	IV-14 ・ 17	12	不整形	—	0.98	0.70	—	Ⅱ群b類土器	S-96区 2ヶ所
mps-3	土器集中	Ⅱ土器	IV-14 ・ 17	12	不整形	—	0.54	0.37	—	Ⅱ群b類土器	T-97区	
mps-4	土器集中	Ⅱ土器	IV-14 ・ 17	12	不整形	—	1.27	0.86	—	Ⅱ群b類土器	S-97区 下位にm p s-7 2~3個体	
mps-5	土器集中	Ⅱ土器	IV-14 ・ 17	12	不整形	—	0.64	0.36	—	Ⅱ群b類土器	S-96区 m p s-6と近接 6より高い	
mps-6	土器集中	Ⅱ土器	IV-14 ・ 17	12	不整形	—	1.78	1.40	—	Ⅱ群b類土器	S-96区 m p s-5と近接 下位にm p s-8 2~3個体	
mps-7	土器集中	Ⅱ土器	IV-14 ・ 18	12	不整形	—	1.37	1.08	—	Ⅱ群b類土器	S・T-97区 m p s-4の下位 3~4個体	
mps-8	土器集中	Ⅱ土器	IV-14 ・ 18	12	不整形	—	0.92	0.65	—	Ⅱ群b類土器	S-96区Y B下層 m p s-6の下位 m p s-9と近接 3個体A B C	
mps-9	土器集中	Ⅱ土器	IV-14 ・ 18	12	不整形	—	0.76	0.63	—	Ⅱ群b類土器	S-96・97区 Y B下層 m p s-8・10と近接	
mps-10	土器集中	Ⅱ土器	IV-14 ・ 18	12	不整形	—	0.64	0.42	—	Ⅱ群b類土器	S・T-97区 Y B下層 m p s-9と近接	
mps-11	土器集中	Ⅱ土器	IV-14 ・ 18	12	不整形	—	0.52	0.33	—	Ⅱ群b類土器	S-96区	

表IV-7 盛土遺構付属遺構一覧(2)

遺構名	付属遺構名	種別	出土層位	図	図例	形題遺物番号・色調 平面 断面	規模(m)			主な出土遺物	備考
							長さ	短径	最大深 最大厚		
M-1	mps-12	土器集中	盛土層	IV-14 ・18	12	不整形	—	1.23	0.71	—	II群b類土器 S-96区 YB~BY層
	mps-13	土器集中	盛土層	IV-14 ・18	13	不整形	—	0.57	0.42	—	II群b類土器 S-96区
	mps-14	土器集中	盛土層	IV-14 ・18	13	不整形	—	1.06	0.37	—	II群b類土器 S-96区 2個体A・B
	mps-15	土器集中	盛土層	IV-14 ・19	13	不整形	—	0.86	0.64	—	II群b類土器 S-95区
	mps-16	土器集中	盛土層	IV-14 ・19	13	不整形	—	1.14	0.93	—	S-95区 2~3個体
	mps-17	土器集中	盛土層	IV-14 ・19	13	不整形	—	1.16	0.88	—	II群b類土器 S-95区 散濺
	mps-18	土器集中	盛土層	IV-14 ・19	13	不整形	—	1.43	0.61	—	II群b類土器 T-96区
	mps-19	土器集中	盛土層	IV-14 ・19	13	不整形	—	0.93	0.67	—	T-96区 散濺
	mps-20	土器集中	盛土層	IV-14 ・19	13	不整形	—	0.67	0.45	—	T-97区 m f c-2近接
	mps-21	土器集中	盛土層	IV-14 ・20	13	不整形	—	3.00	2.31	—	S・T-97区 12個体? (A~L)
	mps-22	土器集中	盛土層	IV-14 ・20	14	不整形	—	4.81	4.80	—	S-94・95 T-94・95区 26個体以上 (A~W)
	mps-23	土器集中	盛土層	IV-14 ・21	14	不整形	—	0.61	0.51	—	T-97区
	mps-24	土器集中	盛土層	IV-14 ・21	14	不整形	—	1.43	0.89	—	T-97区 m f c-4の土位 2~3個体
	mps-25	土器集中	盛土層	IV-14 ・21	—	不整形	—	0.57	0.25	—	S・T-97区
	mps-26	土器集中	盛土層	IV-14 ・21	—	不整形	—	0.55	0.37	—	II群b類土器 S-97区
	mps-27	土器集中	盛土層	IV-14 ・21	15	不整形	—	0.56	0.34	—	T-95区 m p s-22と 同層位
	mps-28	土器集中	盛土層	IV-14 ・21	15	不整形	—	1.61	0.74	—	T-94・95区
	mps-29	土器集中	盛土層	IV-14 ・22	15	不整形	—	2.42	1.64	—	S-94・95区 9個体 (A・B・I)
	mps-30	土器集中	盛土層	IV-14 ・22	15	不整形	—	2.14	1.29	—	S-95区 m p s-31 ・32近接
	mps-31	土器集中	盛土層	IV-14 ・22	15	不整形	—	0.71	0.52	—	S-95区 m p s-30・32 ・33近接 散濺
	mps-32	土器集中	盛土層	IV-14 ・22	15	不整形	—	1.67	0.63	—	S-95区 m p s-30・31 ・23近接
	mps-33	土器集中	盛土層	IV-14 ・22	15	不整形	—	0.59	0.35	—	S-95区 m p s-31・ 32上近接・散濺
	mps-34	土器集中	盛土層	IV-14 ・23	15	不整形	—	0.44	0.32	—	S-95区 m p s-35近接
	mps-35	土器集中	盛土層	IV-14 ・23	15	不整形	—	0.95	0.47	—	S-95区 m p s-34近接
	mps-36	土器集中	盛土層	IV-14 ・23	15	不整形	—	0.45	0.31	—	T-95区 m f c-14近接
	mps-37	土器集中	盛土層	IV-14 ・23	16	不整形	—	0.94	0.35	—	S-97区 m p s-38近接
	mps-38	土器集中	盛土層	IV-14 ・23	16	不整形	—	0.56	0.42	—	S-97区 m p s-37近接
	mps-39	土器集中	盛土層	IV-14 ・23	16	不整形	—	0.44	0.31	—	T-96区 m p s-40近接
	mps-40	土器集中	盛土層	IV-14 ・23	16	不整形	—	0.46	0.41	—	S-96区 m p s-39近接
	mfc-1	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・24	16	楕円形	—	(0.81)	0.81	—	フレイク T-97区 一部調査区外
mfc-2	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・24	16	長楕円形	—	1.15	0.64	—	石槍・ナイフ 両面調整石器 石核 フレイク	
mfc-3	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・24	16	不整形	—	0.53	0.38	—	石核 フレイク	
mfc-4	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・24	16	楕円形	—	0.57	0.47	—	石槍・ナイフ 両面調整石器 フレイク	

表IV-7 盛土遺構付属遺構一覧(3)

遺構名	付属遺構名	種別	出土層位	図	図座	形態 遺物番号・色調	規模 (m)			主な 出土遺物	備考		
							建部面		最大深 最大厚				
							長さ	短径					
M-1	mfc-5	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・24	16	不整形	—	1.17	0.60	—	石核 フリイタ	T-97区 m p s -21近接	
	mfc-6	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・24	16	不整形	—	0.61	0.30	—	磨製石斧 フリイタ	S・T-97区 m p s -21近接	
	mfc-7	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・24	16	不整形	—	0.74	0.63	—	つまみ付きナイフ 石核・フリイタ	S-97区 m p s -21・37近接	
	mfc-8	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・25	16	不整形	—	0.77	0.58	—	スクレイパー フリイタ	S-96区 m p s -12近接	
	mfc-9	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・25	17	円形	—	0.29	0.28	—	スクレイパー 両面調整石器 フリイタ	T-94区 m p s -22近上位	
	mfc-10	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・25	17	不整形	—	1.30	0.65	—	石核 フリイタ	T-94区 m p s -22近接	
	mfc-11	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・25	17	不整形	—	0.85	0.62	—	石槍・ナイフ 両面調整石器 フリイタ	S-94・95区 m p s -22近上位	
	mfc-12	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・25	17	不整形	—	0.96	0.38	—	石核 フリイタ	T-94・95区 m p s -28近上位	
	mfc-13	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・25	17	不整形	—	0.46	0.36	—	フリイタ	S-95区 m p s -22近接	
	mfc-14	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・26	17	不整形	—	0.94	0.80	—	スクレイパー フリイタ	T-95区 m p s -36近接	
	mfc-15	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・26	17	不整形	—	0.67	0.46	—	石槍・ナイフ 両面調整石器 フリイタ	S-97区 m p s -37近接	
	mfc-16	フレイク集中	盛土層	IV-15 ・26	17	不整形	—	0.77	0.51	—	U・Rフリイタ フリイタ	S・T-96区 BY層(焼土まじり) m p s -40の下位	
	mfc-17	フレイク集中	盛土層 焼土	IV-15 ・26	17	楕円形	—	0.52	0.36	—	石槍・ナイフ フリイタ	T-96区 BY層(焼土まじり) P-3の上	
	M-2	mf-1	焼土	IV上層	IV-27 ・28	19	楕円形	—	0.79	0.50	0.10	フリイタ	S-85区
		mf-2	焼土	IV上層	IV-27 ・28	19	楕円形	—	0.34	0.28	0.07		S-85区
		mf-3	焼土	IV上層	IV-27 ・28	—	不整形	—	0.69	(0.40)	0.04		Q-85区
		mps-1	土器集中	盛土層	IV-27 ・28	19	不整形	—	0.44	0.37	—	II群b類土器 フリイタ 礎 (赤色物質付着)	S-86区
mps-2		土器集中	盛土層	IV-27 ・28	19	不整形?	—	0.73	0.46	—	II群b類土器 フリイタ 礎 (赤色物質付着)	S-85区	
mfc-1		フレイク集中	盛土層	IV-27 ・29	19	楕円形?	—	(0.68)	0.56	—	U・Rフリイタ フリイタ	S-88区	
mfc-2		フレイク集中	盛土層	IV-27 ・29	19	不整形	—	0.49	0.29	—	石核・フリイタ	R-86区	
mfc-3		フレイク集中	盛土層	IV-27 ・29	19	不整形	—	2.21	1.32	—	II群b類土器 石核、石核 フリイタ	Q-85・86区	
mfc-4	フレイク集中	盛土層 盛土層	IV-27 ・29	19	不整形	—	(1.84)	1.06	—	II群b類土器 U・Rフリイタ 石核・フリイタ	Q・R-85区		

表IV-8 M-1 土器集中の取り上げ順序と層位

S・T-94・95区				S・T-94・95区			
土器集中	採取層位表	特徴的な文様・彫形	日付	土器集中	採取層位表	特徴的な文様・彫形	日付
土器集中 M-1	第1	ⅠA-V-4-20	5-36 6月10日	第1	ⅠA-V-4-20	円形垂首・垂首垂珠	5-36 6月10日
	第2	ⅠA-V-4-21	5-36 6月10日	第2	ⅠA-V-4-21	垂首垂珠・付飾糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第3	ⅠA-V-4-22	5-36 6月10日	第3	ⅠA-V-4-22	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第4	ⅠA-V-4-23	5-36 6月10日	第4	ⅠA-V-4-23	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第5	ⅠA-V-4-24	5-36 6月10日	第5	ⅠA-V-4-24	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第6	ⅠA-V-4-25	5-36 6月10日	第6	ⅠA-V-4-25	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第7	ⅠA-V-4-26	5-36 6月10日	第7	ⅠA-V-4-26	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第8	ⅠA-V-4-27	5-36 6月10日	第8	ⅠA-V-4-27	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第9	ⅠA-V-4-28	5-36 6月10日	第9	ⅠA-V-4-28	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第10	ⅠA-V-4-29	5-36 6月10日	第10	ⅠA-V-4-29	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
土器集中 M-2	第1	ⅠA-V-4-30	5-36 6月10日	第1	ⅠA-V-4-30	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第2	ⅠA-V-4-31	5-36 6月10日	第2	ⅠA-V-4-31	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第3	ⅠA-V-4-32	5-36 6月10日	第3	ⅠA-V-4-32	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第4	ⅠA-V-4-33	5-36 6月10日	第4	ⅠA-V-4-33	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第5	ⅠA-V-4-34	5-36 6月10日	第5	ⅠA-V-4-34	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第6	ⅠA-V-4-35	5-36 6月10日	第6	ⅠA-V-4-35	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第7	ⅠA-V-4-36	5-36 6月10日	第7	ⅠA-V-4-36	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第8	ⅠA-V-4-37	5-36 6月10日	第8	ⅠA-V-4-37	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第9	ⅠA-V-4-38	5-36 6月10日	第9	ⅠA-V-4-38	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第10	ⅠA-V-4-39	5-36 6月10日	第10	ⅠA-V-4-39	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
土器集中 M-3	第1	ⅠA-V-4-40	5-36 6月10日	第1	ⅠA-V-4-40	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第2	ⅠA-V-4-41	5-36 6月10日	第2	ⅠA-V-4-41	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第3	ⅠA-V-4-42	5-36 6月10日	第3	ⅠA-V-4-42	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第4	ⅠA-V-4-43	5-36 6月10日	第4	ⅠA-V-4-43	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第5	ⅠA-V-4-44	5-36 6月10日	第5	ⅠA-V-4-44	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第6	ⅠA-V-4-45	5-36 6月10日	第6	ⅠA-V-4-45	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第7	ⅠA-V-4-46	5-36 6月10日	第7	ⅠA-V-4-46	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第8	ⅠA-V-4-47	5-36 6月10日	第8	ⅠA-V-4-47	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第9	ⅠA-V-4-48	5-36 6月10日	第9	ⅠA-V-4-48	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日
	第10	ⅠA-V-4-49	5-36 6月10日	第10	ⅠA-V-4-49	縹糸文・縹糸文・縹糸文	5-36 6月10日

層位は取り上げ順序の順に示され、その層位は右の通り

5-1794・95区よりT-96・97の層位順に示す

V章 遺構・包含層の遺物

1. 概要

出土した遺物は、水洗選別を除いて、土器等が90,904点、石器等が92,337点、旧石器が61点で、合計は183,241点である。このうち遺構出土の遺物は、土器等が76,365点、石器等が63,432点、旧石器が28点で、合計は139,797点で、遺物の76%が遺構から出土した。遺構では盛土遺構出土の遺物が90%を超え、特にM-1出土の遺物は遺跡出土点数の63%を占める。

土器はI群a類土器、I群b類土器、II群b類土器、III群b類土器、IV群a類土器、IV群b土器、IV群c類土器が出土した。このうちII群b類の円筒土器下層式が97%と主体的で、次いでIV群a類土器、I群a類土器が続く。遺構からはI群a類土器がP-7、II群b類土器がH-1・4・5、P-1・2・4・5・8、M-1・2、IV群a類土器がH-2・4・5から出土した。M-1は口縁部の観察などから個体数が200を超えることが推定され、このうち68個体が復元された。上位のYB層、下位のBY層に分けて取り上げたが、あまり時期差はなく、円筒土器下層b2式がまとまって出土している。M-2は円筒土器下層d1式が主体で、円筒土器下層c式・円筒土器下層d2式のみみられる。小破片が多く、復元できたものは少ない。

包含層出土の土器の分布は、I群a類土器、III群土器、IV群土器が調査区東側に多く、II群b類土器は調査区全体に広がる傾向がある。

石器は石鏃、石槍・ナイフ、両面調整石器、スクレイパーなどの剥片石器、磨製石斧、たたき石、すり石、扁平打製石器などの礫石器が盛土遺構を中心に出土している。定型的な石器ではスクレイパーが531点と最も多く、次いで両面調整石器173点、石槍・ナイフ155点、たたき石134点と続く。このほかフレイクが86,655点、U・Rフレイク997点、石核628点がある。M-1ではフレイク集中が17か所あり、石槍・ナイフ、両面調整石器、石核などとフレイクが接合した。遺跡内で、石材から剥片石器への加工作業行われていた可能性がある。剥片石器の石材は、黒曜石が22点ある以外は頁岩製である。石斧は泥岩、その他の礫石器は砂岩、凝灰岩、安山岩が利用される。

包含層の石器の分布は、つまみ付きナイフは調査区北側の崖際と調査区東側に偏在するが、それ以外の剥片石器、礫石器、フレイク、石核などは概ね調査区全体に分布する。

旧石器は集中域がなく、I層やM-1・M-2から出土したのが多い。器種は細石刃、細石刃核、細石刃核削片、搔器、削器、石刃などがある。

2. 土器等

(1) 遺構出土の土器 (図V-2-12-1~74・図V-13-19-1~119)

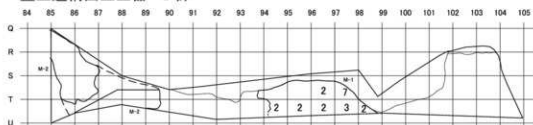
器形を復元できた土器、破片土器の順で述べる。

遺構出土の復元土器 (図V-2-12-1~74)

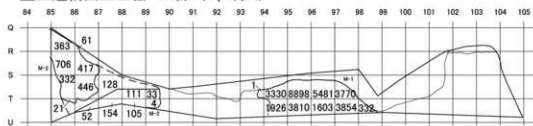
H-1~5の復元土器 (図V-2-1~5)

1はH-1床面出土の深鉢の底部で、II群b類の円筒土器下層b式もしくはc式である。多軸絡条体の回転文が施され、底面は無文である。2・3はH-2出土のIV群a類土器である。2は小型の鉢で、胴部がやや膨らみ、口縁部はややすぼまる器形である。地文の縄文は口縁部付近では斜行、胴部では

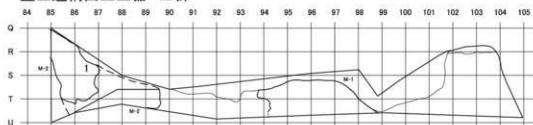
盛土遺構出土土器 I 群



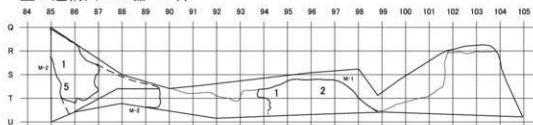
盛土遺構出土土器 II 群 (mps除く)



盛土遺構出土土器 III 群



盛土遺構出土土器 IV 群



盛土遺構出土土製品 焼成粘土塊

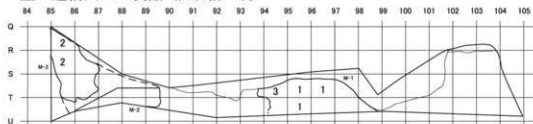
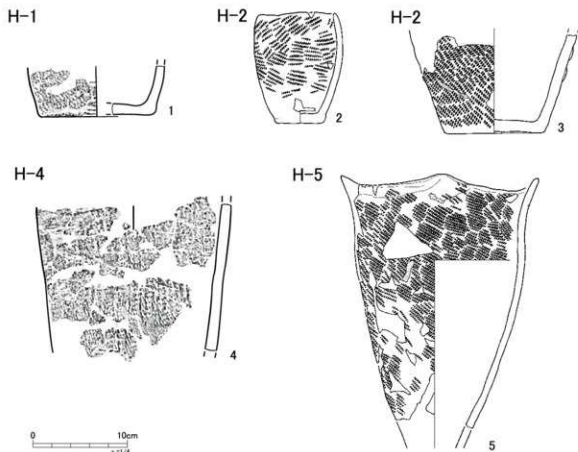


図 V-1 盛土遺構出土土器等分布図



図V-2 遺構出土の土器(1)

横走する。外面上部や内面には炭化物が付着する。3は深鉢の胴部下位から底部で、2条の貼付帯があり、その上から多条のRL縄文が施文される。4はH-4出土のII群b類の円筒土器下層b式である。覆土中から深鉢が潰れた状態で出土したが、被熱により細かく割れており、胴部のみ復元できた。口縁部はみられなかった。器形は筒形で、器厚は約1cmと厚く、附加条文が縦位に施文される。5はH-5の覆土中の焼土上位から出土したIV群a類土器の深鉢である。口縁部は4波状で開き、胴部上位はややふくらんで、そこから底部へとすぼまる器形で、底部を欠く。口唇部直下には粘土の折り返し部分のみられ、口縁部から底部付近までは斜行縄文が施される。

M-1の復元土器 (図V-3-12-6-73)

6-73はM-1出土の復元土器で、すべてII群b類の円筒土器下層b2式である。M-1の土器集中は1個体が潰れた状態で検出したものと、複数個体がまとまって出土したのものが、m p s - 7・21・29では5個体以上、m p s - 22では20個体以上がまとまって出土した。M-1の土器集中の新旧関係や層位については表にまとめた(表IV-8)。

出土した土器は図V-6-33が高台付の特殊器形であるのを除き、すべて深鉢である。器高は小型(18~24cm)、中型(26~34cm)、大型(38~58cm)に大別でき、口径は10.8~30.4cm、底径は6~16cmである。口唇部の断面は丸型で、口縁部は平縁もしくは緩やかな小波状である。底部は上げ底気味になるものが多い。ほとんどが口縁部に文様帯があり、文様帯の幅は3.5~7cmで、5cm前後が多い。文様帯は沈線文や縄線文で「×」字状、鋸歯状の文様が描かれるもの、横位の縄線文が多段に施されるもの、縦位の縄線文が施されるもの、綾絡文、単軸絡条体第1類、5類が地文となるものなどがみられる。文様帯は隆帯、沈線文、縄線文などで区画されるが、隆帯は細く、低いものが主体で、ほとんどの隆帯の上下に沈線文や縄線文が加えられる。また明確な区画は持たず、文様原体の違いや施文方向の違いで文様帯と胴部が分けられるものも多い。胴部の文様は単軸絡条体第1類の摺糸文が縦位に施されるものが主体的で、他に単軸絡条体第5類、6類の網目状燃糸文、多軸絡条体の回転文、複節縄文、附加条文、折り戻し縄文などがみられる。胎土には繊維を多く含み、器面に繊維痕を残し、内面はナデ調整される。

盛土層は上層の黄色味が強いY B層、下層の黒褐色のB Y層に分けられたため、Y B層の土器集中およびY B層出土土器、B Y層の土器集中およびB Y層出土土器の順で記述する。

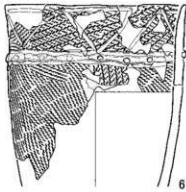
M-1・Y B層(上層)の復元土器 (図V-3-6-6-33)

6-24はM-1・Y B層の土器集中(m p s)出土の復元土器である。

6はm p s - 3出土である。口縁部から胴部まで復元され、筒形の器形である。口縁部文様帯は附加条文を施文後、口唇部直下に横位に1条、その下に鋸歯状の浅い沈線文が施される。文様帯は隆帯で区画され、隆帯は断面が半円状で低く、中空工具による円形刺突文と上下に沈線文が加えられる。胴部は摺糸文が斜位に施されるが、一部附加条文が縦位に施される部分がある。7・8はm p s - 4出土で、口縁部が緩やかな小波状で開き、胴部上位がやや膨らみ、そこから底部にかけて、なだらかにすぼまる器形である。7は口縁部から底部まで細い摺糸文が斜位に施され、口縁部には地文とは違う原体の絡条体圧痕文が3条巡る。胴部には凹凸が残る。8は口縁部では横位、胴部では縦位に摺糸文が施される。胴部では貝殻腹縁文が横位に押捺される部分がある。9はm p s - 5出土である。口縁部は平縁で開き、胴部上部に膨らみがあり、そこからややくびれながら底部へすぼまる器形である。口縁部文様帯は隆帯で区画され、無文地に縄線文が6条施される。隆帯は断面が三角形状で低く、縄の側面圧痕が刻まれる。胴部は摺糸文が縦位に施文される。内面は比較的丁寧にナデ調整される。10・11はm p s - 6出土で、いずれも口縁部はごく緩やかな小波状で開き、胴部上位に膨らみがあり、胴部下位は直線的にすぼまる器形である。10は胴部上位の膨らみから胴部中位までは比較的急角度

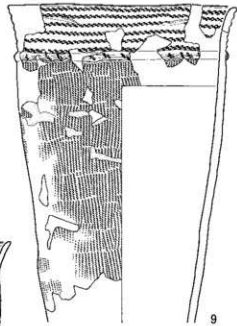
M-1・YB層(上層)

mps-3



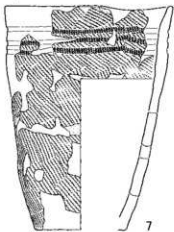
6

mps-5



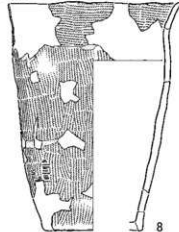
9

mps-4



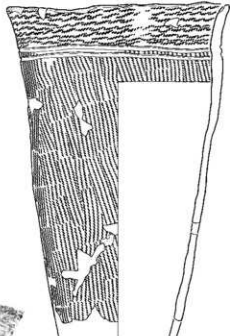
7

mps-4



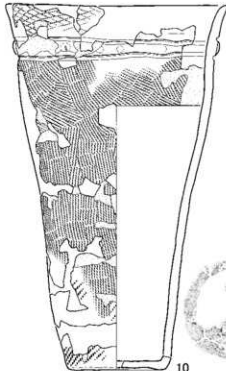
8

mps-6

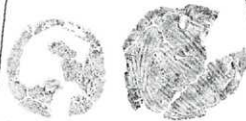


11

mps-6



10



図V-3 遺構出土の土器(2)

です。文様帯は隆帯で区画され、細い原体の網目状燃糸文が施文される。隆帯は剥落し明瞭ではないが、棒状工具による刺突文が施され、上下に深い沈線文が加えられる。胴部には細い原体の燃糸文が斜位、縦位に切りあって施文され、底部付近と底外面には縄文が施される。

11は口縁部から胴部下位まで復元され、接合していないが同一個体の底部がある。文様帯は不整の綾絡文が施され、胴部に燃糸文を施文後、沈線文2条で文様帯を区画している。

12~14はmp s-7出土である。いずれも筒形で、口縁部がわずかに開き、胴部中央付近に膨らみをもち、胴部下位から底部へすぼまる器形である。12は口縁部付近から底部までが復元された。口縁部文様帯はごく一部しか残存していないが、不整の綾絡文が施された後、沈線文2条で区画される。胴部は燃糸文が縦位にみられ、底部付近では沈線文が2~3条巡る。13は器高が45cmを超える大型のもので、燃糸文が口縁部では横位、胴部では縦位もしくは斜位気味に施される。14は小型のもので、口縁部は燃糸文が斜め気味に横走、胴部は縦位に施される。胴部には多輪絡条体の回転文?がみられる部分がある。15はmp s-8出土である。口縁部はごく緩やかな小波状で、口縁部から底部まで直線的にすぼまる器形である。口縁部文様帯には附加条文が隆帯上も含め施文される。隆帯は断面半円状で低く、隆帯の上位と下位の一部には縄線文が加えられる。胴部は燃糸文が隆帯直下では横位、胴部中位から下位が縦位、斜位に施され、底部付近では網目状の燃糸文が横位に施される。16・17はmp s-9出土である。16は筒形で、口縁部は平緑である。燃糸文が口縁部文様帯では斜位気味に横位、胴部では縦位に施される。口縁部文様帯には斜行縄文がみられる部分がある。17は底部で、燃糸文が縦位に施文される。

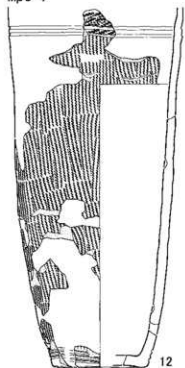
18はmp s-10出土で、底部を欠くが、器形は筒形である。口縁部は平緑で、燃糸文が口縁部では横位、胴部では太い原体も加えて縦位に施文される。19・20はmp s-12出土である。19は口縁部がごく緩やかな小波状で開き、胴部上位で膨んで底部へと緩やかにすぼまる器形である。口縁部から底部まで燃糸文が斜位に施文される。20は口縁部から胴部下位まで直線的、胴部下位から底部にかけて曲線的にすぼまる器形である。口縁部文様帯は網目状燃糸文が横位に施文された後、沈線文2条で区画され、最後に2条1組の縄線文が縦位に6か所押捺される。胴部には縦位の燃糸文が施される。21・22はmp s-15出土で、円筒土器下層c式に近い土器である。21・22は口縁部がごく緩やかな小波状で開き、胴部上位から下位にかけて緩やかにすぼまる器形で、ともに縄線文が2条横位に施される。21は口縁部にL R斜行縄文施文後、同原体の縄線文で区画され、胴部には燃糸文が縦位に施文される。未接合の底部外面にも燃糸文が施される。22は口縁部から胴部中位までの破片土器を図上で復元したもので、器厚は約6mmと薄い。口縁部文様帯には貝殻条痕文が横位に施され、直前段反燃の原体の2条1組の縄線文が縦位に4か所、胴部との区画に縦位にそれぞれ押捺される。胴部は同原体の反燃縄文が縦位に施文される。23・24はmp s-16出土で、23は胴部から底部の復元である。胴部と底外面には、細い原体の燃糸文が斜位に方向を変えて施文され、羽状を呈する部分がある。24は口縁部が外反し、胴部から底部は筒形の器形である。口縁部は4分の1程しかないが、L R・R L原体で羽状縄文が施文され、向きを変え対向する部分がみられる。胴部は直前段反燃の縄文が斜行する。

25~33はM-1・Y B層出土の土器集中以外の復元土器である。

25は口縁部がごく緩やかな小波状で開き、胴部は筒形であるが、わずかに膨らむ部分もある。口縁部に直前段反燃の縄線文が1条巡り、口縁部から底部にかけて同原体の反燃縄文が斜行し、胴部中位から方向を変えて施文される。26~29は単輪絡条体第5類の網目状燃糸文が施文されるもので、器形は筒形が多い。26は胴部下位から底部へすぼまる器形で、口縁部から底部にかけて地文は多輪絡条体の回転施文が施される。口縁部文様帯は横位の沈線文2条で区画される。27は網目状燃糸文が口縁部では横位、胴部では縦位に施文される。28は小型のもので、底部はないが、胴部から直線的にすぼまる器形である。

M-1・YB層(上層)

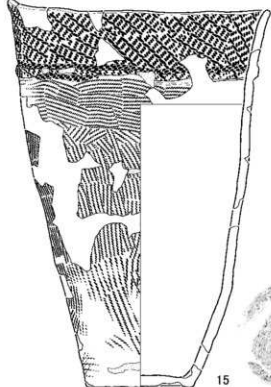
mps-7



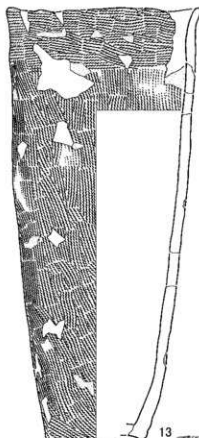
12



mps-8



15



13



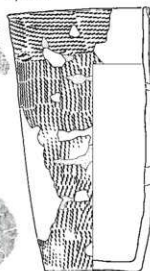
mps-7

mps-7



14

mps-9



16

mps-9



17

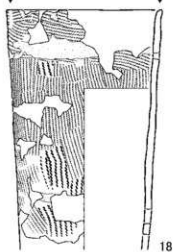


0 10cm
1:1.4

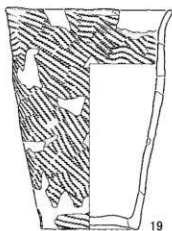
図V-4 遺構出土の土器(3)

M-1・YB層(上層)

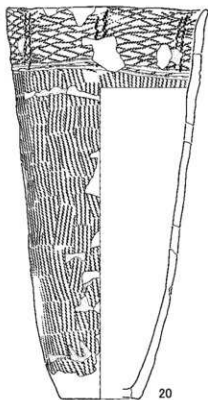
mps-10



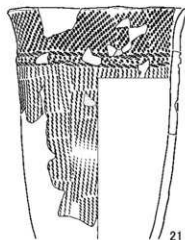
mps-12



mps-12



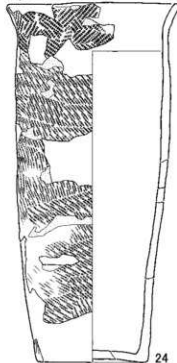
mps-15



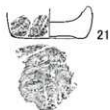
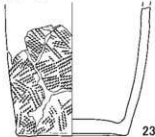
mps-15



mps-16



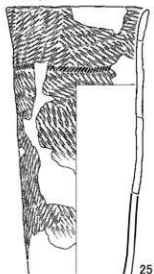
mps-16



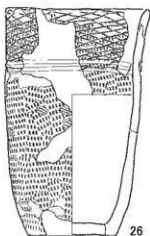
図V-5 遺構出土の復元土器(4)

M-1・YB層(上層)

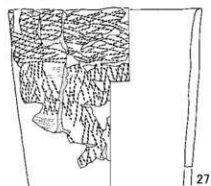
S95区



T94区



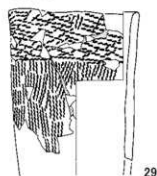
S96区



S95区



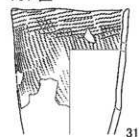
T96区



S96区



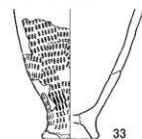
T97区



S95区



S96・T97区



図V-6 遺構出土の土器(5)

全面に網目状燃糸文が横位に施文されるが、一部縦位の部分がある。29は胴部に燃糸文が縦位に施文される。30・31は単軸絡糸体第1類の燃糸文が、口縁部では横位、胴部では縦位に施文されるもので、口縁部は緩やかな小波状である。30は口縁部から胴部の破片土器で、図上で復元したもので、口縁部が相反する器形である。31は小型で筒形を呈し、口縁部文様帯が2~3cmと狭い。32は口縁部の破片を図上で復元した。口縁部文様帯に貝殻条痕文が横位に施され、胴部には反燃縄文?が施文される。33は胴部から底部まで復元した小型の台付土器である。胴部から底部へ急角度ですばまり、高台部分はいびれて開く。胴部と高台外面には多軸絡糸体の回転文が施文される。

M-1・BY層（下層）の復元土器（図V-7~12-34~73）

34~71はM-1・BY層の土器集中（mps）出土の復元土器である。

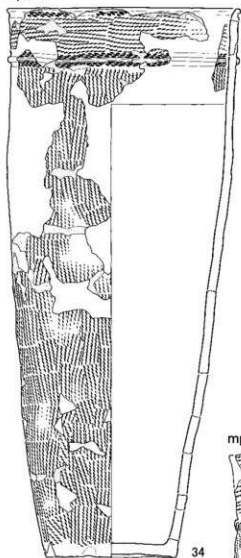
34はmps-1出土で、器高58.2cmと今回の調査では最長のものである。口縁部から胴部へかけ直立気味で、胴部上位に膨らみをもち、そこから底部へは緩やかにすぼまる器形である。口縁部文様帯は断面が半円状の細い隆帯で区画され、隆帯の上下と口唇部直下には縄線文が巡る。地文は燃糸文が口縁部では横位、胴部では縦位（一部斜位）に施文される。底部外面は無文である。35はmps-2出土である。口縁部から胴部上位までは直立気味で、そこから胴部下位へすぼまる器形である。口縁部文様帯は断面半円状の細い隆帯で区画され、隆帯の上下には縄線文が加えられる。文様帯は燃糸文が横位に施された後、「×」字状の2条1組の縄線文が連続して押捺される。36はmps-14出土である。口縁部を欠き、胴部上位から底部で緩やかにすぼまる器形である。口縁部文様帯は沈線文により区画され、横位の燃糸文地に鋸歯状の沈線文と縦位の縄線文がそれぞれ2条1組で施され、文様が構成される。胴部は網目状燃糸文が施文される。底部は縄文である。37はmps-13出土である。口縁部は小波状で、やや開き、胴部上位が膨らんで底部へとすぼまる器形である。地文は燃糸文が口縁部では横位、胴部では縦位に施される。区画の隆帯は断面半円状で、潰れて、ほとんど隆起しない部分がある。隆帯上は横位の条痕文が施され、ヘラ状の工具により縦位に刻まれる。38はmps-18出土である。口縁部を欠く筒形の器形で、胴部には凹凸が残る。地文は燃糸文で、口縁部では横位もしくは斜位、胴部では縦位に施文される。文様帯は沈線文2条で区画され、沈線の間には中空工具による押し引き状の刺突が連続する。胎土には繊維の他、岩石が多く含まれる。

39はmps-20出土である。胴部のみで復元で、胴部はやや張りがある筒形である。口縁部文様帯を区画する沈線文2条がわずかにみられる。

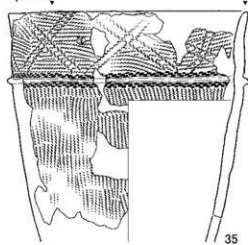
40~45はmps-21出土で、被熱し、器厚がやや厚いものが多い。40・42・44・45は口縁部が開き、胴部がやや膨らむ器形、41は口縁部が直立気味で、胴部上位がやや張り出す器形である。いずれも胴部は燃糸文が縦位に施され、42~44は沈線文2条で口縁部文様帯を区画する。40は胴部下半に膨らみがある細長い器形である。口縁部文様帯には燃糸文が横位に施され、細く低い断面半円状の隆帯には中空工具による刺突文が施される。隆帯直下には絡糸体瓦痕文1条と同原体の細い燃糸文が横位、胴部には口縁部と同原体の燃糸文が縦位に施文される。底部付近は被熱により摩耗し、文様は不明である。41は口縁部が摩耗し明瞭ではないが、無文地に横位の燃糸文もしくは縄線文が施される。胴部は上位に縦位の燃糸文、下位に附加条文が施文される。42はmps-21のほかmps-7出土土器とも接合した。胴部下位から底部にかけてすぼまる器形である。口縁部文様帯には刺突文を伴った薄い隆帯が巡り、その隆帯も含め不整の綾絡文が施され、沈線文2条で胴部と区画される。43は口縁部が全周打ち欠かれ、文様帯には網目状燃糸文が横位に施される。44は口縁部から胴部の破片を図上復元した。口縁部にはLR原体と燃戻しの原体の結束羽状縄文が向きを変え、対向して施され、2条の沈線文の間にはヘラ状工具による縦位の刻みがみられる。45は口縁部が開き、胴部中位

M-1・BY層(下層)

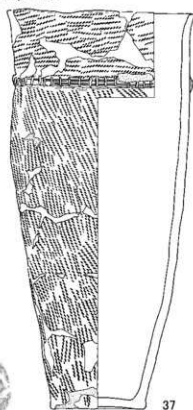
mps-1



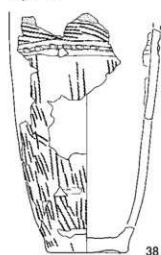
mps-2



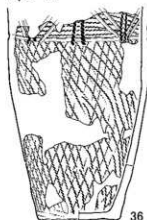
mps-13



mps-19



mps-14

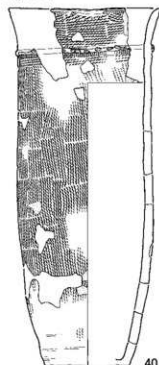


図V-7 遺構出土の土器(6)

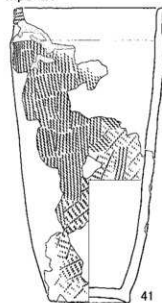
M-1・BY層(下層)
mps-20



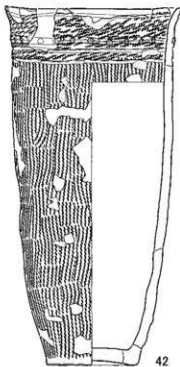
mps-21



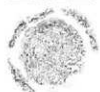
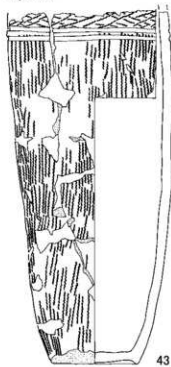
mps-21



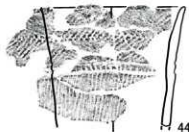
mps-21



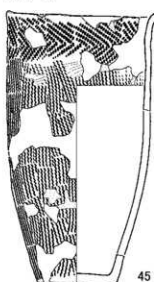
mps-21



mps-21

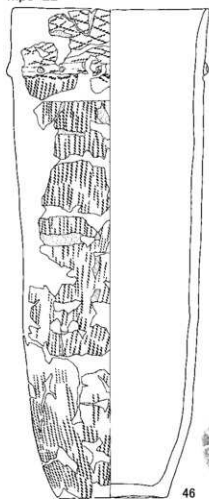


mps-21



図V-8 遺構出土の土器(7)

M-1・BY層(下層)
mps-22



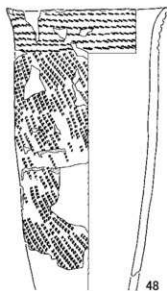
46

mps-22



47

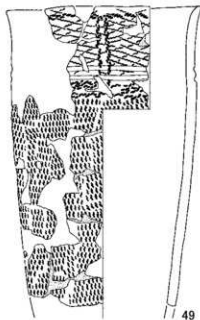
mps-22



48

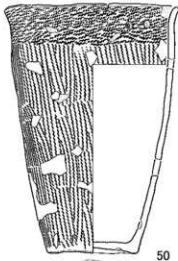


mps-22



49

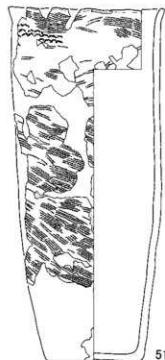
mps-22



50



mps-22



51



図V-9 遺構出土の土器(8)

から下位にかけて影らみがある器形で、口縁部はR・L・L R原体の結束羽状縄文が施される。

46~56はmp s - 22出土である。46・47は口縁部から胴部下位まで直線的で、46はそこから底部へすはまる器形、50は口縁部が開き、斜めにすはまる器形、48・51・52・53は口縁部が開き、胴部はわずかに影らむ器形、56は筒形の器形である。

46・47は隆帯で文様帯を区画し、胴部に縦位の燃糸文が施されるものである。46は口縁部文様帯には網目状燃糸文が施される。断面が半円状の隆帯上には中空工具による刺突文がみられ、隆帯直下には縄線文が巡る。47は口縁部から胴部の破片を図上で復元した。口縁部には燃糸文が斜位気味に施文され、薄い隆帯には縄線文が施される。48は無文地の口縁部文様帯に縄線文が6条巡り、胴部には複節縄文が斜行する。49は口縁部文様帯に網目状燃糸文を施文した後、沈線文2条で区画し、縄線文が口唇部直下に横位に1条、縦位に2条1組で押捺される。区画の沈線文直下には不整の綾絡文が施文され、胴部には多軸絡条体が施される。50は口縁部がくびれて開く小波状で、口縁部には不整の綾絡文、胴部と底外面には燃糸文が施される。51は胴部の中位がやや影らむ器形で、細い原体の燃糸文が斜位、横位に施される。摩耗して不明瞭だが、口縁部には細い綾絡文が数条横環する。

52・53は燃糸文が口縁部では横位、胴部では斜位気味の縦位に施されるもので、いずれも口縁部は小波状である。52は口径30.4cm、底径16.4cmで、それぞれ今回の調査で最大のものである。口縁部と胴部の境には絡条体圧痕文が1条巡る。53は胴部が影らみ、底部へとすはまる器形で、器面に凹凸が残る。54は口縁部から胴部の破片を図上で復元した小型の土器である。R・L・L R原体で向きを変え、対向する結束羽状縄文を施文し、口唇部直下に1条、頸部に2条1組の縄線文が巡る。55は底部で、燃糸文が縦位、斜位にみられる。56は口縁部から底部まで単軸絡条体第6類の燃糸文のみが施文される。

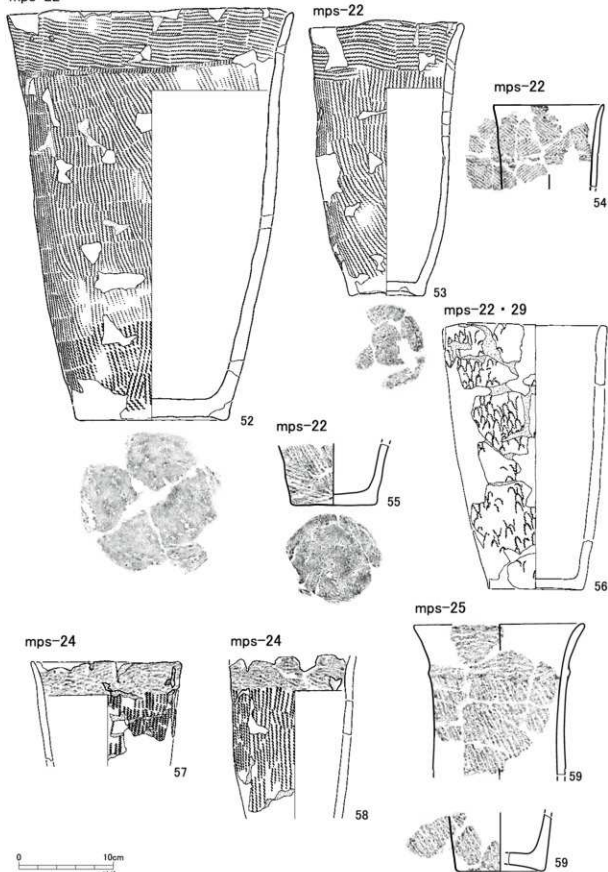
57・58はmp s - 24出土である。いずれも口縁部がわずかに開く筒形で、口縁部文様帯には不整の綾絡文が横位、胴部には燃糸文が縦位に施文される。57の口縁部は小波状である。59はmp s - 25出土で、口縁部から胴部、底部の破片を図上で復元した。口縁部が外反する器形で、文様帯には不整の綾絡文、胴部には燃糸文が縦位に施文される。薄い隆帯には縄線文が施される部分がある。また拓本では示していないが、底部では燃糸文が一部横位に施される。

60はmp s - 26出土で、口縁部から胴部の破片を図上で復元した。筒形の器形で、2条の沈線文の間には細長い中空工具による刺突文がみられる。摩耗して不明瞭だが、口縁部には単軸絡条体第3類?の燃糸文が横位に施される。61・62はmp s - 28出土である。61は口縁部が小波状で筒形である。口縁部文様帯は地文が網目状燃糸文で、2条1組の縄線文が縦位に押捺され、沈線文2条で区画される。胴部は多軸絡条体の回転文である。62は底部はないが大型で、口縁部がやや開き、胴部はやや影らむ器形である。口縁部文様帯は横位の燃糸文を地文とし、隆帯で区画後、「×」字状の太い沈線文を施文し、最後に口唇部直下に絡条体圧痕文が1条施されている。隆帯は断面が半円状で棒状工具による刺突文がみられ、隆帯上下には沈線文が加えられる。

63はmp s - 30出土で、口縁部は欠くが小型の筒形の器形である。地文は燃糸文が口縁部では横位、胴部では斜位に施文され、絡条体圧痕文が1条巡る。64・65はmp s - 29出土である。64は口縁部が開き、胴部から底部へと斜めにすはまる器形で、器厚はやや厚く、口唇部は尖る形状である。隆帯は棒状工具による刺突文が加えられ、隆帯上下は工具によりナデ調整される。地文は複節縄文が斜行する。本遺跡の円筒土器下層B式の中では古いものと考えられる。65は口縁部が小波状で、やや胴部が影らむ筒形の器形である。口縁部文様帯は網目状燃糸文が横位に施され、沈線文2条で区画される。胴部は比較的太い原体の燃糸文が縦位に施文される。66はmp s - 34出土である。口縁部、胴部、底部はそれぞれ接合していないが、図上で復元した。口縁部は開き、胴部は直立気味で、胴部下位か

M-1・BY層（下層）

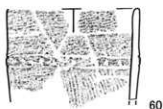
mps-22



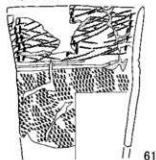
図V-10 遺構出土の土器(9)

M-1・BY層(下層)

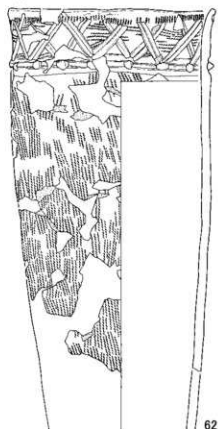
mps-26



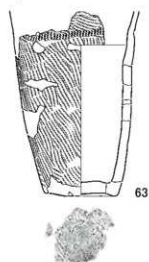
mps-28



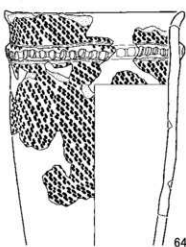
mps-28



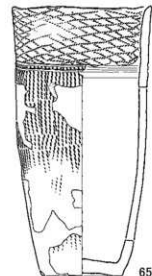
mps-30



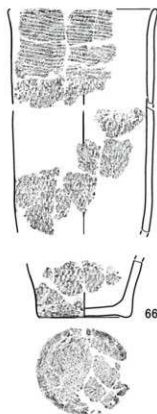
mps-29



mps-29



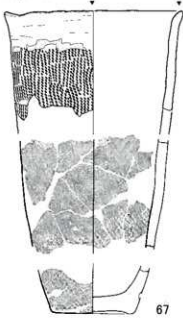
mps-34



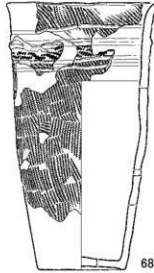
図V-11 遺構出土の土器(10)

M-1・BY層(下層)

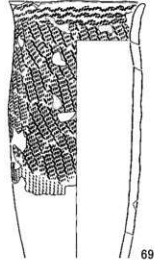
mps-35



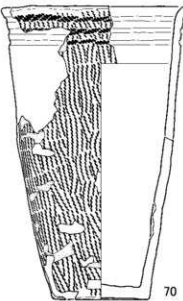
mps-37



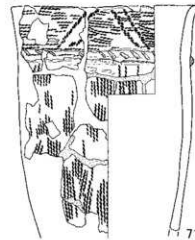
mps-37



mps-39



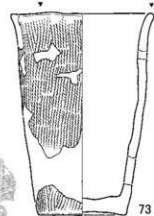
mps-40



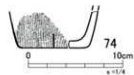
T96区



S94区



M-2・mps-1



図V-12 遺構出土の土器(11)

ら底部へとすぼまる器形である。口縁部には燃糸文が横位、胴部には多輪絡条帯が縦位に施文される。

67はmp s-35出土である。口縁部から胴部まで復元し、胴部下位と底部は接合しなかったため図上で復元した。口縁部は開き、胴部上位から底部へと緩やかにすぼまる器形である。口縁部と胴部中位～下位は無文で、胴部上位は燃糸文が縦位、胴部下位では斜位に施される部分がある。68・69はmp s-37出土で、いずれも口縁部が開き、胴部中位がやや膨らむ器形である。68は口縁部と胴部に斜位気味の縦位燃糸文が施文され、断面が三角形の細く、薄い隆帯が加えられる。隆帯の上位に1条、下位に2条の横位の沈線文が施され、隆帯と下位の沈線文の間には不整の綾絡文がみられる。69は口縁部に3条の綾絡文、胴部上位に附加条文、胴部下位に縦位の燃糸文が施される。70はmp s-39出土である。筒形で、口縁部が開き、胴部中位に膨らみを持つ器形である。口縁部から底部まで縦位の燃糸文が施され、口縁部には3条の横位の縄線文が押捺される。底部外面には縄線文と同じ原体の縄文がみられる。71はmp s-40出土である。筒形で、口縁部は緩やかな小波状で開き、中位に膨らみを持つ器形である。口縁部文様帯は燃糸文が横位に施され、2条1組の縄線文が鋸歯状に押捺される。隆帯は断面半円状で、比較的厚みがあり、ヘラ状工具により斜めに刻みが入られる。

72・73はM-1・BY層出土の土器集中以外の復元土器である。

72は小型のもので、口縁部から胴部下位まで斜めにすぼまり、底部付近ではややくびれる器形である。口縁部は横位、胴部では縦位（一部横位）に燃糸文が施され、横位の燃糸文の下には細い2条の沈線文がみられる。73は口縁部が開き、胴部上位がやや張り、そこから直線的にすぼまる器形である。口縁部から底部まで燃糸文が縦位に施文される。

M-2の復元土器（図V-12-74）

M-2では主にⅡ群b類の円筒土器下層c・d1・d2式が出土した。土器集中（mp s）が2か所で検出したが、小破片でいずれも全体を復元できなかった。

74はmp s-1出土で、口縁部、胴部、底部のまとまりを図上で復元したものである。口縁部はごく緩やかな4波状で、波頂部下には横長の孔がみられる。口縁部の文様は燃糸文が横位に施され、孔の上位の波頂部では山形を呈する。燃糸文の下位には細い原体の羽状縄文が施文され、胴部と底部には細い燃糸文が縦位に施文される。円筒土器下層d1式である。

遺構出土の破片土器（図V-13-1～119）

H-1～5の破片土器（図V-13-1～16）

1～4はH-1出土のⅡ群b類土器で、1は床面、2～4は覆土から出土した。1は胴部で、摩耗し不明瞭だが、燃糸文が縦位にみられる。2・3は口縁部で、2は網目状燃糸文、3は不整の綾絡文が横位に施される。4は小型の深鉢の底部で、細い原体の燃糸文が縦位に施文される。いずれも円筒土器下層b式と考えられる。5～7はH-2出土のⅣ群a類土器で、5は床面、6・7は覆土から出土した。5は胴部で、LR縄文が斜行する。6は口縁部で、口唇部の断面は角型である。LR縄文が斜行する。7は胴部で、無文であるが、下位にはLR縄文がみられる部分がある。

8はH-3覆土出土で、折り返し状の貼付帯があり、複節縄文が施される。Ⅳ群a類土器とした。

9・10はH-4覆土出土のⅡ群b類土器の同一個体で、胎土には繊維が多くみられる。9は胴部、10は底部で、いずれも燃糸文が縦位に施文される。円筒土器下層b式である。

11～16はH-5出土である。11～13は床面出土の胴部で、いずれも燃糸文が縦位に施される。14～16は覆土出土の口縁部である。14は口縁部に貝殻条痕文が横位に施され、胴部には燃糸文が斜位に施文される。15は筒形で、口縁部文様帯では細い原体の縄線文で菱形に文様が構成される。その

H-1



H-2



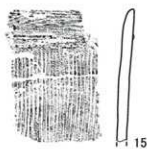
H-3



H-4



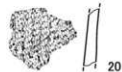
H-5



P-1



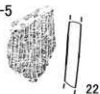
P-2



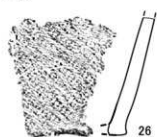
P-4



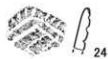
P-5



P-8



P-7



図V-13 遺構出土の土器(12)

下位には細く薄い隆帯があり、隆帯上には縄線文が施される。隆帯下位では細い原体での綾絡文、羽状縄文、縦位の燃糸文がみられる。16は縄文地に曲線的な沈線文が描かれる。11～15はⅡ群b類土器で、11～14は円筒土器下層b式、15は円筒土器下層d1式である。16はⅣ群a類土器である。

P-1・2・4・5・7・8の破片土器 (図V-13-17-26)

17・18はP-1出土のⅡ群b類土器である。17は口縁部付近の破片で、断面三角形の隆帯の上下に横位と鋸歯状の沈線文が施される。18はやや上げ底の底部で、被熱により摩耗し、文様は不明である。いずれも円筒土器下層b式である。19・20はP-2出土のⅡ群b類土器で、いずれも外面が黒色化し、同一個体の可能性がある。19は口縁部で燃糸文が横位にみられ、20は胴部で複節縄文が縦位に施される。円筒土器下層b式である。21はP-4出土のⅡ群b類土器の胴部で、細い原体の燃糸文が縦位にみられ、内面は磨かれる。円筒土器下層d1式の可能性がある。

22・23はP-5出土のⅡ群b類土器の胴部で、22は直前段合燃の縄文が縦位、23は結束羽状縄文と縦位の燃糸文が施される。円筒土器下層d1式と考えられる。24・25はP-7出土のⅠ群a類土器である。24は波頂部の口縁部で、沈線文と貝殻腹縁文、25は櫛歯状の条痕文がみられる。26はP-8出土のⅡ群b類土器である。張り出しがある底部で、直前段合燃の縄文が施される。円筒土器下層b式土器と考えられる。

M-1の破片土器 (図V-14-18-27-101)

27～101はM-1出土のⅡ群b類の円筒土器下層b2式である。盛土は上位の黄色味が強いYB層、下位の黒褐色のBY層に分けられたため、YB層の土器集中およびYB層出土土器、BY層の土器集中およびBY層出土土器の順で述べる。

M-1・YB層(上層)の破片土器 (図V-14-15-27-53)

27～40はM-1 YB層(上層)出土の土器集中(mps)の破片土器である。

27はmps-3出土で、口縁部は不整の綾絡文、胴部は燃糸文が縦位に施される。28はmps-4出土である。口唇部断面は尖り気味で、口縁部は無文部の下に綾絡文が1条巡り、燃糸文が縦位に施文される。29はmps-5出土の底部で、燃糸文が縦位に施される。底部外面は無文で、底部内面には繩の圧痕がみられる。胎土などから図V-3-9の復元土器の底部の可能性がある。30はmps-6出土で、口縁部は複節縄文が斜行し、胴部は燃糸文が縦位に施される。

31・32はmps-7出土で、胎土には岩石や鉱物が多い。31は口縁部にLR縄文が施され、同原体の縄線文1条で区画される。縄線文の下位は破損するが、やや高くなっているため、低い隆帯を有する可能性がある。32は口縁部付近から胴部の破片で、口縁部では横位、胴部では縦位に燃糸文が施される。隆帯には横位に縄線文が押捺される。33・34はmps-8出土である。33は口縁部、34は上げ底気味の底部で同一個体の可能性がある。いずれも比較的厚みがあり、燃糸文が施される。33は口唇部直下の狭い幅に貝殻条痕文が横位に施文される。35はmps-9出土である。無文地の口縁部には6条の縄線文が施され、胴部には燃糸文が縦位に施文される。36はmps-12出土で、口縁部には不整の綾絡文と沈線文2条が施され、胴部には燃糸文が縦位に施文される。

37・38はmps-16出土である。37は口縁部が大きく外反し、やや肥厚する肩部がみられる。口縁部文様帯は不明瞭だが貝殻条痕文?が横位に施され、胴部には斜行縄文と縦位の燃糸文が施文される。38は器厚が薄く、口縁部には縄文地に縦位と横位の縄線文、胴部には細い原体による燃糸文が縦位に施される。37・38の内面は丁寧なナデ調整が行われる。39・40はmps-17出土で、いずれも無文地の口縁部に縄線文が数条施文される。39は口縁部が外反する器形で、胴部には多輪絡条体の回転文が施される。40は口縁部付近の破片で、胴部には燃糸文が縦位に施文される。

M-1・YB層(上層)

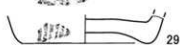
mps-3



mps-4



mps-5



mps-6



mps-7



mps-7



mps-8



mps-8



mps-9



mps-12



mps-17



mps-16



mps-16

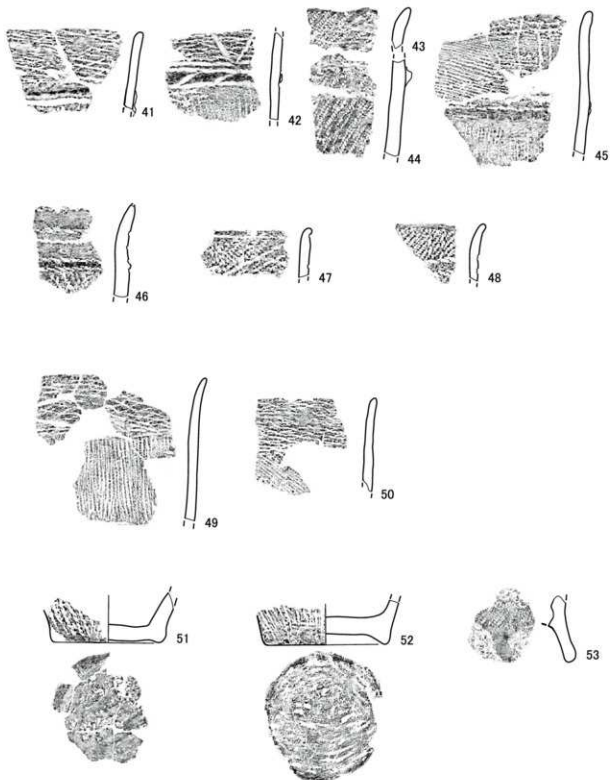


mps-17



図V-14 遺構出土の土器(13)

M-1・YB層(上層)



図V-15 遺構出土の土器(14)

41~53はM-1・YB層出土の土器集中以外の破片土器である。

41~46は隆帯を持つ口縁部である。41は口縁部文様帯に網目状燃糸文が施され、薄い隆帯には沈線文2条が加えられる。42は鋸歯状の沈線文があるもので、低い隆帯には斜位の刻みがみられる。隆帯の上位に2条、下位に1条の沈線文が加えられる。地文は口縁部では網目状燃糸文、胴部では燃糸文が縦位に施される。43・44は同一個体である。口縁部は小波状で、やや開く器形で、断面三角形の隆帯が施される。地文は撚り反しの縄文である。45は波状で、口縁部に縦位と横位の2条1組の縄線文がみられ、薄い隆帯上にも縄線文が押捺される。地文は燃糸文が口縁部では斜位、胴部では縦位に施される。46は無文地の口縁部に2条、細い隆帯の上下にも縄線文が押捺される。胴部は縄文が施される。

47・48は縄文地に縄線文が施されるもので、47は横位と斜位、48は縦位と横位の縄線文がみられる。48は内面が磨かれる。49・50は口縁部文様帯に網目状燃糸文が施されるもので、胴部には49が縦位、50が斜位に燃糸文が施される。51~53は底部で、51・52は上げ底で燃糸文が縦位に施され、53は高台のある底部で、縄文が施される。

M-1・BY層（下層）の破片土器（図V-16-18-54-101）

54~89はM-1・BY層出土の土器集中（m p s）の破片土器である。

54はm p s -11出土の胴部で、断面半円状の隆帯には棒状工具による刺突文がみられる。隆帯の下位には縄文が施され、この縄文の上から縦位の燃糸文が胴部全体に施される。55はm p s -14出土の底部で、燃糸文が縦位に施され、底面近くでは貝殻条痕文が横位に巡る。56・57はm p s -18出土で、いずれも口縁部文様帯に燃糸文が横位に施文される。56は胴部に燃糸文が縦位に施され、57は口縁部文様帯が縄線文により区画され、胴部には複節縄文が斜行する。58はm p s -21とm p s -7出土の胴部から底部の破片で、燃糸文が縦位に施文される。

59~73はm p s -22出土である。59~62は隆帯があるもので、59・60は隆帯が剥落する。59は口縁部文様帯に複節縄文が斜行し、60は縄文地の口縁部に縄線文が4条押捺され、胴部には縄文が施される。61・62は同一個体で、断面三角形の低い隆帯には刺突文がみられ、無文地の口縁部には横位に6条、斜位、縦位に2条1組の縄線文が施される。胴部は多軸絡条体が斜位に回転施文され、内面は磨かれる。63~65は口縁部文様帯に単軸絡条体第5類の網目状燃糸文が施されるものである。63は縦位の2条1組の縄線文が加えられ、64は沈線文2条、65は横位の絡条体庖痕文2条で区画される。66は縄文地の口縁部に横位、縦位の沈線文がみられるものである。67は波状の口縁部で、撚り反しの縄文地に絡条体庖痕文が横位、斜位に施文される。円筒土器下層c式に近いものである。68~71は口縁部に横位もしくは斜位、胴部に縦位の燃糸文が施されるものである。68・69は文様帯が幅広く、70は不明瞭だが文様帯下位に網目状の燃糸文がみられる。71は口縁部が剥落、摩耗するが、横位の燃糸文が施文される。72・73は口縁部に斜行縄文、胴部に燃糸文が斜位に施され、羽状様になるものである。72は口縁部が開き、胴部との境がやや張り出す器形である。

74はm p s -23出土で、口縁部文様帯は2本1組の細い縄線文が多条に施され、胴部は燃糸文が縦位に施文される。75・76はm p s -24出土で、胴部には燃糸文が縦位に施される。75は中空工具による刺突文が施される隆帯があり、その上下に沈線文が加えられる。口縁部文様帯は単軸絡条体第1類の燃糸文が横位に施されるが、端部のみ単軸絡条体第5類の網目状になる。76は胎土等から図V-10-58の復元土器の底部の可能性がある。77・78はm p s -29出土である。いずれも胴部が曲線的にすまる器形で、胴部には燃糸文が縦位に施文される。77は幅広い口縁部文様帯に不整の縄線文が施文され、断面三角形の隆帯で区画され、78は口縁部に網目状燃糸文が横位に施され、縄線文2条で区画される。

79・80はm p s -30出土で、いずれも口縁部文様帯は縄文が施され、沈線文2条で区画される。

M-1・BY層(下層)
mps-11



mps-14



mps-18



mps-18



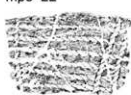
mps-21



mps-22



mps-22



mps-22



mps-22



mps-22



mps-22



mps-22



mps-22



mps-22



mps-22



mps-22



mps-22



mps-22



mps-22

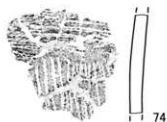


0 10cm
1/3

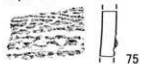
図V-16 遺構出土の土器(15)

M-1・BY層(下層)

mps-23



mps-24



mps-29



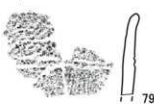
mps-24



mps-29



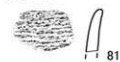
mps-30



mps-30



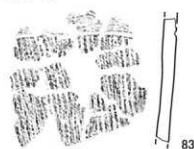
mps-31



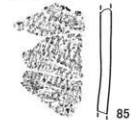
mps-31



mps-32



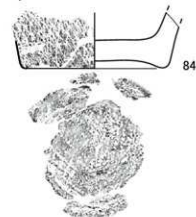
mps-33



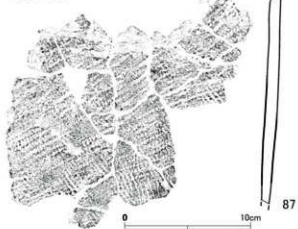
mps-36



mps-32



mps-36



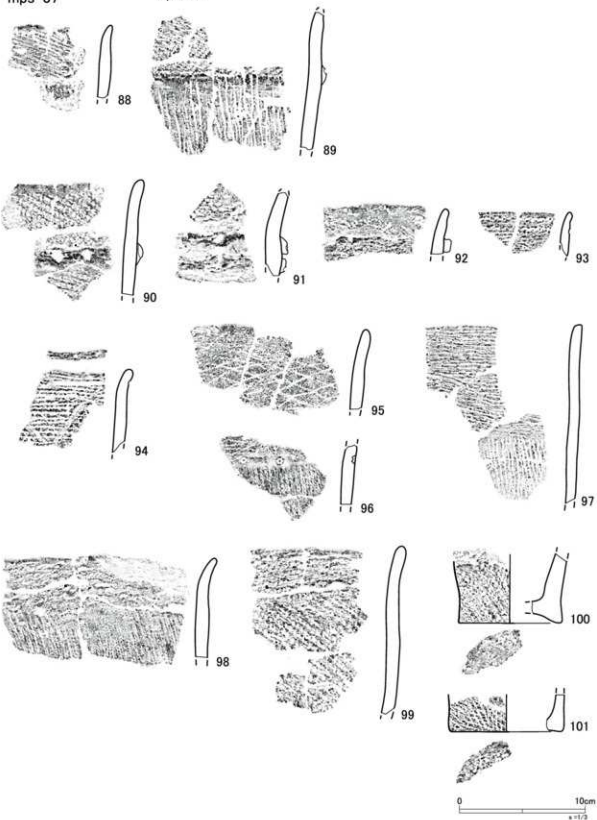
0 10cm
x=1/3

図V-17 遺構出土の土器(16)

M-1・BY層(下層)

mps-37

mps-38



図V-18 遺構出土の土器(17)

79は不明瞭だが、胴部は捺糸文が縦位に施され、80の胴部下位には無文部分がみられる。81・82はmp s - 31出土の同一個体で、捺糸文が口縁部では横位、胴部では縦位に施される。83・84はmp s - 32出土で、83は文様帯を区画する沈線文と縦位の捺糸文がみられ、文様帯部分は剥落する。84は網目状捺糸文が施された上げ底の底部である。85はmp s - 33出土の胴部で、多軸絡条体が回転施文される。86・87はmp s - 36出土の同一個体で、口縁部と胴部の間が打ち欠かれ、摩耗が激しい。口縁部は小波状で、捺糸文が横位に施され、胴部は上位に附加条文、下位に捺糸文が斜位に施される。

88はmp s - 37出土で、捺糸文が口縁部では斜位気味、胴部では縦位に施文される。89はmp s - 38出土で、隆帯を貼付した後、口縁部には撚り戻し原体とLR原体の結束羽状縄文、胴部には縦位の捺糸文が施文される。

90~101はM-1・BY層出土の土器集中以外の破片土器である。

90~92は厚みのある隆帯があるものである。90・91は隆帯の断面が三角形状で、91は隆帯が2条施される。隆帯上は90が棒状工具、91が指頭による刺突文が施される。地文は90が複節縄文、91が綾絡文である。92は隆帯が剥落し不明瞭だが、隆帯の一部に縄文がみられ、無文地の口縁部には綾絡文が1条施される。90~92は円筒土器下層b 1式に近いものである。93・94は捺糸文が横位に施文された口縁部で、93は2条の縄線文、94は横位と鋸歯状の浅い沈線文が加えられる。95・96は同一個体で、口縁部には網目状捺糸文が施され、浅い横位の沈線文2条で区画される。沈線文の間には中空工具による刺突文が巡り、胴部には捺糸文が縦位に施文される。97は捺糸文が口縁部では横位に幅広に施文され、胴部では縦位に施される。98は口縁部に不整の綾絡文、胴部には縦位の捺糸文が施される。99は口縁部には太い原体の捺糸文が横位、胴部には複節縄文が施文される。100・101は上げ底の底部である。100は複節縄文が施文され、101は単軸絡条体第1類の捺糸文が交差し、網目状になる。

M-2の破片土器 (図V-19-102~119)

102~119はM-2出土のII群b類で、106は円筒土器下層b式、107・108が円筒土器下層c式、102・105・109~113は円筒土器下層d 1式、114~116は円筒土器下層d 2式、117~119は円筒土器下層d 1またはd 2式である。

102~105は土器集中mp s - 2出土の同一個体である。

102・103は口縁部に縄線文により菱形の文様を構成する。104は胴部、105は底部で、捺糸文が縦位にみられる。内面は磨かれて、色調は赤褐色を呈する。

106~119はM-2の土器集中以外の破片土器である。

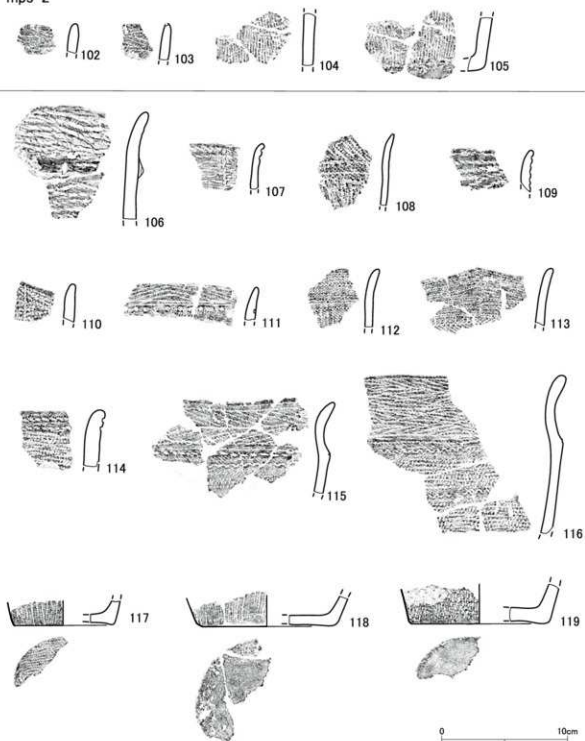
106は刻みと縄線文が施される隆帯があるもので、地文は太い原体の捺糸文が横位に施される。107・108は撚り戻しの縄文が地文に施され、口縁部には縦位と横位の縄線文が施される。109~116は細い縄線文が施されるものである。109~112は斜位と横位の縄線文により文様が構成されるもので、口縁部は110が波状、111がごく緩やかな小波状である。111には中空工具による刺突文が巡る。112は結束羽状縄文が多段に施文される。113は波状口縁で、撚りの異なる2本1組の縄線文で文様が構成され、胴部には結束羽状縄文が施される。

114~116は器厚が厚いもので、114は縄線文2条と撚り戻し縄文が施される。115・116は胴部上位が張り出し、口縁部が外反する器形で、縄線文により115は矢羽状、116は菱形の文様が構成される。張り出し部には115では刺突文、116では縄線文が甲捺される。胴部には、いずれも綾絡文、縄文、多軸絡条体の回転施文がみられる。117~119は平底の底部で、117・118は細い捺糸文が縦位、119は多軸絡条体の回転文が縦位に施される。

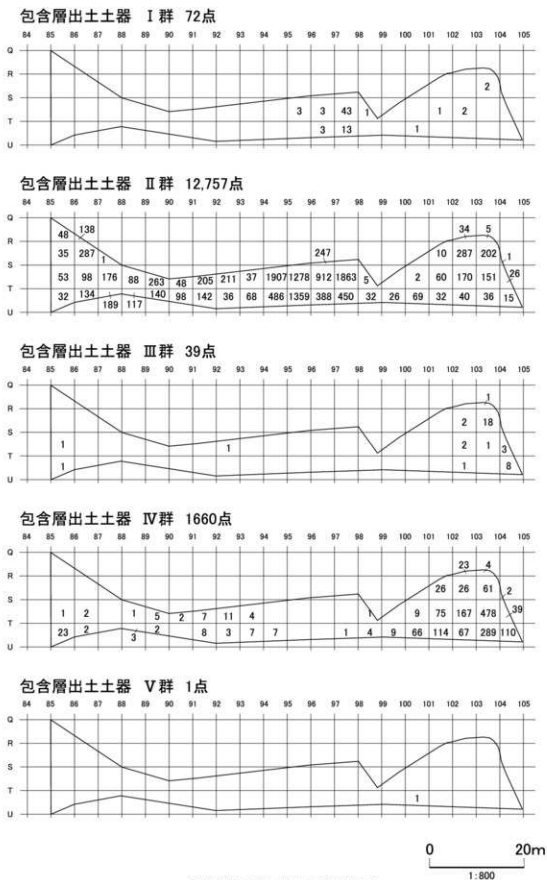
(愛場)

M-2

mps-2



図V-19 遺構出土の土器(18)



図V-20 包含層出土土器分布図

(2) 包含層出土の土器 (図V-21-1-10・図V-22-23-1-44)

包含層出土の復元土器 (図V-21-1-10)

Ⅱ群土器 (図V-21-1-3)

1~3はⅡ群b類の円筒土器下層b式で、M-1下位のⅣ層出土である。1はM-1 m p s -22などM-1・B Y層の破片と一部接合する。口縁部は平縁で開き、そこから胴部下位までは直線的、底部へはすままる筒形の器形である。口縁部文様帯は不明瞭だが2本1組の縄線文が斜位に押捺され、3条の沈線文で区画される。沈線文の間には棒状工具による刺突文が連続する。胴部は燃糸文が縦位に施文される。2は胴部がやや張り出す筒形の器形で、燃糸文が口縁部では横位、胴部では縦位に施文される。3は底部で、底部にはL R縄文、底外面には綾絡文がみられる。

Ⅳ群土器 (図V-21-4-10)

4~8はⅣ群a類土器、9・10はⅣ群c類土器である。4~7は深鉢形土器である。4は小型の深鉢の口縁部で、口唇部を欠く。口縁部には無文地に縄線文が施され、胴部にはL R縄文が斜行する。5は口縁部から胴部の破片で、図上で復元した。口縁部は平縁で、口唇部断面は角形、口唇部直下には粘土が折り返し状となる部分がある。文様は全体にL R縄文が斜行する。6・7は胴部から底部までの復元で、6はL R縄文が横走もしくは斜行し、7は無文で、縦位の調整痕が残る。いずれも底外面は無文である。8は小型の浅鉢形土器で、口縁部~胴部と底部とは接合していない。口縁部から丸みをもってすままり、底部が窪む器形である。全体にL R縄文が斜行する。9は鉢形土器で、口唇部断面は切り出し状、底部はやや上げ底である。文様は無文地に平行もしくは連続弧文の浅い沈線文が描かれる。10は注口土器で、口縁部から球胴部、球胴部から底部付近までがそれぞれ復元されたが、接合していない。口縁部は平縁で開き、「く」の字に屈曲する長い頸部から球胴部へ続く器形で、底部は欠く。球胴部上位に斜め45度程の角度で注口部が付けられる。文様は口縁部から球胴部上位に施され、貼瘤文、刻みがある縦長の貼付文、平行沈線文、磨り消し縄文で構成される。外面には赤彩が残る部分があり、内面には横位の調整痕がみられる。

包含層の破片土器 (図V-22-23-1-44)

Ⅰ群土器 (図V-22-1-8)

1~6はⅠ群a類土器、7・8はⅠ群b類土器である。

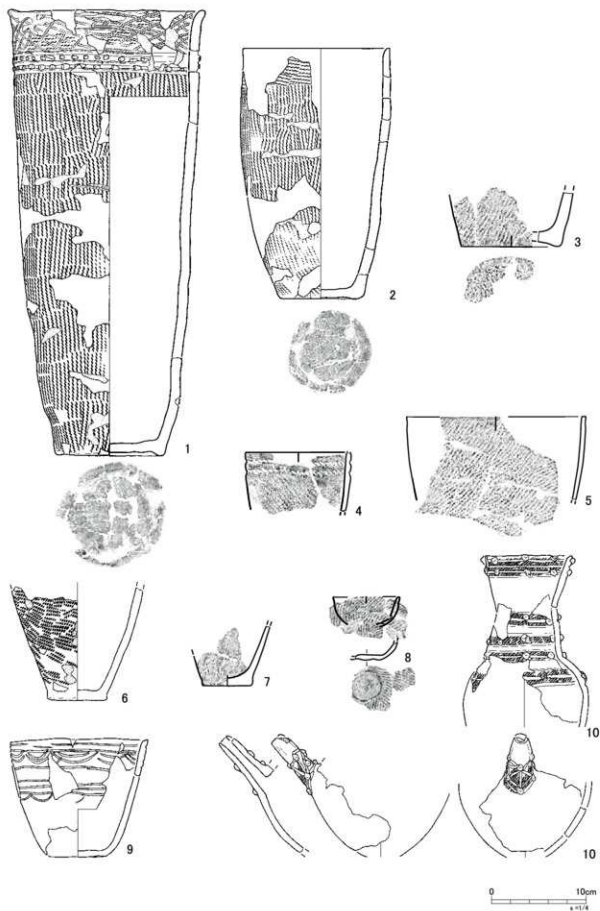
1~4は爪形文が数条横位にみられるものである。1・2は同一個体で、口唇部には貝殻腹縁文、口縁部から胴部では貝殻条痕文が施され、口唇部直下と胴部付近に爪形文が巡る。3は口唇部が爪による刻みにより小波状になる。4は口唇部断面が角形で、地文は貝殻腹縁文が押し引きされる。5は貝殻腹縁文と浅い条痕文が全面に施され、口唇部も貝殻腹縁による刻みが入れられる。6は口縁部に貝殻腹縁文が横位に2条、貝殻条痕文が横位、縦位に施文される。

7は底部で、組紐の庄痕文が横位に2条みられ、底部下端には縦位の縄文痕文が施文される。東銅路Ⅲ式土器である。8は絡条体庄痕文が横位に多段に施され、下位には斜位の燃糸文がみられる。東銅路Ⅳ式土器である。

Ⅱ群土器 (図V-22-9-19)

すべてⅡ群b類土器で、9~14は円筒土器下層b式、15・16は円筒土器下層c式、17・18は円筒土器下層d 1式、19は円筒土器下層d 2式である。

10~14はM-1下のⅣ・Ⅴ層から出土した。9~11は口縁部文様帯に不整の綾絡文が施されるものである。9は刺突文が加えられた隆帯があり、その下位に綾絡文、合燃の縄文、縦位の燃糸文が施



図V-21 包含層出土の土器(1)

される。10は隆帯が剥落し、胴部には燃糸文が縦位、11の胴部にはL R縄文が縦位に施文される。12・13は口縁部文様帯に燃糸文が横位に施され、横位や鋸歯状の浅い沈線文がみられるもので、口唇部は棒状工具による刺突文が連続する。14は反燃縄文地に縄線文が斜位に施文される。

15は口縁部が開き、文様は反燃縄文と結束羽状縄文がみられる。16～19は横位の縄線文が数条施されるものである。16は反燃の縄文地に縄線文が施され、17は矢羽状の縄線文と沈線文が横位にみられる。18は口唇部断面が尖り気味で、文様は細い原体により、縄線文、綾絡文、縦位の燃糸文が施される。19は胴部上位がやや張り出し、中空工具による刺突文が巡る。刺突文直下には綾絡文が施される。

Ⅲ群土器 (図V-22～23-20～26)

20～25はⅢ群 a 土器、26はⅢ群 b 類土器である。

20は外反して開く口縁部付近のもので、結束羽状縄文地に縄で刻まれた貼付がなされる。21・22はR L縄文地に沈線文がみられるもので、21は横位、22は曲線の3条1組の沈線文が施される。22の口唇部には地文とは違う細い原体の縄文が施文される。23～25は波頂部の口縁部で、いずれもR L縄文が施される。23は逆「S」字状の細い貼付が波頂部に付けられ、口唇部は縄により刻まれる。24は波頂部が二山状で、山に沿って口唇部と口縁部に細い貼付がなされる。曲線的な沈線文がみられる。25は波頂部に縄による刻みが入れられ、口唇部には縄文が施される。26は口唇部直下に折り返し状の貼付帯があり、二又状の工具による押し引き文が施文される。胴部には縄文が施される。

Ⅳ群土器 (図V-23-27～44)

27～33はⅣ群 a 類土器、34・35はⅣ群 b 類土器、36～44はⅣ群 c 類土器である。

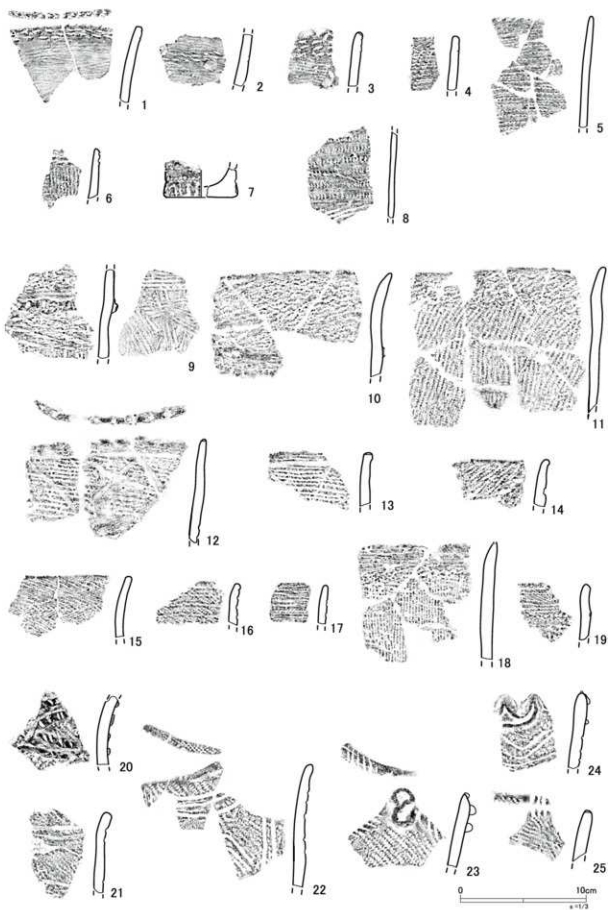
27～30・33は深鉢形土器である。27・28は口唇部直下と口縁部に貼付帯があり、貼付帯の間は無文である。口唇部断面は角形である。29は波頂部が縄により刻まれ、渦巻文や横位の沈線文が施文される。30は口唇部に環状の貼付がある。突起部の可能性がある。31は壺形で、直立気味の口縁部から胴部へと張り出す器形である。縄文地に複数の縄線文が横位に施され、口唇部にも反燃縄文が施文される。32は鉢形土器で、横位に沈線文が複数施文され、縄文施文後ナデ調整されている。33は底部でL R縄文が施される。

34・35は口縁部に幅広の無文帯があり、その下位に縄文地に複数の平行沈線文が施される深鉢形土器である。34は口縁部が開き、大きな波状になる器形で、胴部上位には蛇行する沈線文で平行沈線文が描かれ、文様帯の上端と下端の沈線間には下方からの刺突列がみられる。35は平行沈線文に「S」字の沈線文が加えられる。手船式土器に相当するものである。

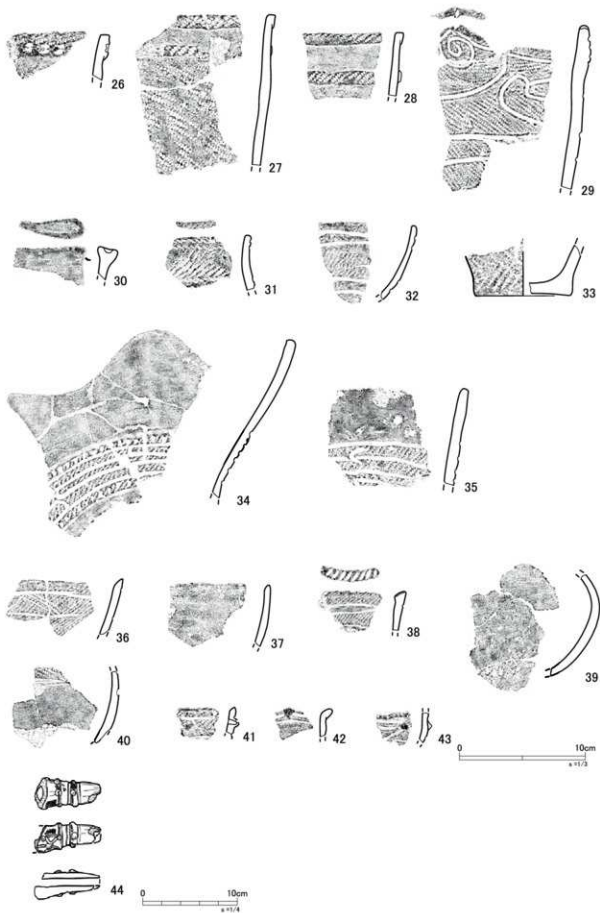
36～38は口唇部断面が切り出し状の鉢形土器である。36は縄文地に太い横位の沈線文と細い鋸歯状の沈線文で文様が描かれる。37は無文で、輪積みの痕が残る。38は口唇部断面が切り出し状で棒状工具による刻みがあり、沈線文の間に無文帯がみられる。注口土器の口縁部の可能性もある。39・40は球胴部で、無文帯が広くみられる。39は全面が無文で、40は上部に縄文と沈線文がみられる。41～43は小型の鉢形土器で、41は口唇部断面が切り出し状で、内面からの突瘤文がみられる。42・43は同一個体で、口縁部は緩やかな波状で、貼瘤や沈線文が無文地に施される。

44は注口土器の注口部で、図V-21-10と同様に貼瘤と沈線文、細い原体のL R縄文が注口部の下半に施され、先端部側は磨かれる。

(愛場)



図V-22 包含層出土の土器(2)



図V-23 包含層出土の土器 (3)

3. 石器等

(1) 遺構出土の石器等 (図V-28~49-1~136)

竪穴住居跡(H)出土 (図V-28~30-1~26)

1~13はH-1出土で、1・8・9・12は床面、2・4・10・11はh f c-1、3はh f c-2、それ以外は覆土からの出土である。1・2は石鏃で、1は木葉形、2は柳葉形で先頭部の側縁がやや内湾する。3は石槍・ナイフで、上半分を破損するが木葉形と推測される。4は両面調整石器である。円形で、腹面は平坦に加工され、背面は厚みが残る。5・6は縦長剥片素材のつまみ付きナイフで、5はつまみ部に原礫面があり、6はつまみ部のみ作出される。7~9はスクレイパーである。7は縦長剥片の両側縁、8・9は不定形剥片の1側縁に刃部がみられる。10・11は石核である。10は上面の打面から周囲への剥離が施された後、作業面と打面を入れ替えて剥離がなされる。11は原礫面が残る大型の剥片の背腹両面に剥離がみられる。図示していないが、h f c-1出土のフリイク数点と接合できた。12・13はたたき石で、いずれも扁平礫の側面に連続した敲き痕がみられる。石材は1~11が頁岩製、12が泥岩製、13が凝灰岩製である。

14~19はH-2出土で、16・18は床面、それ以外は覆土からの出土である。14は石鏃で柳葉形を呈する。15はつまみ付きナイフで、両側縁の刃部では広く刃潰れがみられる。16はスクレイパーで、下端部に急角度の刃部がある。17は石核で、小型で、周縁から剥離される。18はたたき石で、断面三角形の稜部に敲打・剥離痕などの使用痕がみられる。19は扁平打製石器で、半分以上破損し、表面の一部に煤が付着する。石材は14・16~18が頁岩製、15が黒曜石製、19は安山岩製である。

20・21はH-4出土で、20が覆土、21が床面出土である。20は石鏃で、先端部と下端部が破損する。21はスクレイパーで、両側縁に内湾する刃部がある。石材はいずれも頁岩製である。

22~26はH-5出土で、26はh f-1出土、それ以外は覆土からの出土である。22は有茎で小型の石鏃である。23・24はスクレイパーである。23はトランシェ様石器に形状が似るもので、両側縁は鋸歯状である。24は右側縁に外湾する刃部があり、下端部には原礫面がみられる。25は扁平打製石器で表裏面に炭化物が広く付着する。26は台石・石皿の破片である。平坦面にたたき痕、擦り痕がみられ、側縁側は一段高くなる。全体に被熱し赤色化する。石材は22~24は頁岩製、25・26は安山岩製である。

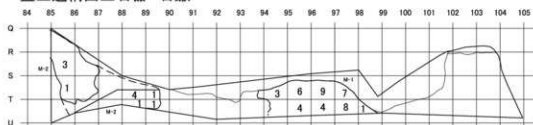
土坑(P)出土 (図V-30~31-27~34)

27・28はP-1坑底出土である。27は緑色泥岩製の磨製石斧で、刃部は破損する。28は扁平打製石器で下端部断面がV字状に剥離されるが、明瞭なすり痕はみられない。表面には炭化物が付着する。29はP-2出土の頁岩製のスクレイパーで、背面側のみ加工され、上端部は破損する。30はP-3出土の扁平打製石器で、右側が破損する。下端部のすり面は剥離調整により再加工され、表面側には煤が付着する。安山岩製である。31・32はP-7出土のすり石で、いずれも断面三角形の安山岩の稜部にすり面が残る。33はP-8坑底出土の頁岩製のつまみ付きナイフで、背面が主に加工される。34はP-9坑底出土の緑色泥岩製の磨製石斧である。小型、縦長で、上下に片刃の刃部がある。

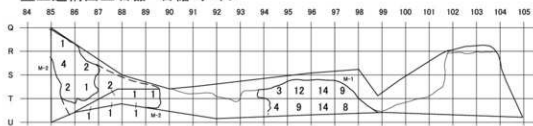
盛土遺構(M)出土 (図V-32~49-35~136)

35~110はM-1出土である。35~43は石鏃である。35は三角形で基部が内湾し、36は小型で木葉形を呈する。37~40は柳葉形を呈し、37は下端部が破損する。38・40は先端部が細長い形状、39は菱形に近い形状である。41~43は有茎である。41はやや厚みが残る、43はm f c-15出土で被熱し、炭化物が一部付着する。

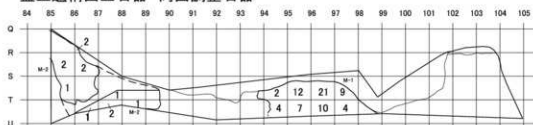
盛土遺構出土石器 石鏃



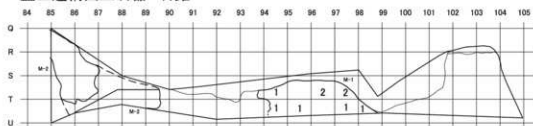
盛土遺構出土石器 石槍・ナイフ



盛土遺構出土石器 両面調整石器



盛土遺構出土石器 石錐



盛土遺構出土石器 つまみ付きナイフ

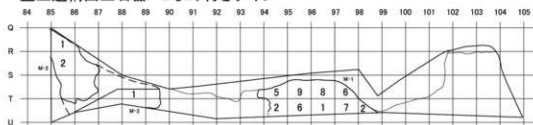
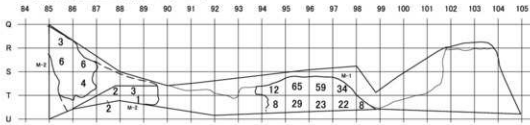
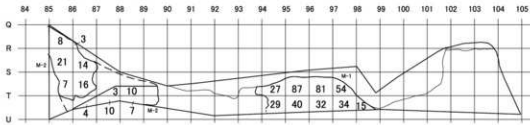


図 V-24 盛土遺構出土石器分布図(1)

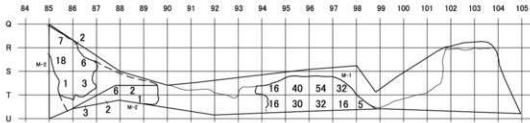
盛土遺構出土石器 スクレイパー



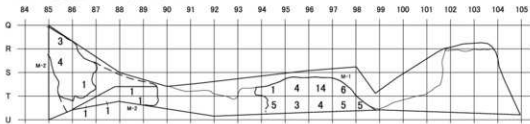
盛土遺構出土石器 U・Rフレイク



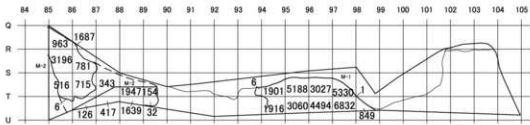
盛土遺構出土石器 石核



盛土遺構出土石器 原石

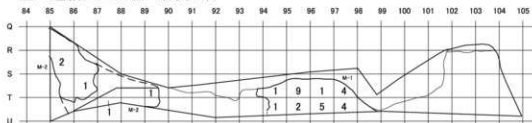


盛土遺構出土石器 フレイク

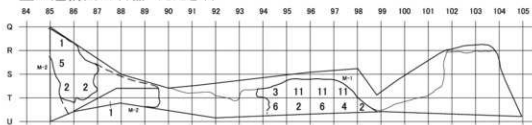


図V-25 盛土遺構出土石器分布図(2)

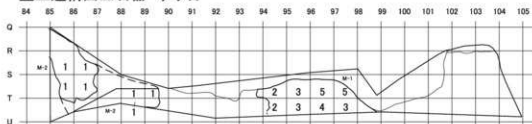
盛土遺構出土石器 磨製石斧



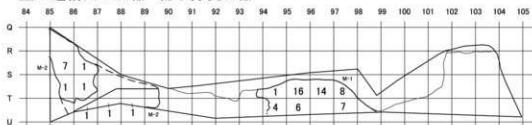
盛土遺構出土石器 たたき石



盛土遺構出土石器 すり石



盛土遺構出土石器 扁平打製石器



盛土遺構出土石器 砥石

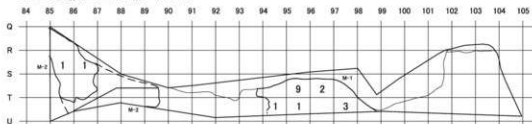
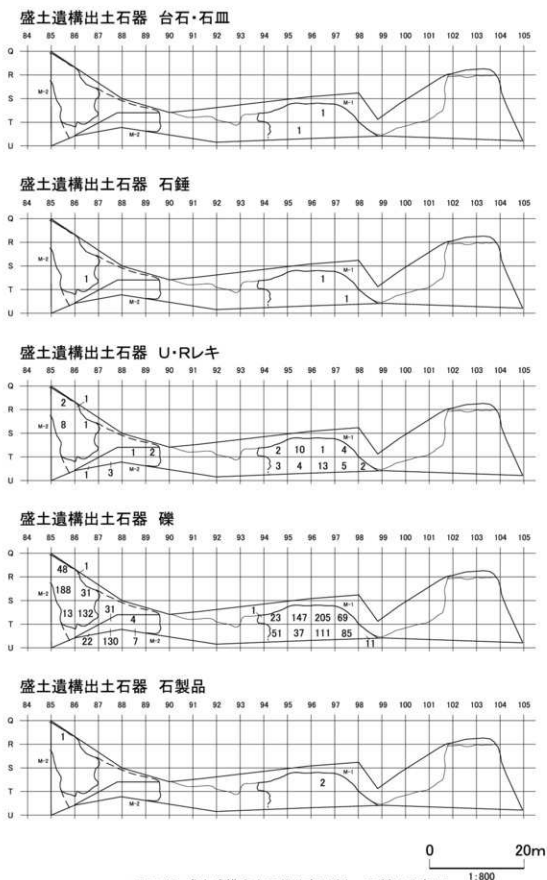
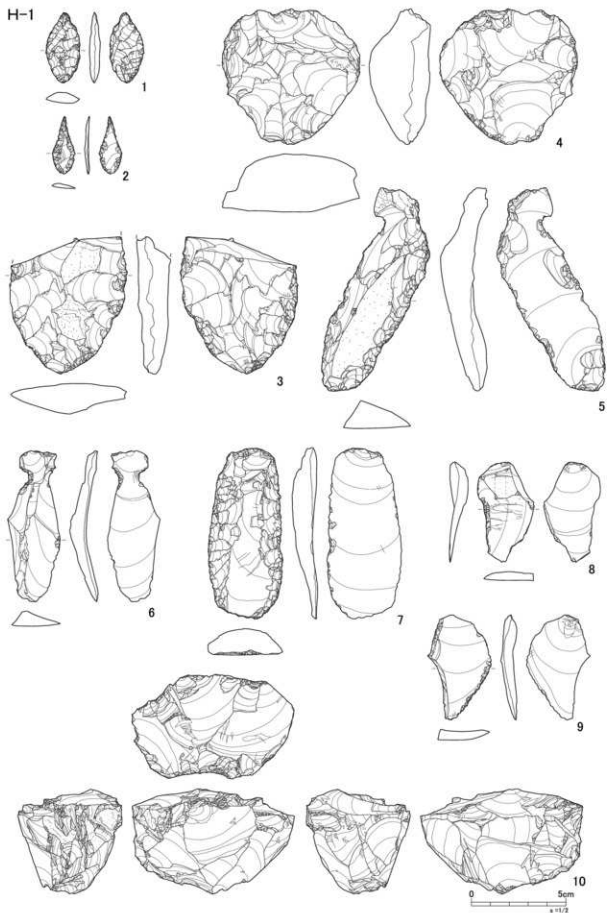


図 V-26 盛土遺構出土石器分布図 (3)

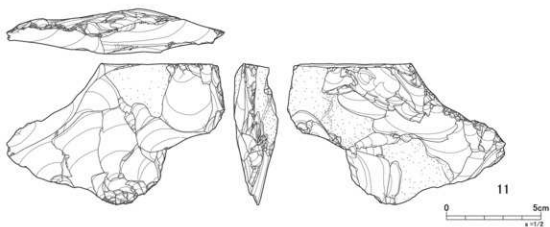


図V-27 盛土遺構出土石器分布図(4)・石製品分布図

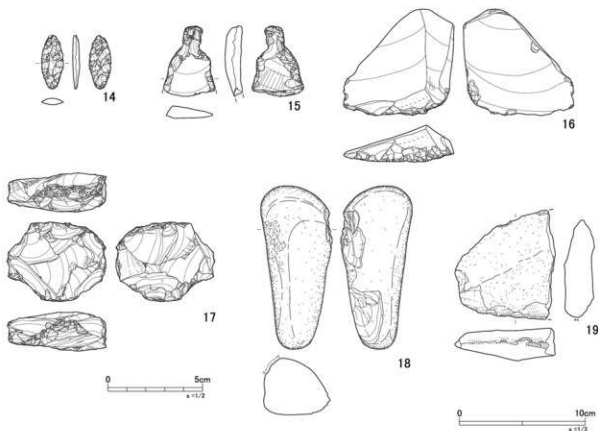


図V-28 遺構出土の石器 (1)

H-1

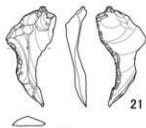
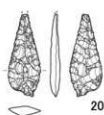


H-2

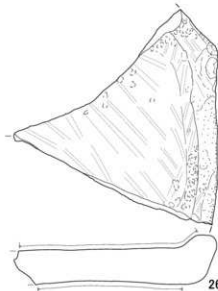
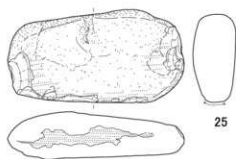
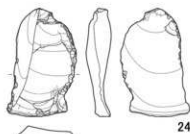
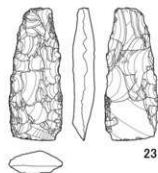


図V-29 遺構出土の石器(2)

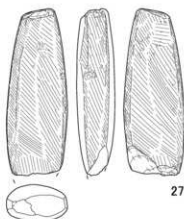
H-4



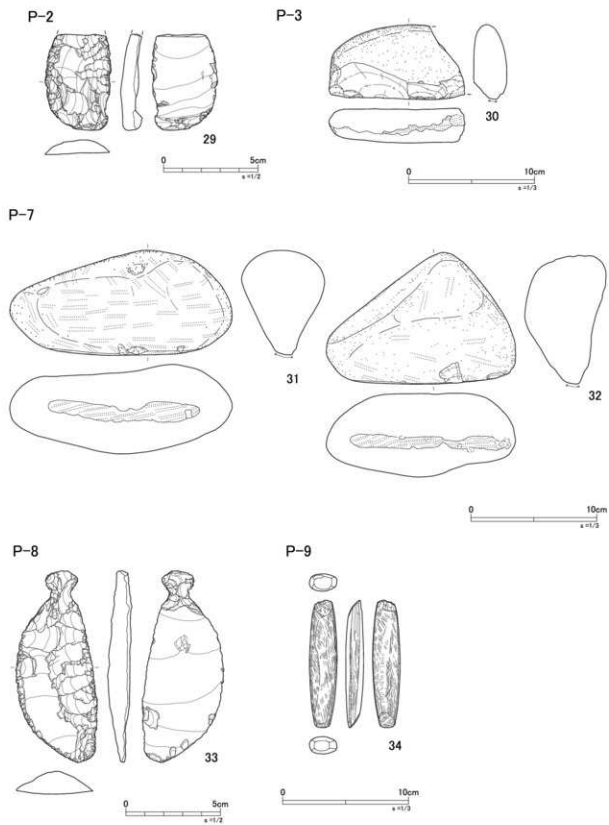
H-5



P-1

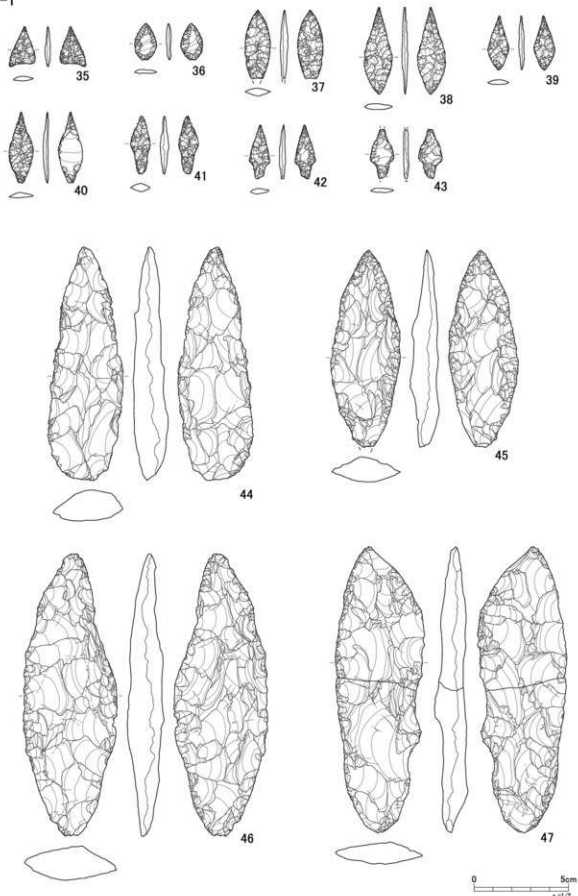


図V-30 遺構出土の石器(3)



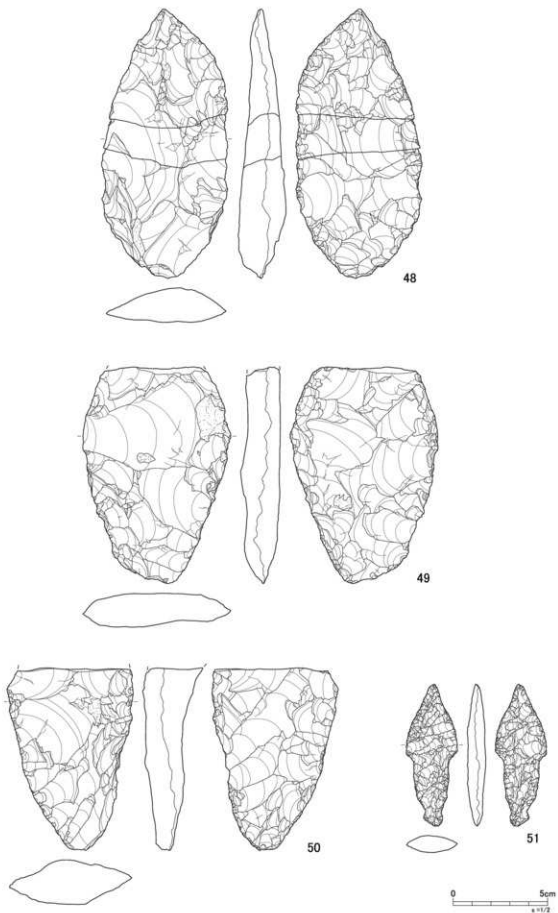
図V-31 遺構出土の石器(4)

M-1



図V-32 遺構出土の石器 (5)

M-1



図V-33 遺構出土の石器 (6)

44~52は石槍・ナイフで、44は柳葉形で円基、45~50・52は柳葉形で尖基、51は有茎である。両側縁の刃部は概ね外湾する。46は尖頭部付近の右側縁がやや内湾する。47は2点が接合したもので、右側縁は鋸歯状の刃部である。48~50はやや幅広のものである。48はm f c-2出土の3点が接合したもので、基部付近には厚みが残る。49はm f c-2出土で、先端部が破損するが、菱形に近い形状と推測される。50はm f c-4出土で、背面中央への打撃により破損する。51は基部の両側縁に挟りがみられる。52はm f c-17(上)とM-1のT96区(下)出土の2点が接合し(52A)、さらに周辺のフレイク13点が接合した(52B)。剥片は裏面中央付近で連続して剥離されており、特に裏面右側縁側からの複数の剥離で、約3cmの厚みを減じている。

53~58は両面調整石器である。53は下端部に原礫面を残し、両側縁の中央付近はやや内湾する。54はm f c-2出土で、木葉形に加工されるが、厚みが残る。55はm f c-12出土で、半分に割れた2点が接合し(55A)、さらに周辺のフレイク12点と接合した(55B)。主に右側縁で厚みを減じ、柳葉形に成形する剥離が行われる。56はm f c-2出土で、半分に割れた2点が接合し(56A)、さらに周辺のフレイク14点と接合した(56B)。周縁から厚みを減じ、柳葉形に成形する剥離が行われる。57・58は周縁からの粗い調整で、楕円形状に加工される。

59・60は石錐である。59は厚みのある剥片の一端に機能部が作出される。60は原礫面が残る断面三角形の剥片が利用され、上部にはつまみ部が設けられる。61~67はつまみ付きナイフで、主に片面加工により刃部が作出される。61~66は縦長剥片を素材とするものである。61は下端部が錐状に加工され、62は13cmを超える縦長剥片の両側縁と下端部に刃部がある。63・64はやや鋸歯状の刃部である。65は腹面側に二次加工が施される。66は左側縁が外湾、右側縁が内湾する。67は幅広の剥片から横長の刃部が作出され、背腹両面とも光沢がある。

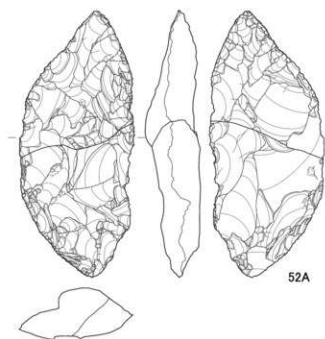
68~82はスクレイパーである。68・69はトランシェ様石器に形状が似るもので、撥形に成形され、下端部は直線的である。69は下端部に折れ面がある。70~76は縦長剥片の片面に刃部がみられるものである。70は両側縁と下端部に刃部がある。71は上下端部に原礫面が残る。72・73は左側縁に外湾する刃部があり、72の刃部は急角度である。74~76は直接的な刃部があるものである。74は下端部が加工されて尖る。75は周縁に刃部があり、76は背面上部に原礫面が残る。77~80は内湾する刃部がみられるものである。77は横長の剥片が利用される。78~80は刃部が挟り状に内湾するもので、78・80は両側縁、79は下端部に内湾する刃部がある。78は右側縁に刺突部も作出される。79は腹面側、80は背面側に刃部がみられる。81・82は外湾する刃部があるもので、81・82とも背面が二次加工され、両側縁と下端部に刃部が作出される。

83~87は石核である。83は表面では上面の打面からの剥離、裏面では周縁からの剥離がみられる。84はm f c-7出土で、2点が接合し(84A)、さらに周辺のフレイク6点と接合した(84B)。破片は周縁部の小破片で、ヒンジフラクチャーや凹凸をとる調整がなされている。85は断面三角形の柱状の素材で、主に正面で両側縁からの剥離が施される。上下端部と裏面には原礫面が残る。86はm f c-10出土で、2点が接合した。正面で縦長の剥片を複数とっており、上端部に接合した破片は打面調整によるものと考えられる。87は上端部の打面を中心に打面を変えて剥離される。

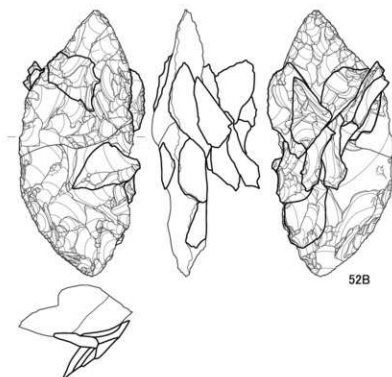
ここまで剥片石器(35~87)の石材はすべて頁岩製である。

88・89は磨製石斧である。88は基部が破損し、割れ面には敲打痕がみられる。両側面は擦り切りにより成形される。89は板状の片岩の周縁を打ち欠き、全面を研磨するが、刃部はなく、未成品と考えらる。90は磨り切り残片で、左側面は原礫面で、右側面は擦り切り後、折り取られている。表面に2条の磨り切り痕、裏面中央に線状の擦痕があり、さらに素材を取ろうとした痕跡がある。

M-1



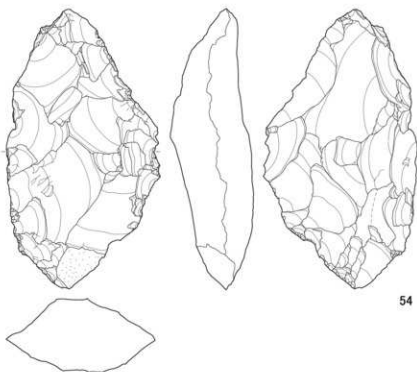
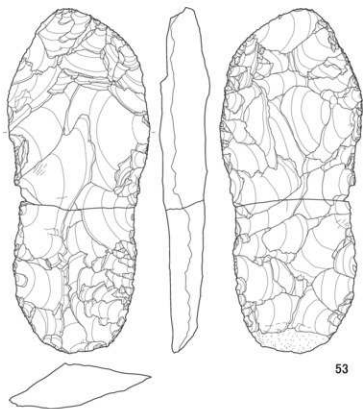
接合資料



図V-34 遺構出土の石器(7)

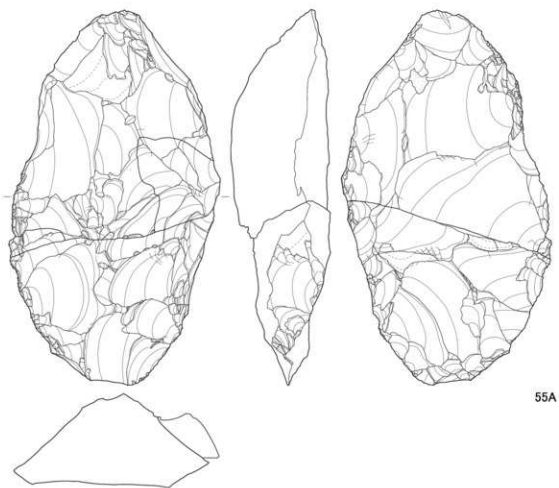


M-1



図V-35 遺構出土の石器(8)

M-1

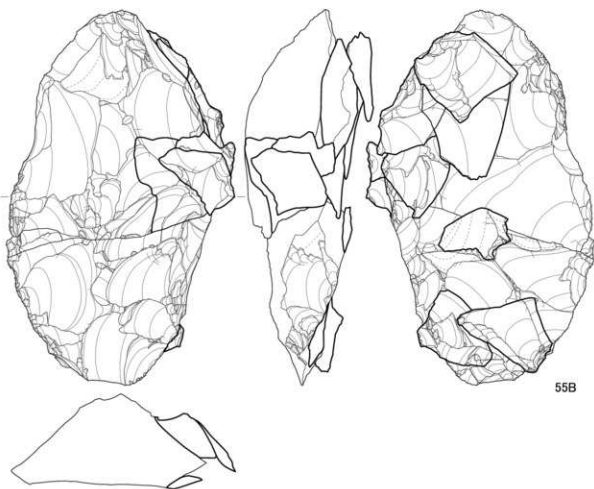


図V-36 遺構出土の石器 (9)



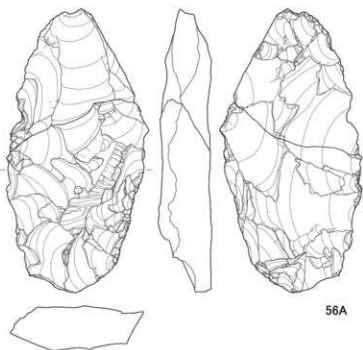
M-1

接合資料

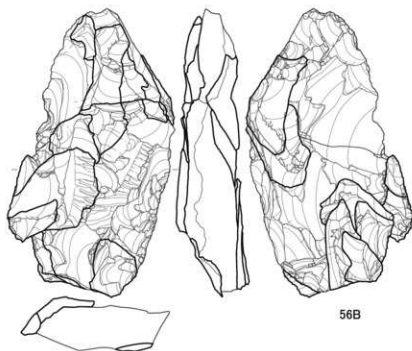


図V-37 遺構出土の石器 (10)

M-1

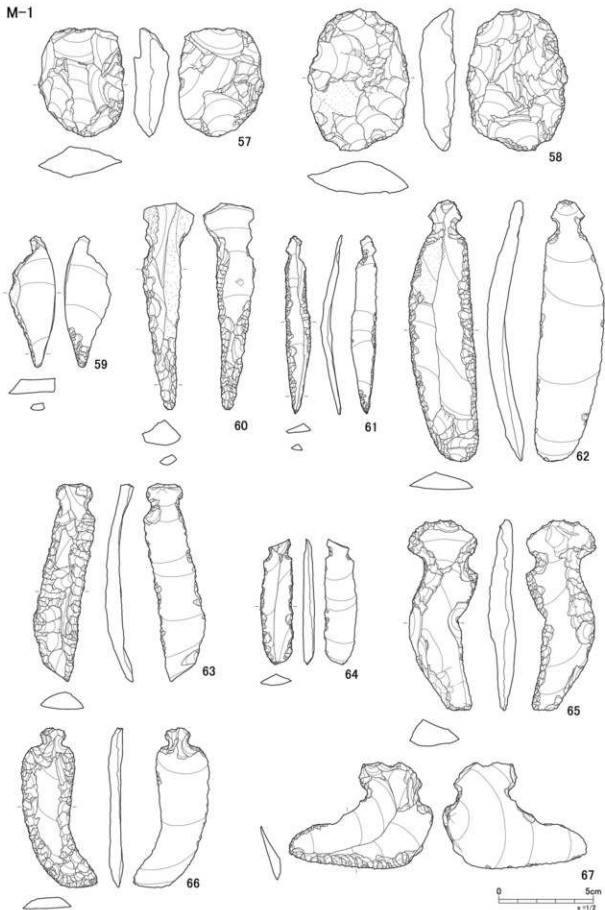


接合資料

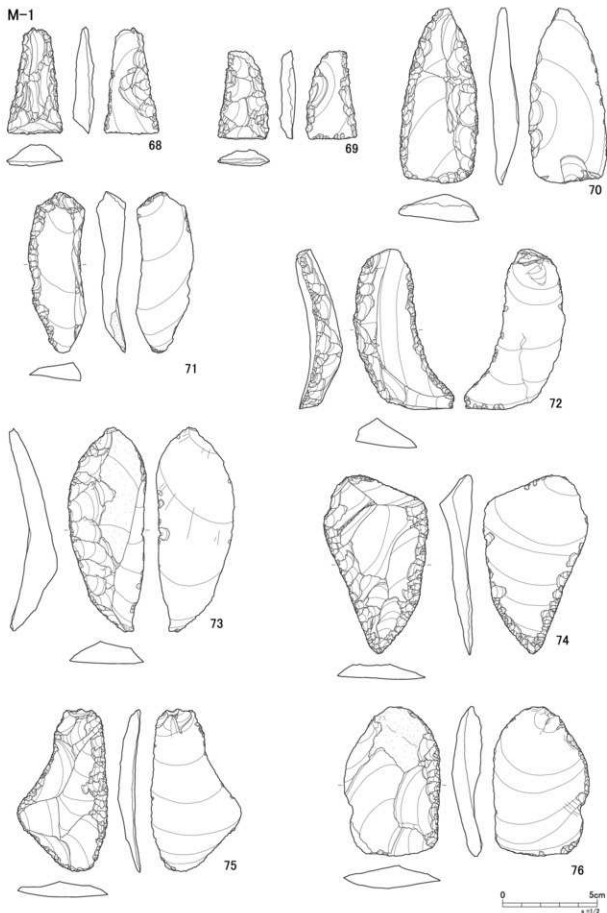


図V-38 遺構出土の石器 (11)

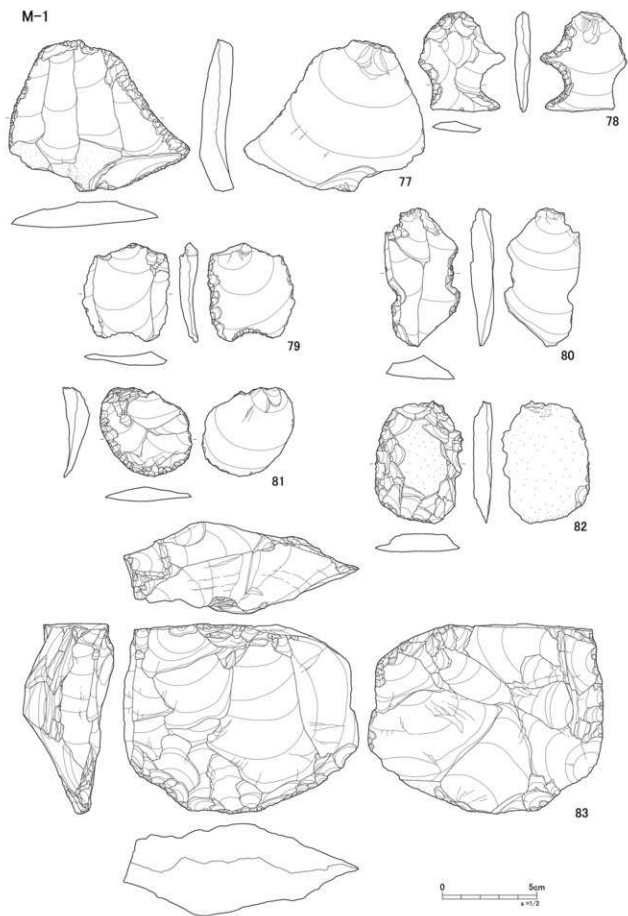
M-1



図V-39 遺構出土の石器 (12)

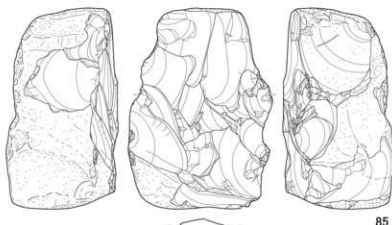
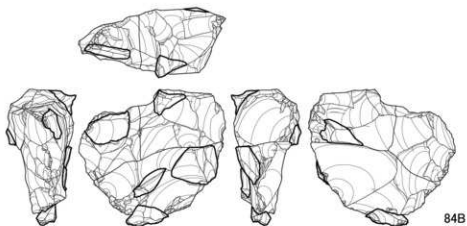
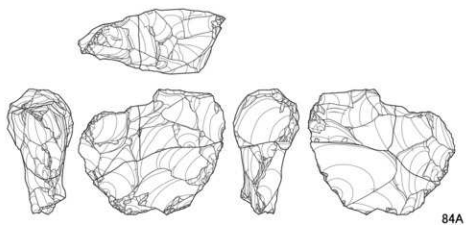


図V-40 遺構出土の石器 (13)



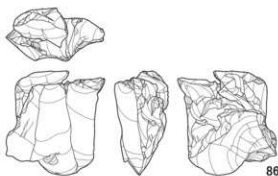
図V-41 遺構出土の石器 (14)

M-1

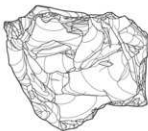
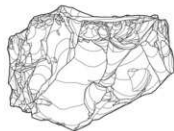


図V-42 遺構出土の石器 (15)

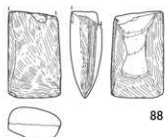
M-1



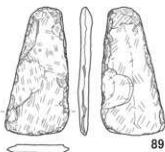
86



87



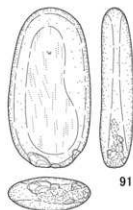
88



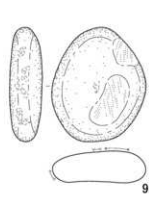
89



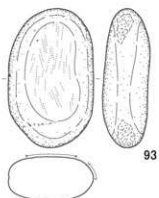
90



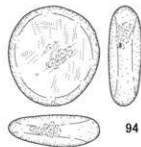
91



92



93



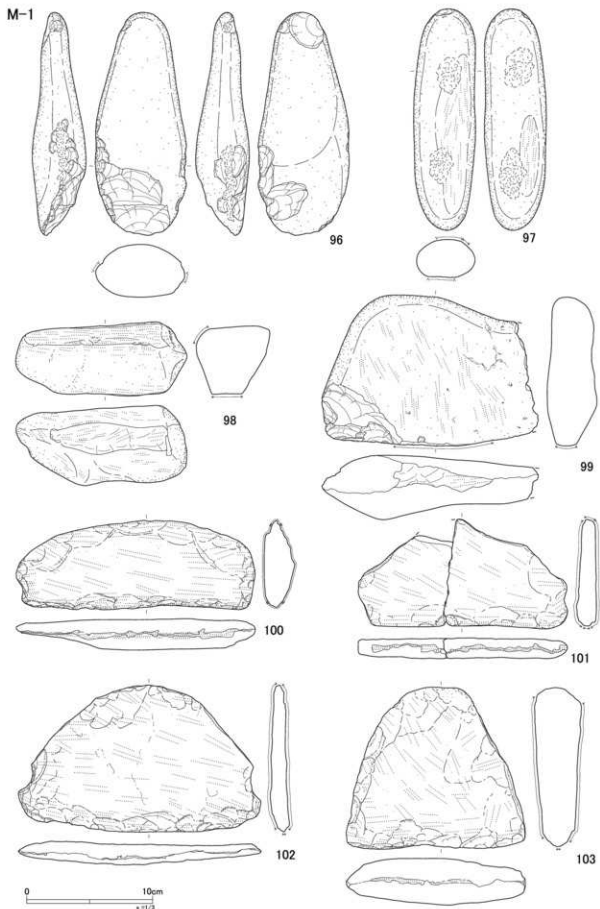
94



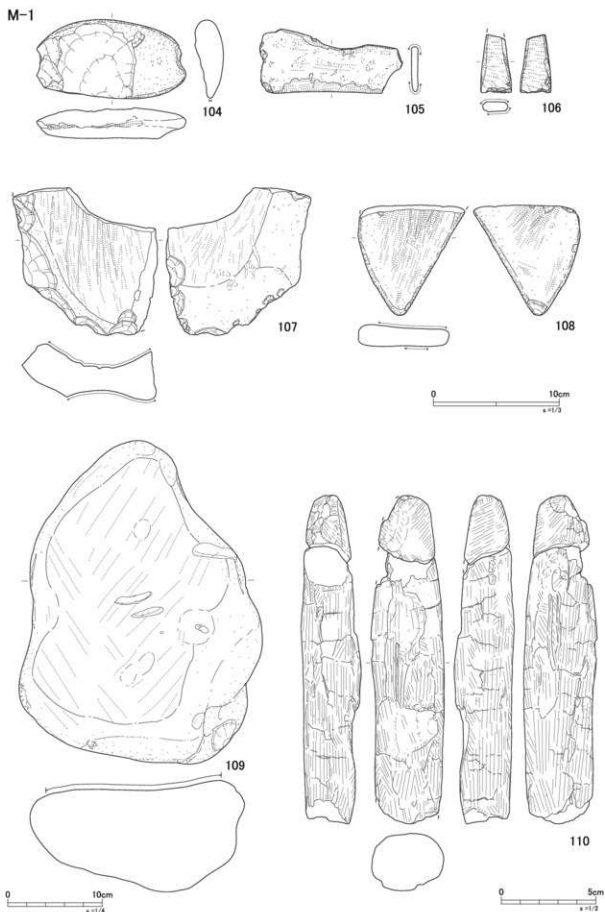
95



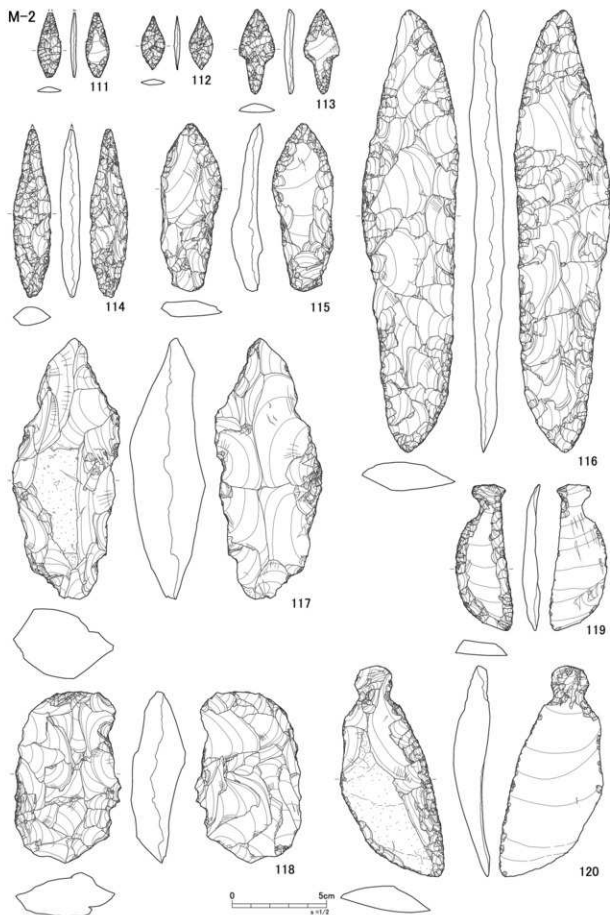
図V-43 遺構出土の石器 (16)



図V-44 遺構出土の石器 (17)

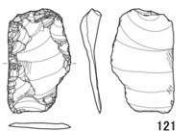


図V-45 遺構出土の石器(18)・石製品

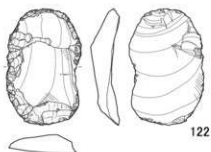


図V-46 遺構出土の石器 (19)

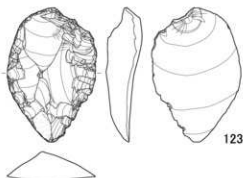
M-2



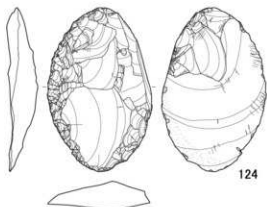
121



122



123



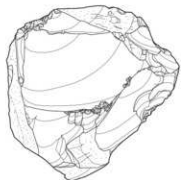
124



125



126



図V-47 遺構出土の石器 (20)

M-2

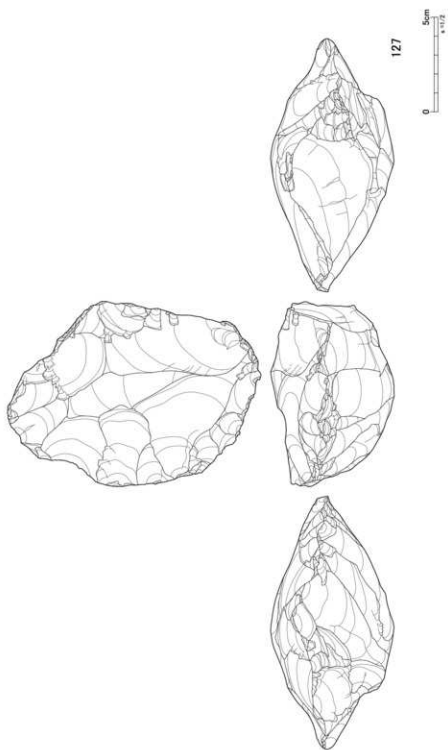


図 V-48 遺構出土の石器 (21)

88・90の石材は緑色泥岩製である。

91～94・96・97はたたき石で、96を除き、すり痕もみられる。91～94・96は扁平礫の側面にたたき痕があるもので、91は下端部、92・94は平坦面にもたたき痕がみられる。96は両側縁にたたき痕があり、表面の下端部には大きな剥離痕が残る。97は棒状礫の表裏面に浅いたたき痕が2か所ずつみられる。たたき石の石材はいずれも砂岩製である。

95・98・99はすり石である。95は扁平礫の平坦面にすり痕があり、98は断面三角形の二つの後部にすり面がみられる。99は右側縁を破損し、被熱により全体に赤色化する。100～104は扁平打製石器で、周縁の加工により半月形に成形され、下端部に使用面があるほか、表裏平坦面にも広くすり痕がみられる。100～102は板状の素材で、側縁に抉り状の打ち欠きが施され、下端部は断面がV字状に加工される。103は厚みがある素材で周縁を打ち欠き後、表裏面全面が擦られている。104は下端部のすり面が打ち欠かれる。105は石鋸で、薄い板状素材の上下端部に使用痕がある。すり石・扁平打製石器・石鋸の石材は95・99～101・103・105が安山岩製、98・104が砂岩製、102が凝灰岩製である。

106～108は砥石である。106は小型で、上端部を破損する。表裏平坦面と両側面に線状のすり痕があり、下端部は打ち欠き後に擦られている。107は表裏面に窪んだ砥面、表面に溝状の砥面がある。割れ面を含め全体に炭化物が付着する。108は平坦面に砥面と線状の擦り痕がある。109は台石・石皿で、表面に平坦なすり面があり、一部敲打による窪みもみられる。110は凝灰岩製の石製品で、2点接合し、下端部は破損する。棒状の礫が全面研磨され、全体に粗い線状の擦痕が残る。上端部は丸みを帯びる形状である。表面にはたたき痕状の凹状のくぼみが2か所みられる。石材は106・107が砂岩製、108が凝灰岩製である。

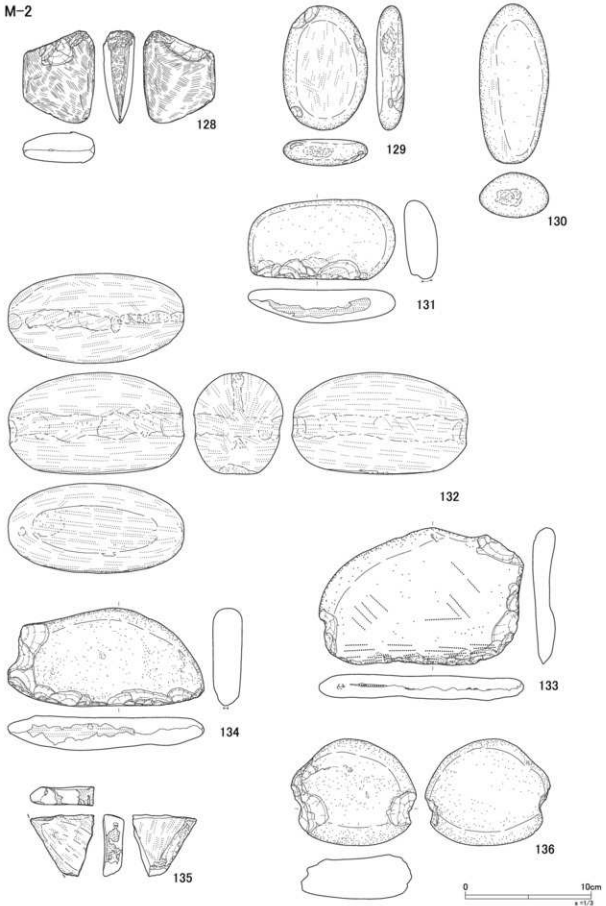
111～136はM-2出土で、このうち111の石鏃はmf c-3、126の石核がmf c-2出土である。111～113は石鏃で、111・112は柳葉形、113は有茎である。114～116は石槍・ナイフである。114は先端部が棒状で尖る形状である。115は厚みをとる加工が基部側でなされる。116は長さ23cmの大型のもので、細長い柳葉形に加工される。左右はやや非対称である。117・118は両面調整石器である。117は木葉形に粗く加工され、118は腹面を調整後、背面を周縁から加工される。119・120はつまみ付きナイフで、縦長剥片の片面が二次加工される。119は左側縁に急角度の刃部があり、120は原礫面が背面に広く残る。

121～124はスクレイパーで、いずれも剥片の側縁に刃部がある。121・122は直線的な刃部を持つもので、122は下端部にも刃部がある。123・124は外湾する刃部がみられる。125～127は石核である。125は上面の打面から縦長の剥片がとられるが、最終的には中央付近でヒンジフラクチャーが多くなっている。126は打面と作業面を変えながら剥離が行われる。127は打面が周縁から調整され、作業面では複数の縦長の剥離がみられる。111～127の石材はすべて頁岩製である。

128は泥岩製の磨製石斧で、両刃で、基部破損後に割れ面が剥離、敲打調整により再加工される。129・130は砂岩製のたたき石で、下端部にたたき痕がある。129は右側縁にもたたき痕がみられ、130は一部に炭化物が付着する。131・133・134は扁平打製石器で、下端部に刃部とすり面がみられる。131は扁平レキの下端部にすり面がある。133・134は板状素材で側縁部に抉り状の打ち欠きがある。132はすり石である。楕円形の礫の下端部にやや幅広のすり面があり、敲打による溝状のくぼみが、側縁中央全周と上端部中央に直線状にみられる。下端部以外も溝を含め、全体が擦られている。石材は131・132が砂岩製、133・134が安山岩製である。

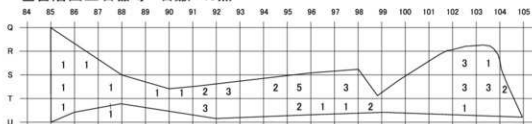
135は泥岩製の砥石で、表裏面と割れ面に砥面がある。全体に煤が付着する。136は安山岩製の石錘である。

M-2

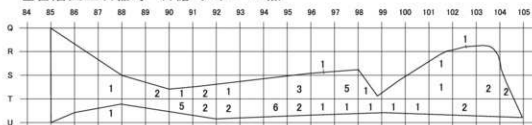


図V-49 遺構出土の石器 (22)

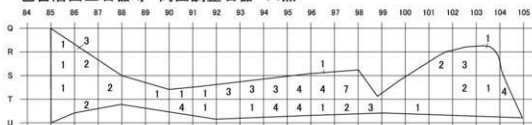
包含層出土石器等 石鏃 45点



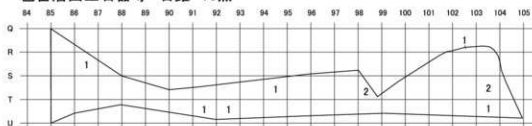
包含層出土石器等 石槍・ナイフ 52点



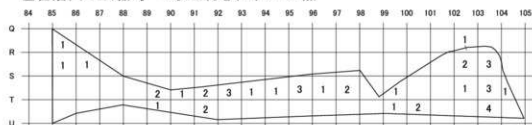
包含層出土石器等 両面調整石器 74点



包含層出土石器等 石錐 10点

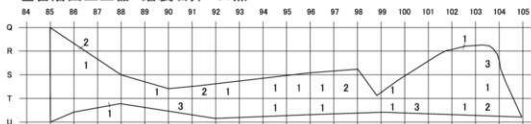


包含層出土石器等 つまみ付きナイフ 41点

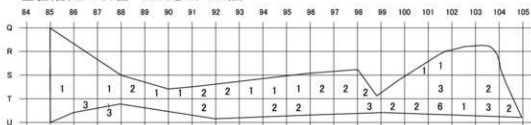


図V-50 包含層出土石器分布図(1)

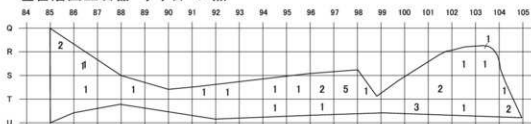
包含層出土石器 磨製石斧 31点



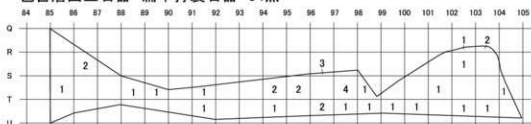
包含層出土石器 たたき石 58点



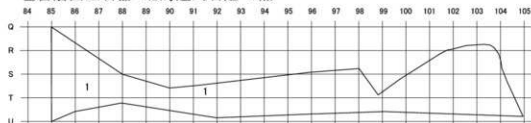
包含層出土石器 すり石 32点



包含層出土石器 扁平打製石器 34点

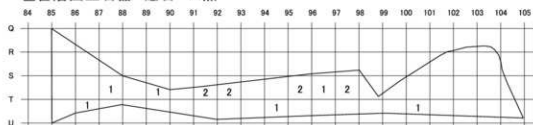


包含層出土石器 北海道式石冠 2点

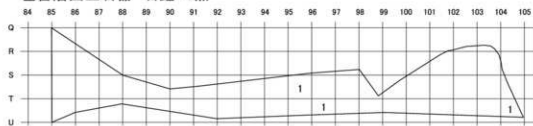


図V-52 包含層出土石器分布図(3)

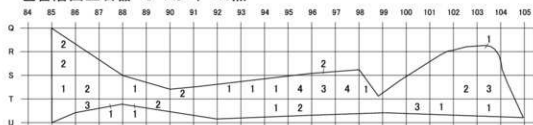
包含層出土石器 砥石 14点



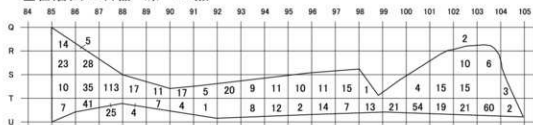
包含層出土石器 石錘 3点



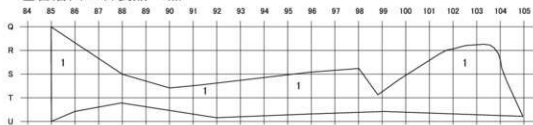
包含層出土石器 U・Rレキ 48点



包含層出土石器 礫 759点



包含層出土石器製品 4点



0 20m

1:800

図V-53 包含層出土石器分布図(4)・石器製品分布図

(2) 包含層出土の石器等 (図V-54-59-1-66)

包含層出土の石器は28,905点である。内訳は石鏃45点、石槍・ナイフ52点、石錐10点、両面調整石器74点、つまみ付きナイフ41点、スクレイパー 219点、U・Rフレイク440点、石核304点、原石49点、フレイク26,653点、磨製石斧31点、たたき石58点、すり石32点、北海道式石冠2点、扁平打製石器34点、砥石14点、石錘3点、U・Rレキ48点、礫759点、石製品4点である。フレイクが92%を超え、剥片石器ではスクレイパーや石核、礫石器ではたたき石が多い。石器の分布は図で示した通り (図V-50-53)、調査区全体に分布する傾向がある。

剥片石器 (図V-54-57-1-39)

剥片石器の石材はほとんどが頁岩製で、黒曜石製がごく少量みられる。掲載した剥片石器では3・10 (石鏃)、11 (石槍・ナイフ)、25 (つまみ付きナイフ)、37 (スクレイパー) が黒曜石製で、それ以外は頁岩製である。

1~10は石鏃である。1・2は三角形で、1は凹基、2は平基、3~6は柳葉形で、いずれも尖基である。7・8は菱形で、細身である。9・10は有茎である。9は背面全体が原礫面で、周囲に微細な剥離が施される。10は両側縁がやや内湾する。

11~13は石槍・ナイフである。11は木葉形、12・13は柳葉形で、11は基部下端が直線的、12は円基である。13は両側縁につまみ部が作出される。

14~17は両面調整石器である。14・15は粗い加工により柳葉形に成形され、14は下端部、15は左側縁に原礫面を残す。16・17は平面が楕円形で、周縁から求心的な剥離が施される。

18~20は石錐である。18は両面加工により、上下端部が尖る棒状に加工される。19は上面に打面が残る。下端部は棒状に加工され、両側縁の中央には抉りがみられる。20は左側縁に打面がある剥片の一端に機能部を作り出している。

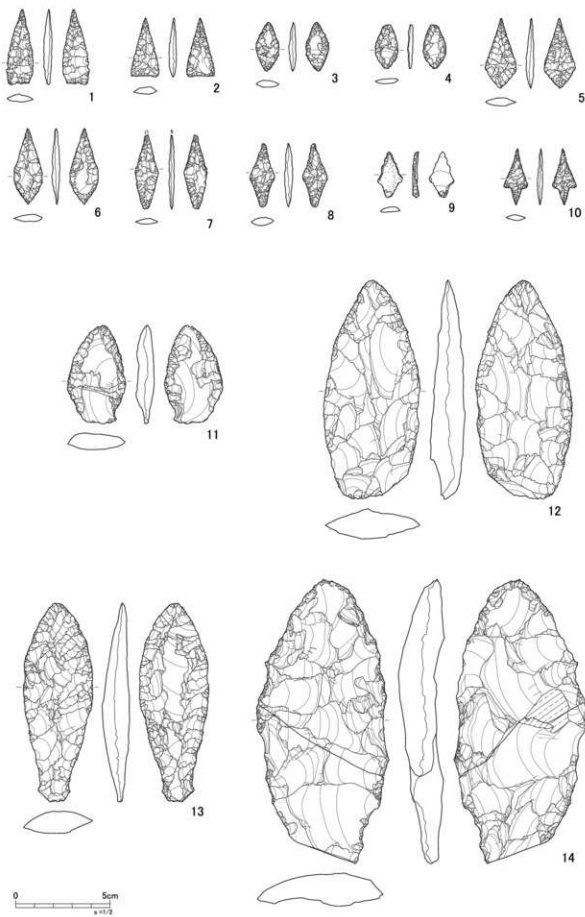
21~25はつまみ付きナイフで、21~24が縦長剥片、25が横長剥片を素材とし、いずれも片面が加工される。21は両側縁と下端部から押圧剥離が施される。22は右側縁にやや内湾する刃部があり、左側縁からは厚みをとる加工がなされる。23は両側縁に刃部があり、24は左側縁に急角度の刃部がある。25は両側縁の刃部に刃潰れがみられる。

26~37はスクレイパーである。26~29はトランシェ様石器に類似するもので、撥型の形状である。背面下部に古い剥離面を残し、下端部の形状は26・27が外湾、28が内湾、29が直線的である。30・31は背腹両面に二次加工が施されるもので、両側縁と下端部に直線的な刃部を有する。32~35は縦長で両側縁と下端部に刃部がみられるもので、下端部の剥離は細かい。32~34は刃部が直線的で、35は外湾する。36・37はつまみ部があり、下端部に外湾する刃部がある。36は薄く、背面に原礫面が残る。37は黒曜石製で、背腹両面が二次加工され、分厚い刃部が作出される。下端部の刃部には刃潰れ痕がみられる。

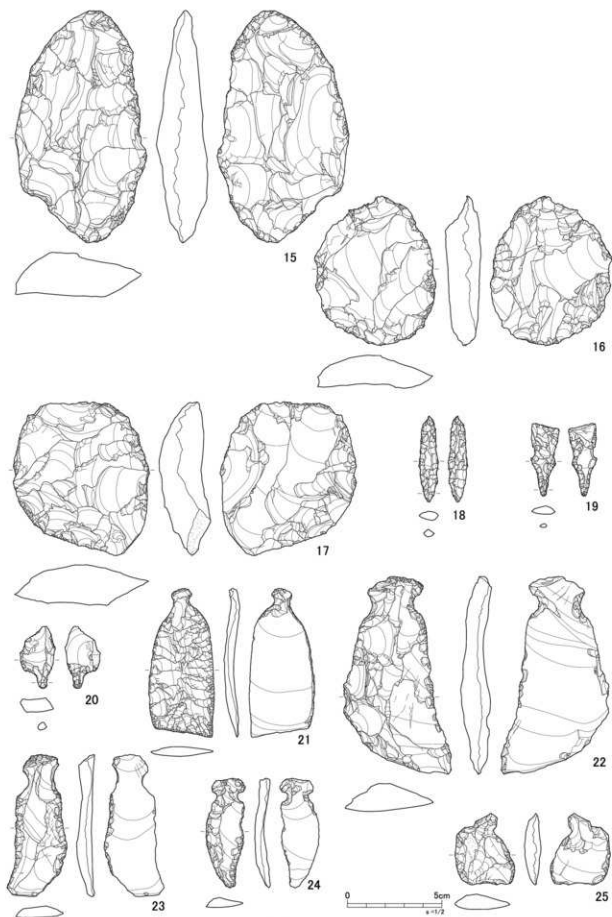
38・39は石核である。38は打面と作業面を転移して剥離が行われる。図示していない図裏面は原礫面である。39は正面では上面の打面から縦長の剥片が複数とられ、その後正面、裏面とも両側縁から剥離される。

礫石器 (図V-57-59-40-63)

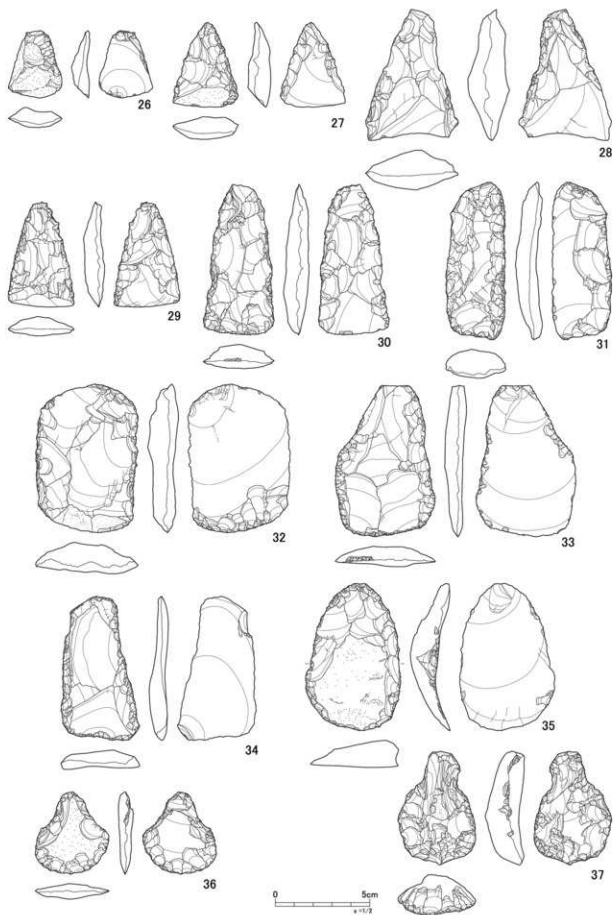
40~44は磨製石斧である。40は小型の両刃で、右側縁は割れ面が研磨されている。41・42は基部が破損する。41は片刃で、両側縁に擦り切り痕が残る。42は両刃で、破損した割れ面の左側縁側が敲打調整される。43は平面が正方形に近い形状で、上下に片刃の刃部がある。全体が黒色化し、光



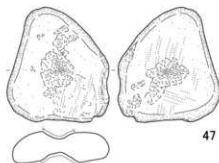
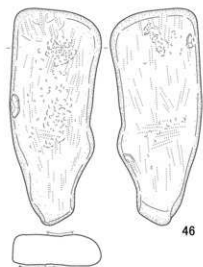
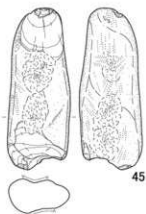
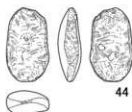
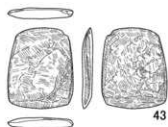
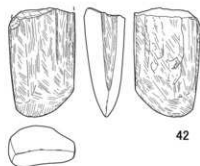
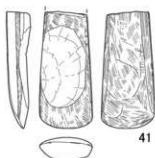
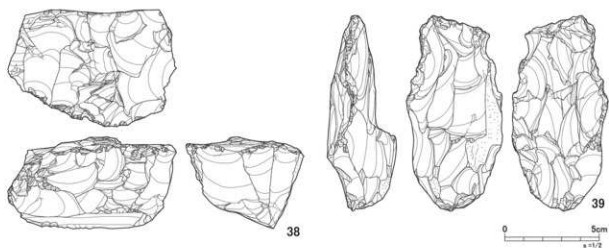
図V-54 包含層出土の石器 (1)



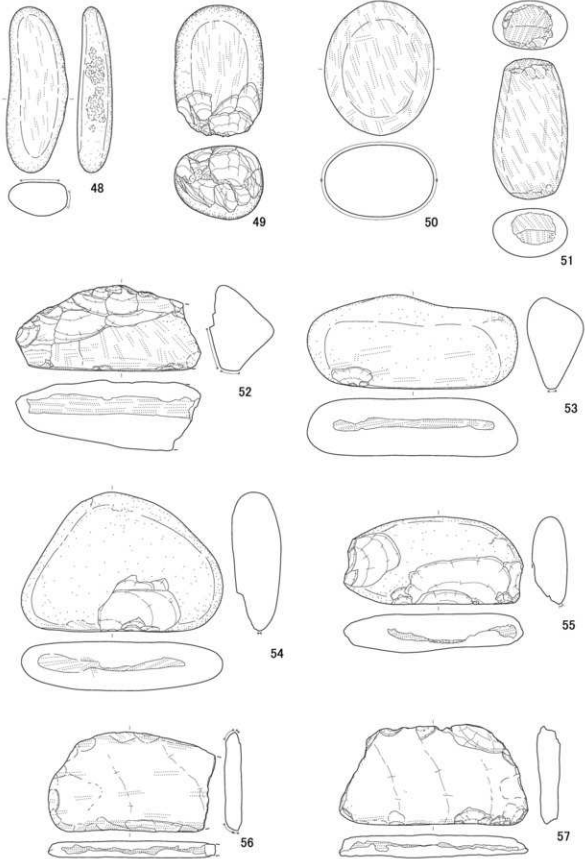
図V-55 包含層出土の石器(2)



図V-56 包含層出土の石器 (3)

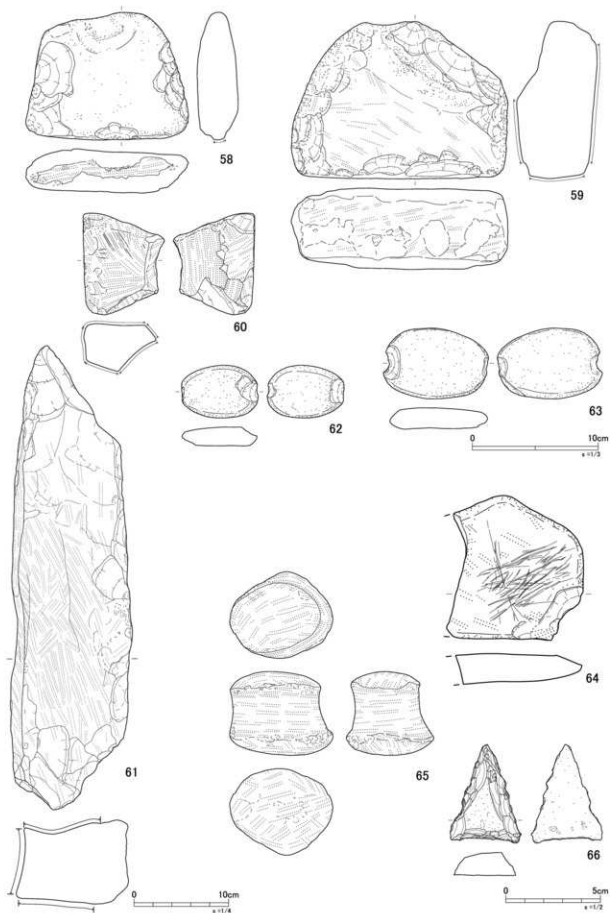


図V-57 包含層出土の石器 (4)



図V-58 包含層出土の石器 (5)





図V-59 包含層出土の石器(6)・石製品

沢を持つ。44は敲打と研磨により加工され、下端部が比較的薄く成形される。玉などの未成品の可能性もある。石材は40・41・44が泥岩製、42・43が緑色泥岩製である。

45～49はたたき石である。45～47は棒状礫、扁平礫の表裏の平坦面にたたき痕を持つものである。45は表裏面に2か所ずつ深い凹状のたたき痕があり、46は表面2か所、裏面1か所に比較的浅いたたき痕がみられる。47は凝灰岩製で、表裏面中央に深い凹状のたたき痕が1か所ずつみられる。48は扁平礫の右側面にたたき痕が連続する。49は下端部が断面形V字の刃部状に加工され、尖った端部にたたき痕がみられる。石材は45・47が凝灰岩製、46が泥岩製、48・49が砂岩製である。

50～55・58はすり石である。50は円礫の全面が擦られる。51は棒状礫の上下端部に明瞭なすり面があり、先端部の断面はV字状である。52・53は断面三角形の礫の稜部にすり面がみられるもので、52は上端の稜部が打ち欠かれる。54・55・58は扁平な礫の稜部にすり面がみられるもので、いずれも下端部の使用面が打ち欠かれている。54・58は両側縁に挟りがあり、被熱し赤色化する。56・57は扁平打製石器で、板状の素材の周縁を打ち欠いて半円状に成形し、長辺の一端を使用面とする。59は北海道式石冠とした。下端部に幅広いすり面があり、表裏面にも平坦なすり面がみられる。左右両側面や上端部は打ち欠きや敲打により成形される。すり石・扁平打製石器・北海道式石冠の石材は50・52・56～59が安山岩製、51・53～55が砂岩製である。

60・61は砥石で、いずれも凝灰岩製である。60は表裏面に曲線的な砥面があり、両側面や割れ面にも擦り痕がみられる。61はH-2近くから出土した大型の「四面砥石」である。右側面は打ち欠き痕が残り、すり痕は明瞭でないが、それ以外の三面は浅く窪んだ砥面が広くみられる。上下端部は打ち欠きにより尖る形状になる。被熱により赤色化し、各面の一部には煤が付着する。

62・63は石錘で、長軸両端に挟りがみられる。石材は62が砂岩製、63が泥岩製である。

石製品 (図V-59-64-66)

64～66は石製品である。64は線刻された礫である。擦られた平坦面に直線的な線刻が多数施される。65は敲打による成形後、全面研磨される。上下端部は丸みがあり、中央部は幅広い溝状でややくびれる形状である。66は裏面からの剥離により三角形に成形される。石材は64が凝灰岩製、65が砂岩製、66が泥岩製である。

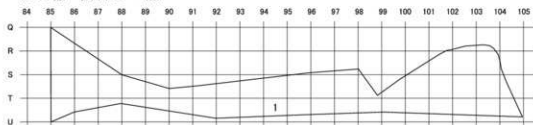
(愛場)

(3) 遺構・包含層出土の旧石器 (図V-62-64-1-12)

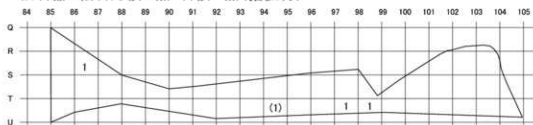
今回の調査で旧石器は61点出土した。分布は調査区中央付近から西側にかけて少数みられ、集中域は確認できなかった(図V-60・61)。層位別にみると、ローム層(VI層)出土は1点のみで、I層出土が20点と最も多い。II、IV層や縄文時代の盛土遺構(M-1・2)からも出土しており、縄文時代以降の擾乱等で本来の出土位置、層位から移動しているものと考えられる。今回、石器の集中や焼土等の遺構は確認できなかったが、上記の擾乱等で壊されている可能性もある。旧石器は縄文時代の石器と石材等が共通しているため区別が困難で、形状等から旧石器と判断できたもののみを抽出した。石材は全て頁岩で、出土器種は、細石刃、細石刃核、細石刃核削片、搔器、削器、石刃、二次加工ある石刃、剥片がある。器種別の点数では、石刃が26点(うち4点は二次加工ある石刃)と最も多く、次いで細石刃核削片が16点、搔器・削器のスクレイパー類が7点で、他は少数である。細石刃核は3点(3個体)出土し、その内2点は美利河型に相当し、削片との接合資料も1個体確認できた。なお、美利河型細石刃核は当遺跡の西側に隣接する札苅5遺跡でも出土している(北理調報294・353)。

1～3は細石刃核である。全て細石刃剥離痕がみられ、石材は頁岩である。1は左右両側面にやや

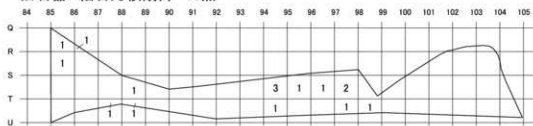
旧石器 細石刃 1点



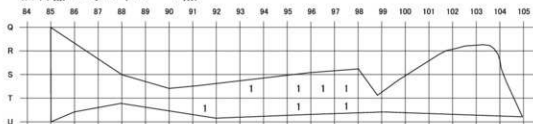
旧石器 細石刃核 3点・石核 1点(括弧付)



旧石器 細石刃核削片 16点



旧石器 スクレイパー 7点



旧石器 二次加工ある石刃 4点

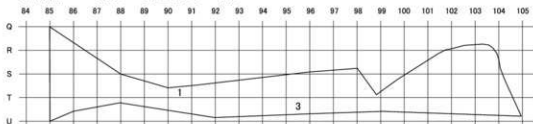
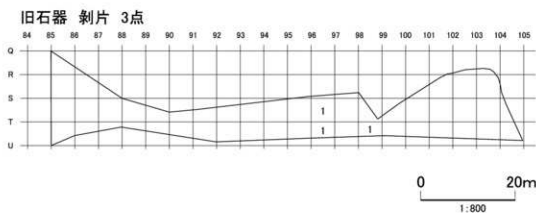
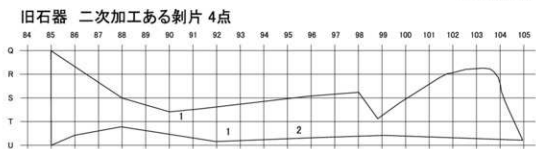
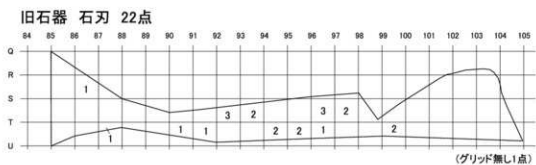


図 V-60 旧石器出土分布図(1)



図V-61 旧石器出土分布図(2)

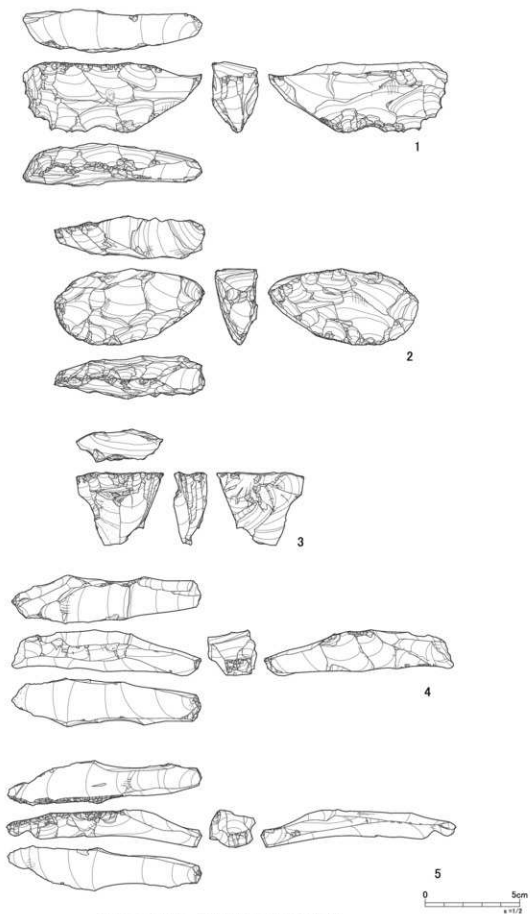
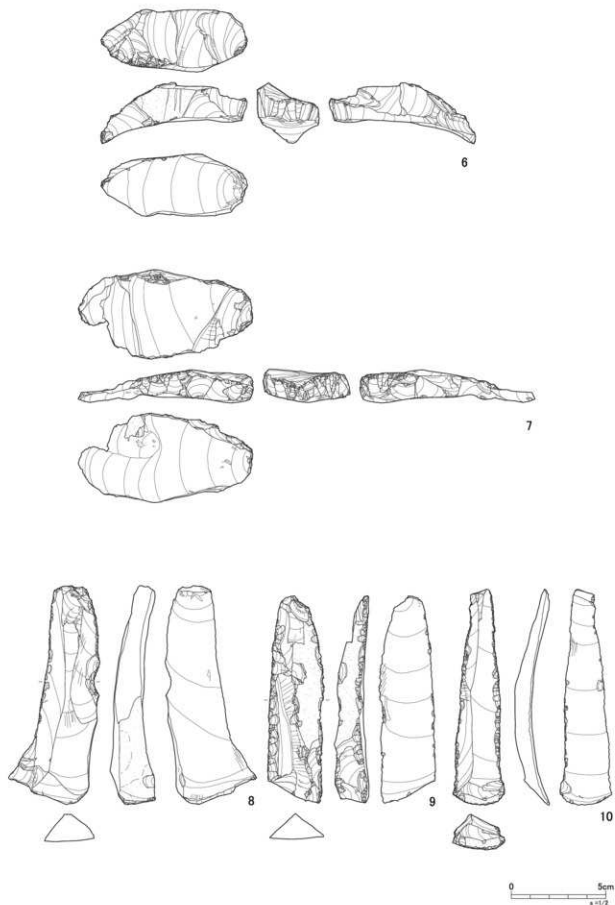
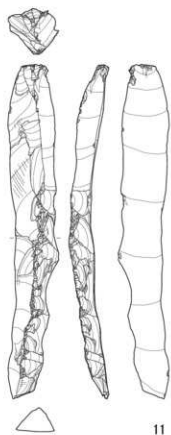


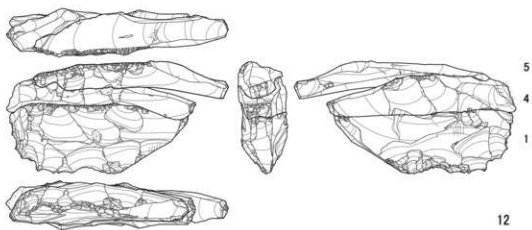
図 V-62 遺構・包含層出土の旧石器 (1)



図V-63 遺構・包含層出土の旧石器(2)



接合資料 1・4・5



図V-64 遺構・包含層出土の旧石器(3)

粗い剥離がみられる。右側面は下縁部に、左側面は細石刃剥離面と反対側の側縁部に細かい二次加工が施される。また、右側面には甲板面からの細かい二次加工がみられる。細石刃剥離痕は幅の広いものと狭いものがみられる。2は左右両側面に平坦剥離が施され、右側面下縁部には連続する細かい剥離がみられる。また、右側面には甲板面からの細かい二次加工が施される。甲板面には4回削片を剥離した痕跡があり、2回目の削片剥離後、右側面から調整が施される。細石刃剥離痕には幅が広く長いものと幅が狭く短いものがみられる。3は大きく欠失するもので、全体の形状は不明である。細石刃剥離面には幅が狭く細長い剥離痕が連続してみられる。左側面には上面からの細かい剥離が施される。

細石刃核削片は16点出土し、4点図示した。4～7は全て二次削片である。4は上面に4本の削片剥離痕がみられる。先行する削片剥離後、削片剥離面から右側面に調整が加えられる。細石刃剥離面には幅が狭く短い剥離痕が連続してみられる。5は上面に2本の削片剥離痕がみられる。先行する削片剥離後、甲板面から左側面に細かい調整が施される。細石刃剥離面には幅が狭く短い剥離痕が連続してみられる。6は幅が広く、腹面はやや左に傾いている。上面には4本の削片剥離痕がみられ、先行する削片剥離後、末端側に左側面から調整が施される。細石刃剥離面の剥離痕は幅が狭いものと広いものがある。7は幅が広く、上面には4本の削片剥離痕がみられる。先行する削片剥離後、上面から両側面に調整が施される。石刃剥離面には幅が狭く不整な剥離痕が連続している。

スクレイパーは7点出土し、3点図示した。8～10は削器で、両側縁に細かい二次加工が施され、急角度の刃部が作出される。全て石刃を素材とする。8は両側縁に細かい二次加工が施され、急角度の刃部が作出される。素材となる石刃はやや大きな単剥離打面で、右側面下部に礫面を残す。9は下部を欠失し、表面に礫面を残す。10は打点側に欠失し、側面はやや湾曲する。

石刃は26点（うち4点は二次加工ある石刃）出土し、1点図示した。11はVI層出土の石刃である。細長い形状で、両側縁に平行する稜線は横位の連続的な調整により直線状に整えられている。打面調整及び頂部調整が施されている。

12は細石刃核1点(1)と削片2点(4・5)の接合資料である。3点共に縄文時代の盛土遺構(M-2)から出土している。最初に削片剥離が行われ、細石刃剥離後、再び削片(5)が剥離される。次に、甲板面から右側面に調整が施された後、最低2回の削片剥離が行われる。その後、細石刃剥離が数回行われ、再度削片(4)が剥離される。次に、甲板面から左側面に連続的な調整が施される。細石刃剥離は数回程度のみ行われ、廃棄されている。

(広田)

表V-1 竪穴住居跡出土土器等点数表

遺物種別・形状・方位		H-1				H-2				H-3		H-4		H-4tpa-1		H-5		H-5tpa-1		H-5bf-1		合計		
時期	部位	床面	覆土	覆土BF	覆土TB	小計	床面	覆土	覆土BF	覆土TB	小計	覆土	覆土BF	小計	覆土	覆土BF	小計	覆土	覆土BF	小計	土		小計	
I期	口縁部	良好																					0	
		剥離									0													0
		摩耗																						0
		小破片																						0
	底面	良好																						0
		剥離																						0
		摩耗																						0
		小破片																						0
	胴部	良好																						2
		剥離																						0
		摩耗																						0
		小破片																						0
I期 小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	2	
II期	口縁部	良好		2	2											1		7					12	
		剥離																	1				0	
		摩耗																					1	
		小破片																						3
	底面	良好		3	6																			12
		剥離																						0
		摩耗																						0
		小破片																						2
	胴部	良好	8	10	40	24										2		102		3	24			214
		剥離																32						4
		摩耗					220				1	1			2		6	32		312		8	85	1
		小破片	5	9	87	19												174						374
II期 小計		13	25	157	52	247	0	1	33	34	1	1	3	4	7	314	314	3	89	92	1	1	0	696
III期	口縁部	良好																					0	
		剥離																						0
		摩耗																						0
		小破片																						0
	底面	良好																						0
		剥離																						0
		摩耗																						0
		小破片																						0
	胴部	良好																						0
		剥離																						0
		摩耗																						0
		小破片																						0
III期 小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
IV期	口縁部	良好			1																		20	
		剥離																						0
		摩耗																						1
		小破片																						0
	底面	良好																						1
		剥離																						0
		摩耗																						0
		小破片																						1
	胴部	良好																						6
		剥離																						0
		摩耗																						0
		小破片																						5
口縁部～胴部	良好																						134	
	剥離																						7	
	摩耗																						1	
	小破片																						37	
IV期 小計		0	0	1	1	2	1	26	7	36	8	8	0	0	0	0	0	53	53	0	0	118	118	217
土製品																							0	
土製品 小計																							0	
合計		13	25	158	53	249	1	29	40	70	8	8	3	4	7	314	314	3	144	147	1	1	118	915

表V-2 土坑出土土器等点数表

遺構名			P-1		P-2		P-4		P-5		P-7		P-8		合計
時期	遺物種別/層位	部位	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	覆土	小計	
I群	口縁部	良好													0
		剝離		0		0		0		0		0		0	0
		摩耗													0
		小破片													0
	底部	良好													0
		剝離		0		0		0		0		0		0	0
		摩耗													0
		小破片													0
	胴部	良好													2
		剝離		0		0		0		0		0		0	0
		摩耗													0
		小破片													0
I群 小計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
II群	口縁部	良好				4						1			5
		剝離		0		4		0		0		1		0	0
		摩耗													0
		小破片													0
	底部	良好	1											2	3
		剝離		5		0		0	1	1		0		2	0
		摩耗							1						1
		小破片	4												4
	胴部	良好	8		29		1		16		1				55
		剝離	1	24	2	89		5		40		3		0	3
		摩耗	2				2		9		1				14
		小破片	13		58		2		15		1				89
II群 小計			29	29	93	93	5	5	41	41	4	4	2	2	174
III群	口縁部	良好													0
		剝離		0		0		0		0		0		0	0
		摩耗													0
		小破片													0
	底部	良好													0
		剝離		0		0		0		0		0		0	0
		摩耗													0
		小破片													0
	胴部	良好													0
		剝離		0		0		0		0		0		0	0
		摩耗													0
		小破片													0
III群 小計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
IV群	口縁部	良好													0
		剝離		0		0		0		0		0		0	0
		摩耗													0
		小破片													0
	底部	良好													0
		剝離		0		0		0		0		0		0	0
		摩耗													0
		小破片													0
	胴部	良好													0
		剝離		0		0		0		0		0		0	0
		摩耗													0
		小破片													0
口縁部 ～胴部	良好													0	
	剝離		0		0		0		0		0		0	0	
	摩耗													0	
	小破片													0	
IV群 小計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
土製品															0
土製品 小計			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計			29	29	93	93	5	5	41	41	4	4	2	2	176

表 V-3 M-1 出土土器等点数表 (1)

遺構名		M-1				M-1ef-1	M-1ef-2	M-1np-1	M-1np-2	M-1np-3	M-1np-4	M-1np-5	M-1np-6	M-1np-7	M-1np-8	M-1np-9	M-1np-10			
種類	部位	器土 小計	器土 小計	器土 小計	小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計			
1階	日縁部	瓦葺	2	1																
		の縁				3														
		葺机																		
		小椀片																		
	組屋	瓦葺																		
		の縁																		
		葺机																		
		小椀片																		
	築部	瓦葺	15	3																
		の縁				19														
		葺机																		
		小椀片																		
1階 小計	17	4		21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
2階	日縁部	瓦葺	259	21	346															
		の縁	5	7		784														
		葺机	7	12																
		小椀片	82	3	43															
	組屋	瓦葺	422	7	399															
		の縁	41	14		1,547														
		葺机	17	7	32															
		小椀片	299	209																
	築部	瓦葺	5,429	87	55,149															
		の縁	202	10	312															
		葺机	599	55	1,129	60,464														
		小椀片	10,336	477	6,406															
2階 小計	15,947	568	26,978	43,012	2	2	2	350	280	282	607	646	646	341	475	875	1,819	1,818	827	827
3階	日縁部	瓦葺		1																
		の縁				1														
		葺机																		
		小椀片																		
	組屋	瓦葺																		
		の縁																		
		葺机																		
		小椀片																		
	築部	瓦葺																		
		の縁																		
		葺机																		
		小椀片																		
3階 小計	3	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
土敷点	1	1	2																	
土敷点 小計	4	0	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	15,970	568	26,585	43,042	2	2	2	350	280	282	607	646	646	341	475	875	1,818	1,818	827	827

遺構名		M-1np-9	M-1np-10	M-1np-11	M-1np-12	M-1np-13	M-1np-14	M-1np-15	M-1np-16	M-1np-17	M-1np-18	M-1np-19	M-1np-20
種類	部位	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計	器土 小計
1階	日縁部	瓦葺											
		の縁											
		葺机											
		小椀片											
	組屋	瓦葺											
		の縁											
		葺机											
		小椀片											
	築部	瓦葺											
		の縁											
		葺机											
		小椀片											
1階 小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2階	日縁部	瓦葺	6	4									
		の縁	19	5									
		葺机	6	1									
		小椀片	9	1									
	組屋	瓦葺	13	9	4								
		の縁	11	15									
		葺机	4	4									
		小椀片	146	76	107	128	164	199	37	202	199	122	143
	築部	瓦葺	10	1	174	127	17	172	4	13	25	4	9
		の縁	246	13		28	632	153	19	262	3	425	12
		葺机	197	97	39	86	234	36	276	237	176	195	243
		小椀片	197	97	39	86	234	36	276	237	176	195	243
2階 小計	390	282	194	194	131	131	197	462	660	937	167	411	
3階	日縁部	瓦葺											
		の縁											
		葺机											
		小椀片											
	組屋	瓦葺											
		の縁											
		葺机											
		小椀片											
	築部	瓦葺											
		の縁											
		葺机											
		小椀片											
3階 小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
土敷点	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
土敷点 小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	390	282	194	194	131	131	197	462	660	937	167	411	

表V-3 M-1出土土器等点数表(2)

遺構名		M-1 eps-21		M-1 eps-22		M-1 eps-23		M-1 eps-24		M-1 eps-25		M-1 eps-26		M-1 eps-27		M-1 eps-28		M-1 eps-29		M-1 eps-30		M-1 eps-31		
時期	遺物種別・部位	富士瓦	小鉢	富士瓦	小鉢	富士瓦	小鉢	富士瓦	小鉢	富士瓦	小鉢	富士瓦	小鉢	富士瓦	小鉢	富士瓦	小鉢	富士瓦	小鉢	富士瓦	小鉢	富士瓦	小鉢	
		1期	口縁部																					
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部	27	66	7	7	9	2	2	3	3	1	26	27	27	9	27	27	27	27	27	27	27	27	27
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部	11	4	206	13	7	4	4	6	1	3	11	86	10	4	36	1	30	10	10	10	10	10	10
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部	3,905	3,905	6,059	464	464	579	351	351	131	131	244	244	244	521	521	1,997	1,997	950	950	379	379	379	379
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部																							
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部																							
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部																							
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部																							
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部																							
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部																							
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部																							
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部																							
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部																							
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部																							
	自身																							
	の縁																							
	底部																							
	小鉢片																							
	2期																							
	口縁部																							
	自身																							

表V-4 M-2出土土器等点数表

遺構名		M-2				M-2mps-1		M-2mps-2		M-2mfc-3		M-2mfc-4		合計	
時期	遺物種別/部位	盛土	盛土BY	盛土YB	小計	盛土YB	小計	盛土YB	小計	盛土YB	小計	盛土BY	小計		
I群	口縁部	残存状態												0	
		良好												0	
		剝離				0		0		0		0		0	
		摩耗												0	
	底部	小破片												0	
		良好												0	
		剝離				0		0		0		0		0	
		摩耗												0	
	胴部	小破片												0	
		良好												0	
		剝離				0		0		0		0		0	
		摩耗												0	
I群 小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
II群	口縁部	良好		38	47		10		4					99	
		剝離												1	
		摩耗	1	1	4	108		11		4		0		2	6
		小破片			12		1						2		19
	底部	良好		28	66		3		5						92
		剝離		3	3	135								1	6
		摩耗		3	8			5		6		0			11
		小破片		3	31		2		1				1		38
	胴部	良好	7	313	532		90		46		2		7		997
		剝離		27	35	2,690	1		1		6				70
		摩耗		52	125		2	309		318	14	86	9	40	202
		小破片	41	494	1,064		216		271		64		24		2,174
II群 小計		49	966	1,918	2,933	325	325	328	328	86	86	43	43	3,715	
III群	口縁部	良好			1									1	
		剝離												0	
		摩耗				1		0		0		0		0	
		小破片												0	
	底部	良好												0	
		剝離												0	
		摩耗				0		0		0		0		0	
		小破片												0	
	胴部	良好												0	
		剝離												0	
		摩耗				0		0		0		0		0	
		小破片												0	
III群 小計		0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
IV群	口縁部	良好												0	
		剝離												0	
		摩耗				0		0		0		0		0	
		小破片												0	
	底部	良好			3										3
		剝離												0	
		摩耗				5		0		0		0		0	
		小破片			2										2
	胴部	良好		1											1
		剝離												0	
		摩耗				1		0		0		0		0	
		小破片												0	
口縁部 ～胴部	良好													0	
	剝離												0		
	摩耗												0		
	小破片												0		
IV群 小計		0	1	5	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	
土製品			3	1	4									4	
土製品 小計		0	3	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
合計		49	970	1,925	2,944	325	325	328	328	86	86	43	43	3,726	

表V-5 竪穴住居跡出土石器等点数表(1)

遺構名	遺物種別・部位	H-1				H-1b/c-1		H-1b/c-2		H-1h.p-1		H-1h.p-2		H-1h.p-4		H-1h.p-5		H-1h.p-6			
		高筒	覆土器	覆土器	小計	覆土器	小計	覆土器	小計	覆土器	小計	覆土器	小計	覆土器	小計	覆土器	小計	覆土器	小計		
割片石器類	石鏃	尖形	1	1	1	1															
		鎌形																			
		手形				3	1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		片																			
	割片(他部)																				
	石槍・ナイフ	尖形																			
		鎌形																			
		手形	1			1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		片																			
	石鏃	尖形																			
		鎌形																			
		手形				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		片																			
	つばみけナイフ	尖形		1	1	1															
		鎌形																			
		手形				3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		片																			
	スタレイバー	尖形	1	2	1	2															
		鎌形	2																		
		手形			3	1	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		片	1																		
	H・Rフレイク	尖形																			
鎌形																					
手形					14	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0			
片																					
両面調整の石	尖形					1									2						
	鎌形				1		1														
	手形				2	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	片																				
石銃	尖形																				
	鎌形																				
	手形				16	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	片																				
フレイク	尖形																				
	鎌形																				
	手形				1,354		802		130		3	2	3	1		5					
	片																				
割片石器類 合計	原石	66	339	592	357	802		130		3	2	3	1		5						
	不明	1	1	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
H・Rレキ	尖形					2															
	鎌形																				
	手形																				
	片																				
磯	尖形	7	8	11	7																
	鎌形	2	2	11	3	81															
	手形																				
	不明																				
磯 合計	不明	9	11	22	10	53	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	不明																				
磯石群	磨製石弁	尖形																			
		鎌形																			
		手形				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		片																			
	たたく石	尖形	1		2																
		鎌形																			
		手形				1	4														
		片																			
	十九石	尖形																			
		鎌形																			
		手形				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		片																			
	扁平打製石器	尖形																			
		鎌形																			
手形					1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
片				1																	
石鏃	尖形																				
	鎌形																				
	手形				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	片																				
砥石	尖形																				
	鎌形																				
	手形				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	片																				
舟石・石皿	尖形																				
	鎌形																				
	手形				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	片																				
磯石群 合計	不明	1	1	2	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	不明																				
石製品	石製品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	不明																				
合計	不明	81	364	637	386	1,468	410	410	135	135	3	3	2	2	5	5	1	1	5		
	不明																				

表V-5 竪穴住居跡出土石器等点数表(2)

遺物種別/層位	H-2					小計	H-3		H-4				H-5		H-6a-f		H-6g-f		小計	合計																						
	床面	階上	階上	階上	階上		階上	階上	階上	階上	階上	階上	階上	階上	階上	階上	階上	階上			階上																					
削片/石片群	石鏃	完成			3								1							4																						
		磨面中			1				1											2																						
		半形					2	0												2	8																					
		片																		0																						
		磨面中/折片																		0																						
	石鏃・ナイフ	完成																			0																					
		磨面中																			0																					
		半形					0	0			0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	3																					
		片																		0																						
		磨面中/折片																		0																						
	石鏃	完成																			0																					
		磨面中																			0																					
		半形					0	0			0		0	0	0	0	0	0	0	0	0																					
		片																		0																						
		磨面中/折片																		0																						
	つまみ付きナイフ	完成																			0																					
		磨面中																			0																					
		半形				1		1	0			0		0	0	0	0	0	0	1	1																					
		片																		0																						
		磨面中/折片																		0																						
スクレイパー	完成												1							1																						
	磨面中																			0																						
	半形	1				1	0		0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2	20																						
	片																		1																							
	磨面中/折片																		0																							
D・Eフレイク	完成												2							2																						
	磨面中																			0																						
	半形					4	0			1		3	0	0	0	0	0	0	8	24																						
	片																		0																							
	磨面中/折片	1			3				1		1								5																							
両面磨削石鏃	完成																			1																						
	磨面中																			0																						
	半形					0	0			0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	5																						
	片																		0																							
	磨面中/折片																		0																							
石鏃	完成																			0																						
	磨面中																			0																						
	半形					2	0			0		1	0	0	0	0	0	0	3	25																						
	片																		0																							
	磨面中/折片				1	1						1							3																							
フレイク	完成																			0																						
	磨面中																			0																						
	半形					172													172	2,452																						
	片						02						56		200	7	17		0																							
	磨面中/折片	12	3	23	140	33	43	22	3	22	9	0	225	7	12	12	3	472	2,472																							
原石																			0	1																						
削片石群群 合計																					15	3	24	116	24	182	42	42	22	3	24	9	56	5	200	293	7	7	17	17	2,546	
塊	I・Eレキ	完成																			0																					
		磨面中																				0																				
		半形					1	0				2	1	0	0	0	0	0	0	3	6																					
		片																				0																				
		磨面中/折片																				0																				
塊	C	完成	3																	1	31																					
		磨面中																				0																				
		半形																				0																				
		片					4	2	15				2	1	4	1	3	11	1	1	2	34																				
		磨面中/折片																				0																				
塊 合計																					5	0	0	0	9	2	16	0	0	0	0	5	1	6	1	11	12	1	1	3	2	81
塊石群群	磨製石片	完成																			0																					
		磨面中																				1																				
		半形						1	0					0		0	0	0	0	0	1																					
		片																				0																				
		磨面中/折片																				0																				
	たたま石	完成	2																		1	6																				
		磨面中																				0																				
		半形																				0																				
		片																				1																				
		磨面中/折片																				0																				
	やわ石	完成																				0																				
		磨面中																				0																				
		半形																				0																				
		片																				0																				
		磨面中/折片																				0																				
	扁平打製石鏃	完成																				1																				
		磨面中																				0																				
		半形						1	1	0	0		1	0	0	0	0	0	0	1	3																					
		片																				1																				
		磨面中/折片																				0																				
石鏃	完成																				0																					
	磨面中																				0																					
	半形																				0																					
	片																				0																					
	磨面中/折片																				0																					
砥石	完成																				0																					
	磨面中																				0																					
	半形																				0																					
	片																				0																					
	磨面中/折片																				0																					
打石・石鏃	完成																				0																					
	磨面中																				0																					
	半形																				0																					
	片																				0																					
	磨面中/折片																				0																					
塊石群群 合計																					2	0	0	3	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	12	
石製品	石製品	完成																			0																					
		磨面中																				0																				
石製品 合計																					0																					

表V-6 土坑出土石器等点数表

遺構名		F-1		F-2		F-3		F-4		F-5		F-6		F-7		F-8		F-9		小計	合計			
遺物種別/層位	種別・形態	坑底	層上	小計	層上	小計	層上	小計	層上	小計	層上	小計	坑底	層上	小計	坑底	層上	小計	層上			小計		
前片石器群	石鏃	定形																			0			
		変形																				0		
		半形	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0					0	1	
		片																				0		
	石鏃・ナイフ	定形																				0		
		変形																				0		
		半形	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0	
		片																				0		
	石鏃	定形																				0		
		変形																				0		
		半形	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0	
		片																				0		
	つまみ付きナイフ	定形															1					0		
		変形																				0		
		半形	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1				0	1	
		片																				0		
	スクレイパー	定形			1																	1		
		変形				1																0		
		半形	0		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	1	
		片																				0		
	U・Mフレイク	定形																				0		
		変形																				0		
		半形	1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	1	
		片		1																		1		
	両面調整石器	定形																				0		
変形																					0			
半形		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0		
片																					0			
石鏃	定形																				0			
	変形																				0			
	半形	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0		
	片																				0			
フレイク	定形																				0			
	変形																				0			
	半形			216	90	9	1		20	1				61	10						1	0		
	片																				0			
原石	前後分削のみ	216		80		9	1		20		1		2	60		1	9		1		203			
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
前片石器群 合計		0	217	217	81	81	9	9	1	1	20	20	4	4	2	61	63	2	9	11	0	1	1	
礫	E・Mモレキ	定形																			0			
		変形																			0			
		半形	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		1						0	1		
		片																				1		
	礫	定形	3		3				2													11		
		変形	6		9		15	0	1	1	1	3	0									17		
		半形																				0	0	
		片																				0		
	礫 合計		0	9	9	18	18	0	0	1	1	3	3	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	
	礫石器群	磨製石器	定形																			1		
			変形																			0		
			半形	1		1		0	0	0	0	0	0	0		0						1	0	
			片																				0	
		たたき石	定形																				0	
			変形																				0	
半形			0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		0						0	0		
片																						0		
すり石		定形															2					0		
		変形																				0		
		半形	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		2						0	2		
		片																				0		
扁平打製石器		定形																				2		
		変形	1		2		1		0	0	0	0	0		0						0	2		
		半形																				0	0	
	片		1																		1			
石鏃	定形																				0			
	変形																				0			
	半形	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		0						0	0			
	片																				0			
硯石	定形																				0			
	変形																				0			
	半形	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		0						0	0			
	片																				0			
台石・彩藍	定形																				0			
	変形																				0			
	半形	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0		0						0	0			
	片																				0			
礫石器群 合計		2	1	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	0	0	1	0		
石製品	石製品																				0	0		
	定形																				0	0		
石製品 合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
総計		2	227	229	90	89	10	10	2	2	23	23	4	4	4	62	66	2	9	11	1	1		

表V-7 M-1 出土石器等点数表(1)

品名	遺物種別・用途	M-1			小計	M-haf-1		M-haf-2		M-haf-3		M-haf-4		M-haf-5		M-haf-6		M-haf-7		M-haf-8					
		出土 数	出土 種	出土 種		出土 数	出土 種	出土 数	出土 種	出土 数	出土 種	出土 数	出土 種	出土 数	出土 種	出土 数	出土 種	出土 数	出土 種	出土 数	出土 種	出土 数	出土 種		
新石器	石錐	定形	12	1	16																				
		学生形			4																				
		半形	2		6	41		0				0		0		0		0		0		0		0	
		その他			10																				
	石錐・ノコ	定形	10	1	9																				
		学生形			4																				
		半形	20	3	10	73		0		0	0	1	0	1	1	0	1	1	0	0		0	0		
		その他			1																				
	石錐	定形	3		6																				
		学生形	1		1	10		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0		
		半形	1		1																				
		その他			1																				
	石ノコ	定形	4		25																		1		
		学生形	1		1	46		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	1	0	
半形		1	1	4																					
その他				1																					
スクリュー	定形	47	2	77																					
	学生形	20	2	80																					
	半形	24	2	25	25		0		0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1			
	その他			10																					
石ノコ	定形			1																					
	学生形			1	60		1		1		0		0	2	1		0	1			1		1		
	半形			1																					
	その他			177	6	316	1		1				2	3							1	1			
両面調整石	定形	5	1	19																					
	学生形	1	2	2																					
	半形	6	1	30	70		0		0	1	3	0	3	0	0	0	0	0	0		0	0	0		
	その他	5	1	13																					
石	定形	40	6	151	230					1	1	1	1	0	2	2	0	3	2						
	その他	14,724	404	17,204	32,006	15	05	25	27	2,303	2,303	436	436	90	50	635	635	417	417	42	43	714	714	364	364
石	定形	22		26	48					0	0	0	0	0	1	1									
石	定形	15,191	512	18,089	35,792	16	16	25	25	2,302	2,302	446	446	51	51	619	619	423	423	64	64	719	719	366	366
新石器	スクリュー	定形	3		4																				
		学生形			1																				
		半形	1		1	4		0		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		その他			1																				
	石ノコ	定形			1																				
		学生形			1	1		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		半形	1	1	0	0																			
		その他			4																				
	石ノコ	定形			5	9		0		0															
		学生形			2																				
		半形			2																				
		その他			2																				
	石ノコ	定形			2	2																			
		学生形			1	1		0		0															
半形				2																					
その他				1																					
石ノコ	定形	3	1	19	23		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	学生形																								
	半形			14			0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	その他			1																					
石	定形	18	1	27																					
	学生形			170	2	314																			
	半形	142	9	250	740		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	その他			1																					
石	定形	349	13	422	764		0		2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
	学生形			2																					
	半形	1		4	27		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	
	その他	4		14																					
石	定形	25		23																					
	学生形			23																					
	半形	3		3	36		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	
	その他			1																					
石	定形	2		4																					
	学生形			1	27		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	
	半形	1		4																					
	その他			3																					
石	定形	2		4																					
	学生形			1	27		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	半形	1		4																					
	その他			3																					
石	定形	2		2																					
	学生形			1	36		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	半形	1		1																					
	その他			4																					
石	定形			1																					
	学生形			1	2		0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	半形			1																					
	その他			1																					
石	定形	3	1	5																					
	学生形			2																					

表V-7 M-1 出土石器等点数表 (3)

遺物種別	遺物種別	M-1 Lager 8		M-1 Lager 9		M-1 Lager 7		M-1 Lager 8		M-1 Lager 9		M-1 Lager 10		M-1 Lager 11		M-1 Lager 12		M-1 Lager 13		M-1 Lager 15		M-1 Lager 16		M-1 Lager 20			
		出土 個	出土 小計	出土 個	出土 小計	出土 個	出土 小計	出土 個	出土 小計	出土 個	出土 小計	出土 個	出土 小計	出土 個	出土 小計	出土 個	出土 小計	出土 個	出土 小計	出土 個	出土 小計	出土 個	出土 小計	出土 個	出土 小計		
石器	石鏃	定形																									
		変形																									
		不明																									
	石鏃・ナイフ	定形																									
		変形																									
		不明																									
	石鏃	定形																									
		変形																									
		不明																									
	1本目打ナイフ	定形																									
		変形																									
		不明																									
	スクレイパー	定形																									
		変形																									
		不明																									
	3・4・5・6・7・8・9	定形																									
		変形																									
		不明																									
	両面調整石器	定形																									
		変形																									
不明																											
石片	定形																										
	不明																										
フリート	定形																										
	不明																										
石器類数 合計		3	3	1	1	6	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	
骨器類	スクレイパー	定形																									
		変形																									
		不明																									
	骨片	定形																									
		不明																									
	フリート	定形																									
		不明																									
	骨器類数 合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	縄文	定形																									
		不明																									
縄文	縄文	定形																									
		変形																									
		不明																									
	縄文	定形																									
		不明																									
	縄文	定形																									
		不明																									
	縄文	定形																									
		不明																									
	縄文類数 合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
土製品	定形																										
	不明																										
土製品 合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
縄文類数 合計		3	3	1	1	6	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1	

表V-7 M-1 出土石器等点数表 (4)

遺物名	遺物種別・用途	M-1epor-21		M-1epor-22		M-1epor-23		M-1epor-24		M-1epor-25		M-1epor-26		M-1epor-27		小計	合計			
		出土層	小計	出土層	小計	出土層	小計	出土層	小計	出土層	小計	出土層	小計	出土層	小計					
石鏡	定形															20	47			
	準定形															4				
	変形	0		0		0		0		0		0		0	0	0				
	片															0				
	磨面跡のみ															0				
	定形															26		83		
	準定形	0		0		0		0		0		0		0	0					
	変形															2				
	片															0				
	磨面跡のみ															0				
	定形															9			10	
	準定形	0		0		0		0		0		0		0	0					
	変形															1				
	片															1				
	磨面跡のみ															0				
	定形															32		49		
	準定形	0		0		0		0		0		0		0	0					
変形															2					
片															0					
磨面跡のみ															1					
定形															122	264				
準定形	0		0		0		0		0		0		0	0						
変形															0					
片															0					
磨面跡のみ															29					
定形															0		423			
準定形	0		0		0		0		0		0		0	0						
変形															0					
片															0					
磨面跡のみ															423					
定形															28	45				
準定形	0		0		0		0		0		0		0	0						
変形															3					
片															27					
磨面跡のみ															24					
定形															0		233			
準定形	0		0		0		0		0		0		0	0						
変形															0					
片															0					
磨面跡のみ															0					
定形	4	4	13	13	1	1	0	1	1	4	4	2	2	1	1	2		2	42,096	45,096
準定形	0		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0		
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43,334	
準定形	0		0		0		0		0		0		0		0		0			
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		4
準定形	0		0		0		0		0		0		0		0		0			
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17	
準定形	0		0		0		0		0		0		0		0		0			
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		23
準定形	0		0		0		0		0		0		0		0		0			
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23	
準定形	0		0		0		0		0		0		0		0		0			
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		392
準定形	0		0		0		0		0		0		0		0		0			
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	
準定形	0		0		0		0		0		0		0		0		0			
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		56
準定形	0		0		0		0		0		0		0		0		0			
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37	
準定形	0		0		0		0		0		0		0		0		0			
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		70
準定形	0		0		0		0		0		0		0		0		0			
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	
準定形	0		0		0		0		0		0		0		0		0			
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		17
準定形	0		0		0		0		0		0		0		0		0			
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
準定形	0		0		0		0		0		0		0		0		0			
変形																				
片																				
磨面跡のみ																				
定形	0	0	0																	

表V-9 包含層出土土器等点数表

遺物種別/ 部位		層位		I層		II層		IV層		V層		F層		合計		
時期	部位	残存状態														
I群	口縁部	良好						7							9	
		剝離	2	小計					0						0	
		摩耗			2		0		8		0		0		0	10
		小破片							1						1	
	底部	良好		小計					小計		小計		小計		0	小計
		剝離													0	
		摩耗													0	
		小破片	0		0		0		0		0		0		0	0
	胴部	良好	9	小計					37		5				51	
		剝離							1						1	小計
		摩耗													0	
		小破片			9		0				5		0		0	62
小計		11		0		56		5		0		72				
II群	口縁部	良好	113	小計	4	小計	95	小計	17	小計	6	小計	235	小計		
		剝離	4		1		1		2		0		8			
		摩耗	4		1		26		0		23		9		31	
		小破片	16	137	6		15	137	4		3		38		312	
	底部	良好	209	小計	2	小計	140	小計	25	小計	10	小計	386	小計		
		剝離					1		3				4			
		摩耗	20	298	2	4	35	197	4	41	8	18	69	558		
		小破片	69				21		9				99			
	胴部	良好	2,002	小計	74	小計	1,339	小計	133	小計	89	小計	3,637	小計		
		剝離	119		1		103		10		10		243			
		摩耗	494	6,000	32	214	741	4,703	43	474	86	496	1,396	11,887		
		小破片	3,385		107		2,520		288		311		6,611			
小計		6,435		224		5,037		538		523		12,757				
III群	口縁部	良好	2	小計	2	小計	4	小計		小計		小計	8	小計		
		剝離											0			
		摩耗			2		2		4		0		0	8		
		小破片											0			
	底部	良好		小計		小計		小計		小計		小計	0	小計		
		剝離											0			
		摩耗			0		0		0		0		0	0		
		小破片											0			
	胴部	良好	15	小計		小計	13	小計		小計		小計	28	小計		
		剝離											0			
		摩耗			18		0		13		0		0	31		
		小破片	3										3			
小計		20		2		17		0		0		39				
IV群	口縁部	良好	16	小計		小計	132	小計	1	小計		小計	149	小計		
		剝離											0			
		摩耗			19		0		6		1		0	158		
		小破片	3										9			
	底部	良好	7	小計		小計	45	小計	1	小計		小計	53	小計		
		剝離					1						1			
		摩耗			8		0		1		1		4		59	
		小破片	1						3							
	胴部	良好	145	小計	3	小計	803	小計	3	小計		小計	954	小計		
		剝離	8				37						45			
		摩耗	1	188	1	4	50	1,248		3		0	51	1,443		
		小破片	34				358						393			
小計		215		4		1,436		5		0		1,660				
V群	口縁部	良好		小計		小計		小計		小計		小計	0	小計		
		剝離											0			
		摩耗	0		0		0		0		0		0	0		
		小破片											0			
	底部	良好		小計		小計		小計		小計		小計	0	小計		
		剝離											0			
		摩耗			0		0		0		0		0	0		
		小破片	0		0								0			
	胴部	良好		小計		小計	1	小計		小計		小計	1	小計		
		剝離											0			
		摩耗			0		0		1		0		0	1		
		小破片	0		0								0			
小計		0		0		1		0		0		1				
土製品		積成粘土塊		4		6		10		10		10				
合計		6,685		230		6,553		548		523		14,539				

表V-10 包含層出土石器等点数表(1)

群	遺物種別		I層	II層	IV層	V層	VI層	F層	F層 IV層	合計	
	器種	残存状態									
剥片石器群	石鏃	完形	14		12	1				30	
		準完形	3	小計	2	小計				5	
		半形	6		2						8
		片		23	3	1	18	1	0	0	1
		器種分類のみ				1					1
	石槍・ナイフ	完形	6	小計	1	3	2				12
		準完形	2		小計	1	小計				3
		半形	23			10					33
		片	1	33	1	2	16	2	0	0	3
		器種分類のみ	1								1
	石鏃	完形	4	小計		3	小計				7
		準完形				1					1
		半形	1								1
		片	1	6	0		4	0	0	0	1
	トモエゴテナイフ	完形	11	小計	1	13	小計				25
		準完形	2			3					5
		半形	2			5					7
		片	1	16	1	3	24	0	0	0	4
	スクレイパー	完形	49	小計	4	49	6				108
		準完形	18		2	14	小計				34
		半形	18			22	1				41
		片	18	105	1	7	13	99	1	8	33
		器種分類のみ	2			1					3
	トモエナイフ	完形		小計			小計				0
		準完形									0
		半形									0
片			222	10		195	12	0	1	0	
表面調整石器	完形	17	小計		17	小計				34	
	準完形	4			2	1				7	
	半形	11			6	1				18	
	片	9	41	1	1	5	30	2	0	15	
	器種分類のみ									0	
石核	完形		小計			小計				0	
	準完形									0	
	半形									0	
	片		143		14	137	10	0	0	0	
フレイク	完形									0	
	準完形		小計			小計				53	
	半形									0	
	片		13,012		774	11,987	678	1	195	6	
	器種分類のみ	12,959		774	11,987	678	1	195	6	26,600	
原石	完形	1	小計		1	小計				2	
	準完形									0	
	半形									0	
	片		25		3	21	0	0	0	0	
	器種分類のみ	24		3	20					47	
剥片石器群合計			13,626	814	12,531	713	1	196	6	27,887	

表V-10 包含層出土石器等点数表(2)

遺物種別		I層	II層	IV層	V層	VI層	F層	F層 IV層	合計		
群	器種									残存状態	
旧石器群	ステレイン	完形	1						1		
		準完形	1	小計	小計	小計	小計	小計	1		
		片	2	0	1	1	0	0	0	1	
	細石刃核	完形	1	小計	小計	小計	小計	小計	小計	1	
		片			1					1	
		器種分類のみ	1	0	1	0	0	0	0	2	
	石月	完形	1				1			2	
		準完形	2	小計	小計	小計	小計	小計	小計	2	
		半形	2							2	
		片	4	9	1	1	0	0	1	0	5
	扇片	片	0	0		2				2	
		完形	3	小計	2	1	小計	小計	小計	6	
		準完形	1			1	小計		小計	4	
		片	1	5	2	2	0	0	2	1	11
	フレイク	1	1		1	1				2	
	2	2							2		
旧石器群合計		20	3	7	0	1	2	0	33		
縄石器群	磨製石斧	完形		小計	4	小計	小計	小計	小計	4	
		準完形	4							4	
		半形	3			2				5	
		片	10	17	1	6	13	0	0	0	17
	器種分類のみ				1					1	
	たたき石	完形	19	小計	2	小計	23	小計	小計	小計	41
		準完形									0
		半形	3			3		1			5
		片	1	23	2	5	32	1	0	0	8
	器種分類のみ				1					1	
	すり石	完形	4	小計	小計	6	小計	2	小計	小計	12
		準完形	1			2		1			4
		半形	3			3		1			7
		片	3	11	0	6	17	4	0	0	9
	器種分類のみ									0	
	北海道石刃	完形	0	小計	小計	小計	1	小計	小計	小計	1
		準完形									0
		半形						1			1
		片	1	1	0	0		1	0	0	2
	器種分類のみ									0	
	扁平打製石刃	完形	4	小計	小計	1	小計	小計	小計	小計	5
		準完形	3			1					5
		半形	9			6					15
		片	6	22	1	3	11	0	0	0	9
	器種分類のみ									0	
	石鏢	完形		小計	小計	1	小計	1	小計	小計	2
		準完形									0
半形		1								1	
片			1	0		1	1	0	0	0	
器種分類のみ									0		
砥石	完形	3	小計	小計	1	小計	小計	小計	小計	4	
	準完形	1								1	
	半形	1								1	
	片	4	9	1	1	3	4	0	0	8	
器種分類のみ									0		
縄石器群合計		84	5	78	7	0	0	0	174		
縄	U・Rレキ	完形		小計		小計	小計	小計	小計	0	
		片								0	
		器種分類のみ	22	22	2	2	20	20	4	4	0
	縄	完形	21	小計	15	小計	335	小計	41	小計	414
		片	12		7		291	34			345
		器種分類のみ	33		22		626	75			0
縄合計		55	24	646	79	0	3	0	807		
石製品	石製品	完形	2		1	1		0	0	4	
石製品 合計		2	0	1	1	0	0	0	4		
合計		13,787	846	13,262	800	2	201	6	28,905		

表V-11 遺構出土の掲載復元土器一覧(1)

遺構番号	出土位置	層位	器種	形状・寸法	重量(g)	色相(肉眼)	色相(顕微鏡)	土質	土質の強さ	文様	装飾の部位	分類	胎式	備考
V-2 1	24	M-1 m p 1-1	片断	底径 6 高さ 15.0	—	22.6	に濃い黄褐色 10YR7/3	中量	白色石灰 少量	多量結晶体 底面：ナツ型文字 前面：ナツ型文字	底面：平足 底面：平足	円筒土器 下筒口式	外周： 一部化粧付着	
V-2 2	20	M-1 m p 1-2	鉢	口径 11.8 小径 6 高さ 5	—	5	黄褐色 10YR5/2	なし	石灰 細粒少量	口縁部：内周 細線・口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：内周 細線・口縁部：平足 底面：平足	円筒土器 下筒口式	外周：上部 内周：上部 内周：下部 化粧付着	
V-2 3	20	M-1 m p 1-2	罐土皿	口径 3 底径 3 高さ 3	—	10.5	に濃い黄褐色 7.5YR5/3	なし	石灰 細粒少量	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：平足 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	内周： 化粧付着	
V-2 4	24	M-1 m p 1-4	罐土皿	口径 20 底径 20 高さ 13.6	—	—	黄褐色 10YR5/4	多量	石灰 少量	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：口縁部 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	外周：上部・化粧付着 内周：上部・化粧付着 内周：下部 化粧付着	
V-2 5	20	M-1 m p 1-5	罐土皿	口径 36 底径 36 高さ 27.2	21	—	に濃い黄褐色 10YR7/3	なし	石灰 細粒	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：口縁部 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	内周：下部 化粧付着	
V-2 6	20	M-1 m p 1-6	罐土皿	口径 61 底径 61 高さ 37.9	19.4	—	に濃い黄褐色 10YR5/4	多量	石灰 少量	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：平足 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	外周：上部・化粧付着 内周：上部・化粧付着 内周：下部 化粧付着	
V-2 7	20	M-1 m p 1-7	罐土皿	口径 61 底径 61 高さ 37.9	9.8	—	黄褐色 10YR5/4	多量	石灰 少量	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：平足 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	外周： 化粧付着	
V-2 8	20	M-1 m p 1-8	罐土皿	口径 74 底径 74 高さ 37.9	18.4	10.6	に濃い黄褐色 10YR5/4	多量	石灰 少量	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：平足 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	外周：上部・化粧付着 内周：上部・化粧付着 内周：下部 化粧付着	
V-2 9	21	M-1 m p 1-9	罐土皿	口径 121 底径 121 高さ 62.5	24.4	—	に濃い黄褐色 10YR5/4	多量	石灰 少量	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：平足 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	外周：上部・化粧付着 内周：上部・化粧付着 内周：下部 化粧付着	
V-2 10	21	M-1 m p 1-10	罐土皿	口径 89 底径 89 高さ 38.8	23.4	10.6	に濃い黄褐色 10YR7/3	多量	石灰 少量	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：平足 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	外周：上部・化粧付着 内周：上部・化粧付着 内周：下部 化粧付着	
V-2 11	24	M-1 m p 1-11	罐土皿	口径 66 底径 66 高さ 34.0	23.6	—	灰白色 10YR10/2	中量	石灰 少量	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：平足 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	外周：上部・化粧付着 内周：上部・化粧付着 内周：下部 化粧付着	
V-4 12	21	M-1 m p 1-12	罐土皿	口径 81 底径 81 高さ 38	—	13.2	に濃い黄褐色 10YR5/4	多量	石灰 少量	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：平足 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	外周：上部・化粧付着 内周：上部・化粧付着 内周：下部 化粧付着	
V-4 13	22	M-1 m p 1-13	罐土皿	口径 143 底径 143 高さ 65.8	20.8	10.6	に濃い黄褐色 7.5YR5/3	少量	石灰 少量	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：平足 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	外周：上部・化粧付着 内周：上部・化粧付着 内周：下部 化粧付着	
V-4 14	22	M-1 m p 1-14	罐土皿	口径 28 底径 28 高さ 16.2	16.8	7	に濃い黄褐色 10YR7/3	多量	石灰 少量	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：平足 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	外周：上部・化粧付着 内周：上部・化粧付着 内周：下部 化粧付着	
V-4 15	22	M-1 m p 1-15	罐土皿	口径 109 底径 109 高さ 51.0	11.4	11.4	に濃い黄褐色 10YR7/3	多量	石灰 少量	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：平足 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	外周：上部・化粧付着 内周：上部・化粧付着 内周：下部 化粧付着	
V-4 16	22	M-1 m p 1-16	罐土皿	口径 41 底径 41 高さ 25	10.4	10.4	灰白色 10YR9/2	多量	石灰 少量	口縁部：平足 底面：口縁部・平足	口径部：平足 底面：口縁部・平足	円筒土器 下筒口式	外周：上部・化粧付着 内周：上部・化粧付着 内周：下部 化粧付着	

表V-11 遺構出土の掲載元土器一覧(2)

調査 番号	調査 層位	出土地帯	調査 位置	器種	形状 (寸法)	色相(内面)	土質	土質の 分類	器種の 形状	分類	器式名	備考
V-4	17	24	M-1 m p 9-9	22	24	10.8	中灰 中量	中量	底面：今や削り履 口縁部：平縁	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	底面：平縁 削り履 外周：底面化粧 底面化粧
V-3	18	23	M-1 m p 9-10	67	24	10.6	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-3	19	23	M-1 m p 9-12	103	24	10.4	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-3	20	23	M-1 m p 9-12	164	24	10.2	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-3	21	23	M-1 m p 9-15	27	24	10.2	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-3	22	24	M-1 m p 9-15	23	24	10.1	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-3	23	24	M-1 m p 9-16 M-1 m p 9-22 M-1 m p 9-22 M-1 m p 9-22 M-1 m p 9-22	20 7 3 3	24	11.8	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-3	24	24	M-1 m p 9-16 M-1 m p 9-22 M-1 m p 9-22	66 8 3	24	11.8	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-4	25	24	M-1 m p 9-22	57	24	10.6	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-4	26	24	M-1 m p 9-22	45	24	10.4	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-4	27	25	M-1 m p 9-22 M-1 m p 9-22 M-1 m p 9-22	49 34 1	24	10.4	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-4	28	25	M-1 m p 9-22 M-1 m p 9-22	34 1	24	10.4	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-4	29	25	M-1 m p 9-22	25	24	10.7	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-4	30	35	M-1 m p 9-22	11	24	10.7	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-4	31	25	M-1 m p 9-22	43	24	10.6	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧
V-4	32	35	M-1 m p 9-22	3	24	10.5	中量	中量	口縁部：平縁 底面：底面化粧	目器土類 下層式式	目器土類 下層式式	外周：底面化粧 削り履 底面化粧

表 V-11 遺構出土の掲載復元土器一覧 (3)

器名	器種	出土地点	層位	出土位置	器高	口径	口径/器高 (cm)	色相 (内面)	重量	土質	加工	用途	文様	出所	図説	分類	形式名	備考
V-6	33	25	M-1T195C M-1T200C	盛土IV 盛土V	9 16	6.1 (12.7)	—	にじい・褐色 7.5J96.3	多量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-7	34	26	M-1 M p s-1	盛土IV 盛土V	102 175	24.8 13.6	—	黄褐色 10YR7.5/3	多量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-7	35	26	M-1 M p s-1 M-1T195C	盛土IV 盛土V 盛土V	23 20 3	25.5 —	—	黄褐色 10YR7.5/3	中量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-7	36	26	M-1 M p s-1	盛土IV 盛土V	49	8.7 (22.1)	—	にじい・褐色 7.5J96.3	多量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-7	37	26	M-1 M p s-13	盛土IV 盛土V	139	45.1 19.8	10	にじい・褐色 7.5J95.4	多量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-7	28	27	M-1 M p s-19	盛土IV 盛土V	47 49	—	8.5	にじい・褐色 7.5J96.3	中量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-8	39	27	M-1 M p s-20	盛土IV 盛土V	46	—	—	にじい・褐色 10YR5.4	多量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-8	40	27	M-1 M p s-21	盛土IV 盛土V	94	37.9 16	8.9	にじい・褐色 10YR7.5/3	多量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-8	41	27	M-1 M p s-21	盛土IV 盛土V	75	31.2 15.8	8.6	にじい・褐色 7.5J96.3	多量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-8	42	28	M-1 M p s-21 M-1T195C	盛土IV 盛土V 盛土V	93 130 37	38.1 —	9.7	白色 10YR7/4	中量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-8	43	28	M-1 M p s-21	盛土IV 盛土V	30	—	9	にじい・褐色 10YR5.4	多量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-8	44	35	M-1 M p s-21	盛土IV 盛土V	15	15.4 (12.7)	—	にじい・褐色 10YR6.4	中量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-8	45	28	M-1 M p s-21 M-1T195C	盛土IV 盛土V 盛土V	130 136 1	28.9 16	8.5	にじい・褐色 10YR7.5/3	多量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-9	46	28	M-1 M p s-22	盛土IV 盛土V	111	51.9 21	11.5	にじい・黄白色 10YR7/4	多量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	
V-9	47	35	M-1 M p s-22	盛土IV 盛土V	25	—	—	にじい 10YR6.4	中量	粘土	刷毛	貯石	無文	ナブ	目形土器	目形土器 下層形式	外面：刷毛目付着	

表V-11 遺構出土の掲載元土器一覧 (4)

調査 番号	調査 位置	出土 層位	器種	数量	器種 (材質)	色相 (外装)	土質	断面 形状	口径 径長	口径	底径	高さ	重量 (g)	用途	文種	出所 調査	埋没の 状況	分類	形式名	備考
V-9	49	M-1 m B.a-22	磁土IV	23	緑色 2.017/A	多量	灰石 少量	口縁部 ~底面	17	—	—	—	—	ナゲ 磨舌	口縁部: 小の深く 内面: 上半部着色	目取土鍋	円筒土鍋 下筒付式	—		
		M-1 m B.a-17	磁土IV	3																
		M-1 m B.a-15	磁土IV	3																
V-9	49	M-1 m B.a-22	磁土IV	53	にがい、黄褐色 10197/4	多量	灰石 少量	口縁部 ~底面	20.5	—	—	—	ナゲ	口縁部: 小の深く 内面: 上半部着色	目取土鍋	円筒土鍋 下筒付式	—			
		M-1 m B.a-20	磁土IV	106																
		M-1 m B.a-17	磁土IV	136																
V-9	51	M-1 m B.a-22	磁土IV	1	にがい、黄褐色 10197/4	多量	灰石 少量	口縁部 ~底面	16.5	10	—	—	ナゲ	口縁部: 小の深く 内面: 上半部着色	目取土鍋	円筒土鍋 下筒付式	—			
		M-1 m B.a-20	磁土IV	75																
		M-1 m B.a-15	磁土IV	30																
V-10	52	M-1 m B.a-30	磁土IV	19	にがい、黄褐色 10197/4	多量	灰石 少量	口縁部 ~底面	20.4	16.4	—	—	ナゲ	口縁部: 小の深く 内面: 上半部着色	目取土鍋	円筒土鍋 下筒付式	—			
		M-1 m B.a-16	磁土IV	19																
		M-1 m B.a-15	磁土IV	1																
V-10	53	M-1 m B.a-22	磁土IV	47	淡黄褐色 10196/3	多量	灰石 少量	口縁部 ~底面	20.2	16.5	8.2	—	ナゲ	口縁部: 小の深く 内面: 上半部着色	目取土鍋	円筒土鍋 下筒付式	—			
		M-1 m B.a-20	磁土IV	85																
		M-1 m B.a-15	磁土IV	18																
V-10	54	M-1 m B.a-22	磁土IV	10	にがい、黄褐色 10197/4	多量	—	口縁部 ~底面	11.6	—	—	—	ナゲ	口縁部: 小の深く 内面: 上半部着色	目取土鍋	円筒土鍋 下筒付式	—			
		M-1 m B.a-20	磁土IV	10																
		M-1 m B.a-15	磁土IV	27																
V-10	55	M-1 m B.a-22	磁土IV	21	にがい、黄褐色 10197/4	中量	白色灰石 少量	口縁部 ~底面	16.0	—	9.2	—	ナゲ 磨舌	口縁部: 小の深く 内面: 上半部着色	目取土鍋	円筒土鍋 下筒付式	—			
		M-1 m B.a-20	磁土IV	30																
		M-1 m B.a-15	磁土IV	3																
V-10	56	M-1 m B.a-22	磁土IV	17	淡黄褐色 10197/4	多量	—	口縁部 ~底面	20.2	17.5	10	—	ナゲ	口縁部: 小の深く 内面: 上半部着色	目取土鍋	円筒土鍋 下筒付式	—			
		M-1 m B.a-20	磁土IV	30																
		M-1 m B.a-15	磁土IV	3																
V-10	57	M-1 m B.a-21	磁土IV	29	淡黄褐色 10197/4	多量	灰石 少量	口縁部 ~底面	(11.1)	16	—	—	ナゲ	口縁部: 小の深く 内面: 上半部着色	目取土鍋	円筒土鍋 下筒付式	—			
		M-1 m B.a-20	磁土IV	26																
		M-1 m B.a-15	磁土IV	3																
V-10	58	M-1 m B.a-22	磁土IV	10	淡黄褐色 10196/3	多量	灰石 少量	口縁部 ~底面	16.2	9.5	—	—	ナゲ	口縁部: 小の深く 内面: 上半部着色	目取土鍋	円筒土鍋 下筒付式	—			
		M-1 m B.a-20	磁土IV	15																
		M-1 m B.a-15	磁土IV	3																
V-11	60	M-1 m B.a-20	磁土IV	7	淡黄褐色 10196/3	多量	灰石 少量	口縁部 ~底面	14.2	—	—	—	ナゲ	口縁部: 小の深く 内面: 上半部着色	目取土鍋	円筒土鍋 下筒付式	—			
		M-1 m B.a-22	磁土IV	7																
		M-1 m B.a-15	磁土IV	36																
V-11	61	M-1 m B.a-20	磁土IV	36	淡黄褐色 10197/4	多量	灰石 少量	口縁部 ~底面	14.5	—	—	—	ナゲ	口縁部: 小の深く 内面: 上半部着色	目取土鍋	円筒土鍋 下筒付式	—			
		M-1 m B.a-22	磁土IV	36																
		M-1 m B.a-15	磁土IV	36																

表V-11 遺構出土の掲載元土器一覧(5)

調査 番号	調査 年度	出土地点	層位	数量 と 構成	器種	形状 寸法 (cm)	色相(肉眼)	土質	出土 状況	文様	出所 調査	分類	形式名	備考
V-11	62	M-1 m p s-28	硬土層	145	深鉢	Ø80 下位	にぶい黄褐色 10YR7/3	多量	22	口縁部：平縁 底面：平縁	ナブ	目取土器 下層形式	外周：縁部付着 底面：縁部付着	
V-11	63	M-1 m p s-29	硬土層	39	深鉢	(18.5)	にぶい黄褐色 10YR7/3	中量	—	口縁部：平縁 底面：平縁	ナブ	目取土器 下層形式	外周：縁部付着 底面：縁部付着	
V-11	64	M-1 m p s-29	硬土層	36	深鉢	(21.7)	にぶい黄褐色 7.5YR7/4	少量	19.1	口縁部：平縁 底面：平縁	ナブ	目取土器 下層形式	外周：縁部付着 底面：縁部付着	
V-11	65	M-1 m p s-29	硬土層	88	深鉢	28.6	にぶい黄褐色 7.5YR7/4	多量	14.8 8.6	口縁部：平縁 底面：平縁	ナブ	目取土器 下層形式	外周：縁部付着 底面：縁部付着	
V-11	66	M-1 m p s-31	硬土層	44	深鉢	(32.0)	にぶい黄褐色 10YR7/3	多量	15.8 9.8	口縁部：平縁 底面：平縁	ナブ	目取土器 下層形式	口縁部：縁部(平縁) 底面：縁部(平縁)	
V-12	67	M-1 m p s-35	硬土層	69	深鉢	(31.7)	にぶい黄褐色 10YR7/3	多量	19.2	口縁部：平縁 底面：平縁	ナブ	目取土器 下層形式	口縁部：縁部(平縁) 底面：縁部(平縁)	
V-12	68	M-1 m p s-37	硬土層	75	深鉢	28.3	にぶい黄褐色 10YR7/3	中量	16 9.2	口縁部：平縁 底面：平縁	ナブ	目取土器 下層形式	外周：縁部付着 底面：縁部付着	
V-12	69	M-1 m p s-37	硬土層	113	深鉢	(28.0)	にぶい黄褐色 7.5YR7/4	多量	14.5	口縁部：平縁 底面：平縁	ナブ	目取土器 下層形式	外周：縁部付着 底面：縁部付着	
V-12	70	M-1 m p s-39	硬土層	86	深鉢	34.1	にぶい黄褐色 10YR7/4	多量	29 10.3	口縁部：平縁 底面：平縁	ナブ	目取土器 下層形式	外周：縁部付着 底面：縁部付着	
V-12	71	M-1 m p s-40	硬土層	63	深鉢	(34.0)	灰白色 10YR9/2	多量	20	口縁部：平縁 底面：平縁	ナブ	目取土器 下層形式	厚肉土器	
V-12	72	M-1+790E	硬土層	53	深鉢	19.7	にぶい黄褐色 7.5YR7/3	多量	12.1 6.8	口縁部：平縁 底面：平縁	ナブ	目取土器 下層形式	外周：口縁部 底面：縁部付着	
V-12	73	M-1+545E M-1+545C -SHAK	硬土層	68	深鉢	24.5	にぶい黄褐色 10YR7/4	中量	15.2 9.4	口縁部：平縁 底面：平縁	ナブ	目取土器 下層形式	外周：口縁部 底面：縁部付着	
V-12	74	M-2 m p s-1	硬土層	19	深鉢	Ø90	黄褐色 7.5YR7/6	少量	22.1	口縁部：平縁 底面：平縁	ナブ	目取土器 下層形式	口縁部：縁部(平縁) 底面：縁部(平縁)	

表 V-12 遺構出土の陶器破片土器一覧 (1)

発掘 層番号	遺構 番号	出土地点	方位	保存 点数	経緯	部位	色調	磁質	胎土		文様	用途	分類	形式名	備考
									中量	少量					
V-13	1	B-1	円周	6	円形	底面	にぶい、褐色 7, 10B7/4	中量	白色 少量	1	上車輪全体部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 21 外周：一段凸化付着
V-13	2	B-1	円周	1	円形	口縁部	にぶい、黄褐色 10B7/2	少量	白色 中量	1	上車輪全体部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	
V-13	3	B-1	円周	1	円形	口縁部	反黄褐色 10B5/2	少量	粘土・灰物 少量	1	下脚の縁部文様段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	
V-13	4	B-1	円周	1	円形	底面	反黄褐色 10B5/2	少量	粘土・灰物 少量	1	上車輪全体部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 1 外周：一段凸化付着
V-13	5	B-2	円周	1	円形	底面	黒褐色 10B3/2	なし	粘土・灰物 少量	1	口縁部：内周ナギ 外周：ナギ	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	内周：ナギ 外周：一段凸化付着
V-13	6	B-2	円周	1	円形	口縁部	反黄褐色 10B8/3	なし	粘土・灰物 少量	1	無文：一段凸化付着	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	内周：ナギ 外周：一段凸化付着
V-13	7	B-2	円周	1	円形	口縁部	反黄褐色 10B5/2	なし	粘土・灰物 少量	1	無文：一段凸化付着	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	内周：ナギ 外周：一段凸化付着
V-13	8	B-3	円周	1	円形	底面	反黄褐色 10B5/2	中量	粘土・灰物 中量	1	無文：一段凸化付着	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	内周：ナギ 外周：一段凸化付着
V-13	9	B-3	円周	1	円形	底面	反黄褐色 7, 10B6/3	少量	粘土・灰物 少量	1	上車輪全体部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	外周：一段凸化付着
V-13	10	B-4	円周	1	円形	底面	反黄褐色 10B8/4	少量	粘土・灰物 少量	1	上車輪全体部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	外周：一段凸化付着
V-13	11	B-5	円周	1	円形	底面	反黄褐色 10B8/4	少量	粘土・灰物 少量	1	上車輪全体部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	外周：一段凸化付着
V-13	12	B-5	円周	2	円形	底面	反黄褐色 10B5/2	少量	粘土・灰物 少量	1	上車輪全体部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 1 腰掛
V-13	13	B-5	円周	1	円形	底面	反黄褐色 7, 10B9/4	少量	粘土・灰物 少量	1	上車輪全体部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 6
V-13	14	B-5	円周	1	円形	口縁部	にぶい、黄褐色 10B8/4	中量	粘土・灰物 中量	1	口縁部：上車輪全体部加飾段 口縁部：下脚部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 2 外周：一段凸化付着
V-13	15	B-5	円周	3	円形	口縁部	反黄褐色 10B8/4	中量	粘土・灰物 中量	1	口縁部：上車輪全体部加飾段 口縁部：下脚部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	
V-13	16	B-5	円周	1	円形	口縁部	にぶい、褐色 7, 10B7/4	—	粘土・灰物 少量	1	口縁部：上車輪全体部加飾段 口縁部：下脚部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	内周：一段凸化付着
V-13	17	B-1	円周	1	円形	底面	褐色 10B8/4	—	粘土・灰物 少量	1	口縁部：上車輪全体部加飾段 口縁部：下脚部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	内周：一段凸化付着
V-13	18	B-1	円周	1	円形	底面	にぶい、黄褐色 7, 10B7/4	少量	粘土・灰物 少量	1	口縁部：上車輪全体部加飾段 口縁部：下脚部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 1 外周：一段凸化付着
V-13	19	B-2	円周	3	円形	底面	黒褐色 10B3/1	少量	粘土・灰物 少量	1	上車輪全体部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 1 外周：一段凸化付着
V-13	20	B-2	円周	1	円形	底面	黒褐色 10B3/1	少量	粘土・灰物 少量	1	上車輪全体部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 1 外周：一段凸化付着
V-13	21	B-1	円周	1	円形	底面	反黄褐色 10B8/2	少量	粘土・灰物 少量	1	上車輪全体部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 1 外周：一段凸化付着
V-13	22	B-5	円周	1	円形	底面	反黄褐色 10B5/2	中量	粘土・灰物 中量	1	上車輪全体部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 1 外周：一段凸化付着
V-13	23	B-5	円周	1	円形	底面	反黄褐色 10B5/2	中量	粘土・灰物 中量	1	上車輪全体部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 1 外周：一段凸化付着
V-13	24	B-7	円周	1	円形	口縁部	にぶい、黄褐色 10B7/2	少量	粘土・灰物 少量	1	口縁部：上車輪全体部加飾段 口縁部：下脚部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 1 外周：一段凸化付着
V-13	25	B-7	円周	1	円形	口縁部	反黄褐色 10B3/2	—	粘土・灰物 少量	1	口縁部：上車輪全体部加飾段 口縁部：下脚部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 1 外周：一段凸化付着
V-13	26	B-8	円周	1	円形	底面	にぶい、褐色 7, 10B7/4	中量	粘土・灰物 中量	1	口縁部：上車輪全体部加飾段 口縁部：下脚部加飾段	ナギ	目的分類	円形土器 下部式	高取リ№. 1 外周：一段凸化付着

表 V-12 遺構出土の地蔵破片土器一覧 (2)

調査 年度	調査 番号	出土地点	層位	保存 状況	形状	部位	色調	胎土		文様	調製 状況	分類	型式名	備考
								種類	七色					
V-14	27	38	W-1 acc-3	破土10	7	破鉢	口縁部	灰白色 10182/2	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類 3. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物少量付着	
V-14	28	38	W-1 acc-3	破土10	3	破鉢	口縁部	灰黒褐色 10185/2	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-14	29	38	W-1 acc-5	破土10	12	破鉢	底面	褐色 7, 10187/6	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類 3. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形 野原小形	底面：土付底 底面：赤石少量付着 底面：赤石少量付着	
V-14	30	38	W-1 acc-6	破土10	1	破鉢	口縁部	灰黒褐色 10185/2	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-14	31	38	W-1 acc-7	破土10	6	破鉢	口縁部	褐色 7, 10186/6	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-14	32	38	W-1 acc-7	破土10	7	破鉢	口縁部	にぶい、黄褐色 10186/4	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-14	33	38	acc-8	破土10	6	破鉢	口縁部	10185/2	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-14	34	38	W-1 acc-8	破土10	2	破鉢	底面	にぶい、黄褐色 10187/4	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	底面：赤石少量付着	
V-14	35	38	W-1 acc-9	破土10	16	破鉢	口縁部	にぶい、黄褐色 10185/4	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-14	36	38	W-1 acc-12	破土10	7	破鉢	口縁部	青褐色 10188/4	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-14	37	38	W-1 acc-10	破土10	3	破鉢	口縁部	青褐色 10188/4	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-14	38	38	W-1 acc-16	破土10	10	破鉢	口縁部	褐色 7, 10187/6	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-14	39	38	W-1 acc-17	破土10	1	破鉢	口縁部	にぶい、黄褐色 10185/4	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-14	40	38	W-1 acc-17	破土10	1	破鉢	口縁部	にぶい、黄褐色 7, 10186/4	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-15	41	39	W-1 acc-1	破土10	2	破鉢	口縁部	青褐色 10188/2	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-15	42	39	W-1 acc-1	破土10	2	破鉢	口縁部	灰白色 10188/2	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-15	43-44	39	W-1 acc-1	破土10	3	破鉢	口縁部	にぶい、黄褐色 10187/4	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-15	45	39	W-1 acc-1	破土10	4	破鉢	口縁部	にぶい、 黄褐色 10187/4	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	調製済 口縁部	野原小形 野原小形	口縁部：小形高形？ 外周：灰化物付着 分付10	
V-15	46	39	W-1 acc-1	破土10	2	破鉢	口縁部	青褐色 10188/2	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	口縁部：黒く	
V-15	47	39	W-1 acc-1	破土10	1	破鉢	口縁部	灰白色 10188/2	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-15	48	39	W-1 acc-1	破土10	1	破鉢	口縁部	にぶい、黄褐色 7, 10186/4	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-15	49	39	W-1 acc-1	破土10	6	破鉢	口縁部	にぶい、黄褐色 10186/2	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	口縁部：赤石少量付着 外周：一部灰化物付着	
V-15	50	39	W-1 acc-1	破土10	4	破鉢	口縁部	にぶい、黄褐色 10186/2	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	外周：灰化物付着	
V-15	51	39	W-1 acc-1	破土10	6	破鉢	底面	7, 10186/4	赤石少量	1. 野原小形土器類 2. 野原小形土器類	ナデ	野原小形 野原小形	底面：赤石少量付着 外周：灰化物付着	

表V-12 遺構出土の掲載破片土器一覧(3)

調査 番号	遺構 番号	出土 地点	層位	保存 点数	原形	部位	色調	胎土		文様	分類	型式名	備考
								種類	七色				
V-15	52	39	W1 np-5C	3	円鉢	底辺	褐色 10187/6	粘土少量	1. 黒縁赤文付丸脚瓶位 底外周・黒縁赤文付底片	黒縁赤文付丸脚瓶位	黒縁赤文付丸脚瓶位	黒縁赤文付丸脚瓶位	黒縁赤文付丸脚瓶位
V-15	53	39	W1 np-5C	1	円鉢	底辺	にじい黄褐色 7.1036/4	粘土少量	1. 黒文付丸脚瓶位 1. 黒文付丸脚瓶位	黒文付丸脚瓶位	黒文付丸脚瓶位	黒文付丸脚瓶位	黒文付丸脚瓶位
V-16	54	40	W1 np-11	12	円鉢	底辺	にじい黄褐色 10185/4	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	55	40	W1 np-11A	1	円鉢	底辺	黄褐色 10185/2	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	56	40	W1 np-18	6	円鉢	口縁部	黄褐色 10185/2	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	57	40	W1 np-7	4	円鉢	口縁部	黄褐色 10185/2	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	58	40	W1 np-21	6	円鉢	底辺	にじい黄褐色 10186/4	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	59	40	W1 np-22 S	3	円鉢	口縁部	黄褐色 10186/3	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	60	40	W1 np-22 K	2	円鉢	口縁部	黄褐色 10185/2	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	61	40	W1 np-22 C	6	円鉢	口縁部	にじい黄褐色 10187/2	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	62	40	W1 np-22 C	2	円鉢	底辺	にじい黄褐色 10185/2	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	63	40	W1 np-22 F	4	円鉢	口縁部	にじい黄褐色 10185/4	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	64	40	W1 np-22 F	2	円鉢	底辺	黄褐色 10186/4	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	65	40	W1 np-22 A	9	円鉢	口縁部	灰白色 10186/2	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	66	40	W1 np-22 B	4	円鉢	口縁部	にじい黄褐色 10186/3	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	67	40	W1 np-23	1	円鉢	口縁部	黄褐色 10186/3	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	68	40	W1 np-23 K	6	円鉢	口縁部	にじい黄褐色 10187/3	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	69	40	W1 np-22 I	10	円鉢	口縁部	黄褐色 10185/2	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	70	40	W1 np-22 I	9	円鉢	口縁部	にじい黄褐色 10186/3	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	71	40	W1 np-22 S	3	円鉢	口縁部	にじい黄褐色 10186/3	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	72	40	W1 np-22 S	4	円鉢	口縁部	にじい黄褐色 10186/4	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	73	40	W1 np-22 V	9	円鉢	口縁部	黄褐色 10186/2	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-16	74	40	W1 np-23	1	円鉢	底辺	黄褐色 10185/2	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-17	74	41	W1 np-23	9	円鉢	底辺	黄褐色 10185/2	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-17	75	41	W1 np-24	1	円鉢	口縁部	黄褐色 10185/4	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位
V-17	76	41	W1 np-24	1	円鉢	底辺	黄褐色 10186/3	粘土少量	1. 赤黒文付丸脚瓶位 1. 赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位	赤黒文付丸脚瓶位

表 V-12 遺構出土の掲載破片土器一覧 (4)

遺構 番号	器名 番号	出土地点 番号	部位	保存 点数	図録 掲載	七色 写真	破片 位置	形状	材質	色調	重量	出土 層位	文様	用途	分類	形式名	備考
V-17	77	41	W-1 anc-29 E	10	図録 掲載	口縁部 ~ 底面	口縁部	10	図録 掲載	12-5の黄褐色 10107/4	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-29が編入		
V-17	78	41	W-1 anc-290	9	図録 掲載	口縁部	口縁部	9	図録 掲載	12-5の黄褐色 10107/3	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-290が編入		
V-17	79	41	W-1 anc-300	5	図録 掲載	口縁部	口縁部	5	図録 掲載	12-5の黄褐色 10107/4	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-300が編入		
V-17	80	41	W-1 anc-304	6	図録 掲載	口縁部	口縁部	6	図録 掲載	12-5の黄褐色 10107/4	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-304が編入		
V-17	81	41	W-1 anc-31	1	図録 掲載	口縁部	口縁部	1	図録 掲載	黄褐色 10105/2	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-31が編入		
V-17	82	41	W-1 anc-31	2	図録 掲載	口縁部	口縁部	2	図録 掲載	黄褐色 10105/2	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-31が編入		
V-17	83	41	W-1 anc-22 B	12	図録 掲載	口縁部	口縁部	12	図録 掲載	12-5の黄褐色 7, 10107/2	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-22 Bが編入		
V-17	84	41	W-1 anc-22 A	22	図録 掲載	口縁部	口縁部	22	図録 掲載	黄褐色 7, 10106/8	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-22 Aが編入		
V-17	85	41	W-1 anc-23	3	図録 掲載	口縁部	口縁部	3	図録 掲載	黄褐色 10105/2	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-23が編入		
V-17	86	41	W-1 anc-36	7	図録 掲載	口縁部	口縁部	7	図録 掲載	明褐色 10106/6	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-36が編入		
V-17	87	41	W-1 anc-36	16	図録 掲載	口縁部	口縁部	16	図録 掲載	明褐色 10106/6	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-36が編入		
V-18	88	42	W-1 anc-27 B	3	図録 掲載	口縁部	口縁部	3	図録 掲載	黄褐色 10105/2	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-27 Bが編入		
V-18	89	42	W-1 anc-28	6	図録 掲載	口縁部	口縁部	6	図録 掲載	12-5の黄褐色 10106/4	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-28が編入		
V-18	90	42	W-1 anc-28	4	図録 掲載	口縁部	口縁部	4	図録 掲載	12-5の黄褐色 10106/4	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-28が編入		
V-18	91	42	W-1 anc-28	1	図録 掲載	口縁部	口縁部	1	図録 掲載	黄褐色 10108/3	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-28が編入		
V-18	92	42	W-1 anc-28	1	図録 掲載	口縁部	口縁部	1	図録 掲載	黄褐色 10108/3	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-28が編入		
V-18	93	42	W-1 anc-28	2	図録 掲載	口縁部	口縁部	2	図録 掲載	12-5の黄褐色 10106/4	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-28が編入		
V-18	94	42	W-1 anc-28	2	図録 掲載	口縁部	口縁部	2	図録 掲載	12-5の黄褐色 10108/7/4	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-28が編入		
V-18	95	42	W-1 anc-28	1	図録 掲載	口縁部	口縁部	1	図録 掲載	12-5の黄褐色 7, 10106/4	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-28が編入		
V-18	96	42	W-1 anc-28	2	図録 掲載	口縁部	口縁部	2	図録 掲載	12-5の黄褐色 10105/2	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-28が編入		
V-18	97	42	W-1 anc-28	5	図録 掲載	口縁部	口縁部	5	図録 掲載	黄褐色 10103/1	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-28が編入		
V-18	98	42	W-1 anc-28	4	図録 掲載	口縁部	口縁部	4	図録 掲載	黄褐色 10103/1	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-28が編入		
V-18	99	42	W-1 anc-28	6	図録 掲載	口縁部	口縁部	6	図録 掲載	黄褐色 7, 10107/6	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-28が編入		
V-18	100	42	W-1 anc-28	1	図録 掲載	口縁部	口縁部	1	図録 掲載	黄褐色 7, 10106/8	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-28が編入		
V-18	101	42	W-1 anc-28	1	図録 掲載	口縁部	口縁部	1	図録 掲載	12-5の黄褐色 10106/4	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-28が編入		
V-18	102	43	W-2 anc-2	1	図録 掲載	口縁部	口縁部	1	図録 掲載	12-5の黄褐色 10108/7/3	少量	第10中層	黄褐色全体至口縁部位 黄褐色全体至口縁部位	片断土器	anc-2が編入		

表 V-12 遺構出土の掲載破片土器一覽(5)

器種 番号	器高 番号	器底 番号	出土地点	方位	深さ 公尺	図柄	色調	土質		文様	分類	形式名	備考
								組織	之の値				
V-19	103	43	M-2 M-2 M-2	礎土層	1	深鉢	白緑部	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化 内周: 褐色化
V-19	104	43	M-2 M-2	礎土層	3	深鉢	褐色 7. 1987.6	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	105	43	M-2 M-2	礎土層	4	深鉢	褐色 7. 1987.6	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	106	43	M-2 (885C)	礎土層	2	深鉢	灰赤褐色 10185.7	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	107	43	M-2 (925C)	礎土層	1	深鉢	灰赤褐色 10185.7	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	108	43	M-2 (885C)	礎土層	3	深鉢	にじみ褐色 7. 1987.4	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	109	43	M-2 (885C)	礎土層	1	深鉢	にじみ褐色 10185.7	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	110	43	M-2 (885C)	礎土層	1	深鉢	灰赤褐色 10185.7	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	111	43	M-2 (885C)	礎土層	2	深鉢	灰赤褐色 10185.7	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	112	43	M-2 (885C)	礎土層	1	深鉢	灰赤褐色 10185.7	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	113	43	M-2 (885C)	礎土層	5	深鉢	褐色 10182.3	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	114	43	M-2 (885C)	礎土層	1	深鉢	灰赤褐色 10185.7	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	115	43	M-2 (885C)	礎土層	1	深鉢	にじみ褐色 10187.7	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	116	43	M-2 (885C)	礎土層	4	深鉢	にじみ褐色 7. 1987.4	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	117	43	M-2 (945C)	礎土層	1	深鉢	灰赤褐色 10185.7	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	118	43	M-2 (885C)	礎土層	10	深鉢	にじみ褐色 10187.4	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化
V-19	119	43	M-2 (885C)	礎土層	1	深鉢	にじみ褐色 10187.4	少量	粘土質	1. 横線文・垂線文様	目形小瓶	円筒土器 方唇形式	外周: 褐色化

表 V-13 包含階出土の掲載元土器一覧

掲載番号	掲載順番号	出土地	単位	集合点	種類	部位	計測値 (mm)		色調 (外観)	施工	文様	内面調度	器形の形状	分類	形式名	備考											
							器高	口径																			
V-21 1	44	T305K M-1725K M-1 M-2 M-3	IV	101	口縁部	口縁部	21	14.5	にじみ黄褐色 10YR7/3	灰石 中粒 中量	口縁部; R 厚輪脚全体及び頸部位 胴部; R 厚輪脚全体及び頸部位 底面; R 厚輪脚全体及び頸部位	ナブ	口縁部; 底面;	IV 群 < 類	円筒上縁 下縁方式	外面: 灰石粉行着 底面: 陶質粉行着											
																	26.5	15.6	8.9	にじみ黄褐色 10YR7/3	灰石 少量	口縁部; R 厚輪脚全体及び頸部位 胴部; R 厚輪脚全体及び頸部位	ナブ	口縁部; 底面;	IV 群 < 類	円筒上縁 下縁方式	外面: 灰石粉行着 底面: 陶質粉行着
11.3	—	—	にじみ 黄褐色 10YR7/3	灰石 中量	R 厚輪脚全体及び頸部位 出 風文行着	ナブ	口縁部; 底面;	IV 群 < 類	—	外面: 灰石粉行着 胴部: 陶質粉行着 底面: 陶質粉行着																	
											11.6	25.4	—	黄褐色 10YR6/2	灰石 中量	R 風文斜位	ナブ	口縁部; 底面;	IV 群 < 類	—	外面: 灰石粉行着 胴部: 陶質粉行着 底面: 陶質粉行着						
6.5	—	6.5	にじみ黄褐色 2.5YR7/3	なし	胴部; R 厚輪脚全体及び頸部位 底面; 同色文	ナブ	口縁部; 底面;	IV 群 < 類	—	外面: 灰石粉行着 胴部: 陶質粉行着 底面: 陶質粉行着																	
											6.2	—	6.2	黄褐色 10YR4/2	灰石 少量	ナブ風文	ナブ	口縁部; 底面;	IV 群 < 類	—	外面: 灰石粉行着 胴部: 陶質粉行着 底面: 陶質粉行着						
9.4	3.9	3.9	灰白色 10YR8/2	—	R 風文斜位	ナブ	口縁部; 底面;	IV 群 < 類	—	外面: 灰石粉行着 胴部: 陶質粉行着 底面: 陶質粉行着																	
											14.7	6	6	灰白色 10YR6/2	なし	口縁部 < 底面; R 風文 (平行・円弧文); 風文横	ナブ 工具高	口縁部; 底面;	IV 群 < 類	—	外面: 灰石粉行着 胴部: 陶質粉行着 底面: 陶質粉行着						
9.2	—	—	にじみ黄褐色 10YR7/3	なし	口縁部; R 厚輪脚全体及び頸部位 胴部; R 厚輪脚全体及び頸部位 底面; 同色文	ナブ 工具	口縁部; 底面;	IV 群 < 類	—	外面: 灰石粉行着 胴部: 陶質粉行着 底面: 陶質粉行着																	
											T305K	IV	3	口縁部	口縁部	21	14.5	にじみ黄褐色 10YR7/3	灰石 中粒 中量	口縁部; R 厚輪脚全体及び頸部位 胴部; R 厚輪脚全体及び頸部位 底面; R 厚輪脚全体及び頸部位	ナブ	口縁部; 底面;	IV 群 < 類	円筒上縁 下縁方式	外面: 灰石粉行着 胴部: 陶質粉行着		

表V-14 包含層出土の損破破片土器一覧(1)

調査 地区	調査 番号	調査 位置	土器表	部位	材料	形状	保存 状態	色調	胎土		文様	編 織 調	分類	型式名	備考
									細目	土の産					
V-22	1	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	2	円筒状	2-55,黄褐色 10165.1	少量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	—	—
V-22	2	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	2	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	少量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	—	—
V-22	3	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	中量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	—	—
V-22	4	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	—	胎土多量	胎土多量	ナゲ	1部a類	—	—
V-22	5	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	3	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	少量	胎土中量	胎土中量	ナゲ	1部a類	—	胎土・赤化物行巻
V-22	6	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	—	胎土中量	胎土中量	ナゲ	1部a類	—	胎土・赤化
V-22	7	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	少量	胎土中量	胎土中量	ナゲ	1部a類	コップ形式	胎土・赤化
V-22	8	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	2	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	中量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	—
V-22	9	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	少量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化
V-22	10	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	4	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	多量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	11	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	12	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	中量	胎土多量	胎土多量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	12	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	3	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	多量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	13	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	2	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	少量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	14	45	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	4	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	少量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	15	46	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	4	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	少量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	16	46	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	少量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	17	46	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	少量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	18	46	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	3	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	中量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	19	46	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	少量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	20	46	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	少量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	21	46	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	少量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	22	46	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	3	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	—	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	23	46	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	少量	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	24	46	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	—	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	25	46	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	—	胎土少量	胎土少量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	26	46	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	1	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	—	胎土多量	胎土多量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻
V-22	27	46	Ⅱ-1 (1065C)	底片	円筒状	3	円筒状	2-55,赤褐色 10165.1	—	胎土多量	胎土多量	ナゲ	1部a類	兼脚付式	胎土・赤化物行巻

表 V-14 包含障土の掲載破片土器一覧 (2)

調査 番号	調査 番号	調査 深度	出土地点	方位	保存 高さ	同種	部位	色調	数量		文様	器種	型式名	備考
									個数	最大重量				
V-23	28	66	T103C	西側	1	片鉢	口縁部	にじみ黄褐色 D1967.3	—	新石・新物 中量	出行程位・印線文字付(2)	IV部a類	文様付式	内面：凹化削行番
V-23	29	66	S105C	西側	3	片鉢	にじみ黄褐色 D1967.3	—	新石中量	原形器：浅形み 原器位・印線・溝部・破口・凹 溝文付付	IV部a類	IV部a類	—	内面：凹化削行番
V-23	30	66	S104C	西側	1	片鉢	にじみ黄褐色 D1967.3	—	新石中量	口部位：印行：窪み(凹) 印線文字付	IV部a類	IV部a類	—	内面：底付番
V-23	31	66	S104C	西側	1	片鉢	黄褐色 D1967.3	—	新石少量	印線文字付・印線付	IV部a類	IV部a類	—	内面：凹化削行番
V-23	32	66	S105C	西側	1	片鉢	にじみ黄褐色 D1967.3	少量	新石少量	印線文字付位	IV部a類	IV部a類	—	—
V-23	33	66	T103C	西側	2	片鉢	底面 T.5105.6	少量	新石多量	印線文字付	IV部a類	IV部a類	—	底面：底付番
V-23	34	66	T103C	西側	15	片鉢	底面 T.5105.6	—	新石中量	底面・底面及文字 付	IV部a類	IV部a類	—	底面：底付番
V-23	35	66	R101C	西側	1	片鉢	底面 T.5105.6	—	新石中量	底面・底面・印線文字付	IV部b類	IV部b類	—	内面：凹化削行番
V-23	36	66	S103C	西側	1	片鉢	にじみ黄褐色 T.5107.4	—	新石中量	印線文字付・印線文字付	IV部a類	IV部a類	—	底面：底付番
V-23	37	66	S104C	西側	1	片鉢	底面 T.5105.6	少量	新石多量	印線文字付	IV部a類	IV部a類	—	底面：底付番
V-23	38	66	S105C	西側	1	片鉢	にじみ黄褐色 D1967.2	—	新石少量	印線文字付	IV部a類	IV部a類	—	底面：底付番
V-23	39	66	S104C	西側	4	底面	底面 D1967.3	—	新石中量	底面・底面・印線文字付	IV部a類	IV部a類	—	底面：底付番
V-23	40	66	S105C	西側	2	底面	底面 T.5107.4	—	新石少量	底面・底面・印線文字付	IV部a類	IV部a類	—	底面：底付番
V-23	41	66	T103C	西側	1	片鉢	にじみ黄褐色 D1967.2	—	新石中量	印線文字付・印線文字付(内面のみ)	IV部c類	IV部c類	—	底面：底付番
V-23	42	66	T103C	西側	1	片鉢	底面 T.5105.6	—	新石中量	底面・底面・印線文字付	IV部c類	IV部c類	—	底面：底付番
V-23	43	66	T103C	西側	1	片鉢	底面 T.5105.6	—	新石中量	底面・底面・印線文字付	IV部c類	IV部c類	—	底面：底付番
V-23	44	66	S103C	西側	1	片鉢	にじみ黄褐色 T.5107.4	—	新石中量	底面・底面・印線文字付	IV部c類	IV部c類	—	底面：底付番

表V-15 遺構出土の掲載石器等一覧(1)

掲載番号	番号	図面番号	出土地点	器名	層位	石材	石材の色調	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	製作状態	特徴 観察事項	備考(1)
V-28	1	47	B-1	石鏃	表面	西部	黒褐色 H972-2	2.7	1.8	0.6	2.3	完成	木鏃形	
V-28	2	47	B-1 M9-1	石鏃	フタ上	西部	黒褐色 H972-2	3.1	0.9	0.3	0.6	完成	刀削内湾	
V-28	3	47	B-1 M9-2	石鏃・ナイフ	フタ上	西部	黒褐色 H972-2	(17.2)	(8.2)	(13.0)	(16.7)	完成	尖頭部湾曲	
V-28	4	47	B-1 M9-1	両山調整石鏃	フタ上	西部	黒褐色 H972-2	7.2	7.2	2.2	163	完成	両山調整	
V-28	5	47	B-1	つまみけきナイフ	フタ上	西部	灰青褐色 H972-2	10.4	5.7	2.5	41.5	完成	片削加工	
V-28	6	47	B-1	つまみけきナイフ	フタ上	西部	黒褐色 H972-1	6.0	2.6	1.5	12.5	完成	つまみ部のみ作 成	
V-28	7	47	B-1	スクレイパー	フタ上	西部	灰青褐色 H972-2	9.0	3.9	1.3	41.5	完成	両山調整	
V-28	8	47	B-1	スクレイパー	表面	西部	黒褐色 H972-2	5.3	3.0	1.0	8.5	完成	不定形片削	点検No1
V-28	9	47	B-1	スクレイパー	表面	西部	黒褐色 H972-2	5.6	3.4	0.9	10.2	完成	不定形片削	点検No7
V-28	10	47	B-1 M9-1	石鏃	フタ上	西部	黒褐色 H972-2	5.6	6.6	3.5	244	一	打面入れ部欠	
V-29	11	47	B-1 M9-1	石鏃	フタ上	西部	黒褐色 H972-1	7.5	11.5	2.3	140	一	大発射片削	
V-29	12	47	B-1	尖った石鏃	表面	表面	RC石 H972-1	6.8	5.6	3.0	126	完成	調整部に使用	点検No9
V-29	13	47	B-1	尖った石鏃	フタ上	調整部	RC石 H972-1	6.3	4.7	2.5	103	完成	調整部に使用	
V-29	14	47	B-2	石鏃	フタ上	西部	黒褐色 H972-2	2.8	1.2	0.4	(1.2)	完成	片削	
V-29	15	47	B-2	つまみけきナイフ	フタ上	黒褐色	黒褐色 H972-2	(13.7)	(12.7)	(8.0)	(8.9)	完成	丁寧片削	
V-29	16	47	B-2	スクレイパー	表面	西部	黒褐色 H972-1	5.6	5.8	2.0	32.6	完成	片削加工 不発	点検No10
V-29	17	47	B-2	石鏃	フタ上	西部	黒褐色 H972-1	4.2	5.2	2.1	46.5	一	調整部の片削	
V-29	18	47	B-2	表面	表面	西部	黒褐色 H972-1	13.0	5.6	0.5	414	一	調整部に使用	点検No8
V-29	19	47	B-2	両山調整石鏃	フタ上	安山岩	RC石 H972-1	(8.7)	(8.6)	(2.6)	(106)	完成	丁寧片削	
V-30	20	47	B-4	石鏃	フタ上	西部	灰青褐色 H972-2	(8.4)	1.7	0.5	(2.1)	片削	上層部破損	
V-30	21	47	B-4	スクレイパー	表面	西部	RC石 H972-2	6.3	2.6	1.1	5.4	完成	刀削内湾	点検No6
V-30	22	40	B-5	石鏃	フタ上	西部	黒褐色 7.071, 7.71	2.4	1.5	0.5	1	完成	有蓋	
V-30	23	40	B-5	スクレイパー	フタ上	西部	黒褐色 H972-2	2.0	2.6	1.2	24.6	完成	トランジエ種	
V-30	24	40	B-5	スクレイパー	フタ上	西部	灰石 H972-2	5.7	3.7	1.3	16.4	完成	刀削内湾	
V-30	25	40	B-5	両山調整石鏃	フタ上	安山岩	RC石 H972-2	7.4	14.0	3.9	318	完成	調整部打ち欠き	
V-30	26	40	B-5 M9-1	石鏃・石鏃	埋土	安山岩	RC石 H972-1	(12.0)	(12.0)	(5.2)	(79)	破片	調整部打ち欠 破片	
V-30	27	40	B-1	調整部石鏃	埋土	緑色表層	オリーブ灰 色 H972-2	13.3	4.9	3.0	310	片削	刀削内湾	点検No5
V-30	28	40	B-1	両山調整石鏃	埋土	安山岩	RC石 H972-2	6.0	(12.7)	(3.4)	(126)	片削	右側縁破損	点検No4
V-31	29	40	B-2	スクレイパー	フタ上	西部	黒褐色 H972-2	(5.9)	3.5	1.2	(19.3)	完成	上層部破	
V-31	30	40	B-5	両山調整石鏃	フタ上	安山岩	RC石 H972-1	(5.9)	(16.8)	(2.7)	(250)	完成	サリ面打ち欠き	
V-31	31	40	B-7	ヤラ石	フタ上	安山岩	灰褐色 H972-2	8.2	17.7	6.4	1062	完成	調整部打ち欠 破片	点検No4
V-31	32	40	B-7	ヤラ石	埋土	安山岩	灰褐色 H972-2	10.4	15.0	6.4	992	完成	調整部打ち欠 破片	点検No6
V-31	33	40	B-8	つまみけきナイフ	埋土	安山岩	黒褐色 H972-1	10.1	4.3	1.3	43.5	完成	刀削加工 刀削内湾	点検No6
V-31	34	40	B-9	調整部石鏃	埋土	緑色表層	オリーブ灰 色 H972-2	10.1	2.2	1.4	30.4	完成	上層部破片削	点検No4
V-32	35	40	M-1	石鏃	埋土	西部	黒褐色 H972-1	2.1	1.4	0.3	0.4	完成	両山調整部内湾	7902
V-32	36	40	M-1	石鏃	埋土	西部	黒褐色 H972-2	2.0	1.2	0.3	0.57	完成	木鏃形	7912
V-32	37	40	M-1	石鏃	埋土	西部	黒褐色 H972-1	(0.6)	1.4	0.4	(1.9)	完成	木鏃形	7912
V-32	38	40	M-1	石鏃	埋土	西部	黒褐色 H972-2	4.4	1.5	0.3	1.55	完成	木鏃形	7912
V-32	39	40	M-1	石鏃	埋土	西部	灰青褐色 H972-2	2.9	4.1	0.3	0.71	完成	木鏃形	7902
V-32	40	40	M-1	石鏃	埋土	西部	黒褐色 H972-1	3.8	1.3	0.3	1.03	完成	木鏃形	7902
V-32	41	40	M-1	石鏃	埋土	西部	黒褐色 H972-2	3.1	1.1	0.5	1.03	完成	有蓋	7902
V-32	42	40	M-1	石鏃	埋土	西部	灰青褐色 H972-2	2.9	1.1	0.3	0.73	完成	有蓋	7902
V-32	43	40	M-1 M9-13	石鏃	埋土	西部	黒褐色 H972-1	(2.4)	1.5	0.3	(0.62)	完成	有蓋	
V-32	44	40	M-1	石鏃・ナイフ	埋土	西部	灰青褐色 H972-2	12.4	4.0	1.8	71.6	完成	調整部 片削	7902
V-32	45	40	M-1	石鏃・ナイフ	埋土	西部	RC石 H972-2	(10.0)	3.7	1.5	(44.9)	完成	調整部 片削	7902
V-32	46	40	M-1	石鏃・ナイフ	埋土	西部	灰青褐色 H972-2	14.9	5.0	2.0	112.8	完成	調整部 片削	7902
V-32	47	40	M-1	石鏃・ナイフ	埋土	西部	黒褐色 H972-1	15.1	6.8	1.8	97.1	完成	右側縁部破片	7-7942B10
V-33	48	40	M-1 M9-2	石鏃・ナイフ	埋土	西部	黒褐色 H972-2	14.3	6.7	2.5	195	完成	調整部 片削	点検No5
V-33	49	40	M-1 M9-2	石鏃・ナイフ	埋土	西部	黒褐色 H972-2	(11.5)	7.9	2.1	(194)	片削	調整部 片削	
V-33	50	40	M-1 M9-4	石鏃・ナイフ	埋土	西部	黒褐色 H972-1	(8.6)	6.7	3.2	(142)	片削	調整部 片削	
V-33	51	40	M-1	石鏃・ナイフ	埋土	西部	黒褐色 H972-1	7.6	2.8	1.0	15.2	完成	調整部調整部打ち欠	7912
V-34	52	40	M-1 M9-17	石鏃・ナイフ	埋土	西部	灰青褐色 H972-2	14.1	6.0	2.9	179	完成	調整部 片削	A・B
V-35	53	50	M-1	両山調整石鏃	埋土	西部	黒褐色 H972-1	18.3	7.5	2.7	332	完成	調整部 片削	7902
V-35	54	50	M-1 M9-2	両山調整石鏃	埋土	西部	黒褐色 H972-2	14.9	6.2	4.1	244	完成	調整部	

表V-15 遺構出土の掲載石器等一覧 (2)

掲載番号	番号	図録番号	出土地番	器種名	層位	石材	石材の色調	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	製作状態	特徴・備考事項	備考1
V-36-27	55	50	9-1 m1-12	両面磨製石刃	盛土層 埋土層	頁岩	にじみ黄褐色 H193/3	19.9	11.2	5.2	990	定形	埋土層・ 上下半の2点と フレイク1点を含む	A・B
V-38	56	51	9-1 m1-2	両面磨製石刃	盛土層	頁岩	黄褐色 H193/2	15.0	7.5	2.9	309	定形	埋土層 上下半の2点と フレイク1点を含む	A・B
V-39	57	51	M-1	両面磨製石刃	盛土層	頁岩	黒褐色 H193/3	5.7	4.5	1.9	41.3	定形	背磨 埋土層・ 埋土層・ 埋土層・ 埋土層	794E
V-39	58	51	M-1	両面磨製石刃	盛土層	頁岩	黒褐色 H193/3	5.5	5.3	2.0	77.7	定形	背磨 埋土層・ 埋土層・ 埋土層	794E
V-39	59	51	M-1	石刃	盛土層	頁岩	黒褐色 H193/3	2.0	2.5	0.8	14.7	定形	背磨 埋土層・ 埋土層	794E
V-39	60	51	M-1	石刃	盛土層	頁岩	にじみ黄褐色 H193/3	10.9	3.7	1.4	20.5	定形	つまみ付きナイフ 型	794E
V-39	61	51	M-1	つまみ付きナイフ	盛土層	頁岩	黒褐色 H193/3	9.5	1.4	1.3	5.1	定形	鉤状突起付	794E 6面
V-39	62	51	M-1	つまみ付きナイフ	盛土層	頁岩	暗褐色 H193/3	13.6	3.7	1.9	60.5	定形	鉤状突起付 平磨削にも対応 背磨加工	794E 6面 794E 6面
V-39	63	51	9-1 m1-7	つまみ付きナイフ	盛土層	頁岩	灰黄褐色 H193/7	10.5	3.3	1.4	21.6	定形	鉤状突起付 背磨加工	794E
V-39	64	51	M-1	つまみ付きナイフ	盛土層	頁岩	灰黄褐色 H193/1	6.6	1.8	0.6	6.7	定形	鉤状突起付 背磨加工	794E
V-39	65	51	M-1	つまみ付きナイフ	盛土層	頁岩	暗褐色 H193/1	10.1	3.7	1.5	30.4	定形	鉤状突起付 背磨加工	794E
V-39	66	51	M-1	つまみ付きナイフ	盛土層	頁岩	灰黄褐色 H193/2	8.5	4.0	0.8	16.0	定形	鉤状突起付 背磨加工	794E
V-39	67	51	M-1	つまみ付きナイフ	盛土層	頁岩	黒色 H193/1	5.6	7.6	0.6	27.6	定形	平磨削にも対応	919区埋土
V-40	68	52	M-1	ステレインバー	盛土層	頁岩	暗褐色 H193/1	5.7	2.9	3.1	14.7	定形	トランシェ型	794E
V-40	69	52	M-1	ステレインバー	盛土層	頁岩	黒褐色 H193/2	4.7	2.7	0.9	10.5	定形	トランシェ型	794E
V-40	70	52	M-1	ステレインバー	盛土層	頁岩	暗褐色 H193/1	9.3	4.2	1.5	30.6	定形	背磨 平磨削にも対応	794E
V-40	71	52	M-1	ステレインバー	盛土層	頁岩	黒色 H193/1, 2/3	8.5	3.0	1.6	21.6	定形	上下両面に 背磨加工	794E
V-40	72	52	M-1	ステレインバー	盛土層	頁岩	暗褐色 H193/1	8.6	5.4	2.5	53.6	定形	刃先両面 背磨加工	794E
V-40	73	52	M-1	ステレインバー	盛土層	頁岩	暗褐色 H193/1	10.0	4.2	2.6	50.3	定形	刃先両面	794E
V-40	74	52	9-1 m1-5	ステレインバー	盛土層	頁岩	黄褐色 H193/2	9.4	5.5	1.7	51	定形	刃先両側の 背磨加工	794E
V-40	75	52	M-1	ステレインバー	盛土層	頁岩	灰黄褐色 H193/2	8.6	4.9	1.2	30.4	定形	刃先両側の 背磨加工	794E
V-40	76	52	M-1	ステレインバー	盛土層	頁岩	黒褐色 H193/2	7.9	5.1	1.6	40.7	定形	刃先両側の 背磨加工	794E
V-41	77	52	9-1 m1-9	ステレインバー	盛土層	頁岩	黒褐色 H193/1	8.0	9.3	1.8	90.7	定形	両面裏面 刃先両面 背磨加工	794E
V-41	78	52	M-1	ステレインバー	盛土層	頁岩	黒褐色 H193/1	5.3	4.6	0.6	15.9	定形	刃先両面 背磨加工	794E
V-41	79	52	9-1 m1-11	ステレインバー	盛土層	頁岩	暗褐色 H193/1	5.2	4.8	1.0	10.9	定形	平磨削に 対応加工	794E
V-41	80	52	M-1	ステレインバー	盛土層	頁岩	黒褐色 H193/1	7.3	4.8	1.3	29	定形	両面裏面 刃先両面	794E
V-41	81	52	M-1	ステレインバー	盛土層	頁岩	暗褐色 H193/1	4.7	4.9	1.4	20.7	定形	両面裏面・平磨削 刃先両面	794E
V-41	82	52	9-1 m1-5	ステレインバー	盛土層	頁岩	黄褐色 H193/2	6.3	4.7	1.0	34.8	定形	平磨削にも 対応加工	794E
V-41	83	52	9-1 m1-9	石刃	盛土層	頁岩	灰黄褐色 H193/2	10.0	12.4	4.9	511	—	平磨削に 対応加工	A・B
V-42	84	53	9-1 m1-7	石刃	盛土層	頁岩	暗褐色 H193/1	6.6	7.8	3.5	150	—	埋土層 石刃2点 フレイクも同層を含む	A・B
V-42	85	53	M-1	石刃	盛土層	頁岩	灰黄褐色 H193/1	10.0	7.6	5.9	491	—	上下両面 裏面 背磨加工	794E
V-42	86	53	9-1 m1-10	石刃	盛土層	頁岩	灰黄褐色 H193/1	5.5	5.2	2.8	40.6	—	2点不揃付	794E
V-42	87	53	M-1	石刃	盛土層	頁岩	黄褐色 H193/1	6.6	6.7	2.6	85	—	上下両面に 背磨加工	794E
V-43	88	53	M-1	磨製石刃	盛土層	緑色頁岩	グリーン片岩 H193/1	16.9	4.1	2.5	1120	磨製定形	両方・裏面磨削	794E
V-43	89	53	M-1	磨製石刃	盛土層	片岩	灰白色 H193/1	10.2	5.0	1.2	51.9	定形	両面磨削	794E
V-43	90	53	M-1	磨製石刃	盛土層	緑色頁岩	グリーン片岩 H193/1	9.3	6.1	2.6	506	定形	両面磨削	794E
V-43	91	53	9-1 m1-17	たたく石	盛土層	砂岩	灰白色 H193/1	12.7	6.5	2.7	333	定形	平磨削に 対応加工	794E
V-43	92	53	9-1 m1-15	たたく石	盛土層	砂岩	にじみ黄褐色 H193/1	9.0	7.5	2.6	188	定形	両面に磨削に 対応加工	794E
V-43	93	53	M-1	たたく石	盛土層	砂岩	灰白色 H193/1	13.6	6.7	3.9	903	定形	両面に磨削に 対応加工	794E
V-43	94	53	M-1	たたく石	盛土層	砂岩	灰白色 H193/1	7.9	7.3	2.5	190	定形	両面に磨削に 対応加工	794E
V-43	95	53	M-1	たたく石	盛土層	砂岩	灰白色 H193/1	10.4	7.9	4.8	541	定形	両面に磨削に 対応加工	794E
V-44	96	53	M-1	たたく石	盛土層	砂岩	灰色 H193/1	30.5	10.9	4.5	590	定形	平磨削に 対応加工	794E
V-44	97	53	M-1	たたく石	盛土層	砂岩	灰白色 H193/1	17.5	4.9	3.0	335	定形	平磨削に 対応加工	794E
V-44	98	54	M-1	たたく石	盛土層	砂岩	にじみ黄褐色 H193/7	5.9	13.6	6.4	904	定形	両面に磨削に 対応加工	794E
V-44	99	54	M-1	たたく石	盛土層	砂岩	灰白色 H193/1	12.1	17.2	4.0	1140	磨製定形	最下層の 平磨削に 対応加工	794E
V-44	100	54	M-1	磨製石刃	盛土層	安山岩	灰白色 H193/1	7.1	16.9	2.5	376	定形	両面磨削	794E
V-44	101	54	M-1	磨製石刃	盛土層	安山岩	灰白色 H193/1	16.7	16.6	1.6	1306	磨製定形	両面磨削	794E 6面
V-44	102	54	M-1	磨製石刃	盛土層	凝灰岩	灰白色 H193/1	11.7	16.2	1.9	286	定形	両面磨削	794E
V-44	103	54	M-1	磨製石刃	盛土層	安山岩	灰白色 H193/1	12.8	14.3	3.7	667	定形	厚みが異なる部分	794E
V-45	104	54	M-1	磨製石刃	盛土層	砂岩	灰白色 H193/1	6.3	11.9	2.5	224	定形	両面磨削	794E
V-45	105	54	M-1	石刃	盛土層	安山岩	灰白色 H193/1	5.1	11.3	5.4	39.9	定形	上下両面 背磨加工	794E
V-45	106	54	M-1	石刃	盛土層	砂岩	灰黄褐色 H193/1	14.6	12.4	17.0	19.0	磨製定形	上下両面に 背磨加工	794E

表 V-15 遺構出土の掲載石器等一覧 (3)

掲載 番号	番号	図面 番号	出土地点	器種名	層位	石材 の 色調	長さ (mm)	幅 (mm)	高さ (mm)	重量 (g)	製作 状態	特徴 顕著事項	備考1
V-45	107	54	M-1	磁石	縄土層	砂鉄	11.7	11.4	4.4	506	半形	表面に磁石 付着跡あり	1910E
V-45	108	54	M-1	磁石	縄土層	磁鉄屑					半形	表面に磁石 付着跡あり	1910E
V-45	109	54	M-1	台石・石質	縄土層	燧石類	24.3	25.7	13.8	13,600	定形	平型な平ら面	
V-45	110	54	M-1	半製品	縄土層	磁鉄屑	117.0	13.9	13.2	1321	不定形	特に 金属研削 跡あり	
V-46	111	55	M-2 a/c	石鏃	縄土層	燧石 H197/2	13.4	1.2	8.3	11.10	定形	先端部 先端が鋭利	
V-46	112	55	M-2	石鏃	縄土層	燧石 H197/2	2.9	1.2	6.3	6.83	定形	先端部	1940E
V-46	113	55	M-2	石鏃	縄土層	燧石 H197/2	4.5	1.9	8.5	3.15	定形	先端部	1940E
V-46	114	55	M-2	石鏃・ナイフ	縄土層	燧石 H197/2	16.3	2.0	1.1	135.9	定形	先端部鋭利	1940E
V-46	115	55	M-2	石鏃・ナイフ	縄土層	燧石 H197/2	8.9	3.2	1.7	26.3	定形	基部が丸くなる	1940E
V-46	116	55	M-2	石鏃・ナイフ	縄土層	燧石 H197/2	23.4	5.1	1.9	184	定形	大型	1940E
V-46	117	55	M-2	両面調整石鏃	縄土層	燧石 H197/2	13.4	5.7	4.0	229	—	修整跡	1940E
V-46	118	55	M-2	両面調整石鏃	縄土層	燧石 H197/2	9.1	5.6	2.9	325	—	両面加工後 背面加工	1940E
V-46	119	55	M-2	つまみ付きナイフ	縄土層	燧石 H197/2	7.7	3.0	0.9	16.4	定形	片側加工	1940E
V-46	120	55	M-2	つまみ付きナイフ	縄土層	燧石 H197/2	11.1	2.5	1.9	63.2	定形	片側加工	1940E
V-47	121	55	M-2	スライバー	縄土層	燧石 H197/2	5.5	3.4	1.3	81.2	定形	両端に凹部 延長	1940E
V-47	122	55	M-2	スライバー	縄土層	燧石 H197/2	4.2	4.0	1.5	26.4	定形	両端、下縁部に 凹部	1940E
V-47	123	55	M-2	スライバー	縄土層	燧石 H197/2	7.1	4.7	1.9	45.9	定形	両端に凹部 延長	1940E
V-47	124	55	M-2	スライバー	縄土層	燧石 H197/2	8.7	5.6	1.7	54.9	定形	両端に凹部 延長	1940E
V-47	125	55	M-2	石鏃	縄土層	燧石 H197/2	10.1	6.5	6.2	209	—	エッジがフタチャー 多い	1940E
V-47	126	55	M-2 a/c	石鏃	縄土層	燧石 H197/2	9.1	9.2	8.5	336	—	打痕に付着跡 あり	1940E
V-48	127	55	M-2	石鏃	縄土層	燧石 H197/2	6.5	9.8	13.4	546	—	打痕に付着跡 あり	1940E
V-48	128	56	M-2	調整石鏃	縄土層	燧石 H197/2	7.3	5.7	2.0	136	半形	両端に凹部 延長	1910E
V-48	129	56	M-2	たたく石	縄土層	砂鉄	9.9	6.7	2.2	205	定形	下縁部、右側縁 に凹部	1940E
V-48	130	56	M-2	たたく石	縄土層	砂鉄	12.7	5.5	2.6	329	定形	下縁部、右側縁 に凹部	1940E
V-48	131	56	M-2	扁平打製石鏃	縄土層	燧石 H197/2	6.3	11.7	2.7	288	定形	平型に 加工	1940E
V-48	132	56	M-2	すり石	縄土層	燧石 H197/2	8.1	14.0	7.1	1117	定形	両端縁に凹部 延長	1940E
V-48	133	56	M-2	扁平打製石鏃	縄土層	燧石 H197/2	10.9	16.3	2.1	304	定形	両端縁に凹部 延長	1910E
V-48	134	56	M-2	扁平打製石鏃	縄土層	燧石 H197/2	7.8	15.6	2.7	404	定形	両端縁に凹部 延長	1940E
V-48	135	56	M-2	磁石	縄土層	長鉄	13.9	15.1	11.7	136.3	定形	全面に磁石 付着	1940E
V-48	136	56	M-2	石鏃	縄土層	燧石 H197/2	8.4	9.9	3.5	244	定形	両端縁に凹部 延長	1940E

表 V-16 包含層出土の掲載石器等一覧 (1)

発掘番号	番号	発掘層	出土地帯	用途	器種名	石材	石材の色調	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	重量 (g)	残存状態	特徴・備考事項	備考1
V-54	1	57	1045X	IV	石鏃	貫岩	黒褐色 10192.1	4.0	1.4	0.5	1.95	完整	三角形 刃部	
V-54	2	57	1045X	IV	石鏃	貫岩	黒褐色 10192.1	5.1	1.5	0.4	1.35	完整	三角形 平基	
V-54	3	57	1045X	IV	石鏃	貫岩	黒褐色 10194.1	2.6	1.2	0.4	1.05	完整	腰形 尖基	
V-54	4	57	1045X	IV	石鏃	貫岩	黒褐色 10194.1	2.5	1.2	0.3	0.70	完整	腰形 尖基	
V-54	5	57	1045X	IV	石鏃	貫岩	黒褐色 10194.1	3.7	1.6	0.4	1.71	完整	腰形 尖基	
V-54	6	57	1045X	IV	石鏃	貫岩	オレンジ灰色 7.3019.1	4.0	1.5	0.4	1.9	完整	腰形 尖基	
V-54	7	57	1045X	IV	石鏃	貫岩	黒褐色 10194.1	3.9	1.2	0.3	1.06	完整	腰形 鋭形	
V-54	8	57	1045X	IV	石鏃	貫岩	黒褐色 10194.1	3.4	1.3	0.4	1.4	完整	腰形 鋭形	
V-54	9	57	1045X	IV	石鏃	貫岩	黒褐色 10194.1	2.4	1.3	0.4	0.87	完整	有蓋 40%品?	
V-54	10	57	1045X	IV	石鏃	貫岩	黒褐色 10194.1	3.9	1.5	0.3	0.70	完整	有蓋 刃部欠損	
V-54	11	57	1045X	V	石鏃・ナイフ	貫岩	黒褐色 10194.1	5.2	3.1	1.0	14.5	完整	刃部 長方形的	
V-54	12	57	1045X	V	石鏃・ナイフ	貫岩	黒褐色 10194.1	11.6	5.1	1.8	92.3	完整	木蓋付 刃基	
V-54	13	57	1045X	V	石鏃・ナイフ	貫岩	黒褐色 10194.1	10.5	2.7	1.5	64.7	完整	有蓋・刃部欠	
V-54	14	57	1045X	IV	両面調整石器	貫岩	黒褐色 10193.1	15.1	7.0	2.4	194	完整	木蓋付	検出
V-55	15	57	1045X	I	両面調整石器	貫岩	黒褐色 10193.1	12.3	6.9	2.7	195	完整	木蓋付	
V-55	16	57	1045X	I	両面調整石器	貫岩	灰青褐色 10194.2	7.9	4.4	1.6	63.3	完整	刃部	
V-55	17	57	1045X	IV	両面調整石器	貫岩	にじみ黄褐色 10197.2	6.1	7.2	2.7	140	完整	刃部	
V-55	18	57	1045X	IV	石鏃	貫岩	黒褐色 10194.1	4.5	1.1	0.5	2.6	完整	横溝加工	
V-55	19	57	1045X	IV	石鏃	貫岩	黒褐色 10194.1	3.9	1.5	0.4	2.99	完整	両側縁に溝入	
V-55	20	57	1045X	I	石鏃	貫岩	灰青褐色 10194.2	5.3	1.0	0.6	4.01	完整	鏡片の一端を 横溝加工	
V-55	21	57	1045X	IV	つまみ付きナイフ	貫岩	黒褐色 10194.1	7.9	3.5	0.8	15.8	完整	刃部	
V-55	22	57	1045X	IV	つまみ付きナイフ	貫岩	黒褐色 10194.1	10.5	5.7	1.6	62.3	完整	片加工	
V-55	23	57	1045X	IV	つまみ付きナイフ	貫岩	にじみ黄褐色 10197.4	7.5	3.2	1.0	13.4	完整	片加工・両側縁加工	
V-55	24	57	1045X	IV	つまみ付きナイフ	貫岩	黒褐色 10194.1	5.8	2.0	0.6	6.47	完整	片加工・両側縁加工	
V-55	25	57	1045X	IV	つまみ付きナイフ	貫岩	黒褐色 10194.1	5.8	2.2	0.9	9.94	完整	片加工・両側縁加工	
V-56	26	58	11005X	IV	ステレオバール	貫岩	黒褐色 10194.1	5.6	2.0	1.1	7.2	完整	トランシエ線付縁部 刃部欠損	
V-56	27	58	11005X	I	ステレオバール	貫岩	灰石色 10194.1	4.5	3.5	1.2	14.3	完整	トランシエ線付縁部 刃部欠損	
V-56	28	58	1025X	I	ステレオバール	貫岩	にじみ黄褐色 10197.2	6.9	4.9	2.1	67.9	完整	トランシエ線付縁部 刃部欠損	
V-56	29	58	11005X	I	ステレオバール	貫岩	黒褐色 10194.1	5.6	3.5	1.1	17.4	完整	トランシエ線付縁部 刃部欠損	
V-56	30	58	11005X	IV	ステレオバール	貫岩	黒褐色 2.3197.1	6.0	3.7	1.3	36.7	完整	両面調整 両側縁・下縁部 刃部欠損	
V-56	31	58	1045X	IV	ステレオバール	貫岩	にじみ黄褐色 10197.2	6.3	3.2	1.5	34.4	完整	両側縁・下縁部 刃部欠損	
V-56	32	58	11005X	IV	ステレオバール	貫岩	黒褐色 10194.1	7.8	5.4	1.7	64.7	完整	両側縁・下縁部 刃部欠損	
V-56	33	58	1045X	IV	ステレオバール	貫岩	黒褐色 10194.1	6.0	5.3	1.1	44.6	完整	両側縁・下縁部 刃部欠損	
V-56	34	58	11025X	V	ステレオバール	貫岩	灰青褐色 10194.2	7.6	4.2	1.0	27.3	完整	両側縁・下縁部 刃部欠損	
V-56	35	58	1045X	I	ステレオバール	貫岩	黒褐色 10194.1	7.8	5.1	2.0	53.5	完整	両側縁・下縁部 刃部欠損	
V-56	36	58	11025X	IV	ステレオバール	貫岩	灰青褐色 10194.2	4.3	3.9	0.8	11.3	完整	つまみ部あり 刃部欠損	
V-56	37	58	1025X	IV	ステレオバール	貫岩	黒褐色あり	6.0	4.1	2.1	40.1	完整	つまみ部あり 刃部欠損	
V-57	38	59	1025X	IV	石鏃	貫岩	灰色 2.317.1	4.9	4.9	0.2	203	---	刃部加工部 変色	
V-57	39	58	1025X	V	石鏃	貫岩	灰青褐色 10194.2	10.2	5.0	3.7	144	---	縦溝の残存	
V-57	40	58	1045X	IV	磨製石器	灰岩	灰青褐色 2.317.1	6.6	2.5	1.0	29.1	完整	小型 刃部	
V-57	41	58	1045X	IV	磨製石器	貫岩	黒褐色 2.317.1	19.33	4.2	1.7	1101	準完整	長方形 両側縁部を凹み部	
V-57	42	58	1045X	IV	磨製石器	緑色片岩	オレンジ灰色 2.317.1	16.71	15.31	13.31	12131	準完整	基部に凹み部 割れ部あり	
V-57	43	58	11005X	IV	磨製石器	灰岩	灰色 2.317.1	6.4	5.2	0.9	45.9	完整	上下に刃部	
V-57	44	58	11015X	IV	磨製石器	緑色片岩	オレンジ灰色 10197.2	5.8	3.4	1.8	53.9	完整	下縁部 中心部欠ける	*検出
V-57	45	59	11005X	IV	たたま石	燧石	にじみ黄褐色 10197.2	12.8	5.0	2.7	394	完整	基部に凹み部 割れ部あり	
V-57	46	59	11015X	IV	たたま石	灰岩	にじみ黄褐色 10197.2	17.2	7.5	2.5	607	完整	基部に凹み部 割れ部あり	
V-57	47	59	1045X	IV	たたま石	燧石	にじみ黄褐色 10197.4	9.1	6.1	2.5	189	完整	基部に凹み部 割れ部あり	
V-58	48	59	1045X	I	たたま石	砂岩	灰石色 2.317.1	13.2	4.9	2.8	237	完整	心臓形に したま石	
V-58	49	59	11015X	I	たたま石	砂岩	灰石色 2.317.1	14.4	7.1	3.9	584	完整	下縁部 刃部欠損	
V-58	50	59	11005X	IV	オヤ石	燧山岩	灰石色 2.317.1	10.7	6.7	5.7	743	完整	刃部欠損	
V-58	51	59	1045X	IV	オヤ石	砂岩	灰石色 2.317.1	11.2	5.9	3.9	375	完整	上・下縁部 刃部欠損	
V-58	52	59	1045X	IV	オヤ石	燧山岩	にじみ黄褐色 10197.4	6.8	11.71	15.71	1520	準完整	基部に凹み部	

表V-16 包含層出土の掲載石器等一覧(2)

発掘番号	検号	図録番号	出土地点	層位	器種名	石材	石材の色調	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	保存状態	特徴 説明事項	備考1
V-58	53	59	T100区	IV	すり石	砂岩	灰白色 と、白/3	7.4	16.7	4.7	737	完形	断面三角形	
V-58	54	59	985区	IV	すり石	砂岩	灰白色 と、白/3	13.2	16.0	3.9	955	完形	すり面付と欠き	
V-58	55	59	T90区	V	すり石	砂岩	にじみ状褐色 1019/2	7.0	13.3	3.1	419	完形	両側縁取り	
V-58	56	90	595区	I	扁平打製石器	安山岩	灰白色 と、白/3	7.9	13.3	1.43	1213	不完全	半月状	
V-58	57	90	910区	I	扁平打製石器	安山岩	にじみ状褐色 1019/3	6.0	15.0	1.9	291	完形	半月状	
V-58	58	90	810区	I	すり石	安山岩	にじみ状褐色 1019/2	10.1	12.9	3.5	609	完形	両側縁取り・磨面	
V-58	59	90	S91区	I	北庵遺式石鏡	安山岩	灰白色 と、白/3	12.4	17.2	6.5	2599	完形	上縁・側面 打欠・磨打	
V-58	60	90	987区	I	鏡片	凝灰岩	にじみ状褐色 1019/2	6.1	6.5	3.8	180	完形	両側の 磨面	
V-58	61	90	T91区	I	鏡石	凝灰岩	にじみ状褐色 1019/2	69.0	12.9	6.9	6900	完形	大径の 両面磨打	
V-58	62	90	T94区	V	石鏡	砂岩	灰白色 と、白/3	4.2	6.1	1.5	52.9	完形	両側の 磨打	
V-58	63	90	T104区	IV	石鏡	凝灰岩	にじみ状褐色 と、白/3	5.6	6.3	1.7	66.5	完形	両側の 磨打	
V-58	64	90	595区	I	石製品	凝灰岩	にじみ状褐色 1019/2	7.7	17.33	11.43	1213	不完全	磨面	
V-58	65	90	805区	IV	石製品	砂岩	にじみ状褐色 1019/2	6.4	5.5	4.6	96.5	完形	全面磨打	
V-58	66	90	810区	V	石製品	凝灰岩	灰白色 1019/2	5.2	5.7	1.2	15.1	完形	三角磨打	

表V-17 遺構・包含層出土の掲載旧石器一覧

発掘番号	検号	図録番号	出土地点	層位	器種名	石材	石材の色調	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	保存状態	特徴 説明事項	備考1
V-62	1	61	W-2	遺土層	網石刀類	頁岩	網状色 1019/1	3.7	9.5	2.2	61	—	1・5土埋合	985区
V-62	2	61	T97区	I	網石刀類	頁岩	褐色 1019/1	4.0	7.9	2.3	73.3	—		
V-62	3	61	T90区	IV	網石刀類	頁岩	網状色 1019/1	3.9	4.6	1.7	23.5	—		
V-62	4	61	W-2	遺土層	網石	頁岩	網状色 1019/2	2.3	16.1	2.6	53.7	—	1・5土埋合	985区
V-62	5	61	W-2	遺土層	網石	頁岩	網状色 1019/2	3.6	10.4	2.4	26.5	—	1・4土埋合	985区
V-63	6	61	S90区	IV	網石	頁岩	灰褐色 1019/2	3.2	2.2	3.3	69.9	—		
V-63	7	61	T89区	II	網石	頁岩	灰白色 1019/1	1.7	9.3	4.9	68.8	—		
V-63	8	61	W-1	遺土層	スクレイパー	頁岩	灰褐色 1019/2	11.6	4.1	2.4	61.2	完形		595区
V-63	9	61	W-1	遺土層	スクレイパー	頁岩	網状色 1019/1	13.0	3.0	1.8	69.9	完形		595区
V-63	10	61	W-1	遺土層	スクレイパー	頁岩	灰褐色 1019/2	11.4	2.7	1.9	23.4	完形		597区
V-64	11	91	T90区	VI	石刀	頁岩	灰褐色 1019/2	17.7	2.7	2.3	66.9	—		
V-64	12	61											1・4・5埋合資料	

VI章 まとめ

1. 遺構について

遺構は盛土遺構2か所、竪穴住居跡5軒、土坑9基、Tピット1基、焼土2か所を確認した。

盛土遺構の時期は縄文時代前期後半で、出土土器からM-1が円筒土器下層b2式期、M-2が円筒土器下層c式～d2式で、円筒土器下層d1式期が主体であると考えられる。

M-1は遺物点数が土器等71,548点、石器等44,343点と遺跡の総遺物点数の63%を占める多量の遺物が出土した。M-1は色調の違いにより土層を上層、下層の2つに大別できたが、土器集中は上下層ともに全体から出土し、フレイク集中は主に下層から出土した。土器集中(mps-1~40)の土器は潰れた状態で検出されたものがほとんどで、口縁部や口縁部と胴部の間が打ち欠かれたものもある。また数個体がまとめて検出するものも多く、mps-22では20個体以上が広範囲にまとめて検出された。フレイク集中(mfc-1~17)は、3~10cmの比較的大型の剥片が多く、多くは同一母岩と考えられ、破損した製品や石核なども剥片の集中域からともに出土している。mps-24とmfc-4、mps-28とmfc-12など土器集中と混在して検出する例もあった。

M-2はM-1に比して遺物が少なく、付属遺構も焼土4か所、土器集中2か所、フレイク集中4か所と少ない。これはM-2の中央部がIV層まで広く削平されている影響もあると考えられる。

細長い調査区のため、M-1・M-2とも全体像はつかめなかったが、両者とも盛土直下に焼土があり、土器、フレイクの集中域があるなど共通点がある。また東側に隣接する札刈5遺跡では円筒土器下層c～d1式期主体の竪穴住居跡が12軒検出しており、この集落とM-2の関連も伺われる。

竪穴住居跡の時期はH-1・4・5が縄文時代前期後半、H-2・3が縄文時代後期前葉と考えられる。H-1・4はM-1とM-2の中間に位置し、H-1がH-4を切って構築される。H-1は床面まで広く攪乱を受けているが、支柱穴が4本以上の可能性がある。H-5は調査区東側で検出された。覆土の焼土上位からはIV群a類土器が出土したが、床面の遺物から縄文時代前期後半と判断した。床面中央に溝が1条設けられるが、この時期の北斗市矢不來6遺跡H-1、北斗市館野6遺跡H-61などに類例がある。H-2は平面形が卵形で、石組炉と先端部にピットがあるもので、縄文時代中期後半の特徴を残すが、出土遺物から縄文時代後期前葉と判断した。覆土中に焼土ブロックがみられ、炭化材も少量だが検出したため、焼失住居跡と考えられる。

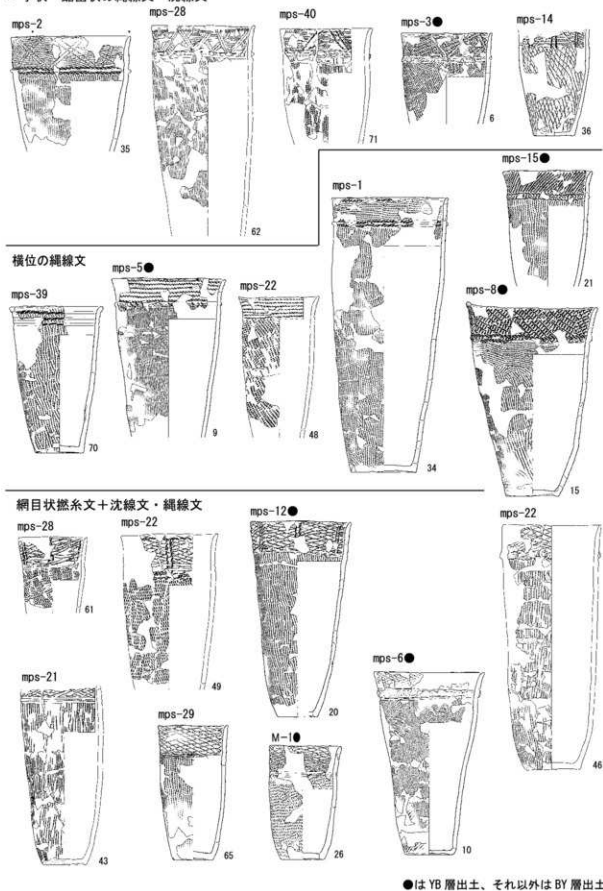
土坑の時期はP-7が縄文時代早期、P-1~6・8・9が縄文時代前期後半である。P-7は他の土坑とは離れた調査区東側に位置し、I群a類土器片と断面が三角形のすり石が出土した。P-1・2・4~6はM-2と重複し、M-2調査中に検出した。P-5はM-2の焼土を切って構築されることから、P-6は土層の状況から、それぞれM-2より新しいと考えられる。P-1・2・4はM-2との新旧関係が不明であるが、P-1・2は覆土から円筒土器下層b式、P-4は円筒土器下層d1式の破片が出土している。P-3・8・9はM-1と重複し、M-1調査後に検出した。M-1の盛土層と同様の覆土であることから、M-1と同時期か、より古いものと考えられる。

2. M-1 出土の円筒土器下層式について

M-1では円筒土器下層b式の後半期(b2とした)と考えられる土器がまとめて出土した。盛土層は下層のBY層、上層のYB層に分けられ、植林の攪乱の影響を受けていたが、層位的に調査で

円筒土器下層b2式

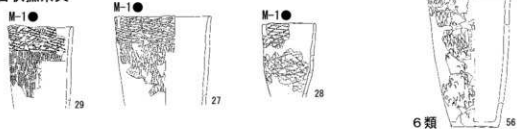
× 字状・鋸歯状の縄線文・沈線文



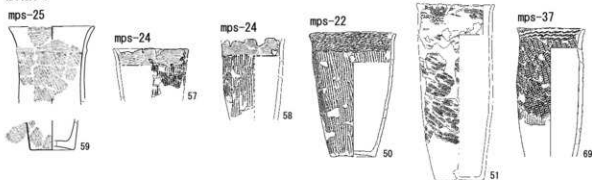
図VI-1 M-1出土の土器集成(1)

円筒土器下層 b2 式

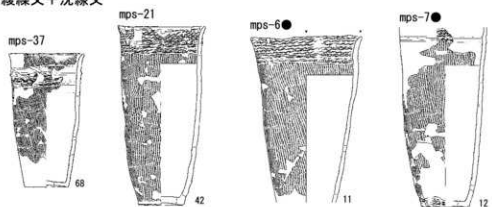
網目状燃糸文



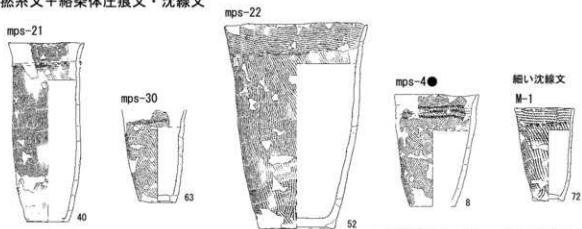
綾格文



綾線文+沈線文



燃糸文+絡条体圧痕文・沈線文

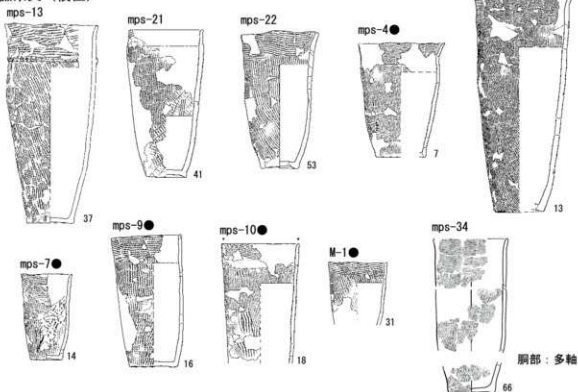


●は YB 層出土、それ以外は BY 層出土

図Ⅵ-2 M-1出土の土器集成 (2)

円筒土器下層 b2 式

燃糸文 (横位)



縄文



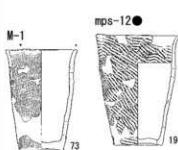
羽状縄文



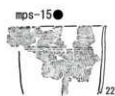
無文



文様帯のないもの



燃り戻し縄文



台付土器



●は YB 層出土、それ以外は BY 層出土

図VI-3 M-1出土の土器集成 (3)

きた。しかしながら、上下層とも同じような文様構成が多くみられ、あまり時期差のないまとまった資料と考え、ここでは、B Y層・Y B層合わせて、口縁部文様帯の文様別に集成した図を作成した。M-1出土の円筒土器下層b 2式の特徴を述べ、B Y層とY B層出土土器の差異などを整理する。

M-1 出土の円筒土器下層b 2式

器形・胎土等：

土器の量目は、口径108～304cm、底径6～16cm、器高18～58cmである。器高から小型(18～24cm)、中型(26～34cm)、大型(38～58cm)に分けられ、器形は概ね筒形である。口縁部は平縁または緩やかな小波状で、やや開くものも多い。口唇部断面は丸形で、口唇部は概ねナデ調整のみである。胴部はやや膨らむものや直線的なものがあり、底部は上げ底が主体である。内面はナデ調整され、胎土には繊維を多く含む。

下層のB Y層出土の土器に大型のものが多く、胴部が細長い印象のものも多い。上層のY B層では大小の2つの大きさに集約されていく傾向があり、口縁部が外反する器形も増加する。

口縁部文様帯：

口縁部文様帯の幅は破片土器も含めると3～8cmで、5cm前後のものが多い。口縁部文様帯は隆帯、縄線文、沈線文などで区画されるもの、区画はされないが、綾絡文と燃糸文など異なる文様構成とするもの、原体の施文の向きを変えて文様帯を区別するものがある。口縁部文様帯の地文は単軸絡糸体第1類の燃糸文が主体で、他に単軸絡糸体第5類の燃糸文、縄文、綾絡文などがある。また口縁部から底部まで同一の施文で、口縁部文様帯を持たないものも少量ある。以下、口縁部文様帯の文様のごとくに特徴を述べる。

「×」字状・鋸歯状の縄線文・沈線文：縄線文や沈線文で「×」字状文、鋸歯状文を連続させる文様構成で、B Y層に多くみられた。口縁部文様帯の地文は横位の燃糸文が多く、隆帯により区画されるものが多い。m p s-14の36では鋸歯状沈線文に縦位2条の縄線文が加えられている。

横位の縄線文：1条～多条の横位縄線文が施されるもの、細い隆帯の上下に横位縄線文が加えられるものがある。多条の横位縄線文は、Y B層では無文地に施されるものが多い。

網目状燃糸文+沈線文・縄線文：文様帯に単軸絡糸体第5類の網目状燃糸文を横位に施文し、横位の沈線文2条で胴部と区画するものが特徴的にみられ、2本1組の縦位の縄線文を4～6単位で加えるものも多い。胴部の文様は縦位の燃糸文のほか、多軸絡糸体回転文などがある。

網目状燃糸文のみ：口縁部文様帯では横位、胴部では縦位に方向を変えて施されるものも多く、口縁部から底部まで網目状燃糸文のみを施すものもある。単軸絡糸体第5類がほとんどで、6類は少量である。Y B層で増加する傾向がみられる。

綾絡文：口縁部文様帯には不整の綾絡文が施され、胴部には単軸絡糸体第1類の燃糸文が縦位に施されるものが、B Y層や包含層で多くみられる。また2～3条の整った綾絡文が施されるものもある。

綾絡文+沈線文：B Y層では細い隆帯の下位に綾絡文と横位の沈線文が施されるものがあり、Y B層では口縁部文様帯の不整綾絡文を沈線文2条で区画するものが多い。

燃糸文+絡糸体圧痕文：単軸絡糸体第1類の燃糸文が施されるものに、文様帯の区画に絡糸体圧痕文が1条もしくは3条横位に押捺される。細い隆帯の直下に絡糸体圧痕文が加えられるものもある。B Y層に多い。

燃糸文：単軸絡糸体第1類の燃糸文を口縁部では横位、胴部では縦位に施す文様構成は、大型から小型の器形まで広くみられ、Y B層・B Y層とも最も多くみられる文様構成である。少量ながら、これに隆帯が付加されるものもある。また口縁部から底部にかけ、単軸絡糸体第1類の燃糸文が縦位、斜位に施文され、文様帯がないものもある。

縄文・羽状縄文・無文：m p s-29の64は複節縄文が地文で、刺突文が施された太い隆帯で区画され、円筒土器下層b 1式の特徴を有する。羽状縄文は結束第1種で、向きを変え対向するものもあ

る。横位の縄線文で区画される例もある。mp s-35では口縁部文様帯が無文となるものがみられた。

燃り戻しの縄文：口縁部や胴部に反燃縄文が施されるものがY B層でみられた。これらは口縁部が外反し、器厚は薄くなる傾向があり、内面の調整が丁寧である。口縁部文様帯は燃り戻し縄文、貝殻条痕文、結束羽状縄文が地文で、縦位や横位の縄線文が施されるものが多い。

隆帯：

隆帯は断面が半円状で、低く、縄線文や沈線文が上下に加えられるものがほとんどである。これらの中には隆帯がわずかに隆起する程度のももあり、この類が横位2条の沈線文や縄線文に置き換わっていくものと考えられる。隆帯はY B層・BY層とも一定数みられるが、BY層では比較的高さのある隆帯をもつものが多い。

胴部の文様：

胴部の文様については、掲載していないものも含め約220個体分を確認した。単軸絡条体第1類の燃糸文が縦位、斜位に施されるものが78%と主体的で、縄文（単節、複節、合燃、付加条文）が11%、多軸絡条体の回転文5%、単軸絡条体第5類・6類の網目状燃糸文が5%である。Y B層・Y B層を通じて単軸絡条体第1類の燃糸文が主体だが、Y B層では燃り戻しの縄文や多軸絡条体回転文、網目状燃糸文が増加する傾向がある。

台付土器：小型の台付土器がY B層から2点出土した。1点は復元土器で口縁部はなく、胴部は多軸絡条体回転文が施され、1点は高台部分の破片土器で縄文が施される。

まとめ：

M-1出土の円筒土器下層b 2式は、

Y B層ではmp s-29の64のように太く、高い隆帯があるもの、口縁部文様帯に不整の綾絡文が施されるものなど円筒土器下層b 1式にみられる古い要素が残る。

Y B層、Y B層では、単軸絡条体第1類の燃糸文の多用が特徴的で、燃糸文を口縁部に横位、胴部に縦位に施す文様構成は最も多くみられ、胴部の文様の8割近くが縦位、斜位の燃糸文である。

口縁部文様帯の文様は単軸絡条体第1類の燃糸文の他、単軸絡条体第5類の網目状燃糸文、綾絡文、羽状縄文、横位の縄線文、鋸歯状の沈線文など多様である。文様帯の区画は低い隆帯の上下に沈線文、縄線文が付加されるもの、沈線文、縄線文などがある。

Y B層では、Y B層と同じ文様構成が続くが、貝殻条痕文、多軸絡条体回転文、燃り戻しの縄文など新しい要素が加わる。また底部に高台をもつ特殊器形の土器も出現する。これらは後の円筒土器下層c 式へと続く様相と考えられる。

3. 放射性炭素年代測定の結果について

M-1直下の焼土(m f-1・2)から2点、M-2直下の焼土(m f-3)から1点、H-2跡から1点の計4点の試料について放射性炭素年代測定を行った。M-1・2の焼土については、縄文時代前期後半、H-2については縄文時代後期初頭の年代を想定していた。結果はM-1 m f-1が縄文時代中期中葉、m f-2が縄文時代中期中葉から後葉、M-2 m f-3が縄文時代前期中葉、H-2跡が縄文時代後期初頭であった。H-2については想定通りであるが、M-1・2のm fの年代は前期中葉から中期後葉まで1000年近くの差があり、特にM-1 m f-1・2については想定よりかなり新しい年代となった。M-1は円筒土器下層b 2式が主体で、盛土層除去後に検出したm f-1・2は、縄文時代前期後半より新しくなることはないと考えている。年代測定結果との不整合は、試料の取り上げや選別等に問題があったことが考えられる。試料の取り上げ等については、今後も十分、注意を払っていきたい。(愛場)

付 篇

自然科学的手法による分析

札苅 8 遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

(株) 加速器分析研究所

1 測定対象試料

札苅 8 遺跡は、北海道上磯郡木古内町字札苅 723-6 ほか (北緯 41° 42' 13.2", 東経 140° 28' 24.6") に所在し、幸連川支流右岸の河岸段丘上 (標高 11~14 m) に立地する。測定対象試料は、盛土遺構と堅穴住居跡から出土した木炭 4 点である (表 1)。

試料 SATU8-1~同 3 は、盛土遺構の層中で検出された焼土から出土した。SATU8-4 は、堅穴住居跡床面の炉跡焼土から出土した。SATU8-1~同 3 は縄文時代前期後半 (5000~4700yrBP 頃)、SATU8-4 は縄文時代後期前葉 (3900~3700yrBP 頃) と推定されている。

2 測定の意義

試料が出土した遺構の年代を明らかにする。

3 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の付着物を取り除く。
- (2) 酸-アルカリ-酸 (AAA: Acid Alkali Acid) 処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 $1\text{ mol} / \ell$ (1 M) の塩酸 (HCl) を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム (NaOH) 水溶液を用い、0.001 M から 1 M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1 M に達した時には「AAA」、1 M 未満の場合は「AaA」と表 1 に記載する。
- (3) 試料を燃焼させ、二酸化炭素 (CO_2) を発生させる。
- (4) 真空ラインで二酸化炭素を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト (C) を生成させる。
- (6) グラファイトを内径 1 mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

4 測定方法

加速器をベースとした ^{13}C -AMS 専用装置 (NEC 社製) を使用し、 ^{13}C の計数、 ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$)、 ^{14}C 濃度 ($^{14}\text{C} / ^{12}\text{C}$) の測定を行う。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (HOx II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

5 算出方法

- (1) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度 ($^{13}\text{C} / ^{12}\text{C}$) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表した値である (表 1)。AMS 装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。
- (2) ^{14}C 年代 (Libby Age: yrBP) は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950 年を基準年 (0yrBP) として遡る年代である。年代値の算出には、Libby の半減期 (5568 年) を使用する (Stuiver and Polach 1977)。 ^{14}C 年代は $\delta^{13}\text{C}$ によって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を表 1 に、補正していない値を参考値として表 2 に示した。 ^{14}C 年代

と誤差は、下1桁を丸めて10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差 ($\pm 1\sigma$) は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

- (3) pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。pMCが小さい (^{14}C が少ない) ほど古い年代を示し、pMCが100以上 (^{14}C の量が標準現代炭素と同等以上) の場合Modernとする。この値も $\delta^{13}\text{C}$ によって補正する必要があるため、補正した値を表1に、補正していない値を参考値として表2に示した。
- (4) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差 ($1\sigma = 68.2\%$) あるいは2標準偏差 ($2\sigma = 95.4\%$) で表示される。グラフの縦軸が ^{14}C 年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、 $\delta^{13}\text{C}$ 補正を行い、下1桁を丸めない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal13データベース (Reimer et al. 2013) を用い、OxCalv4.2較正プログラム (Bronk Ramsey 2009) を使用した。暦年較正年代については、特定のデータベース、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として表2に示した。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に基づいて較正 (calibrate) された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」(または「cal BP」) という単位で表される。

6 測定結果

測定結果を表1、2に示す。

試料の ^{14}C 年代は、SATU8-1が $4310 \pm 30\text{yrBP}$ 、SATU8-2が $4140 \pm 30\text{yrBP}$ 、SATU8-3が $5130 \pm 30\text{yrBP}$ 、SATU8-4が $3940 \pm 30\text{yrBP}$ である。暦年較正年代 (1σ) は、古い方から順にSATU8-3が縄文時代前期中葉頃、SATU8-1が中期中葉頃、SATU8-2が中期中葉から後葉頃、SATU8-4が中期末葉から後期初頭頃に相当する (小林編2008)。推定される時期に対して、SATU8-3、同4はやや古く、SATU8-1、同2はかなり新しい。

SATU8-1、同2、同4の炭素含有率はすべて60%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。SATU8-3については、微細な炭化物と土が混ざった状態と観察され、炭素含有率が1.6%という非常に低い値を示した。この試料の炭素の由来には注意を要する。

表1 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)

測定番号	試料名	採取場所	試料形態	処理方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						LibbyAge (yrBP)	pMC (%)
IAAA-142730	SATU8-1	盛土M-1mf-1(盛土中焼土) 焼土	木炭	AAA	-22.64±0.31	4,310±30	58.50±0.20
IAAA-142731	SATU8-2	盛土M-1mf-2(盛土中焼土) 焼土	木炭	AAA	-24.48±0.33	4,140±30	59.71±0.21
IAAA-142732	SATU8-3	盛土M-2mf-3(盛土中焼土) 焼土	木炭	AnA	-26.24±0.31	5,130±30	52.82±0.19
IAAA-142733	SATU8-4	H-2hf-1(聖穴住居跡) 焼土上面	木炭	AAA	-24.08±0.28	3,940±30	61.21±0.21

[#7089]

表 2 放射性炭素年代測定結果 ($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值、暦年較正用 ^{14}C 年代、較正年代)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用 (yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-142730	4,270 \pm 30	58.78 \pm 0.20	4,306 \pm 27	2922calBC-2892calBC (68.2%)	3011calBC-2975calBC (10.1%) 2968calBC-2964calBC (0.6%) 2959calBC-2951calBC (1.4%) 2943calBC-2884calBC (83.4%)
IAAA-142731	4,130 \pm 30	59.77 \pm 0.21	4,143 \pm 28	2864calBC-2834calBC (14.3%) 2818calBC-2806calBC (5.3%) 2760calBC-2663calBC (45.3%) 2646calBC-2638calBC (3.2%)	2874calBC-2625calBC (95.4%)
IAAA-142732	5,150 \pm 30	52.68 \pm 0.19	5,128 \pm 29	3975calBC-3941calBC (44.1%) 3857calBC-3819calBC (24.1%)	3986calBC-3915calBC (56.0%) 3877calBC-3804calBC (39.4%)
IAAA-142733	3,930 \pm 30	61.32 \pm 0.20	3,943 \pm 27	2546calBC-2543calBC (1.4%) 2489calBC-2450calBC (40.7%) 2420calBC-2405calBC (9.8%) 2378calBC-2350calBC (16.3%)	2566calBC-2532calBC (10.1%) 2497calBC-2342calBC (85.3%)

[参考値]

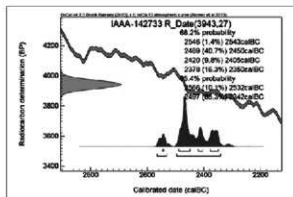
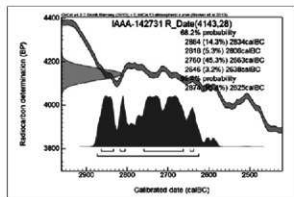
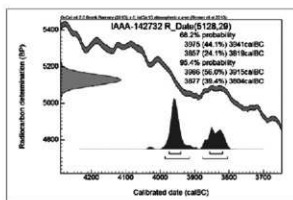
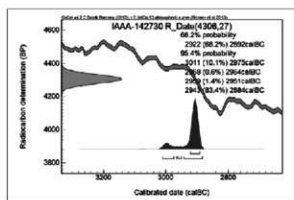
文献

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51 (1), 337-360

小林達雄編 2008 総覧縄文土器, 総覧縄文土器刊行委員会, アム・プロモーション

Reimer, P.J. et al. 2013 IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves, 0-50,000 years cal BP, Radiocarbon 55 (4), 1869-1887

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion : Reporting of ^{14}C data, Radiocarbon 19 (3), 355-363



【図版】 暦年較正年代グラフ（参考）

写 真 图 版



調査状況（西から）



M-1 検出状況（西から）

カラー図版 2



M-1 検出状況（西から）



M-1 土層断面（南から）



M-1 土層断面 (西から)



M-1 土層断面拡大 (北から)



M-1 土層断面拡大 (北から)



M-1 調査状況（西から）



M-1 調査状況（南西から）



M-1 調査状況（南東から）



M-1mps-29 ~ 35 検出状況（西から）



M-1mps-21 検出状況（東から）



M-2 検出状況（東から）



M-2 土層断面 (北西から)



M-2 土層断面 (北から)



M-2 土層断面拡大 (北西から)



M-2 調査状況 (南西から)



P-8・9 完掘 (南西から)



P-9 遺物出土状況 (東から)



調査状況（北西から）



調査状況（南西から）



調査状況（南西から）



拡張範囲（西から）



調査終了状況（東から）



調査区東側調査状況（南西から）



調査区西側調査状況（北東から）



H-1 土層断面 (北から)



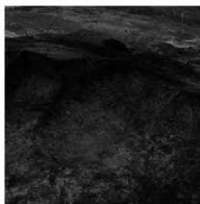
H-1hc-1 (南西から)



H-1hp-3 完掘 (南東から)



H-1hp-4 土層断面 (北東から)



H-1hp-6 完掘 (南東から)



H-1 完掘 (南西から)



H-2 土層断面 (北から)



H-2hp-1 土層断面 (北から)



H-2hp-2 土層断面 (南から)



H-2hp-3 土層断面 (南東から)



H-2hf-1 土層断面 (南東から)



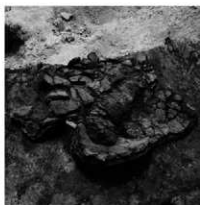
H-2 完掘 (南東から)



H-3 土層断面・完掘（北から）



H-4 完掘（東から）



H-4hps-1 出土状況（北東から）



H-4 土層断面（東から）



H-5 土層断面 (西から)



H-5hf-1 遺物出土状況 (南から)



H-5hd-1 土層断面 (北から)



H-5 完掘 (北東から)



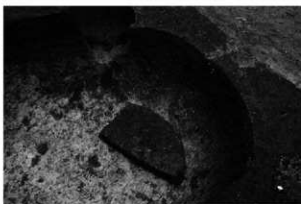
P-1 土層断面 (西から)



P-1 完掘 (北西から)



P-2 土層断面 (南東から)



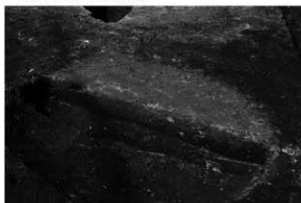
P-2 赤色土壌範囲 (東から)



P-3 土層断面 (南東から)



P-3 遺物出土状況 (東から)



P-4 土層断面 (南から)



P-4 完掘 (北東から)



P-5 土層断面 (北西から)



P-5 完掘 (北から)



P-6 土層断面 (北から)



P-5 土層断面 (西から)



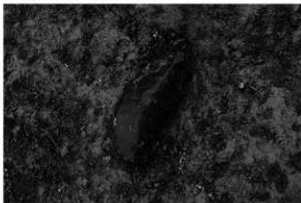
P-7 遺物出土状況 (南から)



P-8 土層断面 (南西から)



P-8 遺物出土状況 (南西から)



P-8 遺物出土状況アップ (南西から)



P-9 土層断面（東から）



P-9 遺物出土状況（北東から）



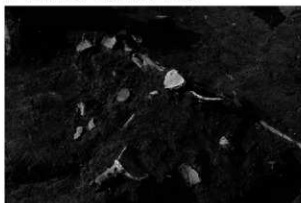
TP-1 土層断面・完掘（北西から）



F-1 土層断面（北西から）



F-2 土層断面（南西から）



F-2 付近注口土器出土状況（南東から）



R103 区IV群 a 類土器出土状況（南東から）



M-1 調査状況（南西から）



M-1 調査状況（北から）



M-1 遺物出土状況（東から）



M-1 土層断面 (西から)



M-1 土層断面 (北から)



M-1mf-1 ~ 5 検出状況 (南西から)



M-1mf-6 土層断面 (北から)



M-1mf-7 土層断面 (北西から)



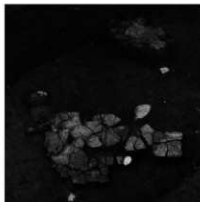
M-1mf-8 土層断面 (北西から)



M-1mf-9 土層断面 (北西から)



M-1mps-1 検出状況（北から）



M-1mps-2 検出状況（北西から）



M-1mps-3 検出状況（南西から）



M-1mps-4 検出状況（南から）



M-1mps-5 検出状況（北から）



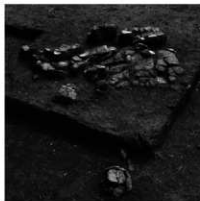
M-1mps-6 検出状況（西から）



M-1mps-7 検出状況（北東から）



M-1mps-8 検出状況（東から）



M-1mps-9 検出状況（北東から）



M-1mps-10 検出状況（北から）



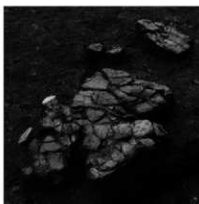
M-1mps-11 検出状況（北から）



M-1mps-12 検出状況（北東から）



M-1mps-13 検出状況 (南から)



M-1mps-14 検出状況 (南西から)



M-1mps-15 検出状況 (南東から)



M-1mps-16 検出状況 (南から)



M-1mps-17 検出状況 (東から)



M-1mps-18 検出状況 (南から)



M-1mps-19 検出状況 (南から)



M-1mps-20 検出状況 (南西から)



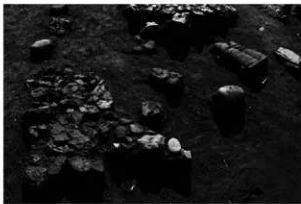
M-1mps-21 検出状況 (南東から)



M-1mps-22 検出状況（南西から）



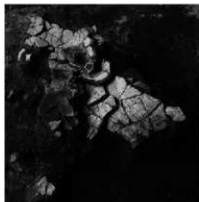
M-1mps-22 検出状況（南から）



M-1mps-23 検出状況（北東から）



M-1mps-24・mfc-4 検出状況（北から）



M-1mps-27 検出状況 (南東から)



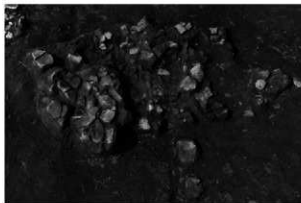
M-1mps-28 検出状況 (北から)



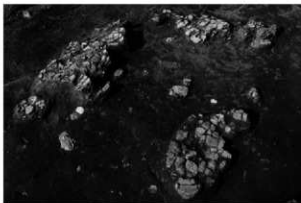
M-1mps-29 検出状況 (南東から)



M-1mps-30 検出状況 (南から)



M-1mps-31 検出状況 (南から)



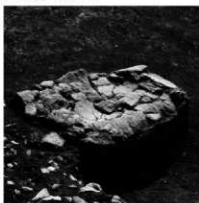
M-1mps-32・33 検出状況 (南から)



M-1mps-34 検出状況 (南東から)



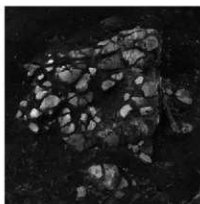
M-1mps-35 検出状況 (西から)



M-1mps-36 検出状況 (北東から)



M-1mps-37 検出状況 (南東から)



M-1mps-38 検出状況 (北西から)



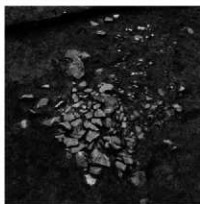
M-1mps-39 検出状況 (北から)



M-1mps-40 検出状況 (西から)



M-1mfc-1 検出状況 (北から)



M-1mfc-2 検出状況 (北から)



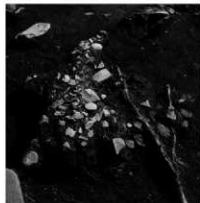
M-1mfc-3 検出状況 (南東から)



M-1mfc-4 検出状況 (北から)



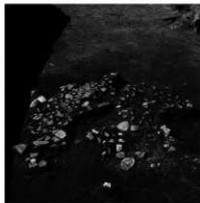
M-1mfc-5 検出状況 (北から)



M-1mfc-6 検出状況 (北東から)



M-1mfc-7 検出状況 (北から)



M-1mfc-8 検出状況 (南から)



M-1mfc-9・10 検出状況（東から）



M-1mfc-11 検出状況（南から）



M-1mfc-12 検出状況（東から）



M-1mfc-13 検出状況（南から）



M-1mfc-14 検出状況（北東から）



M-1mfc-15 検出状況（南東から）



M-1mfc-16 検出状況（西から）



M-1mfc-17 検出状況（南東から） M-1 完掘（西から）



M-2 検出状況（東から）



M-2 調査状況（東から）



M-2mf-1 土層断面 (南から)



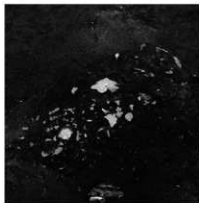
M-2mf-2 土層断面 (南東から)



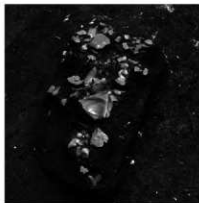
M-2mps-1 検出状況 (南から)



M-2mps-2 検出状況 (北西から)



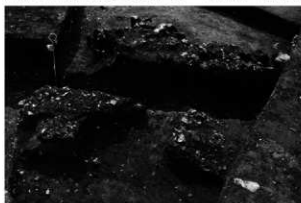
M-2mfc-1 検出状況 (北西から)



M-2mfc-2 検出状況 (西から)



M-2mfc-4 検出状況 (東から)



M-2mfc-3 検出状況 (東から)



M-2 石楯・ナイフ出土状況 (東から)



H-2 図V-2-2



H-2 図V-2-3



H-5 図V-2-5



M-1・YB層 mps-3 図V-3-6



M-1・YB層 mps-4 図V-3-7



M-1・YB層 mps-4 図V-3-8



M-1・YB層 mps-5 図V-3-9



M-1・YB層 mps-6 図V-3-10



M-1・YB層 mps-6 図V-3-11



M-1・YB層 mps-7 図V-4-12



M-1・YB層 mps-7 図V-4-13



M-1・YB層 mps-7 図V-4-14



M-1・YB層 mps-8 図V-4-15



M-1・YB層 mps-9 図V-4-16



M-1・YB層 mps-10 図V-5-18



M-1・YB層 mps-12 図V-5-19



M-1・YB層 mps-12 図V-5-20



M-1・YB層 mps-15 図V-5-21



M-1・YB層 mps-16 図V-5-23



M-1・YB層 mps-16 図V-5-24



M-1・YB層 S95区 図V-6-25



M-1・YB層 T94区 図V-6-26



M-1・YB層 S96区 図V-6-27



M-1・YB層 S96区 図V-6-28



M-1・YB層 T96区 図V-6-29



M-1・YB層 T97区 図V-6-31



M-1・YB層 S96・T97区 図V-6-33



M-1・BY層 mps-1 図V-7-34



M-1・BY層 mps-2 図V-7-35



M-1・BY層 mps-14 図V-7-36



M-1・BY層 mps-13 図V-7-37



M-1・BY層 mps-19 図V-7-38



M-1・BY層 mps-20 図V-8-39



M-1・BY層 mps-21 図V-8-40



M-1・BY層 mps-21 図V-8-41



M-1・BY層 mps-21 図V-8-42



M-1・BY層 mps-21 図V-8-43



M-1・BY層 mps-21 図V-8-45



M-1・BY層 mps-22 図V-9-46



M-1・BY層 mps-22 図V-9-48



M-1・BY層 mps-22 図V-9-49



M-1・BY層 mps-22 図V-9-50



M-1・BY層 mps-22 図V-9-51



M-1・BY層 mps-22 図V-10-52



M-1・BY層 mps-22 図V-10-53



M-1・BY層 mps-22・29 図V-10-56



M-1・BY層 mps-24 図V-10-57



M-1・BY層 mps-24 図V-10-58



M-1・BY層 mps-28 図V-11-61



M-1・BY層 mps-28 図V-11-62



M-1・BY層 mps-30 図V-11-63



M-1・BY層 mps-29 図V-11-64



M-1・BY層 mps-29 図V-11-65



M-1・BY層 mps-35 図V-12-67



M-1・BY層 mps-37 図V-12-68



M-1・BY層 mps-37 図V-12-69



M-1・BY層 mps-39 図V-12-70



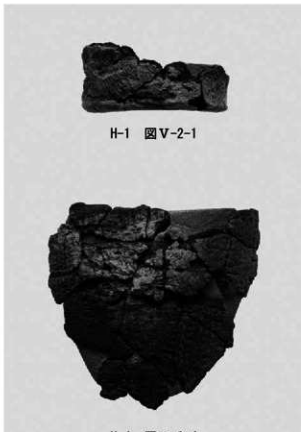
M-1・BY層 mps-40 図V-12-71



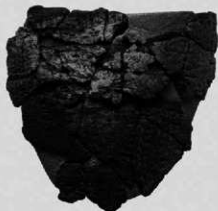
M-1・BY層 T96区 図V-12-72



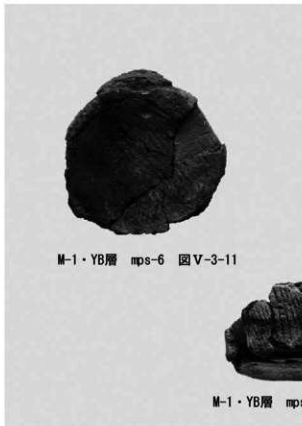
M-1・BY層 S94区 図V-12-73



H-1 図V-2-1



H-4 図V-2-4



M-1・YB層 mps-6 図V-3-11



M-1・YB層 mps-15 図V-5-22

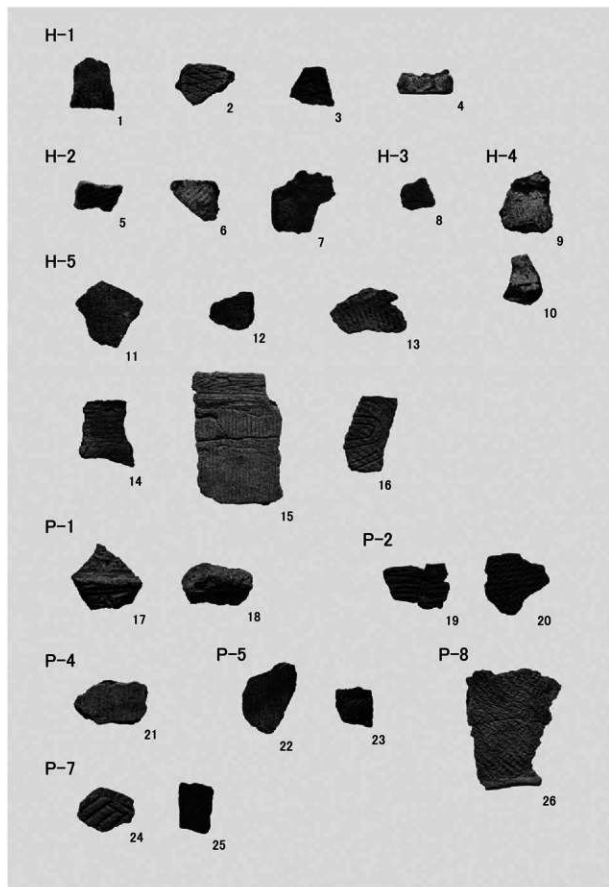


M-1・YB層 mps-9 図V-4-17

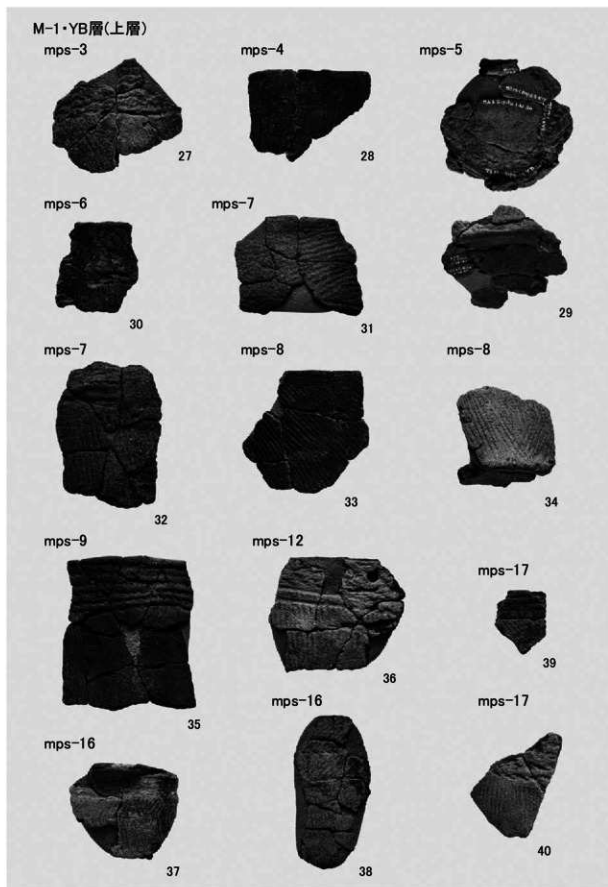


遺構出土の土器 (16)





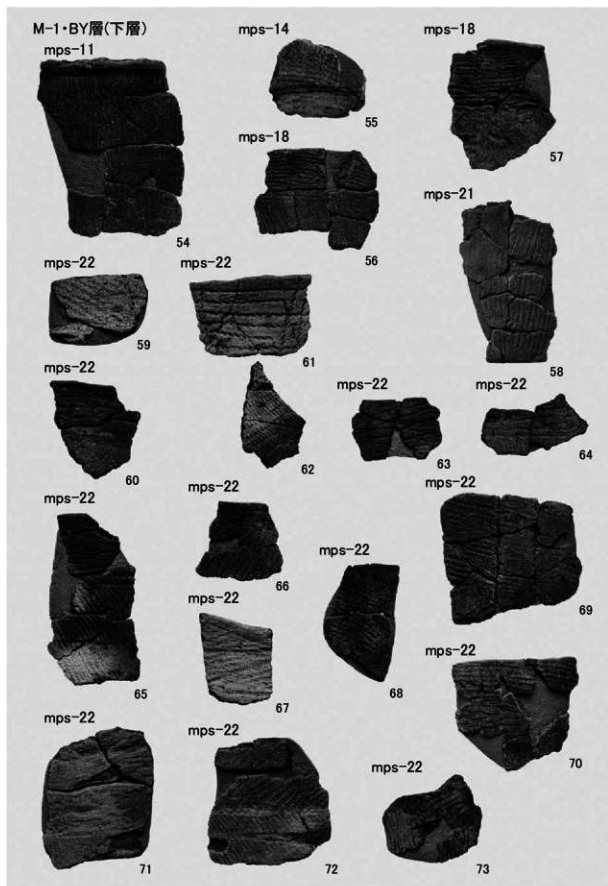
遺構出土の土器 (18)



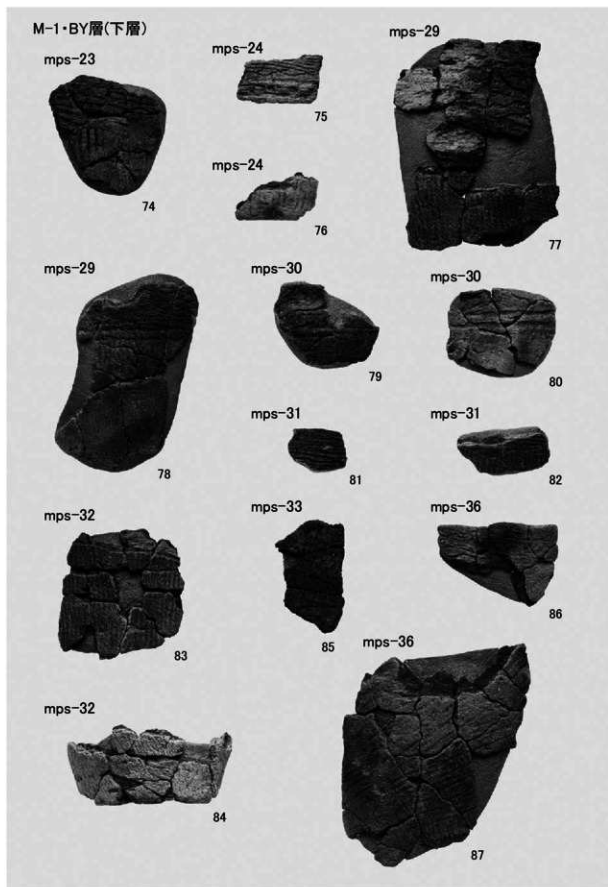
遺構出土の土器 (19)

M-1・YB層(上層)

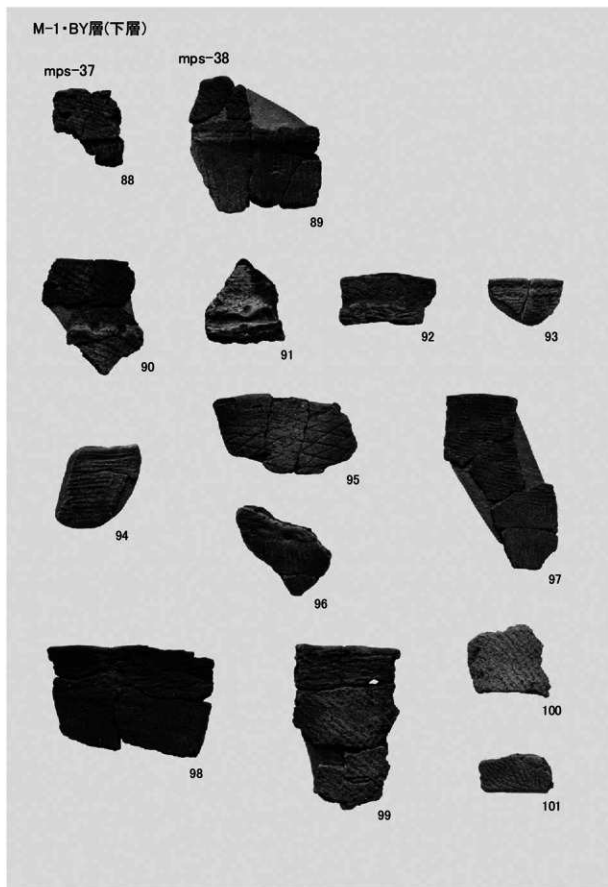




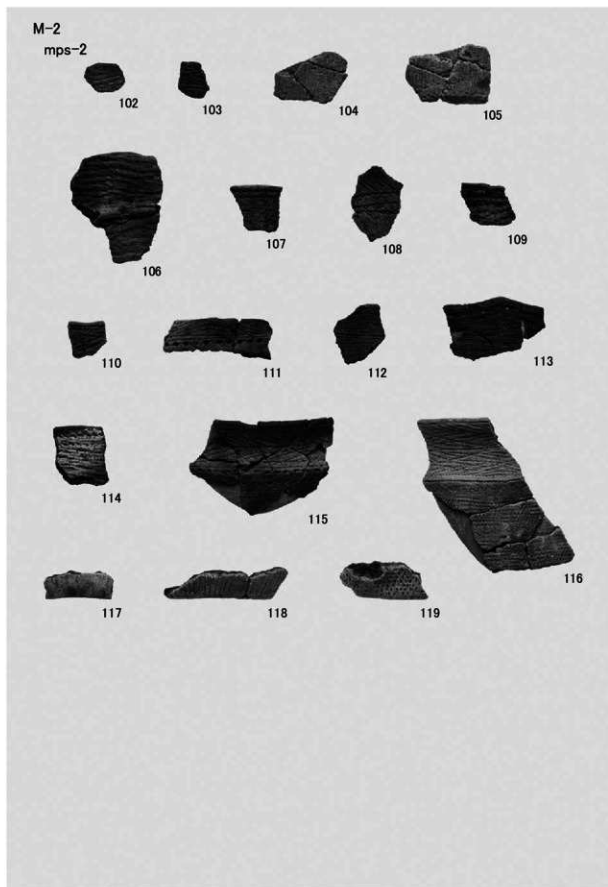
遺構出土の土器 (21)



遺構出土の土器 (22)



遺構出土の土器 (23)



遺構出土の土器 (24)



図 V -21-1



図 V -21-2



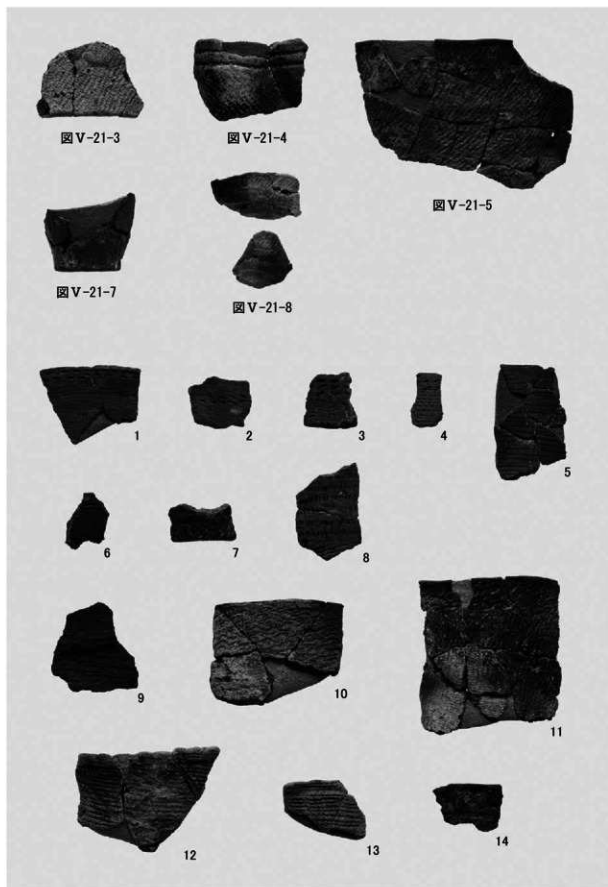
図 V -21-6



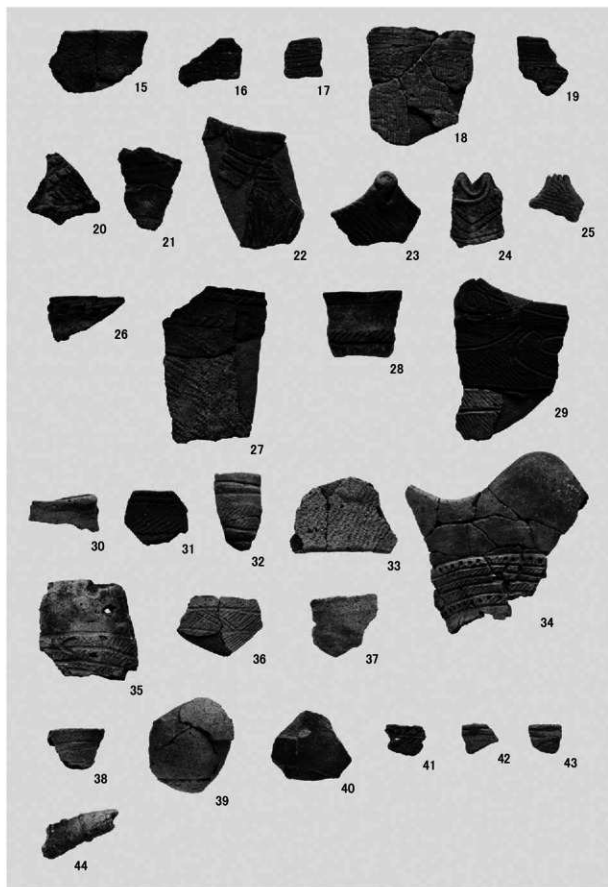
図 V -21-10



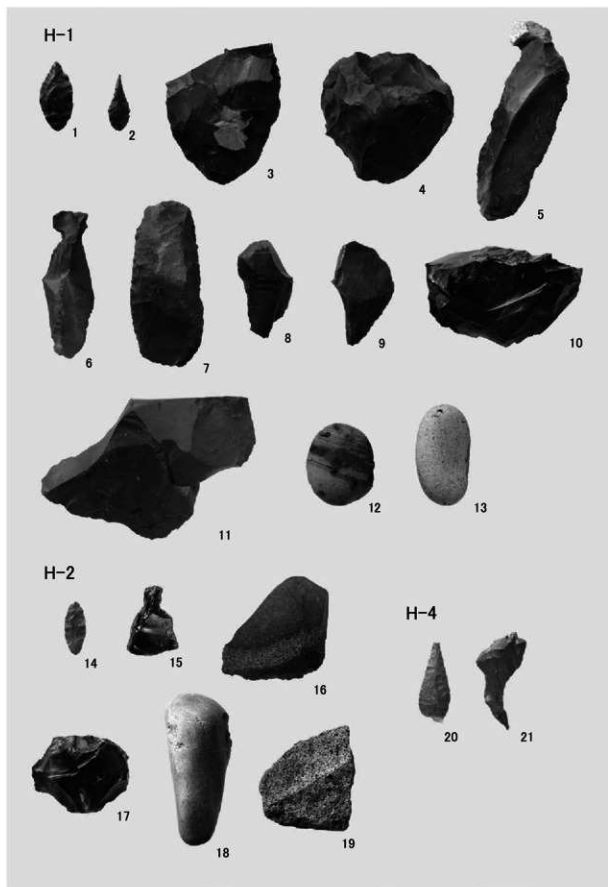
図 V -21-9



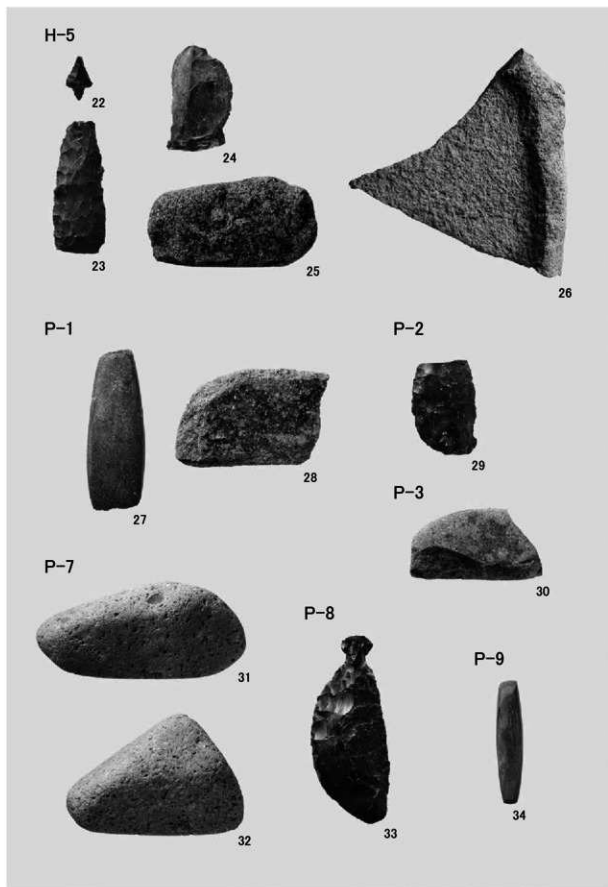
包含層出土の土器 (2)



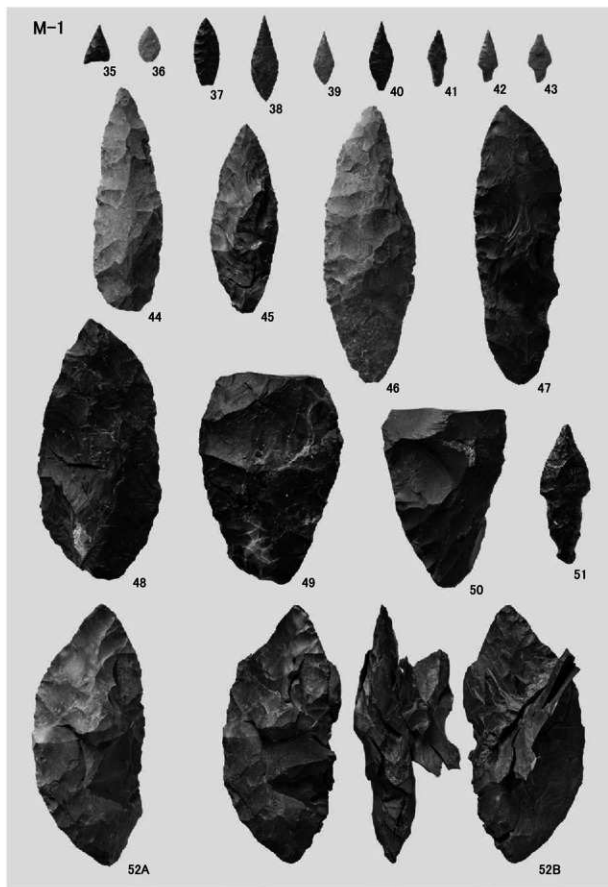
包含層出土の土器 (3)



遺構出土の石器等 (1)



遺構出土の石器等 (2)



遺構出土の石器等 (3)

M-1



53



54



55A



55B

M-1



56A



56B



57



58



59



60



61



62



63



64



65

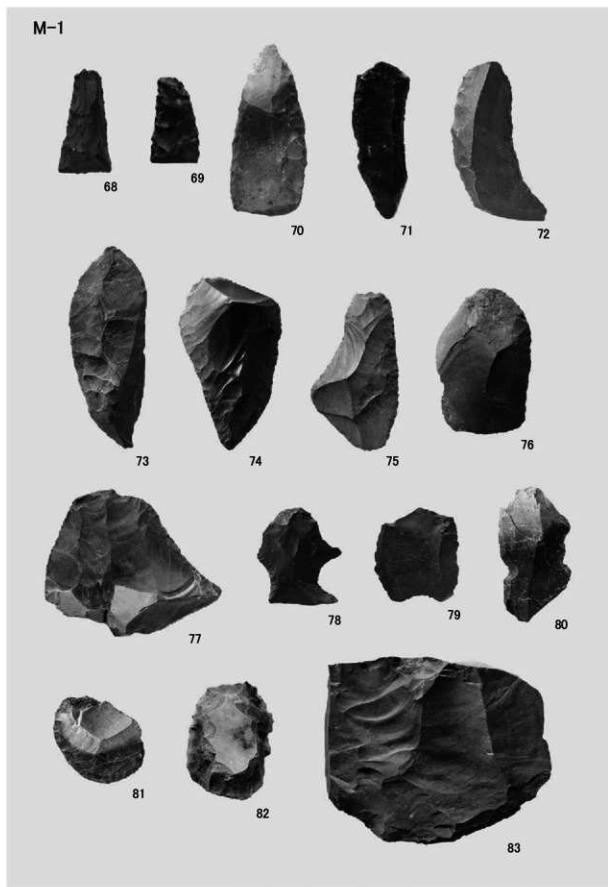


66



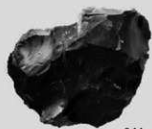
67

遺構出土の石器等 (5)



遺構出土の石器等 (6)

M-1



84A



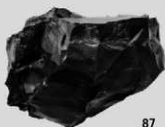
84B



85



86



87



88



89



90



91



92



93



94



95

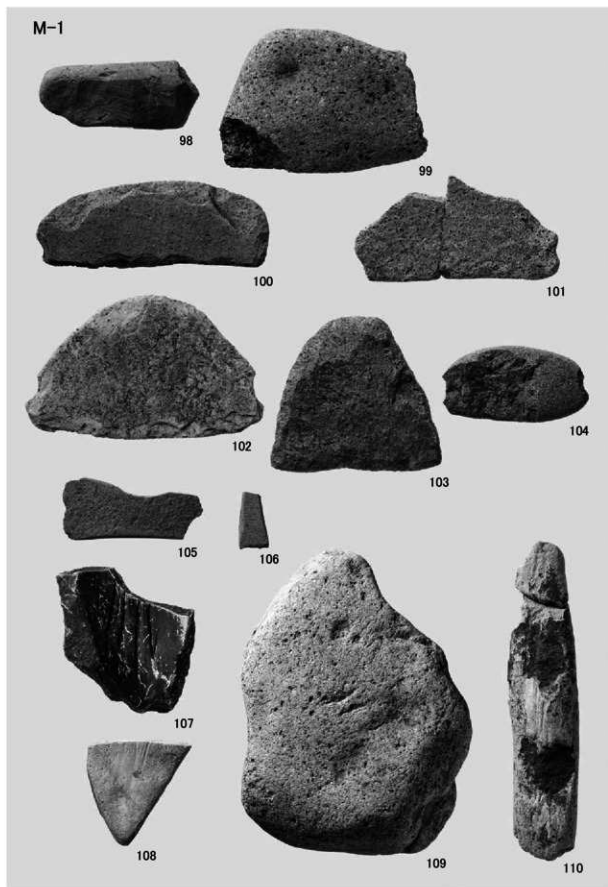


96

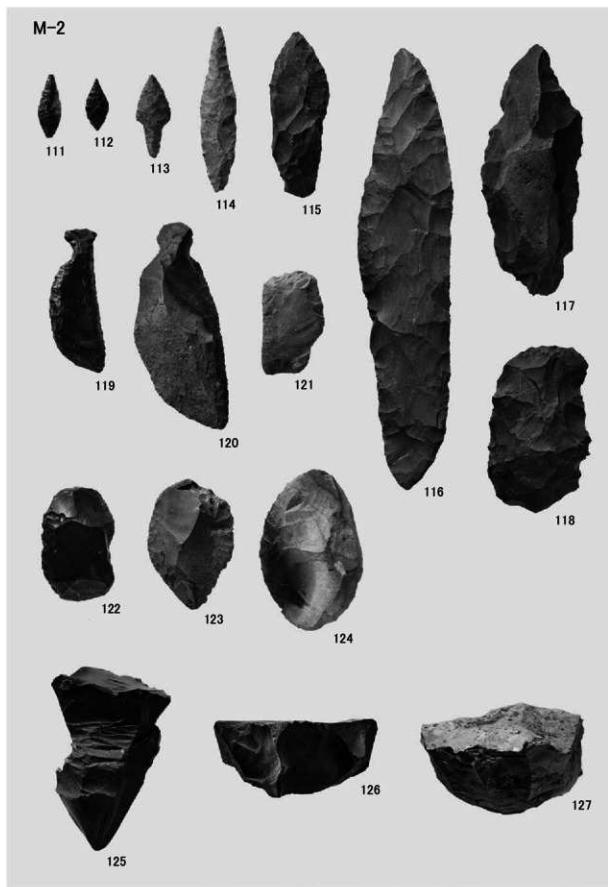


97

遺構出土の石器等 (7)

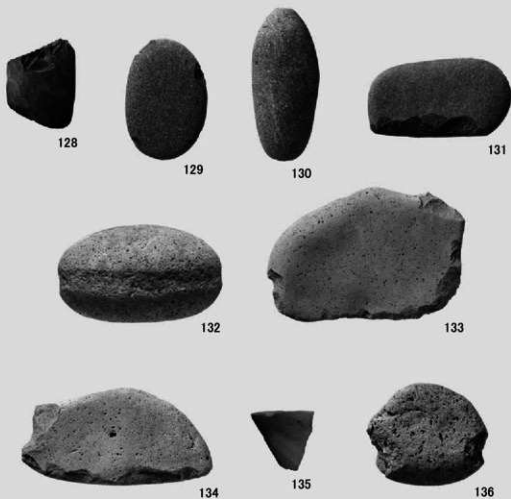


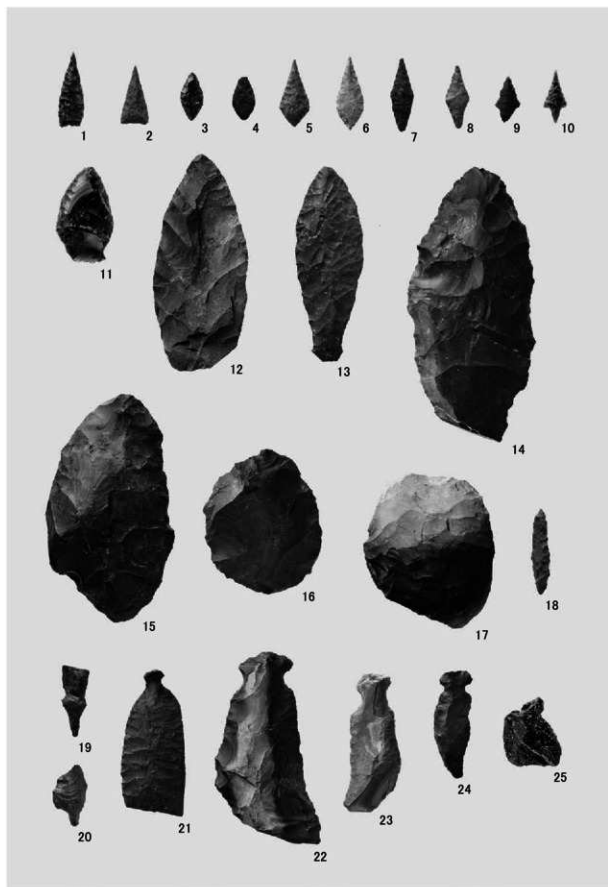
遺構出土の石器等 (8)



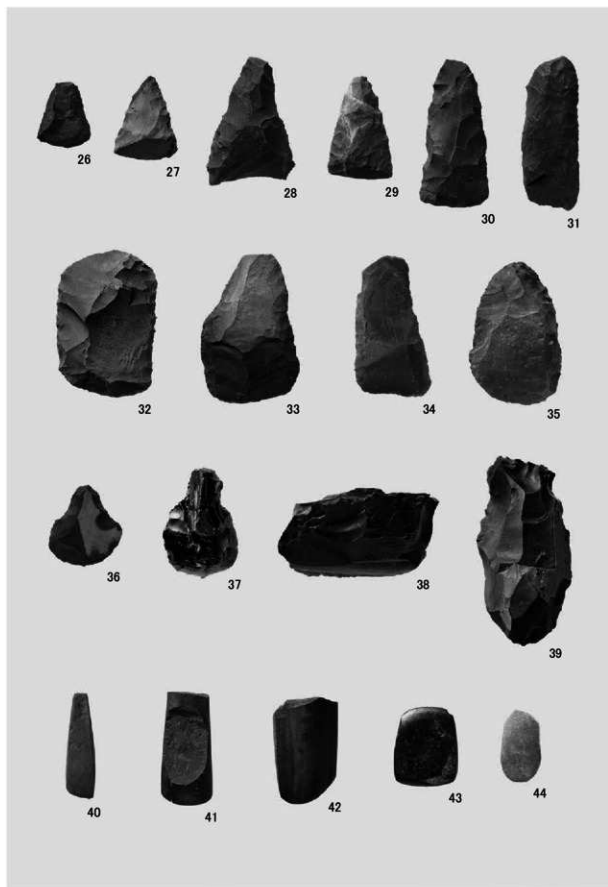
遺構出土の石器等 (9)

M-2

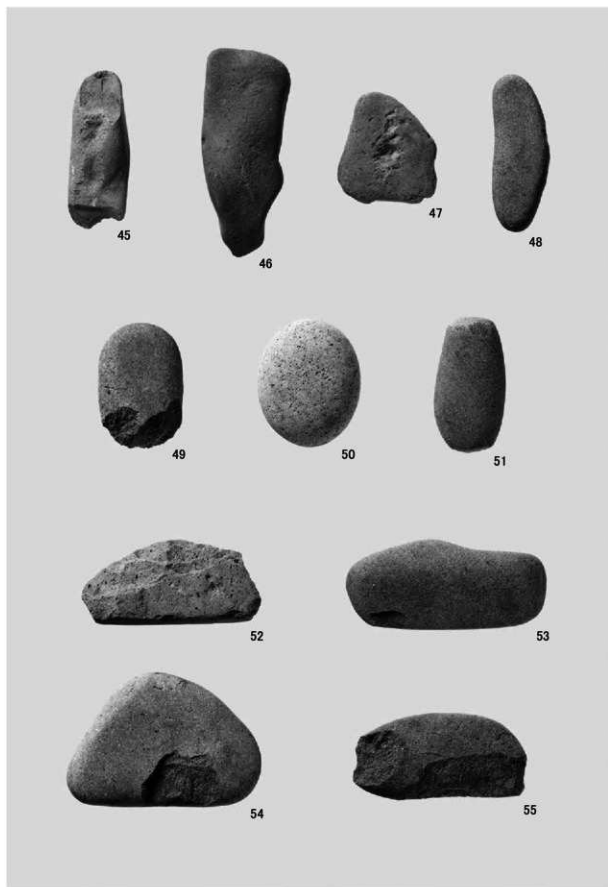




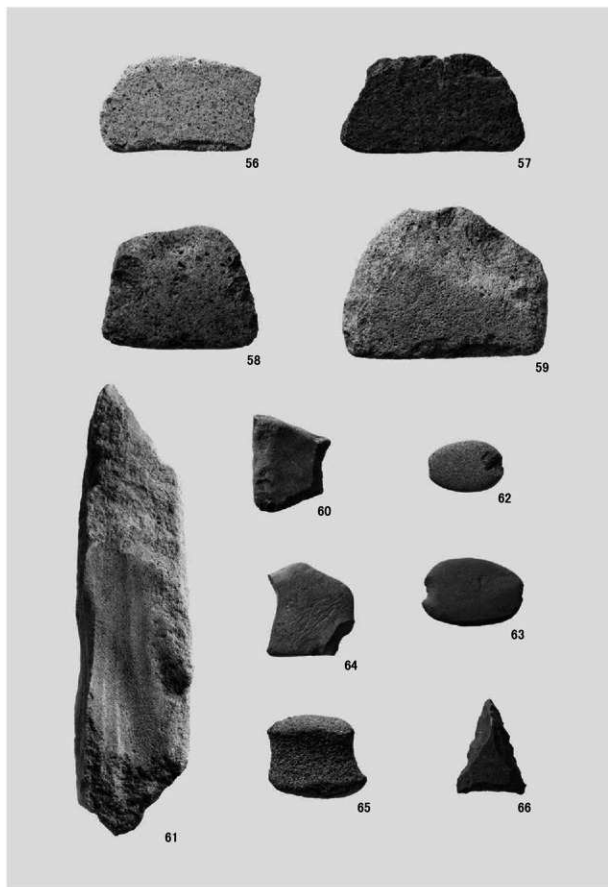
包含層出土の石器等 (1)



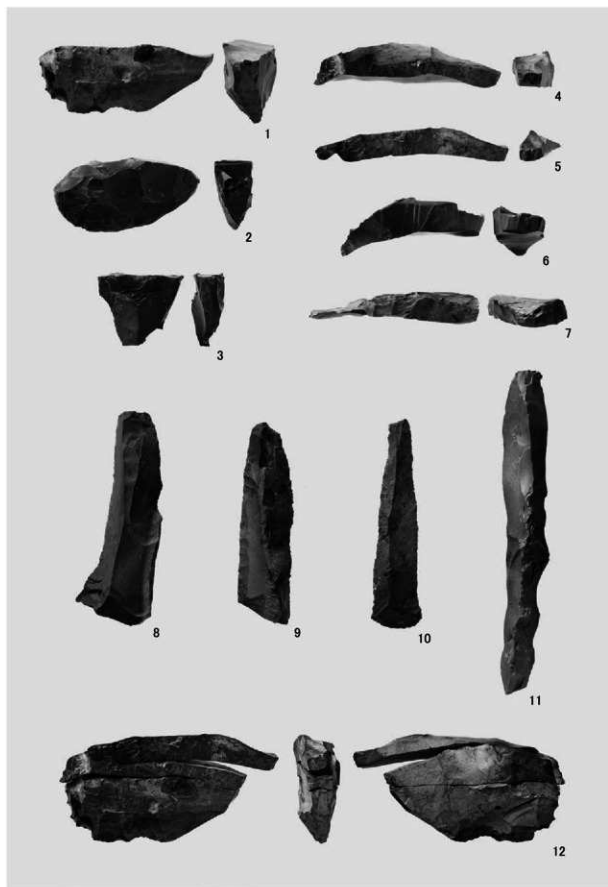
包含層出土の石器等 (2)



包含層出土の石器等 (3)



包含層出土の石器等 (4)



遺構・包含層出土の旧石器

引用・参考文献

団体・組織刊行物

- 南北海道考古学情報交換会 1995 『円筒土器下層式図録集』
南北海道考古学情報交換会 1996 『円筒土器下層式図録集Ⅱ 遺構編』
日本ベトロジー学会 1997 『土壌調査ハンドブック改訂版』 博友社
小山正忠・竹原秀雄 2004 『新版標準土色帖』

市町村報告書

- 函館市教育委員会 1977 『函館空港第4地点・中野遺跡』 - 函館空港拡張工事に伴う発掘調査報告書 -
戸井町教育委員会 1994 『戸井貝塚Ⅳ』 貝塚周辺の後期及び前期包含層を中心とした発掘調査報告書Ⅲ
木古内町教育委員会 1999 『木古内町 釜谷遺跡』 - 南渡島地区広域営農団地農道整備事業に伴う発掘調査報告書Ⅵ -
木古内町教育委員会 2004 『蛇内遺跡』 - 南渡島3期地区広域営農団地農道整備事業に伴う発掘調査報告書 -

(公財) 北海道埋蔵文化財センター報告書

- (財)北海道埋蔵文化財センター 1986 『木古内町 建川1・新道4遺跡』
- 津軽海峡線(北海道方)建設工事埋蔵文化財発掘調査報告書(3) - 北理調報33
(財)北海道埋蔵文化財センター 2000 『長万部町 花園2遺跡・花園3遺跡』
- 北海道縦貫自動車道(七飯~長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書 - 北理調報139
(財)北海道埋蔵文化財センター 2000 『八雲町 シラリカ2遺跡』
- 北海道縦貫自動車道(七飯~長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書 - 北理調報142
(財)北海道埋蔵文化財センター 2002 『八雲町 山崎5遺跡』
- 北海道縦貫自動車道(七飯~長万部)埋蔵文化財発掘調査報告書 - 北理調報165
(財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『木古内町 木古内2遺跡』
- 北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 - 北理調報278
(財)北海道埋蔵文化財センター 2011 『木古内町 大平遺跡・大平4遺跡』
- 北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 - 北理調報280
(公財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『木古内町 木古内2遺跡(2)』
- 北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 - 北理調報293
(公財)北海道埋蔵文化財センター 2012 『木古内町 札苺5遺跡』
- 高規格幹線道路函館江差自動車道工用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 - 北理調報294
(公財)北海道埋蔵文化財センター 2013 『北斗市 館野6遺跡(1)』
- 高規格幹線道路函館江差自動車道工用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 - 北理調報295
(公財)北海道埋蔵文化財センター 2016 『木古内町 大平遺跡(2)』
- 北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 - 北理調報321
(公財)北海道埋蔵文化財センター 2016 『北斗市 館野6遺跡(2)』
- 高規格幹線道路函館江差自動車道工用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 - 北理調報327
(公財)北海道埋蔵文化財センター 2017 『木古内町 大平遺跡(3)』
- 北海道新幹線建設事業埋蔵文化財発掘調査報告書 - 北理調報328
(公財)北海道埋蔵文化財センター 2019 『木古内町 札苺5遺跡(2)』
- 高規格幹線道路函館江差自動車道工用地内埋蔵文化財発掘調査(幸達5遺跡外)報告書 - 北理調報353

報告書抄録

ふりがな	きこないちょう さつかり8いせき							
書名	木古内町 札苺8遺跡							
副書名	高規格幹線道路函館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	(公財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告書 (北埋調報)							
シリーズ番号	第362集							
編著者名	愛場和人・広田良成							
編集機関	公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL 011-386-3231							
発行年月日	西暦2020年3月25日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さつかり8いせき 札苺8遺跡	北海道 上磯郡 木古内町 札苺 723-6・7	01334	B-05-56	M-80 グリッド杭 41° 42° 04°	140° 28° 28°	20140515 ～ 20140808	832 m ²	高規格 幹線道路 函館江差 自動車道 工事用地内 埋蔵文化財 発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
札苺8遺跡	遺物 包含地	縄文時代 前期後半 後期前葉	竪穴住居跡・ 土坑・Tピット 盛土遺構	土器・石器等 旧石器		縄文時代前期後半 盛土遺構2か所		
要約	<p>札苺8遺跡は北海道渡島半島南西部の津軽海峡に面した標高11～14mの段丘部に位置する。遺跡の主たる時期は、縄文時代前期後半の円筒土器下層式期で、当期の竪穴住居跡、土坑、盛土遺構が検出した。盛土遺構は2か所検出され、それぞれ盛土中に焼土、土器集中、フレイク集中を伴う。時期は円筒土器下層b2式期主体(M-1)のものと、円筒土器下層d1式期主体(M-2)のものがあり、特にM-1では土器集中から円筒土器下層b2式期の復元土器が多く得られた。</p>							

(公財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第362集

き こ ぬい ちよう きつ かり
木古内町 札苅 8 遺跡

－ 高規格幹線道路両館江差自動車道工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 －

令和 2 (2020) 年 3 月 25 日

編集・発行 公益財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 北海道江別市西野幌 685 番地 1
TEL 011(386)3231 FAX 011(386)3238
[URL] <http://www.domaibun.or.jp/>
[E-mail] mail@domaibun.or.jp

印 刷 中西印刷株式会社
〒007-0823 札幌市東区東雁来 3 条 1 丁目 1 番 34 号
TEL 011(781)7501 FAX 011(781)7516

